

熊本大学構内遺跡発掘調査報告VIII

(2003~2009年度)



2011

熊本大学埋蔵文化財調査センター

熊本大学構内遺跡発掘調査報告Ⅷ

(2003～2009年度)

2011

熊本大学埋蔵文化財調査センター

巻頭図版（1）



1. 0707調査地点遠景（南より）



2. 0707調査地点検出の古代水田址（南より）



1. 0707調査地点2号竪穴住居址北西脇瓶内出土土師皿（南より）



2. 0854調査地点20号土壤検出状況（南西より）

序 文

1994年に構内再開発に伴い、熊本大学埋蔵文化財調査委員会・埋蔵文化財調査室が置かれて以来、およそ17年が経過した。この間、埋蔵文化財調査室は、運営基盤管理部施設担当（旧施設部）をはじめ大学各学部および執行部の協力を得て、構内再開発に先立ち529件（2010年度調査まで）に及ぶ発掘調査・立会調査を実施してきた。これらの調査は、重要な考古学上の発見をもたらすとともに、構内遺跡の保護意識の浸透にも効果を發揮し、発足当時に比べれば学内諸機関の埋蔵文化財に関する理解はずいぶん変化した。また、この間、埋蔵文化財調査の指導を担当する部署も、熊本県教育委員会文化課から熊本市観光文化交流局文化振興課へと代わった。これらの機関の皆様の協力も忘れてはならない。

昨年10月、埋蔵文化財調査室は学内共同教育研究施設・埋蔵文化財調査センターとして新たなスタートを切った。これまで調査に携わられてきた室長をはじめとする埋蔵文化財調査室のスタッフの皆様には感謝申し上げたい。今後は、埋蔵文化財の調査業務をこれまで通り堅実に行なうことはもちろんであるが、職務における研究の比重はより増してゆくことになるであろう。構内遺跡に関する十分な研究が行われ、その成果が調査の円滑化に寄与するとともに、保護・活用にも生かされることを望む。

さて、本書は、埋蔵文化財調査室が実施してきた2003年～2009年までの発掘調査に関する報告11件を収録している。それぞれ重要な成果が得られているが、これらの調査に共通するのは、大規模な面積の調査ではなく、小規模な面積の調査や既存建造物による破壊を免れた部分での調査が大半を占めるという点である。このため、立会調査から急きょ発掘調査に切り替えられた事例がほとんどである。しかし、黒髪北地区ボイラー室改修工事に伴う発掘調査で発見された古代住居址や埋葬址、医学部附属病院内の医学部図書講義棟新営工事に伴う発掘調査で発見された古代の水田址、黒髪南地区の総合研究棟共同講設備工事に伴う発掘調査で確認された縄文時代の遺物包含層などにみるように、すでに破壊されていたと予想された建物の地下やその周辺に良好な状態で埋蔵文化財が残存し、しかもそれらがこれまでの既往の調査では確認できなかった新知見であり、学術上きわめて重要な遺構・遺物群であったことは重要である。このような断片的知見ではあるが、これらを積み重ね、紡いでいくこそが、構内遺跡の全容を明らかにする上できわめて重要な姿勢と考える。今後とも、調査にあたっては、開発規模の大小にかかわらず、細心の注意を払っていただきたい。

これらの成果が、学術研究はもとより、地域の文化財の保護・活用に少しでも役立てば幸いである。また、本学舎の立地する黒髪・本荘の地にこのような深淵の歴史が眠っていることを学生たちにも伝え、彼らが古代びとのかすかな息吹を感じながら、歴史あるこの地で学ぶことを誇りに思い、文化財や歴史を大切にする心を育んでくれればと願う。

平成24年3月26日

国立大学法人熊本大学埋蔵文化財調査委員会

委員長 伊東 龍一

例　　言

1. 本報告書は、熊本大学再開発計画によって熊本大学敷地内において実施された各種建築工事に伴い、熊本大学埋蔵文化財調査室（平成23年10月1日より「熊本大学埋蔵文化財調査センター」に改組）が2003～2009年度に実施した発掘調査の一部に関するものである。
2. 本書に収録した報告は、2003～2009年度に埋蔵文化財調査室が実施した発掘調査報告とそれに関連する立会調査などの成果のうち、11件の発掘調査に関する成果である。
3. 上記調査地点の報告にあたっては、下記のように地区ごとに分けて報告する。

Ⅱ章：黒髪北地区 0854調査地点・0935調査地点

Ⅲ章：黒髪南地区 0302調査地点・0932調査地点・0938調査地点

Ⅳ章：本荘北地区 0426調査地点・0622調査地点・0707調査地点・0814調査地点

Ⅴ章：本荘中地区 0314調査地点

Ⅵ章：本荘南地区 0830調査地点

4. 以上の調査を実施した2003～2009年度の埋蔵文化財調査室の組織と調査体制は以下のとおりである。

室　　長：甲元眞之（文学部教授）（03～05年度）・木下尚子（文学部教授）（05～09年度）

調　　査　員：小畠弘己（文学部助教授）・大坪志子（文学部助手）

事務補佐員：坂元紀乃（2003年度）・前田（村田）知聖（2004・2009年度）・中川木綿子（2006～2008年）

5. 遺物番号は地区ごとに1から番号を付けている。写真図版中の番号はこれに一致する。

6. 本文は、小畠弘己、大坪志子が執筆した。

7. 本書に使用した遺構実測図に関しては、小畠弘己、大坪志子をはじめとする調査に参加した熊本大学考古学研究室学生、株式会社埋蔵文化財サポートシステムによるものである。

8. 本書に使用した遺物実測図は、江口路、古閑満代、末吉美紀、溜瀬俊子、長谷智子、林田恵子、増井弘子、山寄早苗、小畠、大坪が製作した。

9. 本書に使用した図版の製図は小畠、大坪、増井、鬼塚美枝、首藤優子が行った。

10. 遺構実測及び製図には手描による記録とともに遺跡調査汎用システム（カタマ Ver.3-アケオテクノ社）、株式会社CUBICの遺跡実測支援システム「遺構くん」及び製図システム「トレス3Dくん」を使用した。

11. 本書に使用した現場写真は小畠・大坪が、遺物写真は小山正子、末吉美紀がこれを撮影した。

12. 本書で使用した遺物観察表は、鬼塚、古閑、首藤、長谷、山寄、小畠、大坪が作成した。

13. 本書に掲載した出土遺物および記録類は、すべて熊本大学埋蔵文化財調査センターで保管している。

14. 本書の編集は小畠、大坪が行った。

本文目次

I 構内遺跡と調査の概要	
1. 熊本大学敷地と構内遺跡の概要	1
2. 調査に至る経緯	4
3. これまでの調査と本書収録の遺跡	5
II 黒髪北地区の調査	
1. 北地区ボイラー室改修工事に伴う発掘調査（0854調査地点）	21
(1) 調査の目的と経過	21
(2) 調査区の基本層序	23
(3) 検出遺構	24
(4) 出土遺物	27
(5) まとめ	31
2. 体育館改修電気設備工事に伴う発掘調査（0935調査地点）	32
(1) 調査の目的と経過	32
(2) 調査区の基本層序	32
(3) 検出遺構	32
(4) 出土遺物	35
(5) まとめ	36
III 黒髪南地区の調査	
1. 黒髪団地南地区総合研究棟共同溝設備工事に伴う発掘調査（0302調査地点）	37
(1) 調査の目的と経過	37
(2) 調査区の基本層序	39
(3) 検出遺構	39
(4) 出土遺物	42
(5) まとめ	52
2. 旧図書館工学部分室他改修工事に伴う発掘調査（0932調査地点）	53
(1) 調査の目的と経過	53
(2) 調査区の基本層序	55
(3) 検出遺構	55
(4) 出土遺物	55
(5) まとめ	56
3. エコロジーシステム実験室接地工事に伴う発掘調査（0938調査地点）	57
(1) 調査の目的と経過	57
(2) 調査区の基本層序	58
(3) 検出遺構	58
(4) 出土遺物	62
(5) まとめ	63
IV 本荘北地区の調査	
1. 本荘団地北地区防火水槽取設工事に伴う発掘調査（0426調査地点）	65

(1) 調査の目的と経過	65
(2) 調査区の基本層序	65
(3) 検出遺構	65
(4) 出土遺物	65
(5) まとめ	68
2. 基幹環境整備（西側駐車場等）に伴う発掘調査（0622調査地点）	70
(1) 調査の目的と経過	70
(2) 調査区の基本層序	71
(3) 検出遺構	71
(4) 出土遺物	72
(5) まとめ	73
3. 医学部図書講義棟新営工事に伴う発掘調査（0707調査地点）	74
(1) 調査の目的と経過	74
(2) 調査区の基本層序	75
(3) 検出遺構	75
(4) 出土遺物	81
(5) まとめ	90
4. 東病棟新営工事に伴う発掘調査（0814調査地点）	91
(1) 調査の目的と経過	91
(2) 調査区の基本層序	91
(3) 検出遺構	91
(4) 出土遺物	93
(5) まとめ	94
V 本荘中地区の調査	
本荘団地中地区医学部B棟・E棟・R1・旧動物舍取壊工事に伴う発掘調査（0314調査地点）	95
(1) 調査の目的と経過	95
(2) 調査区の基本層序	97
(3) 検出遺構	97
(4) 出土遺物	98
(5) まとめ	98
VI 本荘南地区の調査	
こばと保育園新営機械設備工事（変更2）に伴う発掘調査（0830調査地点）	99
(1) 調査の目的と経過	99
(2) 調査区の基本層序	101
(3) 検出遺構	101
(4) 出土遺物	101
(5) まとめ	102

挿 図 目 次

図1 黒髪町遺跡・本庄遺跡の位置と周辺遺跡 の分布図 (1/25000)	2
図2 黒髪北地区東半における調査地点配置図 (1/2000)	22
図3 0854調査地点土層柱状模式図 (1/50)	23
図4 0854調査地点遺構配置図 (1/100)	23
図5 1号竪穴住居址実測図 (1/50).....	24
図6 15号竪穴住居址実測図 (1/50).....	25
図7 20号土壙実測図 (1/25).....	26
図8 0854調査地点出土遺物実測図1 (1/4)	28
図9 0854調査地点出土遺物実測図2 (1/4)	29
図10 黒髪北地区西半における調査地点配置図 (1/2000)	33
図11 人孔No.1 遺構配置図 (1/20).....	34
図12 0935調査地点出土遺物実測図 (1/4)	35
図13 黒髪南地区における調査地点配置図 (1/2000)	38
図14 基本土層柱状模式図 (1/3).....	39
図15 0204・0302調査地点配置図・0302調査地 点遺構配置図 (1/400・1/250)	40
図16 0302調査地点 I 区東壁・II区西壁土層断 面図 (1/100・1/200)	41
図17 0302調査地点 I 区出土遺物実測図1 (1/4)	43
図18 0302調査地点 I 区出土遺物実測図2 (1/4)	44
図19 0302調査地点 I 区出土遺物実測図3 (1/4)	45
図20 0302調査地点 I 区出土遺物実測図4 (1/4・3/4).....	46
図21 0302調査地点 II 区出土遺物実測図 (1/4)	47
図22 0932調査地点遺構配置図・土層断面図 (1/100・1/50)	54
図23 0932調査地点出土遺物実測図 (1/4)	55
図24 黒髪南地区(東部)における調査地点配 置図 (1/2000)	57
図25 0938調査地点遺構配置図 (1/50)	59
図26 繩文土器出土状況および土層断面図 (1/50)	60
図27 0938調査地点繩文土器実測図 (1/4)	61
図28 本荘北地区における調査地点配置図 (1/2000)	66
図29 0426調査地点遺構配置図・溝・北壁土層 断面図 (1/100・1/50)	67
図30 0426調査地点1・2号溝出土遺物実測図 (1/4)	68
図31 0622調査地点遺構配置図 (1/100)	71
図32 0622調査地点出土遺物実測図 (1/4)	72
図33 0707調査地点遺構配置図 (1/250)	76
図34 1・2・3・6号竪穴住居址・5号土坑 実測図 (1/50)	77
図35 8・12号竪穴住居址・90・91号掘立柱建 物実測図 (1/50・1/100)	79
図36 10・21号溝・調査区東壁土層断面図 (1/50)	80
図37 0707調査地点出土遺物実測図1 (1/4)	82
図38 0707調査地点出土遺物実測図2 (1/4)	83
図39 0707調査地点出土遺物実測図3 (1/4)	84
図40 0707調査地点出土遺物実測図4 (1/4)	85
図41 0707調査地点出土遺物実測図5 (1/4)	86
図42 0814調査地点遺構配置図・2号溝土層断 面図 (1/100・1/50)	92
図43 0814調査地点出土遺物実測図 (1/4)	

.....	93
図44 本荘中地区における調査地点配置図 (1/2000)	95
図45 0314調査地点遺構配置図(1/500)	96
図46 0314調査地点出土遺物実測図(1/4)	98
	101

図 版 目 次

図版1 0854調査地点	103
写真1 I a 区全景(西より)	
写真2 I b 区全景(南より)	
写真3 1号竪穴住居址掘り方土層(南より)	
写真4 II 区全景(西より)	
写真5 15号竪穴住居址完掘状況(西より)	
図版2 0854調査地点	104
写真6 20号土壤検出状況(南西より)	
写真7 20号土壤検出状況(南東より)	
写真8 20号土壤土層断面(南西より)	
写真9 20号土壤土層断面(南より)	
写真10 20号土壤(北西より)	
図版3 0854調査地点出土遺物1	105
図版4 0854調査地点出土遺物2	106
図版5 0935調査地点	107
写真11 道路横断部分掘削風景(北より)	
写真12 道路横断部分掘削後(北東より)	
写真13 人孔No.1掘削風景(北より)	
写真14 人孔No.1北壁土層拡大(南より)	
写真15 人孔No.1完掘状況(北より)	
図版6 0935調査地点・同出土遺物	108
写真16 冠雪の武夫原(2009.1.13)(南より)	
写真17 体育館前工区掘削風景(北より)	
写真18 人孔No.3掘削後状況(西より)	
写真19 学生会館西側道路掘削状況(北より)	
写真20 人孔No.4掘削後状況(西より)	
写真21 人孔No.5掘削後状況(南より)	
図版7 0302調査地点I区	109
写真22 I区全景(南より)	
写真23 黒曜石出土状況(北より)	
写真24 6号溝完掘状況1(東より)	
写真25 6号溝完掘状況2(西より)	
写真26 遺物出土状況(北より)	
写真27 遺物集中区(南より)	
写真28 土器出土状況(北より)	
写真29 石器出土状況(東より)	
図版8 0302調査地点II区	110
写真30 完掘状況1(北より)	
写真31 完掘状況2(南より)	
写真32 調査区西壁土層(東より)	
写真33 調査風景(南より)	
写真34 包含層完掘状況(遺物出土状況) (南より)	
写真35 土器出土状況1(南より)	
写真36 土器出土状況2(南西より)	
写真37 土器出土状況3(南西より)	
図版9 0302調査地点出土遺物1	111
図版10 0302調査地点出土遺物2	112
図版11 0302調査地点出土遺物3	113
図版12 0302調査地点出土遺物4	114
図版13 0302調査地点出土遺物5	115
図版14 0302調査地点出土遺物6	116
図版15 0932調査地点・同出土遺物	117
写真38 II・III区完掘後状況(南より)	
写真39 II区遺物出土状況(東より)	
写真40 1号溝1(西より)	
写真41 1号溝2(東より)	
写真42 赤レンガ基礎(南西より)	
図版16 0938調査地点	118
写真43 Iトレンチ調査風景(東より)	

写真44	IIトレンチ全景（東より）	写真70	2号竪穴住居址北壁遺物出土状況 (北西より)
写真45	Iトレンチ1号溝（西より）	写真71	2号竪穴住居址北西壁瓶（南より）
写真46	Iトレンチ1号溝掘り上げ後（南よ り）	写真72	2号竪穴住居址掘り上げ状況（南東 より）
写真47	IIトレンチ1号溝（南より）	写真73	2号竪穴住居址竈瓶（南より）
写真48	Iトレンチ縄文土器出土状況（東よ り）	図版23	0707調査地点…………… 125
写真49	Iトレンチ西側遺物集中区（東よ り）	写真74	2号竪穴住居址西側（焼土）竈（東 より）
図版17	0938調査地点…………… 119	写真75	2号竪穴住居址床面出土須恵器蓋 (南より)
写真50	Iトレンチ西側遺物集中区（西よ り）	写真76	3号竪穴住居址遺物出土状況（東よ り）
写真51	遺物集中区遺物出土状況（西より）	写真77	5号土坑遺物出土状況（南より）
写真52	縄文土器出土状況（西より）	写真78	6号竪穴住居址遺物出土状況（西よ り）
写真53	Iトレンチ西側遺物集中区土層（南 より）	写真79	6号竪穴住居址遺物出土状況（南よ り）
写真54	Iトレンチ掘り上げ後土層（東よ り）	写真80	8号竪穴住居址（西より）
写真55	遺物出土状況（東より）	写真81	8号竪穴住居址遺物状況（南西よ り）
図版18	0938調査地点出土遺物…………… 120	図版24	0707調査地点…………… 126
図版19	0426調査地点…………… 121	写真82	8号竪穴住居址遺物出土状況（西よ り）
写真56	調査区全景（西より）	写真83	90・91号掘立柱建物址（西より）
写真57	2号溝完掘土層状況（南西より）	写真84	II b・II c 区水田（砂埋没状況）（南 より）
写真58	2号溝出土馬骨（南より）	写真85	10号溝土層断面（東より）
写真59	調査区北壁土層（南より）	写真86	II b・II c 区水田（掘り上げ後）（北 より）
写真60	調査区全景（北より）	図版25	0707調査地点出土遺物 1…………… 127
図版20	0426調査地点出土遺物…………… 122	図版26	0707調査地点出土遺物 2…………… 128
図版21	0622調査地点・同出土遺物…………… 123	図版27	0707調査地点出土遺物 3…………… 129
写真61	調査区掘削開始状況（東より）	図版28	0707調査地点出土遺物 4…………… 130
写真62	調査区掘削後状況（西より）	図版29	0707調査地点出土遺物 5…………… 131
写真63	1号竪穴住居址遺物出土状況（南よ り）	図版30	0814調査地点…………… 132
写真64	2号溝遺物出土状況（北より）	写真87	調査区掘削風景（北より）
写真65	2号溝掘り上げ状況（南より）	写真88	2号溝掘削風景（東より）
図版22	0707調査地点…………… 124	写真89	調査区北部調査風景（南より）
写真66	I区全景（北より）	写真90	調査区北部遺構検出状況（南より）
写真67	I区全景（南より）		
写真68	1号竪穴住居址（南より）		
写真69	2号竪穴住居址遺物出土状況（東よ り）		

- 写真91 2号溝土層断面1（南より）
 写真92 2号溝土層断面2（南より）
 写真93 調査区北部全景（北より）
 写真94 調査区南部調査風景1（東より）
 図版31 0814調査地点・同出土遺物……… 133
 写真95 調査区南部調査風景2（北より）
 写真96 調査区南部2号溝検出状況
 （東より）
 写真97 2号溝と延長方向（北より）
 図版32 0314調査地点・同出土遺物……… 134
 写真98 I区掘削前全景（南西より）
 写真99 II区調査風景（南より）
 写真100 II区調査区完掘状況（南より）
 写真101 II区5号溝土層断面（南東より）
 写真102 II区7号溝完掘状況（西より）
 写真103 II区8～11号ピット（西より）
 図版33 0830調査地点・同出土遺物……… 135
 写真104 建物南側調査区調査風景（東より）
 写真105 建物南側調査区全景（東より）
 写真106 建物南側調査区東側全景（南より）
 写真107 建物南側調査区西側全景（南より）
 写真108 建物東側調査区掘削風景（南より）
 写真109 建物東側調査区掘削状況（東より）

表 目 次

表1 熊本大学敷地埋蔵文化財包蔵地指定一覧表	1
表2 既往調査地点と本書収録調査地点一覧表	6
表3 0854調査地点出土遺物一覧表	29
表4 0935調査地点出土遺物一覧表	36
表5 0302調査地点出土遺物一覧表	48
表6 0932調査地点出土遺物一覧表	56
表7 0938調査地点出土遺物一覧表	62
表8 0426調査地点出土遺物一覧表	68
表9 0622調査地点出土遺物一覧表	72
表10 0707調査地点出土遺物一覧表	87
表11 0814調査地点出土遺物一覧表	93
表12 0314調査地点出土遺物一覧表	98
表13 0830調査地点出土遺物一覧表	101

I 構内遺跡と調査の概要

1. 熊本大学敷地と構内遺跡の概要

熊本大学が保有する敷地は、熊本市内の黒髪地区・本荘地区・九品寺地区・大江地区・宇留毛地区・京町地区・城東地区及び新南部地区の8区、市外の合津地区・阿蘇地区的2地区に分散しており、それぞれ埋蔵文化財の包蔵地となっている（表1）。

法・文・教育・工学・理学部の校舎が設置されている黒髪地区は黒髪町遺跡（熊本市埋蔵文化財地図No.8-88）に含まれる。本遺跡は熊本市中心部のほぼ北東端に位置する立田山（標高151.6m）の南西部の緩斜面が、西を坪井川の作る沖積面と南を白川河岸の低位段丘によって囲まれる東西900m、南北1000mの遺跡群であり、縄文時代から歴史時代に至る遺構・遺物を包蔵している。遺跡発見の経緯は昭和11年に遡り、大学に隣接する熊本県立中学済々学（現済々学高等学校）の校庭から甕棺2基が発見されたことに始まる。また昭和40年には隣接する九州女学院敷地においてやはり弥生時代中期の甕棺や古墳時代の須恵器軸などが発見されるに至り、その重要性が認識されるに至った。黒髪町式土器の指標遺跡である。このように弥生時代を中心とした遺跡としての認識が高いが、1983年に実施された済々学高等学校における新たな調査によって古代の堅穴住居址と土師器・須恵器・黒色土器などの関連遺物が出土し、その中には「寺門」銘の墨書き器が含まれているなど古代飽田郡における拠点的な性格をもった遺跡であることが予想された（『新熊本市史料編第1巻考古資料』新熊本市史編纂室1996）。古代官道や駅伝制の研究上、文献で推定されていた延喜式にみる「斐斐駅」旧飽田郡家の推定地としても注目を集めてきた（木下1975・1995）が、近年ではこれまでの周辺遺跡での発掘成果および文献資料の検討、そして本調査センターによる発掘成果を受けて、済々学高等学校から本学黒髪地区周辺が飽田郡司都建部公の居所であり、飽田郡家として比定するなどの積極的な意見が展開されている（鶴嶋1997）。このように、本遺跡は先史時代のみならず、古代律令制下の駅伝制を考える上できわめて重要なものである。本報告において黒髪北地区2地点、黒髪南地区3地点の発掘調査記録を収録している。

表1 熊本大学敷地埋蔵文化財包蔵地指定一覧（アミ部分は本年度調査した地区を示す）

No.	地区名(学部名)	所在地	遺跡名称	遺跡の種類	遺跡の時代	備考
1	黒髪北地区(法・文・教・大教センター)	熊本市黒髪2丁目40-1	黒髪町遺跡 集落址	縄文・弥生・奈良・平安		
	黒髪東地区(教育学部附属特別支援学校)	熊本市黒髪5丁目17-1				
2	黒髪南地区(工・理)	熊本市黒髪2丁目39-1	黒髪町遺跡 集落址	縄文・弥生・奈良・平安		
3	京町地区(教育学部附属小・中学校)	熊本市京町本丁5-12	京町台遺跡 集落址	弥生・近世		
4	城東地区(教育学部附属幼稚園)	熊本市城東5-9	熊本城址 間違遺構	近世		
5	教育学部新南部農場	熊本市新南部居屋敷240-1	新南部遺跡 敷布地	縄文・弥生		
6	合併マリーンステーション	上天草市松島町大字合津 6061	前島貝塚 集落址	縄文・弥生 1995年度の調査 によって貝塚で ないことが判明		
7	本荘中地区(医学部)	熊本市本荘2丁目2-1	本庄遺跡 敷布地・集落址	縄文・弥生・奈良・平安・中世		
8	本荘北地区(医学部附属病院)	熊本市本荘1丁目1-1 (熊大病院 敷地道路)	本庄遺跡 敷布地・集落址 ・墓地	縄文・弥生・古墳・奈良・平安・近代		
9	本荘南地区(保健学科)	熊本市九品寺4丁目24-1	本庄遺跡 敷布地・集落址	縄文・弥生・奈良・平安・周辺遺跡 中世		
10	薬学部	熊本市大江本町5-1	大江遺跡群 官衙址	奈良・平安 周辺遺跡		
11	大江地区	熊本市渡鹿4丁目1-1	大江遺跡 集落址	奈良・平安		
12	宇留毛地区(職員宿舎)	熊本市黒髪7丁目	宇留毛神社 敷布地 周辺遺跡群	弥生・奈良・平安		

1. 熊本大学敷地と構内道路の概要

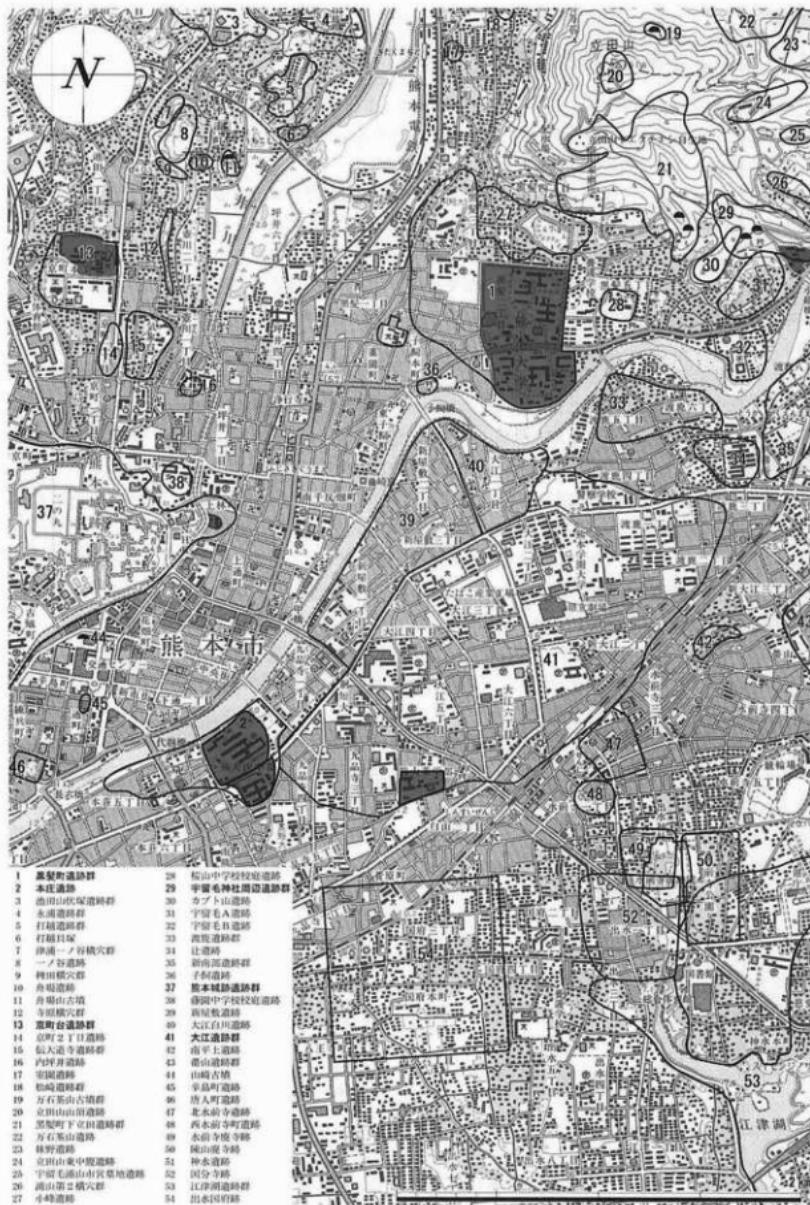


図1 黒髪町遺跡・本庄遺跡の位置と周辺遺跡の分布図（1/25000）
(この地図は国土地理院発行1/25000地形図「熊本」を使用したものである)

医学部附属病院および医学部がある本荘地区は、本庄遺跡（熊本大学病院敷地遺跡）（熊本市埋蔵文化財地図No.8-95）を包括する。本遺跡は黒髪町遺跡と同じく熊本平野を形成する扇状地形の中央を流れる白川の河岸堤防上に位置する遺跡であり、標高は13~12mである。附属病院の所在する白川寄りの地点が標高が高く、南東部（医学部側）へと緩やかに傾斜する地勢である。敷地内を白川より分岐した小河川が暗渠として流れおり、古来この一帯は流道を変えながら幾本もの小河川が流れていた可能性が高い。「熊本市中央北地区文化財調査報告書」（熊本市教育委員会1980）によれば、1963年ごろ本大学医学部附属病院の敷地内から須恵器、土師器、布目瓦片類が採集されており、遺跡の存在が確実であるとされ、遺跡としての認定を受けている。しかし、その後本敷地内において学術的な発掘調査は一度も実施されておらず、遺跡の詳細な内容に関しては本調査センターにおける調査が実施されるまで不明であった。しかし、先の報告の中では、東側に隣接する仙崇寺小松原墓地（現在の小松原公園）内においても須恵器片が採集され、遺跡の包含層がより広いことが想定されていた。この地区で最初に本格的な埋蔵文化財の調査が行われたのは、1995年に道路を挟んで隣接する医学部敷地内において計画されたRI総合センター遺伝子実験施設の建築に先立つ発掘調査である。この調査によってより南側の地区まで良好な状態で遺跡の広がりを確認することができた。よって、遺跡の範囲は東西500m、南北500mを越えるものと推定される。なお、本報告では本荘北地区（本大学附属病院内）で実施した発掘調査の記録4件、本荘中地区（医学部）1件を収録した。医学部保健学科の位置する本荘南地区は、この遺跡の範囲に入る。本格的な発掘調査が実施されていなかったため、保育園新築のための発掘調査を実施した。しかし、本地区のより西側の地域では立会調査において古代の遺物包含層が確認されていたが、今回は明確な遺構を検出することはできなかった。同地区では本調査1件を収録した。

薬学部が所在する薬学部地区は、大江遺跡群（熊本市埋蔵文化財地図No.8-93）の南西端に位置する。また、本学大江総合運動場は本遺跡群の北東端に位置している。地形は本庄遺跡とほぼ同じで、白川河岸に隣接し、標高は13~20mである。本遺跡群は詫間郡家および渡鹿廃寺などの推定地を含む熊本市内でも有数の大規模（東西1.8km、南北1.7km）かつ貴重な古代を中心とした遺跡群であり、これまで60次にわたる調査が実施され、各種遺物を伴って、8・9世紀代を中心とした古代堅穴住居址群、掘立柱建物址、道路址、溝址などが検出されている（新熊本市史編纂室1996）。本学が実施した調査においては、大江総合運動公園整備に伴う調査によって古代関連の遺物・遺構群が発見された他は、薬学部敷地の北西部において古代包含層の一部を確認しているにすぎない。薬学部敷地内においては大規模な建替えが最近実施されたが、この際の試掘によって、構内の東側では遺構や包含層は存在せず、北西部に絞られる様相が明らかになってきた。

附属中学校・小学校の所在する京町地区は京町台遺跡群（熊本市埋蔵文化財地図No.8-45）（東西400m、南北350m）に包括され、同遺跡群内には熊本市立京陵中学校と熊本営林局も含まれる。本台地は熊本平野の北部にある阿蘇4火碎流（凝灰岩）が形成した標高30~40mの平坦な台地であり、東西両側はそれぞれ坪井川と井芹川が流れ急峻な崖地を形成している。この天然の要害ともいべき地の利を活かして台地の南端には熊本城が築かれており、周辺の台地上には武家屋敷が築かれていた。本遺跡における発掘調査の嚆矢は、1966年、営林署内の宿舎改築工事の際、遺構は検出されなかつたが、重弧文をもつ弥生式土器、土師器、瓦器片が少量出土したことであり、現在では弥生時代遺跡として認定されている（熊本市文化財調査会1971）。これまでの発掘成果によると、構内の西側を中心として弥生時代～近世の遺構・遺物が確認されている。

沿岸域環境科学教育研究センター附属合津マリンステーションの占地する合津地区は、熊本県上天

2. 調査に至る経緯

草市松島町合津に所在する。遺跡は本地区のある松島の南西部端、標高12mの丘陵端部に位置する。この松島を含めた一帯は有明海から不知火海へ抜ける海上交通の要衝にあたり、天草で唯一の形象埴輪を出土したカミノハナ古墳群や長沙連古墳、大戸鼻古墳群など重要な古墳が密集しているように、古来より重要な拠点として意識されていたところでもある。また、縄文時代にはカルワ島遺跡や柳遺跡のように海岸部や海底に位置する遺跡群が数多く発見されている。沿岸域環境科学教育研究センター附属合津マリンステーションは、1956年に天草で始めて発見された縄文時代遺跡として著名な前島貝塚（熊本県遺跡地図57-013）とその東部にある梅殿古墳（同014）の隣接地にあたり、同貝塚の広がりが合津マリンステーション敷地内に残存する可能性も大きく、古墳関連の遺構の存在も予想されるような位置にある（熊本県教育委員会1968）。実際、1996年に合津マリンステーションの北部丘陵斜面にある宿舎が建設された際、建設業者によって7本の石斧が発見されているし、合津マリンステーションの船着場南側の海岸では本学考古学研究室の学生諸氏によって縄文時代早期～前期を中心とした土器や石器が採集されている。よって合津マリンステーション内とその周辺は縄文時代の遺跡・遺構が存在する可能性がきわめて高いところとして周知されていたところであった。本地区においては、1995年に合津マリンステーション改築工事に伴う発掘調査によって、前島貝塚が貝塚ではなく、本丘陵上には縄文時代早期の遺物包含層や遺構群が存在することが明らかになった（熊本大学埋蔵文化財調査室1996・小畑2001）。

2. 調査に至る経緯

熊本大学の校地は先に示したように8地区に分散しており、どの校地も狭隘化してきているため、かねてから校地の移転などが議論されてきた。昭和60年に当時の熊本県知事から校地移転を検討する旨の申し出があり、その件について学内で議論され、本荘地区的医学部・附属病院を除き他の地区は現地再開発が決定された。本荘地区も平成5年に現地再開発することが決定されたので、全学が現地再開発で取り組むこととなった。その後それぞれの地区での再開発構想が検討され、基本的な計画が出来上がった地区から文教施設費を概算要求し、それらが認められたところから再開発事業が始まった。一方、黒髪地区などにおいては、従来から建設工事などによって古代や先史時代の遺物が発見されていたにもかかわらず、埋蔵文化財包蔵地としては周知されていなかった。

平成5年10月から黒髪南地区において総合情報基盤センターの建設工事が始まったところ、熊本市教育委員会文化課から工事前に埋蔵文化財の発掘調査が必要である旨の連絡があり、同課へ向き確認したところ、平成5年4月1日から熊本市文化財保護審議会において黒髪地区などが埋蔵文化財の包蔵地として追加指定されていることが判明した。そこで大学が計画している建設工事の予定地に係わる試掘調査の届を同課に提出して、調査を依頼した。試掘調査の結果では、ほとんどの建設工事に先立ち発掘調査が必要であるということになった。

今後の発掘調査について同課に相談したところ、以下の回答があった。

①国の機関（大学等）は考古学研究室などがあって専門のスタッフを擁していることでもあり、熊本大学においてもそのような機関を設け、そこが実施機関として発掘調査を担当願いたい。

②熊本市が平成6年度発掘調査の依頼を受けたとしても、それを実施する場合、既に他の発掘調査予定が半年分はあるので、急いでも9月または10月頃から調査を始めることとなる。

以上のことから、熊本大学の再開発事業には事前の試掘および発掘調査を行うことが必須条件であり、そのためには大学独自の調査組織を早急に設けることが必要となった。まずは発掘調査組織の中

心となってもらうべく、文学部考古学研究室に協力を依頼し、このことについて承諾を得た後、急ぎ委員会などの組織作りを行い、責任体制を確立するための作業が始められた。本学の状況および他大学に既に設置されている同種組織の内容を勘案しながら検討した結果、熊本大学埋蔵文化財調査委員会（以下「調査委員会」と略する）を設けることとなった。また、この調査委員会の下に熊本大学埋蔵文化財調査室（以下「調査室」と略する）を置き、発掘調査の実務を担当することとした。

平成6年4月7日をもって熊本大学埋蔵文化財委員会規則が定められ、調査委員会が設置され、委員会内に調査室が置かれ、平成6年5月16日、委員会委員の委嘱、調査室長および調査員・事務補佐員が就任し、正式に調査室業務が始動した。調査室発足後は、文学部考古学研究室の甲元眞之教授をはじめとしたスタッフの多大なる協力のもと平成6年度建設予定地の調査を中心に発掘調査が実施された。以下の経緯については『熊本大学埋蔵文化財調査室年報』を参照されたい。

3. これまでの調査と本書収録の遺跡

以後平成23年3月末日現在まで、再開発計画に則り行われた事業の事前調査として、表2のような調査が実施されてきた。本書はこの中から2003～2009（一部）年度に実施した発掘調査の成果を報告する。試掘・立会調査などについては年報において既報告があるので、本書からは除外した。

2003年度は黒髪南地区において総合研究棟共同溝設備工事に伴う発掘調査（0302調査地点）と本荘中地区において医学部B棟・E棟・R I・旧動物舍取扱工事に伴う発掘調査（0314調査地点）、2004年度は本荘北地区において防火水槽取扱工事に伴う発掘調査（0426調査地点）が実施された。さらに本荘北地区においては2006年度に基幹・環境整備（西側駐車場等）工事に伴う発掘調査（0622調査地点）、2007年度には医学部図書講義棟新営工事に伴う発掘調査（0707調査地点）、2008年度には東病棟新営工事に伴う発掘調査（0814調査地点）が実施された。ほかに2008年度に実施された調査としては、黒髪北地区での北地区ボイラー室改修工事に伴う発掘調査（0854調査地点）、本荘南地区でのこばと保育園新営機械設備工事（変更2）に伴う発掘調査（0830調査地点）がある。2009年度は、黒髪北地区で体育館改修電気設備工事に伴う発掘調査（0935調査地点）、黒髪南地区で旧図書館工学部分室他改修工事に伴う発掘調査（0932調査地点）およびエコロジーシステム実験室接地工事に伴う発掘調査（0938調査地点）が実施された。本報告では、2003～2009年度に実施した、黒髪北地区2件、黒髪南地区3件、本荘北地区4件、本荘中地区1件、本荘南地区1件の計11件の発掘調査の報告を掲載した。

3. これまでの調査と本書収録の遺跡

表2 既往調査地点と本書収録調査地点一覧表

1994年度						
94・4・15~17	9401	(黒北) 運動場整備(照明塔建設)工事	発掘調査	128m ²	古代	古代土器類、埴輪器 ガラス、磁器片
94・4・21	9402	(黒北・南) 鶴谷整備(教育学部エレベーター・京阪設)工事	発掘調査	475m ²	現代	ガラス、磁器片
94・4・25	9403	(黒北・南) 地区基盤整備(工字部エレベーター・京阪設)工事	発掘調査	48m ²	猛禽骨確認、土器片	年報1
94・5・13~14	9404	(黒北) 福井能成建設予定地の樹木移植	立会調査	30m ²	古代	年報1
94・5・17~ 6・25	9405	(京町) 附属中学校校舎建設工事	発掘調査	400m ²	先史・近世	陶文土器、陶生土器、須恵器、土 器片、灰陶陶器、砾石、瓦、 瓦・ガラス片
94・5・20~23/24	9406	(黒北) 武大臣運動場整備(垂水排水埋設)工事	発掘調査	100m ²	古代	年報1
94・5・23~ 7・26	9407	(黒北) 福利施設建設工事	発掘調査	1250m ²	古代	本報告1
94・8・1~ 8・10	9408	(波度) グランド施設整備工事	発掘調査	40.4m ²	古代	土器器 片
94・8・11	9409	(黒北) 武大臣原木堆積貯食工事・外灯基盤工事	立会調査	23.4m ²	猛禽骨に遭せず遺構なし、土器器 片	年報1
94・8・12	9410	(京町) 附属中学校電気引き込み配線工事	立会調査	13m ²	遺構、遺物なし	年報1
94・8・22	9411	(黒北) 基盤整備(福井市書館スロープ取設)工事	立会調査	25.5m ²	猛禽骨に遭せず、遺構、遺物なし	年報1
94・9・12~ 10・31	9412	(黒北) 工学部実験棟新設工事	発掘調査	73.6m ²	古代	古代堅穴住居址、古代土器器、須 恵器、瓦・土器印・瓦器、陶文土 器
94・11・14~ 12・22	9413	(波度) グランド施設工事	発掘調査	200m ²	純文・古代	古代堅穴住居址・道路址、古土器 器、瓦器、須恵器、古田瓦、砾石、鐵 器、純文土器、石器
95・1・17~21	9414	(黒北) 福利施設設備工事	立会調査	160m ²	遺構、遺物なし	年報1
95・1・9~11, 1・26~2・1	9415	(黒北) 工学部共同講堂工事	立会調査	50m ²	遺構、遺物なし	年報1
95・2・27	9416	(城東) 波城幼稚園排水管敷設工事井上工事	立会調査	129.7m ²	遺構、遺物なし	年報1
95・3・15~23	9417	(黒南) 福利施設設備工事	立会調査	年報1		
1995年度						
95・4・25~5・2	9501	(黒南) 工学部研究実験棟新工事・関西44講建設工事	発掘調査	90m ²	古代・近世	古代堅穴住居址、柱穴、井、陶文 土器片、古代土器器、須恵器 本報告1
95・5・9~10	9502	(黒南) 工学部附属工学機器センター新工事	試掘調査	20m ²	古代	猛禽骨確認
95・5・15~16	9503	(黒南) 工学部R1研究実験棟建設及び基礎掘削	試掘調査	20m ²	古代	砾石、古代土器器、須恵器 年報2
95・5・29~30 ・6・21	9504~06	(黒南) 工学部研究実験棟新工事電気配線(その2)に伴う高 架ケーブル敷設	立会調査	38m ²	遺構、遺物なし	年報2
95・8・21	9507	(京町) 工学部道床改修工事	立会調査	14m ²	遺構、遺物なし	年報2
95・8・22	9508	(黒南) 事務局外灯配線改修	立会調査	10m ²	遺構、遺物なし	年報2
95・9・8~ 10・12	9509	(合衆) 工学院部附属施設改修工事	発掘調査	280m ²	純文	砾石、陶文早期土器、石器 年報2
95・11・2	9510	(川南) 工学院研究実験棟新工事に伴うガス配管	立会調査	古代	古代堅穴住居址、古代土器片 年報2	
95・11・6~8	9511	(本庄北) 医学部附属セイターナー造伝子実験施設建設及び 外溝切り工事	試掘調査	200m ²	古代	古代堅穴住居址・塗火住居址、古 代土器器、須恵器 年報2
95・11・13~16	9512	(黒南) 工学部研究実験棟新工事に伴う排水管設置	発掘調査	60m ²	古代	古代堅穴住居址、柱穴、包含層、 陶文早期土器片、古代土器器、須 恵器 本報告1
95・11・17	9513	(黒南) 工学部研究実験棟新工事に伴う外溝	立会調査	立会調査	立会調査	立会調査
95・11・17	9514	(黒南) 工学部研究実験棟新工事に伴う外溝	立会調査	古代	立会調査	立会調査
95・11・21~22	9515	(黒南) 工学部R1研究実験棟建設に伴う基礎掘削	立会調査	古代	立会調査	立会調査
95・11・22	9515	(黒南) 工学部研究実験棟新工事に伴う外溝	立会調査	立会調査	立会調査	立会調査
95・11・24	9511	(本庄北) 医学部附属セイターナー造伝子実験施設建設工事	立会調査	立会調査	立会調査	立会調査
95・11・28~29	9516	(黒南) 工学部研究実験棟新工事に伴う外溝	発掘調査	72m ²	純文・古代 土器器	立会調査・柱穴、陶文土器片、古代 土器器 本報告1
95・12・1	9511	(本庄北) 医学部R1総合センター造伝子実験施設建設に伴 う外溝切削	立会調査	立会調査	立会調査	立会調査
95・12・4	9517	(本庄北) 医学部R1総合センター造伝子実験施設に伴う解 体移設	立会調査	立会調査	立会調査	立会調査
95・12・5	9518	(黒南) 工学部R1研究実験棟建設に伴う外溝工事	立会調査	10m ²	遺構、遺物なし	年報2
95・12・12~14	9519	(黒南) 工学部研究実験棟新工事に伴うガス配管	立会調査	古代	立会調査	立会調査
95・12・18	9520	(黒北) 教務部新沿岸工事	立会調査	10m ²	遺構、遺物なし	年報2
95・12・25~ 96・2・22	9511	(本庄北) 医学部R1総合センター造伝子実験施設建設	発掘調査	976.9m ²	純文・古代	立会調査・柱穴、立会調査・土器 器、柱穴・方形堅穴住居址・土器、 純文土器・瓦器、古代土器器、須 恵器、瓦器 本報告1
96・3・1	9521	(黒南) 工学部校舎新設	試掘調査	先史	先史土器、ピット、陶生中期土器	年報2
96・3・8	9522	(黒北) 文化学部・第五高島等学校記念庭園植栽工事	立会調査	古代	猛禽骨確認・古代土器器 年報2	
96・3・21	9523	(城東) 教育学部附属幼稚園排水管敷設工事	立会調査	立会調査	立会調査	立会調査
96・3・25~26	9524	(京町) 教育学部附属小学校排水管敷設工事	立会調査	27.6m ²	遺構、遺物なし	年報2
1996年度						
96・4・19	9601	(本庄北) 医学部校舎建設	試掘調査	33m ²	古代	古代包含層・唐、古代土器器、須 恵器 本報告1
96・5・10	9602	(黒北) 法文学部記念植樹	立会調査	1m ²	遺構、遺物なし	年報3
96・5・10~ 6・24	9603	(黒南) 工学部校舎建設	発掘調査	1000m ²	純文・先史・柱穴・猛禽骨確認・古代 堅穴住居址・土器・瓦・陶生中期土器 純文後期土器・古代土器器 本報告1	立会調査・柱穴・陶生中期土器・ 瓦・鐵・猛禽骨確認・古代土器器 本報告1

95・5・13	9604	(京北) 教育部 ATM ネットワーク付設工事	立会調査	40m ²	古代	遺構・遺物なし	年報3
95・5・14	9605	(京北) 教育部附属中学校 ATM キューブリック付設工事	立会調査	14m ²	古代施設	遺構	年報3
95・5・15	9606	(大口) 東京学芸 ATM ネットワーク付設工事	立会調査	遺構・遺物なし	年報3	一部往古居住址・古代施設	年報3
95・6・17	9607	(京北) 法文学部外灯設置工事	立会調査	4m ²	古代	遺構・遺物なし	年報3
95・6・19	9608	(筑波) 工学部 RI 実験施設工事	立会調査	21m ²	遺構・遺物なし	年報3	本報告書
95・8・5	9609	(筑波) 入試監視室建設工事(試掘)	立会調査	4m ²	遺構・遺物なし	年報3	
95・8・6~9	9610	(本庄北) 医学部校舎建設に伴う樹木移植・野木搬送工事(1・2・3区)	立会調査	45.7m ²	古墳・古代	古墳時代南朝穴住居址・古代墓穴往古居住址・古代土器類・埴輪	本報告書
95・8・22~27	9601	(本庄北) 医学部校舎建設に伴う切り替え道路建設(4区)	発掘調査	37.4m ²	古代	壁穴往古居住址・柱穴・古代土器類・埴輪	本報告書
95・8・29~30	9601	(本庄北) 医学部校舎建設に伴う切り替え道路建設(5区)	発掘調査	28.2m ²	古代	竪穴・古代土器類・埴輪	本報告書
95・9・6	9610	(京北) 教務夏目散石塗建立	試掘調査	9m ²	遺構・遺物なし	年報3	
95・10・1~9	9601	(本庄北) 医学部校舎建設に伴う排水管切り替え工事(6区)	発掘調査	104.3m ²	古代	古代遺構・壁穴往古居住址・古代土器類・埴輪	本報告書
95・10・11~	9601	(本庄北) 医学部校舎本体工事(半蔵園区)	発掘調査	1686m ²	美文・古墳・古代	美文住居址・古墳・柱穴・古代道跡・壁穴往古居住址・古代土器類・埴輪	本報告書
95・11・17						塔子・柱穴・埴輪・土器・古墳・古代土器類・埴輪・瓦器	
95・10・21~29	9601	(本庄北) 医学部校舎建設に伴う排水管切り替え工事(7・発掘調査	8・9区)	625m ²	古代	古代壁穴往古居住址・堀・古代土器類・埴輪	本報告書
95・11・12~13	9601	(本庄北) 医学部校舎建設に伴う排水管切り替え工事(10区)	発掘調査	21.8m ²	古代	古代壁穴往古居住址・古代土器類・埴輪	本報告書
95・11・12	9611	(筑波) 工学部外灯設置工事	立会調査	64m ²	遺構・遺物なし	年報3	
95・12・18	9612	(筑波) 工学部電源施設工事	立会調査	74.8m ²	遺構・遺物なし	年報3	
97・3・3~31	9613	(筑波) 工学部研究実験棟新營囲塀設置工事	立会調査	175m ²	遺構・遺物なし	年報3	
97・3・7	9614	(筑波) 工学部病院エキスルガーアンモニウム大量採取工事	立会調査	109m ²	遺構・遺物なし	年報3	
1997年度							
97・4・8	9701	(本庄南) 医学部指揮リラシヤ教育施設電気設備その他の改修工事	立会調査	21m ²	一部往古居住址・遺構なし・古代土器類	年報4	
97・5・7	9702	(筑波) 理学部ヘリウム補増器・ヘリウム管路設工事	立会調査	126.6m ²	遺構・遺物なし	年報4	
97・5・28	9703	(本庄北) 医学部附属施設改修拡張床血液透析施設改修工事	立会調査	4m ²	遺構・遺物なし	年報4	
97・7・28~11・4	9704	(筑波) 工学部新舍新工事	発掘調査	1783.3m ²	男生・古代・先史時代・古墳穴住居址・土器類・帆立貝殻・柱穴・近世墓・南北中期墓槽・土器類・瓦・古墳形窓・近世陶器	年報4	
97・10・29	9705	(京北) 教育学部附属中学校女性立派建立	立会調査	2.8m ²	遺構・遺物なし	年報4	
97・10・22	9706	(京北) 法文学部新施設改修建立	立会調査	1.2m ²	遺構・遺物なし	年報4	
97・11・11~	9707	(本庄北) 医学部新施設研究棟外灯設置工事	立会調査	370m ²	古代・近代	近代墓地・古代土器・柱穴・堀・土器・人骨・墓石等・古代土器	年報4
98・3・31						井戸	
98・1・30~2・12	9708	(筑波) 法・文・教育学部外灯設置改修工事	立会調査	61.9m ²	古代	一部往古居住址・遺構・遺物なし・君	年報4
98・2・3~2・13	9709	(筑波) 資料室新設引換し工事	立会調査	116m ²	古代	先史時代・遺構・遺物なし・君	年報4
1998年度						化した古代土器	
98・4・14	9804	(筑波) 工学部舍建設に伴う排水管改修工事	立会調査	10m ²	廻廊により遺構なし	年報5	
98・6・26~7・2	9801	(本庄南) 医学部エイズ学研究センター・動物資源開発センターライフ支撑施設改修工事	立会調査	24m ²	遺構・遺物認められず	年報5	
98・7・6	9801	(本庄南) 国際文化化事業	立会調査	遺構・遺物なし	年報5		
98・7・13	9800	(筑波) 工学部新施設改修工事	立会調査	3m ²	古代	遺物・古墳穴住居址	年報5
98・7・28~9・10	9801	(本庄南) 医学部エイズ学研究センター・動物資源開発センターライフ支撑工事	立会調査	972m ²	美文・古代・壁穴往古居住址・廻廊往古建物・溝・土坑	本報告書V	
98・9・21~22	9803	(京北) 文化部新施設改修工事に伴う排水管改修工事	立会調査	9m ²	遺構・遺物なし	年報5	
98・9・25~11・6	9802	(京北) 文化部新施設改修その他の工事	発掘調査	575m ²	美文・男生・廻廊・土器等・溝・土坑・男生・遺物・包含層	本報告書V	
98・9・28	9805	(本庄北) 大学院病院改修工事	試掘調査	10m ²	古墳・古代土器	年報5	
98・9・29	9806	(本庄北) 大学院中央診療部改修工事	試掘調査	5m ²	廻廊・砂質層を抜ぬく・遺構・遺物なし	年報5	
98・9・30	9807	(本庄北) 大学院薬剤師附注患者専用セッテ支給室等取扱工事	試掘調査	2m ²	遺物・往古居住址・廻廊・柱穴・古代土器	年報5	
98・10・6	9808	(筑波) 工学部1・9号前電光施設工事	立会調査	30m ²	遺構面に達せず・遺構なし	年報5	
98・10・25~11・30	9807	(本庄北) 大学院薬剤師附注患者専用セッテ支給室等取扱工事	発掘調査	175m ²	廻廊・土器等・古代壁穴往古居住址・土器・溝・近代溝	本報告書V	
98・11・2	9801	医学部エイズ学研究センター・動物資源開発センターライフ支撑施設改修工事	発掘調査	130m ²	削平のため存在せず	本報告書V	
98・12・14~12・18	9810	(筑波) 理学部自然科学研究会等企画実験施設新設工事	立会調査	35m ²	遺物・包含層・往古居住址・古代土器	年報5	
98・12・16	9802	(京北) 文化部新施設改修工事	立会調査	35m ²	遺物・廻廊起・遺構・遺物なし	年報5	
98・12・17~	9805	(本庄北) 大学院病院改修新設に伴う排水管改修工事	立会調査	333m ²	壁穴往古居住址・古代土器	年報5	
99・1・10							
99・1・12	9811	(筑波) 工学部実験改修工事	試掘調査	14m ²	土砂	年報5	
99・1・21~3・25	9810	(筑波) 医学部自然科学研究会等企画実験施設新設工事	立会調査	1098m ²	廻廊・土器・石器等・古代壁穴往古居住址・土器・柱穴・溝・近世溝	本報告書V	
99・2・2	9802	(京北) 駐車監視室に伴う施設改修工事	立会調査	260m ²	遺構・遺物なし	年報5	
99・2・10	9802	(京北) 駐車監視室に伴う施設改修工事	立会調査	40m ²	遺構面には達せず・遺物なし	年報5	

3. これまでの調査と本店収録の遺跡

99・2・18	9802	(黒北) 墓地整備事業に伴う施設工事	立会調査	12.3m ²	地表下2mで骨生時代遺物を含む、遺物を確認。遺物・遺物なし	年報5
99・2・9~ 3・9	9802	(黒北) 墓地整備事業に伴う電気化施設工事	立会調査	4m ²	地表下20cmで水田土を検出。遺物・遺物なし	年報5
99・3・11~12	9812	(大江) 渋利屋町東側ブリック解体修理工事	立会調査	70m ²	仮古墳・遠賀郡御壁塚、遺物・遺物なし	年報5
99・3・10~31	9801	(本荘市) 長学部エイズ学研究センター・動物資源開発研究センター新館に係る配管切替工事	立会調査	57.5m ² 古代	一般包材類、達成郡御壁塚(ピット)・遺物なし	年報6
1999年度						
99・4・5~ 8・31	9901	(本荘市) 柴原(越) 新設工事	発掘調査	2,495m ² 縄文・古墳・古代・近世	縄文時代石器・玉・古墳時代住居址・構・土師器・古代住居址・柱穴・土壤系・土師器・須恵器、瓦器・敷石・土鏡・古代清	年報6
99・6・14~ 7・11	9902	(本荘市) 医学生起業イズ学研究センター・動物資源開発研究センター新館電気工事	立会調査	40m ² 古代	古代窯穴・礫・遺物を少量検出	年報6
99・6・17	9903	(黒南) 工学部研究施設建設工事Ⅱ-2(電気工事)	立会調査	10m ²	遺物・遺物なし	年報6
99・7・19~26	9904	(本荘市) 長学部エイズ学研究センター・動物資源開発研究センター新館電気工事	立会調査	2m ² 古代	遺物・遺物なし	年報6
99・7・29~ 7・30	9905	(黒南) 自然科学研究・理学部組合研究実験棟新館省ガス設置工事	立会調査	50m ²	遺物・遺物なし	年報6
99・7・2~ 8・7	9906	(本荘市) 自然科学研究・理学部組合研究実験棟新館省ガス設置工事	立会調査	200m ² 古代	古代窯6基・柱穴2個・古代土器片・少量を出土	年報6
99・9・22~ 10・5	9907	(黒南) 工学部新施設用プレハブ新設工事	発掘調査	135.6m ² 縄文前期～ピット群・绳文土器片出土	本報告書	
99・11・24~ 11・25	9908	(本荘市) 田長萬字橋架設工事改修工事	試掘調査	42m ² 近世以降	トレンチ2本を実施して調査したが、遺構なし・近世初期	年報6
00・2・14~ 3・24	9909	(黒南) 工学部新施設・植物環境研究センター・サナタイト・ベンチャーベンチャーベンチャーラボラトリ・種苗新設工事	試掘調査	1,853m ² 近世・近代	遺跡・墓地・近世陶器・埴輪・回・瓦鏡	本報告書
00・1・25	9910	(本荘市) 並瀬射場整理空地改良試験	試掘調査	2m ²	地盤高く、遺構・遺物ともに確認せず	年報6
00・3・6~14	9911	(黒南) 木生本郷御料所新設工事	発掘調査	769m ²	縄文土器・古代土器群・須恵器	年報7
00・3・14	9912	(黒南・東) 外灯取扱工事立会	立会調査	3m ²	遺物・遺物とともに確認できず	年報6
00・3・2	9913	医学部総合研究棟新設施設工事立会	立会調査	7.84m ²	遺構・遺物なし	年報6
00・3・16~17	9914	(本荘市) 5ヶ所新設工事立会	立会調査	25m ²	遺構・遺物なし	年報6
2000年度						
00・4・7	0001	(黒南) 木生本郷御料所新設工事	立会調査	6.1m ²	遺構・遺物なし	年報7
00・4・11	0002	(黒南) 木生本郷御料所新設工事	立会調査	41m ²	遺構・遺物なし	年報7
00・4・17	0003	(本荘市) 附属病院新築・施設改修工事	試掘調査	5.8m ²	遺構・遺物なし	年報7
00・10・23	0004	(黒南) 工学部新施設・植物環境研究センター・サナタイト・ベンチャーベンチャーベンチャーラボラトリ・種苗新設工事	立会調査	18m ²	遺構・遺物なし	年報7
00・10・30	0005	(黒南) 工学部新施設工事	立会調査	63m ²	遺構・遺物なし	年報7
00・11・6~22	0006	(本荘市) 附属病院新築・施設改修工事(11人)木相貸付工事(114)	発掘調査	119.4m ² 縄文・古墳・古代	縄文時代石器・古墳時代柱穴・住居址・土師器・須恵器	本報告書
00・11・22	0006	(本荘市) 附属病院新築・環境整備新築工事(114)木相貸付工事	試掘調査	4m ² 近・現代墓	近・現代墓石・墓環・遺骨	年報7
00・11・27~29	0006	(本荘市) 附属病院新築・環境整備新築工事	立会調査	85.6m ²	遺構・遺物なし	年報7
00・12・4~13	0006	(本荘市) 附属病院新築・環境整備新築工事(Ⅱ区)	立会調査	32m ² 縄文・古代	土坑状遺構・縄文時代石器・土師器・ガラス玉・器蓋・須恵器	本報告書
00・12・8~ 01・1・10	0006	(本荘市) 附属病院新築・環境整備新築工事(Ⅱ区)	立会調査	31.5m ² 古代	遺構なし・土師器散在	年報7
00・12・19~20	0006	(本荘市) 附属病院新築・環境整備新築工事(Ⅲ区)	発掘調査	204m ² 古代	住居址・土師器	本報告書
00・12・25~28	0006	(本荘市) 附属病院新築・環境整備新築工事	立会調査	100.7m ² 近・現代墓	近代墓碑・墓石・遺骨	年報7
01・1・29	0006	(本荘市) 附属病院新築・環境整備新築工事(Ⅳ区)	立会調査	7m ²	遺物・遺構なし	年報7
01・1・22~30	0007	(京町) 昭和中学校移転新校舎新設工事	発掘調査	119.4m ² 佐生・古代	佐生・古代土師器・瓦器・土器類	年報7
01・2・5	0008	(黒北) 生物生産環境研究センターロープ取扱工事	立会調査	28m ²	埋瓦のため遺物・遺構なし	年報7
01・2・6~9	0009	(黒南) 理研部屋・2階能登豚若育成施設新設工事	立会調査	70m ² 古代	包含層を確認・古代土師器・須恵器	年報7
01・2・16~19	0010	(黒北) 体育系新宿舎解体・新設工事	立会調査	372m ²	遺物・遺構なし	年報7
01・2・22	0011	(大江) 男女寮新宿舎解体搬去工事・旧ボイラー室解体搬去工事	立会調査	132m ²	遺物・遺構なし	年報7
01・3・5~6	0012	(黒北) 駅前取扱工事	立会調査	3m ²	遺物・遺構なし	年報7
01・3・6	0013	(大江) 室内運動場(式典場)取り壇工事	立会調査	500m ²	遺物・遺構なし	年報7
01・3・22	0014	(黒北) 田代活協新設合併新宿舎解体搬去工事	立会調査	66m ²	遺物・遺構なし	年報7
2001年度						
01・4・9~ 3	0101	(本荘市) 附属病院用具新設研究新設工事	発掘調査	1733.75m ² 古墳・古代・住居址・墓・窓址・馬糞・土師器・須恵器	本報告書	
01・5・14	0102	(黒南) 釜石・環境整備	試掘調査	4.8m ²		
01・5・14	0102	京町(高坂)ケーブル新設工事	立会調査	59.5m ²	遺構・遺物なし	年報8
01・7・9~26	0102	(黒南) 釜石・環境整備	発掘調査	418.5m ² 縄文	縄文土器・荒玉遺迹・黑糞木床・防波堤	年報8
01・7・4~ 10・29	0104	(本荘市) 財團病院新築・環境整備(共同施設設置)	発掘調査	1023.8m ² 縄文・佐生・古代	住居址・墓・縄文土器・佐生土器・土師器・須恵器・石器・瓦器・青銅器	本報告書
01・7・13	0105	(京町) 正門取扱工事	立会調査	7.12m ²	遺構・遺物なし	年報8

01・7・30~ 11・14	0106	(墨北) 大学教育研究センター等改修工事	立会岡塗	3.907m ²	遺構・遺物なし	年報8
01・7・31	0107	(大江) 南学部共同実験棟改修工事	立会岡塗	97.84m ²	遺構・遺物なし	年報8
01・8・1/13	0108	(京町) キヤンバス情報ネットワークその他の工事	立会岡塗	25m ²	遺構・遺物なし	年報8
01・8・2/21	0109	(墨北) キヤンバス情報ネットワークその他の工事	立会岡塗	58m ²	遺構・遺物なし	年報8
01・8・27	0110	(大江) 南学部キヤンバス情報ネットワークその他の工事	立会岡塗	20m ²	遺構・遺物なし	年報8
01・9・4	0111	(本庄市) 国立病院キヤンバス情報ネットワークその他の工事	立会岡塗	278m ²	遺構・遺物なし	年報8
01・8・22/9・4	0112	(墨北) 食堂南側テラス整備工事	立会岡塗	662m ²	遺構・遺物なし	年報8
01・9・14/10・1	0113	(本庄市) 医療技術研究大学キャンパス情報ネットワークその他の工事	立会岡塗	105m ²	遺構・遺物なし	年報8
01・9・17	0114	(本庄市) 附属病院キャンパス情報ネットワークその他の工事	立会岡塗	38m ²	遺構・遺物なし	年報8
01・10・19	0115	(高麗) 理学院2号館周辺排水工事	立会岡塗	84m ²	遺構・遺物なし	年報8
01・10・22~ 02・2・19	0116	(本庄市) 附属病院基壇・環境監視(A-D地区・ゴーラー設置要等)	立会岡塗	4264m ²	遺構・遺物なし	年報8
01・12・8~ 02・2・9	0117	(本庄市) 医学部総合研究棟新設工事	立会岡塗	1331m ² 古代	住居址・柱洞埋 土器群・灰窓跡	年報8
01・12・12~ 03・2・4	0118	(墨北) 基幹・環境監測(特高電圧電線等・積荷その他)	立会岡塗	111.7m ²	遺構・遺物なし	年報8
02・2・25~ 3・20	0119	(本庄市) 風呂用ガス供給設備取扱工事	発掘調査	205.8m ² 檜文・古墳・住居址・唐・昭和住居址・檜文 土器・土器群・灰窓跡・鉄鋸	年報8	
02・3・18	0120	(本庄市) 総合研究棟周辺整備監修工事	立会岡塗	1492.7m ² 古代	遺構・遺物なし	年報8
02・3・18	0121	(本庄市) 附属病院施設修繕(上北Ⅱ) 施設工事	立会岡塗	1076.4m ²	調?・遺物なし	年報8
02・3・22	0122	(本庄市) 附属病院施設電気設備工事(上北Ⅱ)	立会岡塗	54m ²	遺構・遺物なし	年報8

2002年度

02・4・3~4	0201	(墨北) 大学教育研究センターC棟新設工事地盤工及 び直外開削工事	立会岡塗	29.3m ²	遺構・遺物なし	年報9
02・4・15~16	0202	(墨北) 外灯設置工事	立会岡塗	199m ²	遺構・遺物なし	年報9
02・4・17	0203	(高麗) インターベンション施設新設工事	試掘調査	3m ²	遺構・遺物なし	年報9
02・4・17	0204	(高麗) 総合研究棟新設工事	試掘調査	4m ²	遺構・遺物なし	年報9
02・4・24	0205	(高麗) 大倉庫エコクリーンソイル工事	立会岡塗	0・73m ²	遺構・遺物なし	年報9
02・5・20~29	0206	(高麗) 総合研究棟新設に伴う水害移設工事	発掘調査	26m ²	遺物	年報9
02・5・30~ 8・2	0207	(高麗) インキュベーション施設新設工事	発掘調査	810m ² 近世	遺址	年報9
02・6・3	0208	(高麗) 総合研究棟新設一次削除時に伴う電気工事	立会岡塗	32m ²	遺構・遺物なし	年報9
02・6・12~ 8・14	0209	(高麗) 総合研究棟新設工事	発掘調査	2,803m ² 檜文・古墳 古代	住居址・唐・火葬墓・周文土器・ 土器群・灰窓跡	年報9
02・7・2	0210	(墨北) 告南衛生学生部駐車場整備工事	立会岡塗	34m ²	遺構・遺物なし	年報9
02・8・29	0211	(京町) 附属小学校スロープ改修工事	立会岡塗	13m ²	遺構・遺物なし	年報9
02・10・1~ 10・3・11	0210	(高麗) 工学部駐車場整備工事	発掘調査	61.10m ²	住居址・周文土器・石器	年報9
18						
02・10・7	0211	(本庄市) 医学部総合研究棟新設工事(波り崖下部分)	立会岡塗	32m ²	遺構・遺物なし	年報9
02・12・3/5/11	0212	(高麗) 通用門設置工事	立会岡塗	490m ²	遺構・遺物なし	年報9
	0213	(本庄市) 研究棟新設警音電気設置工事	立会岡塗	216m ²	遺構・遺物なし	年報9
03・2・7	0214	(本庄市) 基礎地盤強度測定外壁工事	立会岡塗	210m ²	遺構・遺物なし	年報9
03・2・18	0215	(大江) 南学部新設施設監査室新設工事	立会岡塗	34m ²	遺構・遺物なし	年報9
03・2・21	0216	(墨北) 外灯設置工事	立会岡塗	185m ²	遺構・遺物なし	年報9
03・3・7	0217	(本庄市) 作業宿舎(フレア) 新設工事	立会岡塗	3m ²	遺構・遺物なし	年報9
03・3・10	0218	(高麗) 外灯設置工事	立会岡塗	27m ² 古代	住居址・土器群・灰窓跡・瓦石	年報9
03・3・11	0219	(本庄市) 告南新設工事	立会岡塗	36m ²	遺構・遺物なし	年報9
03・3・26	0220	(新潟) 教育学部新設施設整備工事	立会岡塗	40m ² 古代	住居址・窓穴・唐・古代土器群・ 灰窓跡	年報9

2003年度

03・4・10	0301	(高麗) 工学部品川駅新設工事	立会岡塗	2m ²	遺構・遺物なし	年報10
03・4・10	0302	(高麗) 総合研究棟周辺設置工事	試掘調査	9.6m ²	土器群	年報10
03・5・20	0303	(高麗) 幼稚園新設水道管敷設工事	立会岡塗	16.6m ²	遺構・遺物なし	年報10
03・6・2~ 7・2	0304	(本庄市) 基幹・環境監測工事	発掘調査	333.6m ² 檜文・古墳・ 生糞・古代	住居址・唐・周文石器・弥生土器・ 土器群・灰窓跡	年報10
03・7・18	0302	(高麗) 総合研究棟周辺設置工事	立会岡塗	206m ²	遺構・遺物なし	年報10
03・8・19	0305	(京町) 附属小・中学校フェンス取扱工事	立会岡塗	44.3m ²	遺構・遺物なし	年報10
03・8・2~ 9・12	0306	(高麗) 総合研究棟周辺設置工事(1区)	発掘調査	168.22m ² 檜文・古墳 窓・ピット・陶器群・土坑・遺物包含層・ 純文土器	年報10	
03・9・4~ 9・8	0306	(本庄市) 医療技術研究大学北部駐車場整備工事	立会岡塗	530.2m ²	遺構・遺物なし	年報10
03・9・5	0307	(高麗) 大蛇丸合研究棟排水管新設工事および電気工事	立会岡塗	754m ²	遺構・遺物なし	年報10
03・9・29	0308	(本庄市) 小野寺谷1階給水管新設工事	立会岡塗	364m ²	遺構・遺物なし	年報10
03・10・2	0309	(本庄市) 老健施設新設改修工事	立会岡塗	4.02m ²	遺構・遺物なし	年報10
03・10・1~ 10・10	0302	(高麗) 総合研究棟周辺設置工事	発掘調査	233.5m ² 檜文・古代 窓・ピット・陶器群・土坑	年報10	
03・10・27		(墨北) 改修新設工事	試掘調査	13.75m ²	遺構・遺物なし	年報10
03・11・5		(高麗) 紀念館新設工事	試掘調査	7.47m ² 古代	土器群	年報10
03・11・17~25	0310	(本庄市) 発酵医学研究センター新設改修事業	立会岡塗	557m ²	遺構・遺物なし	年報10
03・11・25	0302	(高麗) 総合研究棟周辺設置工事(ガラス)	立会岡塗	3.6m ²	遺構・遺物なし	年報10
03・12・9		(本庄市) 発酵医学研究センター新設改修事業	試掘調査	26.55m ²	遺構・遺物なし	年報10
03・12・10	0311	(本庄市) 中央診療所(総) 改修工事	立会岡塗	4m ²	遺構・遺物なし	年報10
04・1・13	0312	新草薙駅改修工事	立会岡塗	112m ²	遺構・遺物なし	年報10

3. これまでの調査と本書収録の遺跡

04・1・14	0307	(美) 大江駅研究館跡水槽及び電気工事	立会調査	45.5m	遺構・遺物なし	本報10
04・1・15~19	0313	(北北) 教育研究施設工事	立会調査	398.8m	遺構・遺物なし	本報10
04・1・23~27	0314	(東北) 医療部本棟、セ核・片・1・1・回転物貯蔵庫工事	免耕調査	1000m ²	古代 陶・ピット・土師器	本報
04・1・30	0315	(東北) 東洋館車庫整備工事	立会調査	30.7m	遺構・遺物なし	本報10
04・2・9	0316	(南南) 理学部4分野周辺プレハブ等設備工事	立会調査	83m		本報10
04・2・16						
04・2・23	0317	(本北) 個別木手箱	立会調査	16m		本報10
04・3・4	0318	(北北) 教育研究施設内門前宿道水道修理工事	立会調査	2m	遺構・遺物なし	
04・3・5~9	0319	(東北) 教育部本棟、セ核・片・1・1・回転物貯蔵庫工事	免耕調査	1,000m ²	中古・古代 陶・ピット・土師器	本報
04・3・9	0319	(東北) 片山改修工事	立会調査	23m	遺構・遺物なし	
04・3・9	0320	(北北) 延長改修及設備取扱工事	立会調査	13.1m	遺構・遺物なし	
04・3・10	0321	(南南) P47改修工事	立会調査	34m	遺構・遺物なし	
04・3・10	0322	(南南) 他所研究外灯設備工事	立会調査	4m	遺構・遺物なし	
04・3・10	0313	(北北) 他所新築工事	立会調査	10m	遺構・遺物なし	
04・3・10	0323	(北北) 教育研究施設(立派御殿)	立会調査	44m	遺構・遺物なし	
04・3・11	0324	(東北) 外灯設置工事	立会調査	4m	遺構・遺物なし	
04・3・11	0325	(北北) 外灯設置工事	立会調査	11.2m	遺構・遺物なし	
04・3・15	0326	(北北) 斜面改修工事	立会調査	354m	純文・影印	
04・3・16	0327	(東) 外灯改修工事	立会調査	11.8m	遺構・遺物なし	
04・3・17	0323	(北北) 教育研究施設(城抜)	立会調査	892m ²	古代 土師器・須恵器片	
04・3・22	0328	(宮町) 教育学部附属小学校改修道路整備工事	立会調査	7m	遺構・遺物なし	
04・3・19	0329	(北北) 消火栓点検	立会調査	108m	遺構・遺物なし	
2004年度						
04・4・7	0401	黒堀地区北地区教務新築工事(洗浄下設置)	立会調査	33.8m	遺構・遺物なし	本報11
04・4・9		本庄地区北地区中央講堂(縮)設営工事	試験調査	10.44m ²	唐?・土師器	本報11
04・4・13~ 5・31	0402	本庄地区北地区荒尾医学研究センター建設工事	免耕調査	1241.75m ²	土師器・須恵器・陶文土器	本報11
04・5・25		黒堀地区北地区日本医師大学院社会文化科学研究科研究室新設工事	試験調査	72.6m ²	古代 ピット・土師器	本報11
04・5・14	0403	本庄地区北地区《中央生涯課》設営工事	立会調査	150m ²	土師器	本報11
04・10・14						
04・5・21	0404	秦ヶ原地区植栽樹木支材立柱設置工事	立会調査	33m	遺構・遺物なし	本報11
04・6・25	0405	秦ヶ原地区本記念館新設新規設備及びその他工事	立会調査	68.68m ²	遺構・遺物なし	本報11
04・6・28		本庄地区北地区(宮町) 墓地整備工事	試験調査	10m ²	古代・純文 土師器・純文土器・土瓶	本報11
04・5・24	0406	秦ヶ原地区宮本木立柱(復元)・設置工事(倒壊物除去・新木 搬去・電気配管・柏水管配管・ガス配管・樹木移植)	立会調査	1332.4m ²	遺構・遺物なし	本報11
04・5・4						
04・10・25~28						
04・11・12						
04・11・29						
04・7・26	0408	中宿毛池北緑地沿岸排水渠掘削配管改修工事	立会調査	36.2m	遺構・遺物なし	本報11
04・7・29	0409	黒堀地区北地区江口定期待機工事	立会調査	72m	遺構・遺物なし	本報11
04・8・6						
04・8・20						
04・8・23		黒堀地区北地区川原町敷地移設取扱工事	試験調査	11m ²	古代 柱穴・須恵器・土師器	本報11
04・8・9	0410	黒堀地区北地区日本大学人文学部社会文化科学研究科研究室新設工事	立会調査	370m ²	遺構・遺物なし	本報11
04・11・5						
04・11・11						
04・8・17~ 19・23	0411	本庄地区北地区(北) 高幹・環境整備(ボンプ室、K1井戸 駆除取扱・ガス切替・水道ブロック止・廻路設置開通)工事	立会調査	420m ²	土師器・須恵器・純文土器・堅穴 柱穴・清・ピット	本報11
04・9・3						
04・9・14~22						
05・1・27~						
04・9・16	0412	本庄地区北地区附属病院都市ガス配管修理工事	立会調査	5.7m	遺構・遺物なし	本報11
04・9・16	0413	京町河原町中学校廃校跡による既存木起	立会調査	8m	遺構・遺物なし	本報11
04・9・16	0414	黒堀地区北地区工学部新設工事による既存木起	立会調査	4m	遺構・遺物なし	本報11
04・9・21	0415	衛生都道府県記念館新設機械設備及びその他工事	立会調査	10m ²	遺構・遺物なし	本報11
04・9・21	0416-1	本庄地区北地区(川原町)廻路設置工事による既存木起	立会調査	8m	遺構・遺物なし	本報11
04・9・21	0416-2	本庄地区北地区(川原町)廻路設置工事による既存木起	立会調査	1.5m ²	遺構・遺物なし	本報11
04・10・12	0417	黒堀地区北地区歴史文化資料室内設置工事	立会調査	0.5m ²	遺構・遺物なし	本報11
04・10・12	0417	黒堀地区北地区歴史文化資料室内設置工事	立会調査	0.5m ²	遺構・遺物なし	本報11
04・10・19	0418	黒堀地区北地区夏木川石碑記念館新設工事	立会調査	0.3m ²	遺構・遺物なし	本報11
04・10・22	0419	本庄地区北地区川原町廻路設置工事	立会調査	22.0m ²	遺構・遺物なし	本報11
04・11・1~26	0421	本庄地区北地区(医研)品幹・環境整備	免耕調査	55m ²	純文・古墳 古代 壁穴・柱穴・清 土師器・須恵器・純文土器 瓦礫・勾玉・石器	本報11
04・11・26	0423	衛生都道府県ニニコート整備工事	立会調査	65m ²	遺構・遺物なし	本報11
04・11・29	0421	周囲用意地跡(さく井)改修工事	立会調査	43m ²	遺構・遺物なし	本報11
04・12・6	0422	本庄地区北地区中央講堂(縮)工事	立会調査	66.30m ²	遺構・遺物なし	本報11
04・12・15	0423	黒堀地区北地区(さく井)改修工事	試験調査	18m ²	柱穴・柱・土師器・土器	本報11
04・12・24	0423	黒堀地区北地区紀念館(木造)草塀工事	立会調査	75m ²	遺構・遺物なし	本報11
04・1・11	0424	本庄地区北地区ポンベ改修取扱工事	立会調査	145m ²	遺構・遺物なし	本報11
05・2・1~2. 7~9	0425	黒堀地区清水ネットワーク新設工事(配管工事)	立会調査	160.08m ²	土師器・須恵器	本報11
05・2・21~ 3・30.	0425	黒堀地区情報ネットワーク新設工事	免耕調査	1170.4m ²	古代 土師器・須恵器	本報11
5・9~6・10						

年月日	工事番号	工事名	調査・発掘 期間	面積	性質・土器類・須恵器・馬具・銅鏡	本音
05・2・4 R-9	0426	本荘地区北地区防災水槽設置工事	立会調査	84m ²	近世	清・土師器・須恵器・馬具・銅鏡
05・2・4	0427	墨俣地区北地区資料収集水道管埋設修理工事	立会調査	15m ²	遺構・遺物なし	年報11
05・2・21~22	0428	墨俣地区南地区排水管埋設工事	立会調査	10m ²	遺構・遺物なし	年報11
05・2・21	0429	墨俣地区排水管埋設工事	立会調査	425m ²	遺構・遺物なし	年報11
05・2・28, 3・14, 4・1	0430	本荘地区市街地駅前排水管埋設修理工事	立会調査	1360m ²		
05・3・1	0431	墨俣地区草薙町中野新井工事	立会調査	12m ²	遺構・遺物なし	
05・3・1	0432	教育学部附属新中学校平野地区改修工事	立会調査	6945m ²	遺構・遺物なし	
05・3・1	0433	教育学部附属新中学校排水管改修工事	立会調査	0.81m ²	遺構・遺物なし	
05・3・2	0434	墨俣地区工場排水管改修工事(別表)	立会調査	1925m ²	遺構・遺物なし	
05・3・9	0435	墨俣地区さくら新井工事(追加)	立会調査	55m ²	遺構なし・土師器	
05・3・10・15・ 16・18	0436	墨俣地区草薙町中野改修工事	立会調査	6214m ²	遺構なし	
05・3・14・16	0437	大江地区新学部外灯設置工事	立会調査	81m ²	遺構・遺物なし	
05・3・22	0438	教育学部附属新中学校排水管改修工事	立会調査	414m ²	遺構・遺物なし	
05・3・23	0439	墨俣地区草薙町排水管工事	立会調査	6m ²	遺構・遺物なし	
05・3・24	0440	教育学部附属新中学校排水管改修工事	立会調査	1m ²	遺構・遺物なし	
05・3・24	0441	教育学部附属新中学校排水管改修工事	立会調査	2m ²	遺構・遺物なし	
05・3・24	0442	(本庄北) 田代町新井排水管改修工事	立会調査	918m ²	遺構・遺物なし	
05・3・24	0443	(本庄北) 中央診療所排水管改修工事	立会調査	0.8m ²	遺構・遺物なし	
05・3・25	0444	墨俣地区草薙町教育学部附属新井小学校排水管改修工事	立会調査	1.74m ²	遺構・遺物なし	
05・3・26	0445	墨俣地区草薙町排水管改修工事	立会調査	3255m ²	遺構・遺物なし	
2005年度						
05・4・19~ 4・20	0501	本荘地区市街地駅前排水管改修工事(追加)	立会調査	28m ²	古代	土師器・須恵器
05・4・27	0502	墨俣地区新井排水管改修ボンネット排水管改修	立会調査	4m ²	遺構・遺物なし	年報12
05・2・4~ 6・10	0425	(墨俣) 計画⑨-2本体工事	発掘調査	1065.2m ²	縄文・古代	墨穴住居址・擬土柱遺跡・縄文土器・土師器・須恵器・墨色土器
05・5・30, 6・4~ 6・5~ 6・14	0503	(本庄) 先生医学研究センター施設整備事業(外構)	立会調査	2332.2m ²	遺構・遺物なし	年報12
05・6・7 6・10	0504	小樽宿会計監査室改修工事	立会調査	7m ²	遺構・遺物なし	年報12
05・6・9~ 6・10 6・12	0505	(医病) 基幹・環境整備(医病・生き家原)	立会調査	55.96m ²	遺構・遺物なし	年報12
05・6・20	0506	(大江) 荷物部テニスコートフレンス取扱	立会調査	228m ²	遺構・遺物なし	年報12
05・6・21	0507	(本庄中) 佛原保育園ブロック改修工事	立会調査	10.5m ²	遺構・遺物なし	年報12
05・7・5~ 7・14 7・19~ 9・30	0508	(墨俣) 信標タワーク館改修改修入居工事	立会調査	40.9m ²	古代	土師器・信標塔
05・7・13~ 7・14 7・19~ 9・30	0509	(医病) 基幹・環境整備(生き家原・移転先)	発掘調査	1147m ²	縄文・弥生 古墳・古代	住居址・清・土師器・須恵器
05・7・19	0511	本荘地区北地区排水管改修	立会調査	7.6m ²	古代	住居址・土師器・須恵器
05・8・1	0512	教育学部附属新中学校排水管改修	立会調査	696m ²	遺構・遺物なし	年報12
05・8・2~ 8・3	0513①(墨俣) 工学部施設改修施設整備等事業-1	立会調査	97m ²	古代	土師器・須恵器	
05・8・2~ 8・25	0513②(墨俣) 工学部施設改修施設整備等事業-2	立会調査	198.75m ²	古代	土師器・須恵器	
05・8・5	0514	墨俣地区テニスコート内給水設備工事	立会調査	19.94m ²	遺構・遺物なし	年報12
05・8・5~ 8・10	0513③(墨俣) 工学部施設改修施設整備等事業-1	立会調査	17.8m ²	遺構・遺物なし	年報12	
05・8・5~ 8・18	0515①(墨俣) 工学部施設改修施設整備等事業-2	発掘調査	80.88m ²	古代	住居址・土師器・須恵器	
05・8・18	0515	本荘地区(越後地区)駅場施設改修工事(その2)、追加火	立会調査	235.98m ²	古代	住居址・土師器・須恵器
05・8・18~ 8・23	0515②(墨俣) 工学部施設改修施設整備等事業-2	立会調査	14.7m ²	遺構・遺物なし	年報12	
05・8・19~ 8・29	0513③(墨俣) 工学部施設改修施設整備等事業-4	立会調査	259m ²	遺構・遺物なし	年報12	
05・8・24	0516	本荘地区北地区外灯設置工事	立会調査	11.4m ²	遺構・遺物なし	年報12
05・8・23~ 8・29	0513④(墨俣) 工学部施設改修施設整備等事業-2	立会調査	17.2m ²	遺構・遺物なし	年報12	
05・8・25	0513⑤(墨俣) 工学部施設改修施設整備等事業-1	立会調査	147m ²	遺構・遺物なし	年報12	
05・8・25	0513⑥(墨俣) 工学部施設改修施設整備等事業-2	立会調査	86.1m ²	遺構・遺物なし	年報12	
05・8・25	0513⑦(墨俣) 工学部施設改修施設整備等事業-1	立会調査	65m ²	遺構・遺物なし	年報12	
05・8・25	0513⑧(墨俣) 工学部施設改修施設整備等事業-1	立会調査	130.25m ²	遺構・遺物なし	年報12	
05・8・25~ 8・30	0513⑨(墨俣) 工学部施設改修施設整備等事業-2	立会調査	246m ²	遺構・遺物なし	年報12	
05・8・30~ 9・1	0513⑩(墨俣) 工学部施設改修施設整備等事業-2	立会調査	28.4m ²	遺構・遺物なし	年報12	
05・9・1~ 9・13	0513⑪(墨俣) 工学部施設改修施設整備等事業-1	発掘調査	67.6m ²	縄文・古代	墨穴住居址・縄文土器・土師器・須恵器	
05・9・1~ 9・20	0517	(医病) 基幹・環境整備(生き家原・現在地)	立会調査	1337m ²	遺構・遺物なし	年報12
05・9・4~ 9・5	0513⑫(墨俣) 工学部施設改修施設整備等事業-1	立会調査	48.75m ²	遺構・遺物なし	年報12	

3. これまでの調査と本件取締の追跡

05・9・12～ 9・27	05133⑨(黒醍南) 工学部施設改修施設整備等事業～2	立会調査	439nf	追跡・遺物なし	年報12
05・9・13	0518 財團法人阪大ガス設備改修工事	立会調査	29nf	追跡・遺物なし	年報12
05・9・14	0519 (黒醍南) 学務部施設改修工事	立会調査	157.76nf	追跡・遺物なし	年報12
05・9・15	05133⑩(黒醍南) 工学部施設改修施設整備等事業～5	立会調査	0.79nf	住合場・ピット	年報12
05・9・15	05133⑪(黒醍南) 工学部施設改修施設整備等事業～1	立会調査	405nf	底床・遺物なし	年報12
05・9・15	0520 本庄桂北地区人道施設改修工事	立会調査	17.16nf	追跡・遺物なし	年報12
05・9・15	0521 本荘桂北(北地区) 台風被害引越し	立会調査	235nf	追跡・遺物なし	年報12
05・9・16～ 10・2	05133⑫(黒醍南) 工学部施設改修施設整備等事業～2	立会調査	97.342nf	古代 土師器・埴造器	年報12
05・9・16	0522 医学部附属病院管理棧外給水バルブ取替工事	立会調査	225nf	追跡・遺物なし	年報12
05・9・27	0523 (黒醍南) 中央診療所(住上)	立会調査	576nf	追跡・遺物なし	年報12
05・10・11～ 11・7	05133⑬(黒醍南) 工学部施設改修施設整備等事業～2, 3	立会調査	150nf	古代 住居址・塗・土師器・埴造器	年報12
05・10・11	0524 本荘桂北(北地区) 犁車ゲート整備工事	立会調査	261.33nf	追跡・遺物なし	年報12
05・10・13～ 10・14	0525 (黒醍) 墓園ネットワーク整備工事	立会調査	726nf	古代 住穴・土師器・埴造器	年報12
10・17～ 10・18					
05・10・14	0526 森内開定室内施設改修施設整備工事	立会調査	20nf	追跡・遺物なし	年報12
05・10・19～ 10・20	0527 (黒醍南) 文教部木造斜ロープ整備工事	立会調査	44nf	追跡・遺物なし	年報12
05・10・21	0528 工学部のづくり実習室新設工事	立会調査	810nf	追跡・遺物なし	年報12
05・10・25	0529 (医療) 新病院研究施設完成前環境衛生工事	立会調査	381.12nf	追跡・遺物なし	年報12
05・10・26	0530 庫宇部宿泊室(高津温泉) 整理工事	立会調査	55nf	追跡・遺物なし	年報12
05・11・4	0531 因幡情治センターハウス階段改修工事	立会調査	9nf	追跡・遺物なし	年報12
05・11・7	0532 教育学部新築校舎水引込み洗面台修理	立会調査	35nf	追跡・遺物なし	年報12
05・11・7	0533 (黒醍) ガーラー耐水管整備工事	立会調査	11nf	追跡・遺物なし	年報12
05・11・16～ 11・21	0534 黑醍南地区道路改修工事	立会調査	1243nf	追跡・遺物なし	年報12
05・11・29	0513工⑨(黒醍南) 工学部施設改修施設整備等事業～2	立会調査	48nf	古代 住居址・住穴	年報12
12・15					
05・11・29～ 12・5	0513工⑩(黒醍南) 工学部施設改修施設整備等事業～2	発掘調査	24nf	古代 住居址・塗・ピット・土師器・埴	年報12
05・12・4	05133⑪(黒醍南) 工学部施設改修施設整備等事業～2	立会調査	117.4nf	古代 土師器	年報12
05・12・7	05133⑫(黒醍南) 工学部施設改修施設整備等事業～2	立会調査	87nf	古代 ピット・土師器・埴造器	年報12
05・12・9	05133⑬(黒醍南) 工学部施設改修施設整備等事業～2	立会調査	25nf	古代 住合場・土師器・埴造器	年報12
05・12・12	05133⑭(黒醍南) 工学部施設改修施設整備等事業～2, 5	立会調査	nf	追跡・遺物なし	年報12
05・12・12	0535 教育学部新築講堂場所地盤改良	立会調査	455.7nf	住穴	年報12
05・12・13	0513322(黒醍南) 工学部施設改修施設整備等事業～1	立会調査	0.5nf	追跡・遺物なし	年報12
05・12・13	0513322(黒醍南) 工学部施設改修施設整備等事業～2	立会調査	3nf	追跡・遺物なし	年報12
05・12・13	0513323(黒醍南) 工学部施設改修施設整備等事業～1	立会調査	87.5nf	追跡・遺物なし	年報12
05・12・13	0513324(黒醍南) 工学部施設改修施設整備等事業～2	立会調査	18nf	追跡・遺物なし	年報12
05・12・14	0513325(黒醍南) 工学部施設改修施設整備等事業～2	立会調査	86.6nf	追跡・遺物なし	年報12
05・12・14	0536 医学部弓道場改修工事	立会調査	82.73nf	追跡・遺物なし	年報12
05・12・15～ 16	05133⑮(黒醍南) 工学部施設改修施設整備等事業～1, 2	立会調査	286.5nf	追跡・遺物なし	年報12
05・12・16	0537 理学部リハビリ施設新築工事	立会調査	167nf	追跡・遺物なし	年報12
05・12・19～ 12・21	0538 (黒醍) 墓園ネットワーク整備工事(追加)	立会調査	702.85nf	古代 土師器・埴造器	年報12
12・26					
06・1・6～ 1・11					
2・27～ 3・2					
06・12・22	0539 本荘桂北(中地区) ガイ界面取扱	立会調査	48.51nf	追跡・遺物なし	年報12
06・12・26	0513工⑯(黒醍南) 工学部施設改修施設整備等事業～2	立会調査	10nf	追跡・遺物なし	年報12
06・1・4～ 1・19	0513工⑯(黒醍南) 工学部施設改修施設整備等事業～2	発掘調査	59nf	古代 住居址・土師器・埴造器	年報12
06・1・5	0513工⑰(黒醍南) 工学部施設改修施設整備等事業～2	立会調査	70nf	追跡・遺物なし	年報12
06・1・10～ 1・25	0540 本荘桂北(南地区) 雷電ガス改修工事	立会調査	61.8nf	追跡・遺物なし	年報12
06・1・17	0513325(黒醍南) 工学部施設改修施設整備等事業～7	立会調査	1nf	追跡・遺物なし	年報12
06・1・20	0513326(黒醍南) 工学部施設改修施設整備等事業～7	立会調査	708nf	追跡・遺物なし	年報12
06・1・26～ 2・2	0541 (黒醍南) 理学部就寝場整備工事(追加・再追加含む)	立会調査	1110.6nf	古代 土師器・埴造器	年報12
2・2					
2・10					
2・27					
06・1・23	0513327(黒醍南) 工学部施設改修施設整備等事業～7	立会調査	454nf	追跡・遺物なし	年報12
06・1・24	0513328(黒醍南) 工学部施設改修施設整備等事業～2	立会調査	12nf	追跡・遺物なし	年報12
06・1・26	0513329(黒醍南) 工学部施設改修施設整備等事業～1	立会調査	40nf	追跡・遺物なし	年報12
06・1・27	0542 (医療) 基幹・環境医療(准主家・母乳授乳)	立会調査	146nf	追跡・遺物なし	年報12
06・1・30	0513330(黒醍南) 工学部施設改修施設整備等事業～3	立会調査	656.1nf	追跡・遺物なし	年報12
06・2・13	0543 施設改修日程・環境整備(母乳・准主家)	立会調査	338.9nf	追跡・遺物なし	年報12
06・2・16～ 3・13	0544 (医療) 基幹・環境整備(母乳・准主家)	立会調査	30nf	追跡・遺物なし	年報12
06・2・17	0545 教育学部附属幼稚園ブランコ用ゴムマット取扱	立会調査	12nf	追跡・遺物なし	年報12

年月	工事番号	工事名	施工会社	面積	状況	年月
05・2・24	0546	(県境) 情報ネットワーク新設工事に伴う外構工事	立会開業	1637m ²	古代	住田社・土師器・須恵器
3・7~						年報12
3・8						年報12
3・13						年報12
3・16~						年報12
3・17						年報12
06・3・3・10	0547	(県境) 北地区学生会と西郷バイカ黒塚施設工事	立会開業	48m ²	造作・造物なし	年報12
06・3・13	0548	本庄地区(中央区) 碁石底面取扱工事	立会開業	55m ²	造作・造物なし	年報12
06・3・24	0549	(県境) 外来化学施設センター構内雨水配管工事	立会開業	1.92m ²	造作・造物なし	年報12
06・3・30	0550	さ木修理工事	立会開業	0.91m ²	造作・造物なし	年報12
2008年度						
06・4・11~11	0601	教育学部附属中学校テニスコート移設	立会開業	5.94m ²	造作・造物なし	年報13
06・4・11~11	0602	(県境北) 接地工事	立会開業	6m ²	造作・造物なし	年報13
06・4・11~11	0603	(県境北) 施設改修工事	立会開業	32.1m ²	古代 土師器	年報13
06・4・11~12	0604	(県境北) 特別組合修理工事(埋立排水)	立会開業	25.12m ²	古代 土師器	年報13
06・4・12	0606	工学部実験用車庫取扱工事	立会開業	49.05m ²	造作・造物なし	年報13
06・4・13	0605	放送大学案内取扱工事	立会開業	1.5m ²	造作・造物なし	年報13
06・4・18~19	0607	(県境南) 工学部校舎改修施設整備等事業-9	立会開業	5.2m ²	造作・造物なし	年報13
06・4・19						
06・4・21	0608	(県境北) 南面歩道橋接替工事	立会開業	1.3m ²	造作・造物なし	年報13
06・4・24	0609	理学院附属小学校運動場	立会開業	1.7m ²	造作・造物なし	年報13
06・5・2~2	0610	教育学部附属小学校器具新設	立会開業	0.98m ²	造作・造物なし	年報13
06・5・5~11	0611①	(県境南) 工学部校舎改修施設整備等事業-1	立会開業	32m ²	造作・造物なし	年報13
06・5・22	0611②	(県境南) 工学部校舎改修施設整備等事業-2	立会開業	12m ²	造作・造物なし	年報13
5・25						
06・5・22~22	0612①	(県境南) 工学部校舎改修施設整備等事業-2	発掘開業	1.1m ²	古代 土師器	年報13
5・24	0612②	(県境南) 工学部校舎改修施設整備等事業-6	発掘開業	24m ²	古代 土師器・須恵器	年報13
06・6・12	0613	(県境) 環境安全センター給水配管接替	立会開業	0.57m ²	造作・造物なし	年報13
06・6・19	0613	周囲地区中央防寒施設新築電気設置工事	立会開業	72.4m ²	造作・造物なし	年報13
06・6・22	0615	周囲地区中央防寒施設新築電気設置(附属)工事	立会開業	153m ²	古代 土師器・須恵器	年報13
6・28						
7・3						
06・6・27	0612③	工学部想合会改修施設整備等事業-1	立会開業	21.98m ²	古代 土師器・須恵器	年報13
7・7						
06・8・7	0616	教育学部附属中学校水質管理工事	立会開業	1.7m ²	造作・造物なし	年報13
06・8・11	0617	(県境) ブーム真夏草場跡地記念改修(アスペスト処理)工事等	工立会開業	0.59m ²	造作・造物なし	年報13
06・8・11	0618	医学附属真夏草場跡地跡地整備	立会開業	8.75m ²	造作・造物なし	年報13
06・8・21	0619	(教育学部附属真夏草場跡地)外人立派御手の施工事	立会開業	43.851m ²	造作・造物なし	年報13
06・8・24~28	0611④	(県境南) 工学部校舎改修施設整備等事業-3	立会開業	20.7m ²	造作・造物なし	年報13
8・25						
06・8・31~9・1	0611⑤	(県境南) 工学部校舎改修施設整備等事業-2	立会開業	64.1m ²	古・土師器	年報13
06・9・7	0620	教育学部附属中学校アート系統給水施設工事	立会開業	2.8m ²	造作・造物なし	年報13
06・9・11	0616①	(県境南) 工学部校舎改修施設整備等事業-10	立会開業	49.64m ²	造作・造物なし	年報13
06・9・12	0611⑥	(県境南) 工学部校舎改修施設整備等事業-10	立会開業	140m ²	造作・造物なし	年報13
06・9・14~15	0611⑦	(県境南) 工学部校舎改修施設整備等事業-10	立会開業	32.96m ²	造作・造物なし	年報13
06・9・20~21	0611⑧	(県境南) 工学部校舎改修施設整備等事業-10	立会開業	55.1m ²	造作・造物なし	年報13
06・10・2	0611⑨	(県境南) 工学部校舎改修施設整備等事業-2	立会開業	105m ²	造作・造物なし	年報13
06・10・2~2	0621	(県境) ブーム真夏草場跡地記念改修(アスペスト処理)工事等その2	立会開業	44m ²	造作・造物なし	年報13
06・10・2~2	0622	(県境) 集雨装置(西側衝突場所)工事	発掘開業	8.0775m ²	古代 (50.86m ²)	土師器・須恵器・陶文器 本音
10・16						
10・27						
10・30						
11・13						
06・10・10~12	0623	黒堀地外防護壁その他の工事	立会開業	25.79m ²	造作・造物なし	年報13
06・10・13	0624	附属病院施設改修推進アキュームレーダー・ドレン管埋設等	立会開業	2.16m ²	造作・造物なし	年報13
06・10・16~16	0625	(県境) 基盤・飛砂対策(引井)工事	立会開業	26.67m ²	造作・造物なし	年報13
06・10・19	0626	(県境) 基盤整備(ボイラ・設備機器更新)工事	立会開業	106.7m ²	造作・造物なし	年報13
06・10・25	0627	(大江原) 水面清掃工事	立会開業	0.24m ²	造作・造物なし	年報13
06・11・2~2	0628	医学附属看護部改修排水渠埋設工事	立会開業	2.8m ²	造作・造物なし	年報13
06・11・17~27	0629	(本在) 医学附属科学校会館改修電気設置工事	立会開業	239.4m ²	古代 土師器	年報13
12・4						
06・11・20	0630	黒堀南地区工学部通用門周辺整頓	立会開業	15m ²	造作・造物なし	年報13
06・11・30	0631	渡瀬町地内防護壁等工事	立会開業	56.92m ²	造作・造物なし	年報13
06・12・1~12	0632	平岡町門橋水口詰替え	立会開業	13m ²	造作・造物なし	年報13

3. これまでの調査と本報告書の遺跡

06・12・15 12・18~ 12・25 12・27~ 12・28 07・1・4~ 1・9	0612① (黒愛南) 工学部施設改修施設等事業-6	立会調査	1627m ² 古代	土師器・粗忠器・焼物付	年報13
06・12・19 06・12・25 07・4・2	0633 本庄北地区南岸山歩道環境整備工事 (本庄) 医学部施設改修施設等事業	立会調査	294379m ²	遺構・遺物なし	年報13
07・1・10~ 1・11 1・19	0635 附属農業学校ガス附れ葉落立会	立会調査	13.45m ²	遺構・遺物なし	年報13
07・1・18 1・22~ 1・23	0636 連学館4号館外壁改修工事	免震調査	30.25m ² 古代	土師器・粗忠器・陶	年報13
07・1・30	0637 (本庄) 医学部保健学科校舎改修工事	立会調査	341.2m ²	遺構・遺物なし	年報13
07・2・1	0638 (学習) プロフェッショナル取組工事	立会調査	35m ²	遺構・遺物なし	年報13
07・2・20	0639 (本庄) 医学部保健学科校舎CT用搬地工事	立会調査	435m ²	遺構・遺物なし	年報13
07・2・26	0640 黒愛地区北地区知能化ガス附れ葉落	立会調査	152m ²	遺構・遺物なし	年報13
07・3・1~ 3・6	0641 (本庄) 医学部施設改修工事	立会調査	52.42m ²	遺構・遺物なし	年報13
07・3・6	0642 宇留毛地区災害復旧工事	立会調査	134.82m ²	遺構・遺物なし	年報13
07・3・8	0643 (黒愛南) 理学部施設改修工事	立会調査	101.7m ² 古代	土師器	年報13
07・3・8	0644 (府県) 岩瀬地区改修工事	立会調査	55.28m ²	遺構・遺物なし	年報13
07・3・12	0645 本庄北地区ニースコット延設施設管渠工事	立会調査	765m ²	遺構・遺物なし	年報13
07・3・20	0646 (医病) 関係施設(既往地改修) 復旧放牧工事	立会調査	577m ²	遺構・遺物なし	年報13
07・3・22	0647 (教) 附属農業研究施設改修工事	立会調査	257m ²	遺構・遺物なし	年報13
07・3・26	0648 (医病) 離境整備(山崎北企画外郭改修) 工事	立会調査	115m ²	遺構・遺物なし	年報13
2007年度					
07・4・10	0701 (教) 附属農業研究施設改修工事	立会調査	2m ²	遺構・遺物なし	年報14
07・4・12	(本庄) 医学部施設改修工事	立会調査	古代	構・柱穴・土器	年報14
07・4・13	0702 教育学部附属施設改修工事	立会調査	1821m ²	遺構・遺物なし	年報14
07・4・16 4・20	0703 (黒愛南) 工学部施設改修施設等事業-6	立会調査	61m ²	遺構・遺物なし	年報14
07・5・7~ 5・8	0704 (黒愛南) 新幹工事に伴う街樹植栽工事	立会調査	446m ² 古代	土師器・粗忠器	年報14
07・6・7	医病) 病院被災新築工事	試掘調査			年報14
07・6・13	0705 (医病) 施設被災に伴う支障配筋工事(東久敷地)	立会調査	7m ²	遺構・遺物なし	年報14
07・6・19	0706② (黒愛南) 工学部施設改修施設等事業-13	立会調査	409.2m ²	遺構・遺物なし	年報14
6・21 6・27					
07・6・20	0706 本庄地区保養学科接遇門整備	立会調査	174m ²	遺構・遺物なし	年報14
07・6・20	黒愛北地区集合研究棟新築工事	立会調査		柱穴・土器	年報14
07・6・25	0703③ (黒愛南) 工学部施設改修施設等事業-13	立会調査	314m ²	遺構・遺物なし	年報14
07・6・25 6・29	0707 (本庄) 医学部施設改修施設等事業-6	立会調査	1590m ²	障害物除去・一次削削	年報14
7・10 7・18~ 7・19					
07・6・28	0708 (黒愛北) 大野センター衛生用水管つまり修理	立会調査	15m ²	遺構・遺物なし	年報14
07・6・29	0709 (本庄) 水道管改修工事	立会調査	435m ²	遺構・遺物なし	年報14
07・7・3	0703④ (黒愛南) 工学部施設改修施設等事業-6, 14	立会調査	36m ²	遺構・遺物なし	年報14
07・7・4	0710 (医病) 教育学部附属小中学校施設改修工事(東久)	立会調査	40m ²	遺構・遺物なし	年報14
07・7・9~ 7・10	0703⑤ (黒愛南) 工学部施設改修施設等事業-6	立会調査	58.75m ²	遺構・遺物なし	年報14
07・7・17	0711 (医病) 敷地整理(田中央歩道取り壇に伴う電気立会調査	立会調査	8.34m ²	遺構・遺物なし	年報14
07・7・17	0703⑥-1 (黒愛南) 工学部施設改修施設等事業-13	立会調査	15766m ²	遺構・遺物なし	年報14
07・7・19	0703⑥-2 (黒愛南) 工学部施設改修施設等事業-13	立会調査	300086m ²	遺構・遺物なし	年報14
07・7・30~ 9・3	0707 (本庄) 学術総合開発施設新築工事	免震調査	1380m ² 西文・古代	井戸柱・柱石・木造構造・土器・土器・粗忠器・瓦	本告
07・8・7	0712 (医病) 東病院新築工事	立会調査	24m ²	一枚削削	本報告V
07・8・10	0713 学術総合新築工事	立会調査	1m ²	遺構・遺物なし	年報14
07・8・22	0714 (黒愛南) 理学部・2階陽明亭新築工事	立会調査	35.7m ²	遺構・遺物なし	年報14
07・8・23	0715 (黒愛南) 工学部施設改修施設等事業-19	立会調査	209m ²	遺構・遺物なし	年報14
07・8・27~ 10・25	0712 (医病) 病院被災新築工事	立会調査	589.29m ² 西文・古墳・古代鉄器・銅鏡・神社・馬具・北鏡	本告・石器・粗忠器・瓦	本報告V
07・9・3	0716 本庄地区駐車場出入口整備	立会調査	294.8m ²	遺構・遺物なし	年報14
07・9・14 10・3	0717 (医病) 基幹・環境整備(田中央歩道取り壇に伴う扶杖立会調査	立会調査	49.4m ²	遺構・遺物なし	年報14
07・9・25~ 9・27	0703⑦ (黒愛南) 工学部施設改修施設等事業-6, 16	免震調査	275m ² 古代	住居跡・ピット・土師器・粗忠器	年報14
10・2					
07・9・27 10・1~ 10・2	0718 (大江) 学術総合新築工事	免震調査	264.32m ² 古代	唐・土師器	年報14

07・10・4 10・15~ 10・16 10・22 10・25 08・1・30~ 1・31 2・13	0719 (京町) 教育学部附属小中学校校舎改修工事	立会調査 308.08m ² 弥生・古代 ピット・弥生土器 土師器	本報告V
07・10・19 11・25	0720 事務局南面等現外壁本質修繕工事	立会調査 2.5m ² 遺構・遺物なし	年報14
07・10・26~ 11・25	0719 (京町) 教育学部附属小中学校校舎改修工事	立会調査 230.3m ² 弥生・古代 壁穴住居・ピット・縄・弥生土器 器・土師器・灰窓器・打制石器	本報告V
07・12・3~ 12・4 12・6~ 12・7	0721 (京町附小中) 校舎等模様設置改修	立会調査 1,309.05m ² 弥生・古代 愛穴住居・ピット・弥生土器・土 師器・灰窓器・近代・近代陶磁器	本報告V
05・1・18			
07・12・5 12・11	0722 (黒保) 工学館8分館内部改修その他工事	立会調査 97m ² 遺構・遺物なし	年報14
07・12・5 12・11	0723 (黒保) 工学館8分館内部改修電気設備工事	立会調査 14.1m ² 遺構・遺物なし	年報14
07・12・7 12・10 12・12	0724 (本荘) 医学部基礎研究棟(C棟取り壇) 工事	立会調査 1,000m ² 古代 土坑・ピット・土師器	年報14
07・12・7 12・17~ 12・18	0725 (京町) 教育学部附属小・中学校校舎改修電気設備工事	立会調査 90m ² 遺構・遺物なし	年報14
07・12・10 12・17~ 12・18	0703③-1 (黒保南) 工学部他校舎改修施設整備等申請書 - 6, 18	立会調査 145.75m ² 古代? ピット	年報14
05・1・16~ 1・17			
07・12・14~ 12・27	0721 (京町附小中) 校舎等模様設置改修	立会調査 112.65m ² 弥生・古代 愛穴住居・ピット・近代土坑・弥 生土器・土師器・組合器・近代 近古代陶磁器	本報告
07・12・19 08・1・16~ 1・17	0726 医学部基礎研究棟北側吹抜所 0703④ (黒保南) 工学部他校舎改修施設整備等申請書 - 20	立会調査 1m ² 遺構・遺物なし 立会調査 94.5m ² 遺構・遺物なし	年報14 年報14
08・1・22	0727 (黒保) 工学館8分館改修施設整備監修工事	立会調査 12m ² 遺構・遺物なし	年報14
08・1・22	0728 (黒保) 工学館8分館内部改修施設整備監修工事	立会調査 2m ² 遺構・遺物なし	年報14
08・1・23	0703④-2 (黒保南) 工学部他校舎改修施設整備申請書 - 6, 18	立会調査 89m ² 遺構・遺物なし	年報14
08・1・25 08・1・29~ 1・30	0703④ (黒保南) 工学部他校舎改修施設整備申請書 - 10 0703④-3 (黒保南) 工学部他校舎改修施設整備申請書 - 6, 18	立会調査 204m ² 遺構・遺物なし 立会調査 96.7m ² 古代 土師器	年報14 年報14
08・2・1 2・4	0703④-4 (黒保南) 工学部他校舎改修施設整備申請書 - 6, 18	立会調査 53.02m ² 古代 土師器	年報14
08・2・14	0729 (黒保南) ポイラー等撤去工事	立会調査 38.8m ² 遺構・遺物なし	年報14
08・2・25	0730 (黒保南) 教育学部新講評評議室新設校門防火用木格子撤去工事	立会調査 4m ² 遺構・遺物なし	年報14
08・2・27	0731 (黒保南) 日晴報連セントラル改修	立会調査 11.25m ² 遺構・遺物なし	年報14
08・2・29	0732 (本荘) 特別寄付受取用施設工事	立会調査 12m ² 土師器	年報14
08・3・11 3・26	0733 (黒保) 旧中央宿泊施設取り壇工事	立会調査 84m ² 遺構・遺物なし	年報14
08・3・17	0734 (黒保南) 排水路開削工事・フェンス設置工事	立会調査 50.3m ² 遺構・遺物なし	年報14
08・3・21	0735 医学部新学生寮ポイラー用地土壌タンク撤去工事	立会調査 40m ² 遺構・遺物なし	年報14
08・3・21	0736 (大北) 宿舎部消防用木格子撤去工事	立会調査 72.3m ² 遺構・遺物なし	年報14
08・3・25	0737 (黒保南) ポイラー受取施設工事	立会調査 208m ² 遺構・遺物なし	年報14
08・3・27	0738 (本荘) 医学部新学生寮計画工事取扱工事	立会調査 18m ² 遺構・遺物なし	年報14
08・3・31	0739 (黒保) 廉庫注意灯取扱工事	立会調査 16~135m ² 遺構・遺物なし	年報14
<hr/>			
2008年度			
08・4・2	0801 (医病) 旧中央宿泊施設とりこわし工事(追加)	立会調査 20m ² 遺構・遺物なし	年報15
08・5・7	0802 財團中学校敷地排水工事	立会調査 2m ² 遺構・遺物なし	年報15
08・5・20	0803 医学部新学生寮ポイラー用地土壌タンク撤去工事	立会調査 1.8m ² 遺構・遺物なし	年報15
08・5・26	0804 (本荘) 野球場取壇工事	立会調査 11.1m ² 遺構・遺物なし	年報15
08・6・5	0805 (黒保南) 4'×6'空置地排水管設置工事	立会調査 2m ² 遺構・遺物なし	年報15
08・6・6	0806 (黒保) 出張区福利施設改修監督工事	立会調査 306.46m ² 古代 土師器	年報15
6・19 6・23 6・26 7・4 7・10 7・15 7・28 8・25 12・1 12・8			
08・6・30 6・20~ 7・1 7・28~ 7・30 12・4 12・18~ 12・19	0806 (黒保) 由地区福利施設改修監督工事	立会調査 125.2m ² 古代 土・ピット・土師器・組合器・近 代陶磁器・打器	年報15
08・6・9~ 6・10	0807 (本荘) 医学部新学生寮換新施設設置工事	立会調査 23.7m ² 遺構・遺物なし	年報15

3. これまでの調査と本番収録の遺跡

08・6・18	0808	(鹿児島) 有機系廃液処理施設倒壊水管漏水修理	立会調査	0.3m ²	遺構・遺物なし	年報15
08・6・23	0809	(鹿児島) 施設倒壊水管漏水修理工事(追加)	立会調査 / 発掘調査	23.5m ² 古代	遺構・住居址・土器器・石器	年報15
7・1						
7・3~						
7・4						
7・5~						
7・10						
08・7・10	0810	中曾毛地区地盤沈下管路修理工事	立会調査	2m ²	遺構・遺物なし	年報15
08・7・11	0811	(鹿児島) 共用便り4号改修地盤ガス管修理工事	立会調査	3.6m ²	遺構・遺物なし	年報15
08・7・14	0812	(鹿児島) 地下配管修理工事	立会調査	41.1m ²	遺構・遺物なし	年報15
08・7・15	0813	(鹿児島) 医療系高機能内燃市ガス配管漏れ修理	立会調査	24.2m ²	遺構・遺物なし	年報15
08・8・18	0814	(鹿児島) 家庭排水新設工事	立会調査	8m ²	発見なし	年報15
08・8・20~	0814	(鹿児島) 家庭排水新設工事	発掘調査	212m ² 近生・近古	歴史時代・近世層 弥生土器・石器・近世陶器	木 喜
8・22						
08・8・21	0815	(本庄市) こばと保育園基礎等撤去工事	立会調査	1m ²	遺構・遺物なし	年報15
08・8・21	0816	(本庄市) 聖学院幼稚園基礎等撤去工事	立会調査	1.77m ²	遺構・遺物なし	年報15
08・8・29	0817	宇都宮地区地盤ガス管修理工事	立会調査	0.96m ²	遺構・遺物なし	年報15
08・9・1	0818	(鹿児島) シンブリ園地盤水管漏水修理	立会調査	2.1m ²	遺構・遺物なし	年報15
08・9・9~	0820	(鹿児島) 大株部本館改修工事地盤撤去工事	立会調査	80.2m ²	遺構・遺物なし	年報15
9・10~						
08・9・9	0821	本荘地区(北地区) 有機系宿泊施設ガス管修理	立会調査	7m ²	遺構・遺物なし	年報15
08・10・6	0822	本荘地区地盤洗削作業機械障害修理	立会調査	30m ²	遺構・遺物なし	年報15
08・10・9~	0819	(鹿児島) 家庭排水新設改修その他の工事	一次掘削 / 発掘調査	694.95m ² 古墳・古墳・古墳時代玉・土器器・石器・人骨	木 喜	年報15
10・10~						
11・25						
08・10・10	0823	教育学部附属特別支援学校深水寮改修工事	立会調査	4.8m ²	遺構・遺物なし	年報15
08・10・15	0824	(鹿児島) 鹿児島保健医療科学研究所改修工事	立会調査	0.8m ²	遺構・遺物なし	年報15
08・10・28	0825	(鹿児島) 仁平町本部改修工事	立会調査	120.5m ²	遺構・遺物なし	年報15
08・10・28	0826	(鹿児島) 用掛原地区3階木造・抹壁工事	立会調査	44.55m ²	遺構・遺物なし	年報15
08・11・4	0827	五高南校120周年記念式典	立会調査	0.25m ²	遺構・遺物なし	年報15
08・11・6	0828	(本庄) こばと保育園改修電気設備工事	立会調査	10.7m ²	遺構・遺物なし	年報15
08・11・10	0829	(鹿児島) 家庭排水ハブ管改修改修施設工事	立会調査	25m ²	遺構・遺物なし	年報15
08・11・18~	0830	(本庄) こばと保育園新設施設改修工事(変更)	一次掘削 / 発掘調査	20m ² 近代	遺構・遺物なし	木 喜
11・19~						
11・23			立会調査			
11・25						
08・11・18~	0831	(鹿児島) 体育館施設改修機械設備工事	発掘調査	1133m ²	遺構・遺物なし	年報15
11・20						
12・24						
08・12・1	0832	文化学部講義棟北側地盤沈下管路開発	立会調査	1.04m ²	遺構・遺物なし	年報15
08・12・3	0833	(鹿児島) 教育学部本館東面裏面改修工事	立会調査	1.4m ²	遺構・遺物なし	年報15
08・12・10	0834	(鹿児島) 用掛原地区新築工事(実況)	立会調査	14.13m ²	四輪石	年報15
08・12・11	0835	(鹿児島) 家庭排水新設機械設備(照山) 工事(実況)	一次掘削 / 発掘調査	580m ²	ピット・住居址・土糞跡・便器・廐土器・木太土器・石器・瓦器	年報15
12・15~						
12・19						
09・1・13・2・19						
08・12・22	0836	(鹿児島) 教育学部水槽・文化学部本館改修改修施設設備工事(変更その1、その2)	一次掘削 / 発掘調査	456.54m ² 古代	遺・住居址・ピット・土器器・瓦器・石器	年報15
12・24~						
09・1・5~						
2・27						
3・10						
08・12・24	0837	五高南校120周年記念式典(追加)	立会調査	0.3m ²	遺構・遺物なし	年報15
08・12・26	0838	(鹿児島) 教育学部本館改修改修施設設備工事	立会調査	60m ²	遺構・遺物なし	年報15
09・1・20	0839	(鹿児島) 商業合意取扱取組工事	立会調査	43.5m ²	遺構・遺物なし	年報15
09・1・22	0840	(鹿児島) 南端地区ボーラー改修工事	立会調査	5m ²	遺構・遺物なし	年報15
09・2・2~	0841	(鹿児島) もみづづくり実習室新設に伴う笠置園木伐採・移工事	立会調査	8m ²	遺構・遺物なし	年報15
09・2・4	0842	(本庄) 医療部診察接種場所改修工事	立会調査	7.2m ²	遺構・遺物なし	年報15
09・2・5	0843	(鹿児島) 4ドアラー改修改修工事	立会調査	5m ²	遺構・遺物なし	年報15
09・2・12	0844	(鹿児島) 教育学部本館・文化学部本館改修改修施設設備工事(実況)	立会調査	9.6m ²	遺構・遺物なし	年報15
09・2・12~						
09・2・14	0845	(鹿児島) 福祉施設新設工事	立会調査	1.6m ²	遺構・遺物なし	年報15
09・2・13	0846	(鹿児島) 福祉施設新設改修工事	立会調査	1m ²	遺構・遺物なし	年報15
09・2・19	0847-1	(鹿児島) 教育学部本館改修(変更)	立会調査	130.8m ²	遺構・遺物なし	年報15
09・2・23~	0847-1	(鹿児島) 教育学部本館改修(変更、変更その2)	立会調査	138.17m ²	遺構・遺物なし	年報15
24	-5					
2・27						
3・4~						
3・5						
3・13						
09・2・16	0849	那珂沼田(北地区) 外灯設置その他の工事	立会調査	3m ²	遺構・遺物なし	年報15
09・2・16	0850	(鹿児島) 体操施設改修施設設備工事(追加)	立会調査	13.32m ²	遺構・遺物なし	年報15
09・2・17	0851	(鹿児島) 水路改良工事	立会調査	8m ²	遺構・遺物なし	年報15
09・2・18	0852	(鹿児島) 洗車ボンネット取扱工事	立会調査	1m ²	遺構・遺物なし	年報15
09・2・18	0853	(鹿児島) 6つづき岩宮前新設改修地盤ガス管修理工事	立会調査	0.5m ²	遺構・遺物なし	年報15
09・2・23	0847-3	(鹿児島) 教育学部本館改修(変更その2)	立会調査	24.6m ²	遺構・遺物なし	年報15
09・2・24	0854	(鹿児島) 北地区ボーラー改修工事	立会調査	12m ²	土器器・植生器	年報15

00・2・26~ 3・12	0854	(高麗北) 北地区ボイラー室改修工事	発掘調査	106m ²	古代	ピット・穴式住居址・造状遺構・ 土被瓦・土器類・麻布器・石製物 罐耳	本音
00・2・26	0855	(高麗南) 旧情報施設センターコア改修電気設備工事	立会調査	20.85m ²		遺構・遺物なし	年報15
00・2・27	0856	(高麗南) ものづくり実習室Ⅱ新設工事	立会調査	60.99m ²		遺構・遺物なし	年報15
00・3・3	0857	(高麗南) 旧情報施設センタースロープ取扱工事	立会調査	331.14m ² (911.2m ²)		遺構・遺物なし	年報15
00・3・4~ 3・11	0858	(高麗北) 教育学部本館改修室改修工事	立会調査	117m ²		遺構・遺物なし	年報15
00・3・6	0859	(高麗南) 共用施設第3階改修機械設備工事	立会調査	3.6m ² (0.32m ²)		遺構・遺物なし	年報15
00・3・6 3・13	0860	(高麗南) ものづくり実習室Ⅲ新設工事	立会調査	115.54m ² (17.74m ²)		遺構・遺物なし	年報15
00・3・9~ 3・11	0861	(高麗北) 文化学部本館改修室改修工事	立会調査	236m ²		遺構・遺物なし	年報15
3・17							
00・3・9	0862	(高麗南) 共用施設第3階改修電気設備工事	立会調査	21m ²		遺構・遺物なし	年報15
00・3・10~ 3・11	0863	(高麗南) ボイラー室改修機械設備工事	立会調査	9.65m ² (4.80m ²)		遺構・遺物なし	年報15
00・3・16	0864	(高麗北) 現場監理(排水管)工事	立会調査	119.00m ²		住居址・ピット・土器群	年報15
3・23							
00・3・17	0865	(高麗南) 南地区ボイラー室改修外構工事	立会調査	303.78m ² (11.2m ²)		遺構・遺物なし	年報15
00・3・23	0866	(高麗南) 学生会館北面防水等工事	立会調査	18m ²		遺構・遺物なし	年報15
00・3・27	0867	(高麗北) 南地区ボイラー室改修外構工事	立会調査	37.24m ² (18.1m ²)		遺構・遺物なし	年報15
00・3・31	0868	(高病) カーブミラー取扱工事	立会調査	2m ²		遺構・遺物なし	年報15
2009年度							
00・4・15 4・17	0901	(高麗南) 西門改修棟移設工事	立会調査	18m ²		遺構・遺物なし	年報15
00・4・20 4・22 4・24 4・27 4・29 5・1 5・25 5・27 5・28	0902	(高麗南) 西門改修工事	立会調査	422m ²		内部・専用部に隣し現同色の住居 延らしき遺構敷地 それ以外遺構・遺物なし	年報15
00・4・23	0903	(本庄中) 中地区講内カーブミラー取扱工事	立会調査	1.10m ²		遺構・遺物なし	年報15
00・5・8	0904	(牛留屯) 宿舎合宿場新設工事	立会調査	16m ²		遺構・遺物なし	年報15
00・5・8	0905	(高麗北) 放水管改修工事	立会調査	5.8m ²		遺構・遺物なし	年報15
00・5・27	0906	(大江) 基幹部育苗場フロンティアセンター新設その他工事	立会調査	0.6m ²		遺構・遺物なし	年報15
00・5・28	0907	(高病) 基幹整備(現施設改修見切)工事 その1(實見)	立会調査	11.68m ²		遺構・遺物なし	年報15
00・6・5	0908	(高病) 基幹整備(現施設改修見切)工事 その2	立会調査	1.6m ²		遺構・遺物なし	年報15
00・6・4	0909	(大江) 園芸部排水渠・修補工事	立会調査	10.80m ²		遺構・遺物なし	年報15
00・6・11	0910	(高麗北) オスマ智管理	立会調査	3m ²		遺構・遺物なし	年報15
00・7・3 7・22	0911	(大江) 園芸部育苗フロンティアセンター新設その他電気施設工事	立会調査	3.24m ²		遺構・遺物なし	年報15
00・7・6	0912	熊本大学附属幼稚園(東筑町) インフラ整備工事	立会調査	1.2m ²		遺構・遺物なし	年報15
00・7・8	0913	(高麗北) 非常施設(消防栓配管外構水道管配管修理	立会調査	0.6m ²		遺構・遺物なし	年報15
00・7・8	0913	非常施設(消防栓配管外構水道管配管修理	立会調査	0.6m ²		遺構・遺物なし	年報15
00・7・13	0914	(高麗北) 文化学部本館改修ブレース高壁まわり工事	立会調査	3.5m ²		遺構・遺物なし	年報15
00・7・28	0915	(牛留屯) 勉学生活館新設電気設備工事(追加その5)	立会調査	2m ²		遺構・遺物なし	年報15
00・8・7	0916	(牛留屯) 勉学生活館新設電気設備工事(追加その5)	立会調査	3m ²		遺構・遺物なし	年報15
00・8・10	0917	(牛留屯) 内部路線敷設改修工事	立会調査	0.44m ²		遺構・遺物なし	年報15
00・9・4	0918	(高麗北) 教育学部本館・文化学部本館Ⅱ雨改修電気設備工事	立会調査	50.37m ²		遺構・遺物なし	年報15
00・9・4	0919	(高麗北) 文化学部本館Ⅱ雨改修外構工事(実見)	立会調査	49.82m ²		遺構・遺物なし	年報15
00・9・4 10・2・24	0920	(高麗北) 文化学部本館Ⅱ雨改修東側外構工事	立会調査	3.56m ²		遺構・遺物なし	年報15
00・9・29	0921	(高麗北) 教育学部本館・文化学部本館Ⅱ雨改修電気設備工事	立会調査	8.26m ²		遺構・遺物なし	年報15
00・10・6	0922	(高麗北) 工学部研究開拓拠点施設A埋接地工事	立会調査	3.6m ²		遺構・遺物なし	年報15
00・10・13 10・27~ 10・30	0923	(高病) 病院新設施設(附属)工事(実見)	立会調査/ 発掘調査	0.0m ² (15.0m ²) (0.025m ²) (0.0m ²) (0.0m ²) (0.53m ²)	古代	ピット・ 遺構・遺物なし 土間器類・麻布器 罐耳	年報15
11・12 11・13							
00・10・18 10・23 10・27~30	0924	(高病) 病院新設施設(附属)工事 遺構その2	立会調査/ 発掘調査	1.0m ² (0.2m ²) (0.64m ²) (2.25m ²) (0.15m ²) (0.021m ²) (0.025m ²)	古代	ピット	年報15

3. これまでの調査と本件取締の追跡

年月日	件名	調査対象	立会調査 / 発掘調査	工区⑤	古代	ピット・住居址・溝	年報
09・10・27~ 10・30 11・12 11・13 11・14 11・15 11・24~ 11・25 12・1~ 12・3	0025 (医病) 東病院新宮施設(衛生)工事 追加その1	立会調査 / 発掘調査	150m ² (00321)	150m ² 032nd 032nd 042nd	古代	土師器・轟石器	年報16
09・10・13 10・28	0025 (医病) 東病院新宮施設(衛生)工事	立会調査	64m ²	土師器		年報16	
09・10・20	0027 (医病) ゴム集積場設工事	立会調査	910m ²	土師器		年報16	
09・10・21	0028 (医病) 教育学部本館・文化学部本館D期改修施設工事	立会調査	23nd	遺構・遺物なし		年報16	
09・10・29	0029 (医病) 第6病棟スロープ改修工事	立会調査	2nd	遺構・遺物なし		年報16	
09・11・4	0030 (本文化) 基礎研究棟北廊下アーバン小屋改修工事	立会調査	69m ²	瓦器		年報16	
09・11・10 11・15	0031 (医病) 東病院新宮施設(衛生)工事	立会調査	14nd	A・C 遺構・遺物なし B 住居址・樹木倒壊土器・古代土器 瓦器・瓦器		年報16	
09・11・10 11・30~ 12・3 12・14	0032 (医病) 日田書道工部分改修工事	立会調査 / 発掘調査	地中調査 発掘調査 横・ピッ ト・カバ 030nd 外張工事 232nd	古代	唐 古代土器器・埴輪器	本 書	
09・12・9	0033 (医病) 附属小学校ゴルフ場改修施設工事	立会調査	18nd	遺構・遺物なし		年報16	
09・12・9	0034 (医病) 日田書道工部分改修改修工事	立会調査	1454m ²	遺構・遺物なし		年報16	
10・1・7 1・12 1・19 1・28 2・2	0035 (医病) 体育館改修電気設備工事	立会調査 / 発掘調査	42322nd	古代・近代	ピット 土師器・埴輪器	本 書	
10・1・12 1・13 2・23	0036 (医病) 計画ばと保育園駐車場整備	立会調査	12nd	瓦器		年報16	
10・1・14 2・17~ 2・19	0038 (医病) エコロジーステム実験施設工事	立会調査 / 発掘調査	10nd	绳文	唐・伝子器 縄文土器・牛糞土器	本 書	
10・1・15 1・16~ 1・26	0039 (医病) 教育学部本館D期改修西側外構工事	立会調査	12nd	遺構・遺物なし		年報16	
10・1・19 2・23	0040 (医病) 生物系基礎生物学新研究室新設工事	立会調査	1nd	遺構・遺物なし		年報16	
10・1・29 2・23	0041 (医病) 体育館南廊下改修工事	立会調査	1nd	遺構・遺物なし		年報16	
10・1・29 2・23	0042 (医病) 体育館南廊下改修工事	立会調査	1nd	遺構・遺物なし		年報16	
10・2・2 10・2・8 10・2・8	0043 (医病) 日田書道工部分改修外構工事	立会調査	7nd	V字型窓(唐?)		年報16	
10・2・2 10・2・8 10・2・8	0044 (医病) 教育学部本館D期改修西側外構工事	立会調査	1nd	遺構・遺物なし		年報16	
10・2・8 10・2・8	0045 (医病) 教育学部本館・文化学部本館改修機械設備工事 (医病)	立会調査	3nd	遺構・遺物なし		年報16	
10・2・8	0046 (医病) 教育学部本館・文化学部本館改修機械設備工事 (医病) 追加	立会調査	72nd	遺構・遺物なし		年報16	
10・2・12	0047 (大正) 東部園芸施設外打工事	立会調査	2nd	遺構・遺物なし		年報16	
10・2・15	0048 (医病) 教育学部本館改修施設場所・既設工事	立会調査	45nd	遺構・遺物なし		年報16	
10・2・15	0049 (医病) 教育学部本館改修施設場所・既設工事	立会調査	65nd	遺構・遺物なし		年報16	
10・2・15	0050 (医病) 教育学部本館改修施設場所・既設工事	立会調査	4nd	遺構・遺物なし		年報16	
10・2・15	0051 (医病) 生物系基礎生物学新研究室新設工事	立会調査	0.5nd	遺構・遺物なし		年報16	
10・2・22	0052 (医病) 生物系基礎生物学新研究室新設工事	立会調査	1.5nd	遺構・遺物なし		年報16	
10・2・22	0053 (医病) 生物系基礎生物学新研究室新設工事	立会調査	1nd	遺構・遺物なし		年報16	
10・3・1	0054 (医病) 墓塚整理(紅船場)工事	立会調査	2nd	遺構・遺物なし		年報16	
10・3・1	0055 (医病) 墓塚整理(紅船場)外周打工事	立会調査	2nd	遺構・遺物なし		年報16	
10・3・2	0056 (医病) ガリバー改修施設改修工事	立会調査	2nd	遺構・遺物なし		年報16	
10・3・3	0057 (大正) 郡部町外周打工事	立会調査	3nd	遺構・遺物なし		年報16	
10・3・4	0058 (医病) 教育学部新特質支援授業工学・文化学部新設工事	立会調査	2nd	遺構・遺物なし		年報16	
10・3・4	0059 (医病) 教育学部本館B排水管・通路改修工事	立会調査	2nd	遺構・遺物なし		年報16	
10・3・5	0060 (医病) 医学部新施設取扱工事	立会調査	17nd	遺構・遺物・柱狀・柱頭変形により保 存・遺物なし		年報16	
10・3・8	0061 (医病) 勘者塚2段工事	立会調査	0.83nd	遺構・遺物なし		年報16	
10・3・8	0062 (医病) 大学院自然科学研究科農業生物資源工学実験室改修電気設備工事	立会調査	0.7nd	遺構・遺物なし		年報16	
10・3・10	0063 (医病) 東病院新宮施設(衛生)工事	立会調査	0.63nd	衛生	ピット・浅い堆み 衛生時代遺物・骨器	年報16	
10・3・11	0064 (医病) 体育館改修電気設備工事(電柱塗装)	立会調査	12nd	遺構・遺物なし		年報16	
10・3・11	0065 (医病) 文化学部本館駐車場施設工事	立会調査	0.6nd	遺構・遺物なし		年報16	
10・3・12	0066 (医病) 保護センター南斜面火葬場新竹林工作	立会調査	0.8nd	遺構・遺物なし		年報16	
10・3・15	0067 (医病) 事務局名古屋駅早朝取扱工事	立会調査	23nd	遺構・遺物なし		年報16	
10・3・16	0068 (医病) 共和神社先6号水路改修工事	立会調査	370nd	遺構・遺物なし		年報16	
10・3・19	0069 (医病) ソフトナラクスト工事	立会調査	0.24nd	遺構・遺物なし		年報16	
10・3・23	0070 (医病) 研究中学校教育学部新施設会計室内柱設置工事	立会調査	0.12nd	遺構・遺物なし		年報16	
10・3・26	0071 (医病) 文化学部古紙資源庫設置工事	立会調査	1.8nd	遺構・遺物なし		年報16	
10・3・26	0072 (医病) 保育園新宮施設外周配管工事	立会調査	8.7nd	遺構・遺物なし		年報16	
10・3・26	0073 (大正) 勘者塚墓塚整理外周配管工事	立会調査	0.31nd	遺構・遺物なし		年報16	

2010年度						
10・6・6	1001	(本庄市) ガスメータ付造ガス配管埋設工事	立会調査	39m	遺構・遺物なし	
10・6・25 9・1	1002	(湯梨北) 文化学部本館耐震フレーム設置工事	立会調査	22m	遺構・遺物なし	
10・6・30	1033	(那覇市) 地物生産環境報告分析研究施設工事	立会調査	0.18m	遺構・遺物なし	
10・8・4	1004	(那覇北) 守衛室シャワー改修工事	立会調査	11.01m	遺構・遺物なし	
10・8・9	1005	(宜野湾) 鹿児島小学校給水設備工事	立会調査	17m	遺構・遺物なし	
10・8・10 9・3	1006	(那覇北) 大学本館改修外構工事	立会調査/ 発掘調査	1211.68m ² 古代	ピット・住居址・遺物 土師器・埴輪	
11・3・10						
10・9・4						
10・9・10 9・3	1007	(那覇北) 教育学部本館・文化学部本館改修施設工事	立会調査	482m	遺構・遺物なし	
10・9・11	1008	(那覇北) 高圧配管等改修工事	立会調査	13m	遺構・遺物なし	
10・9・1 9・3	1009	(那覇北) 教育学部本館・文化学部本館改修電気設備工事	立会調査/ 発掘調査	1.6m 古代	ピット・遺物なし	
10・9・15	1010	(那覇北) 関係機器運動器ガス漏れ修理	立会調査	2m	遺構・遺物なし	
10・9・24	1011	(那覇市) 研究棟 1・2号館中庭改修	立会調査	23m	遺構・遺物なし	
10・10・4 10・5 10・7	1012	(那覇北) 教育学部本館・文化学部本館改修施設工事(追加)	立会調査	67.7m	遺構なし 土師器片	
10・10・4 10・5 10・7	1013	(那覇北) 教育学部本館周辺改修等工事	立会調査	82m	遺構・遺物なし	
10・11・10 11・11	1014	(那覇北) 教育学部本館耐震改修設置工事	立会調査	91.63m	遺構・遺物なし	
10・10・26 11・2・1 2・10 2・15 2・22 2・28	1015	(那覇北) 教育学部本館改修外構工事	立会調査	2101.01m	遺構・遺物なし	
11・3・2 3・3						
10・10・7	1016	(那覇北) 教育学部専修化搭等接工事	立会調査	95.45m	遺構・遺物なし	
10・12・6	1017	(本庄市) テニスコート整備工事	立会調査	0.25m	遺構・遺物なし	
10・12・20	1018	(那覇北) 五高記念の樹木移植工事	立会調査	4m	遺構なし 植生調査・土師器片	
10・12・20	1019	(那覇北) 五高記念の樹移植工事	立会調査	5m	遺構・遺物なし	
10・12・27	1020	(本庄市) テニスコート整備工事(追加)	立会調査	0.5m	遺構・遺物なし	
11・1・17	1021	(那覇北) 五高記念植樹開拓監視電気設備工事	立会調査	2m	遺構・遺物なし	
11・1・17	1022	(那覇北) 五高記念植樹開拓監視電気設備工事	立会調査	20.2m	遺構・遺物なし	
11・1・17	1023	(那覇市) 固定走査工事	立会調査	4.95m	遺構・遺物なし	
11・2・4	1024	(本庄北) カーブミラー取扱工事	立会調査	0.25m	遺構・遺物なし	
11・2・24 2・25	1025	(本庄市) 職守部屋着火対応取りこわし支障配管工事	立会調査	175.5m	遺構・遺物なし	
11・3・2	1026	(那覇北) 教育学部本館北側排水設備修理工事	立会調査	10.3m	遺構・遺物なし	
11・3・9	1027	(那覇北) 北地区門前町太陽光発電設備設置工事	立会調査	9.6m	遺構・遺物なし	
11・3・10	1028	(那覇北) 教育学部本館正面入口消防火栓修理	立会調査	2.7m	遺構・遺物なし	
11・3・16 11・3・22	1029	(本庄北) 学生宿舎とりこわし工事	立会調査	3m	遺構・遺物なし	
11・3・17	1030	(那覇北) 墓塚整備(駐輪場等)工事	立会調査	1m	遺構・遺物なし	
11・3・23	1031	(那覇北) 教育学部本館西前・文化学部本館北側排水設置改修工事	立会調査	205.7m	遺構・遺物なし	

II 黒髪北地区の調査

1. 北地区ボイラー室改修工事に伴う発掘調査（0854調査地点）

（1）調査の目的と経過

a. 調査地と調査経緯

北地区のボイラー室をポンプ室および埋蔵文化財調査室倉庫として改築するための工事であり、基礎強化のために、旧ボイラー室の基礎用坑8箇所（106m²）を地表下1.7mまで掘り下げる工事である。周辺ではくすのき会館新築のための埋蔵文化財調査しか行われておらず、埋蔵文化財についての十分な情報のない地点であった。これに先立ち、煙突撤去工事が行われた際も立会調査を実施したが、搅乱が激しく、遺構などは検出できなかった。しかし、これまでの調査経験から既存建物の基礎部分以外のところには遺物包含層や遺構が残存している可能性があり、これまでにも建物内の床を掘り下げる工事においても立会調査を実施してきた。

掘削の結果、地表下1.0mから古代の土師器・須恵器を含む黒褐色土層が確認された。このため、市文化財課に届け、立会調査から、発掘調査に変更することとした。文化財課に発掘届を提出し、その日より着手する旨、了解を得た後、施設部と相談の上、2月26日より発掘調査を開始することとした。

調査は、基礎の梁が調査区内に2本入っており、この梁が深さ1.2mほどまであったため、排土の便宜を図るために、梁基礎を境に、調査区を3つに分け、北からI・II・III区とし、I区をまず発掘し、次に、そこを排土置き場として、II・III区を同時に調査した。

発掘調査の結果、7世紀中頃を中心とする竪穴住居址3基、道状遺構1基、11世紀ごろの土壙1基、古代ピット20基余を検出した。

立会調査は2009年2月24日に実施した。立会調査の掘削面積は12m²、発掘調査は106m²であった。

b. 調査の経過

- 2009年2月26日 発掘調査開始。I区を掘り下げ、I a区西側において黒いしみ（遺構）を確認、その東側に硬化面1を確認する。搅乱および包含層を上げる。
- 2009年2月27日 1号住居址およびI b区包含層を掘り下げる。測量基準点移設する。
- 2009年3月2日 1号住居址ベルト実測・取り外し、2～4号ピットを取り上げる。I a区全体写真撮影。その後、I b区を掘り上げ、全体写真を撮影する。5号竪穴住居址を検出し、掘り上げる。測量ソフトを用いて、調査区全体の測量を開始する。
- 2009年3月3日 II・III区の機械による埋土・搅乱土の掘削後、II・III区の包含層を掘り下げ、1号竪穴住居址の南側部分を確認する。
- 2009年3月5日 II区中央で確認した、15号竪穴住居址のIII区部分の中央部に土師皿を確認。住居床面に土壙が掘られていることを確認する。1号竪穴住居址実測。
- 2009年3月6日 20号土壙と命名し、掘り下げを行う。最終的に木炭が散かれていることを確認。
- 2009年3月11日 20号土壙および15号竪穴住居址の写真撮影、II・III区の測量を行う。
- 2009年3月12日 発掘調査を終了する。

1. 北地区ボイラー室改修工事に伴う発掘調査（0854調査地点）

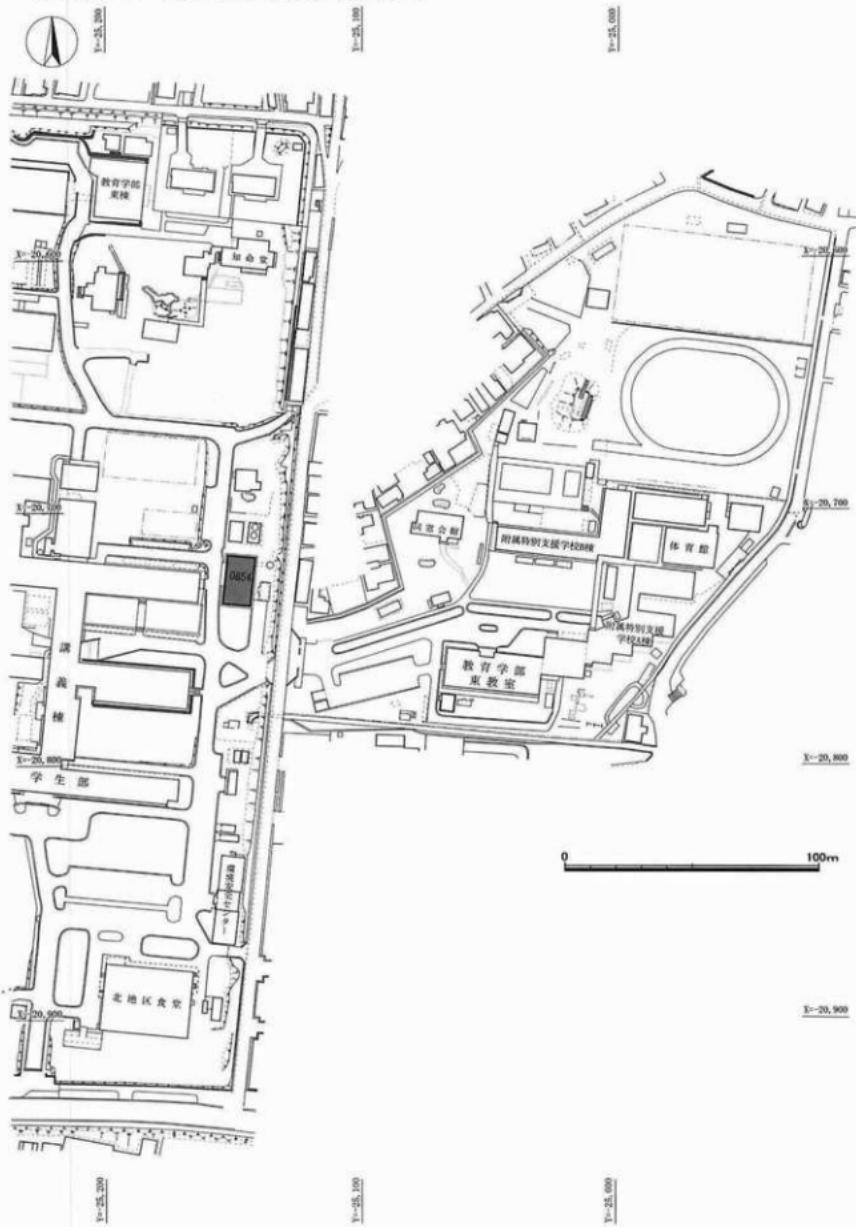


図2 黒髪北地区東半における調査地点配置図 (1/2000)

c. 調査の組織

調査員：小畠弘己・大坪志子

事務担当：中川木綿子

発掘作業員：伊藤千代子・庄村弘幸・瀬潤俊子・早川翔・

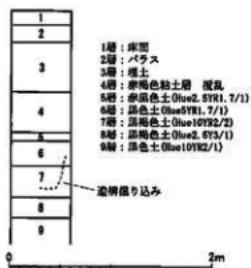
増田由美・増田理子・高野三千代・吉永孝夫・

渡邊勇

整理作業員：江口路・鬼塚美枝・小山正子・古賀満代・首

藤優子・末吉美紀・高松あゆみ・長谷智子・増

井弘子・山崎早苗



(2) 調査区の基本層序

周辺はすべて建物基礎に覆われているため、土層図は作成していない。基本層序は、柱状模式図（図3）のとおりで、4層

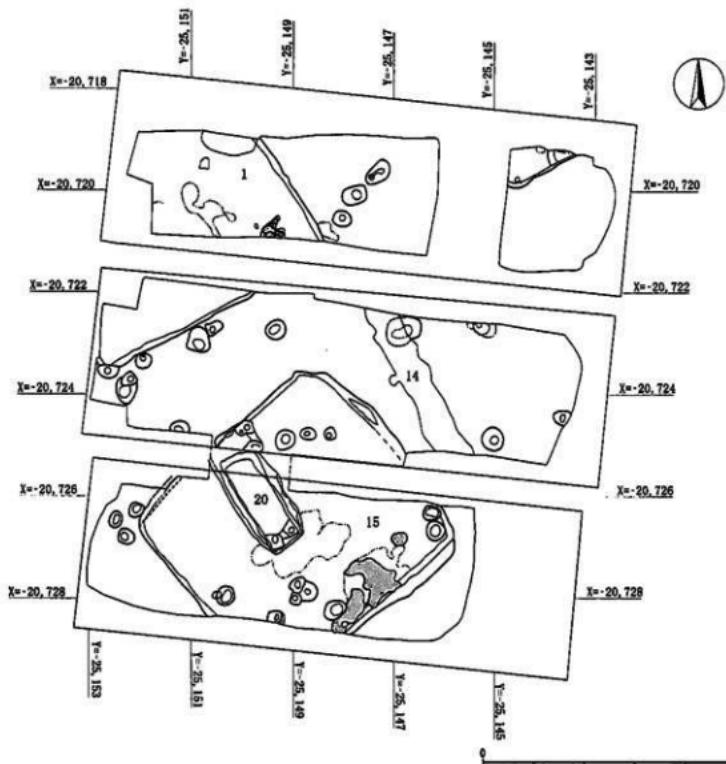


図4 0854調査地点造構配置図 (1/100)

1. 北地区(ボイラー室改修工事に伴う発掘調査 (0854調査地点))

までが現代の擾乱土である。5層以下は、5層：赤褐色土 (Hue25YR1.7/1)、6層：黒褐色土 (Hue5 YR1.7/1)、7層：黒褐色土 (Hue10YR2/2)、8層：黒褐色土 (Hue25YR3/1)、9層：黒色土 (Hue10YR2/1) となる。遺構ののる基盤土は黄褐色土もしくはシルト質土である。

(3) 検出遺構

<竪穴住居址>

1号竪穴住居址 (図5)

I・II区にまたがって検出した1辺5.0mの竪穴住居址である。住居址の方位は北東-南西である。窓は北東隅にあるが、建物梁の設置によって破壊されており、その粘土の一部と小さな砂岩ブロックが残存しているにすぎない。砂岩ブロックや粘土はII区側にも広がっていた。わずかな範囲であるが、

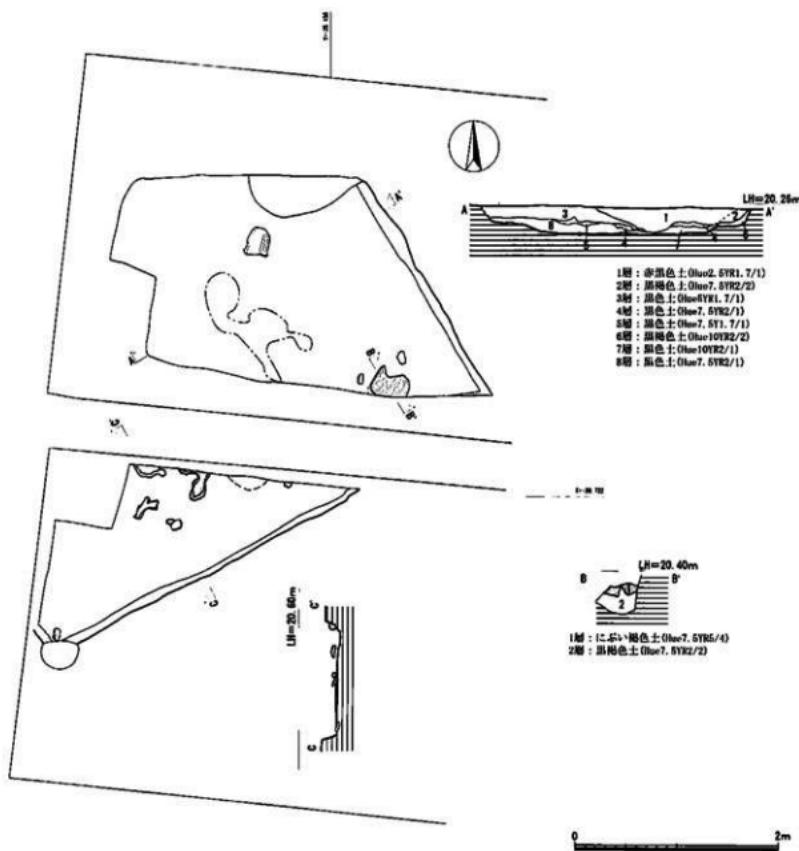


図5 1号竪穴住居址実測図 (1/50)

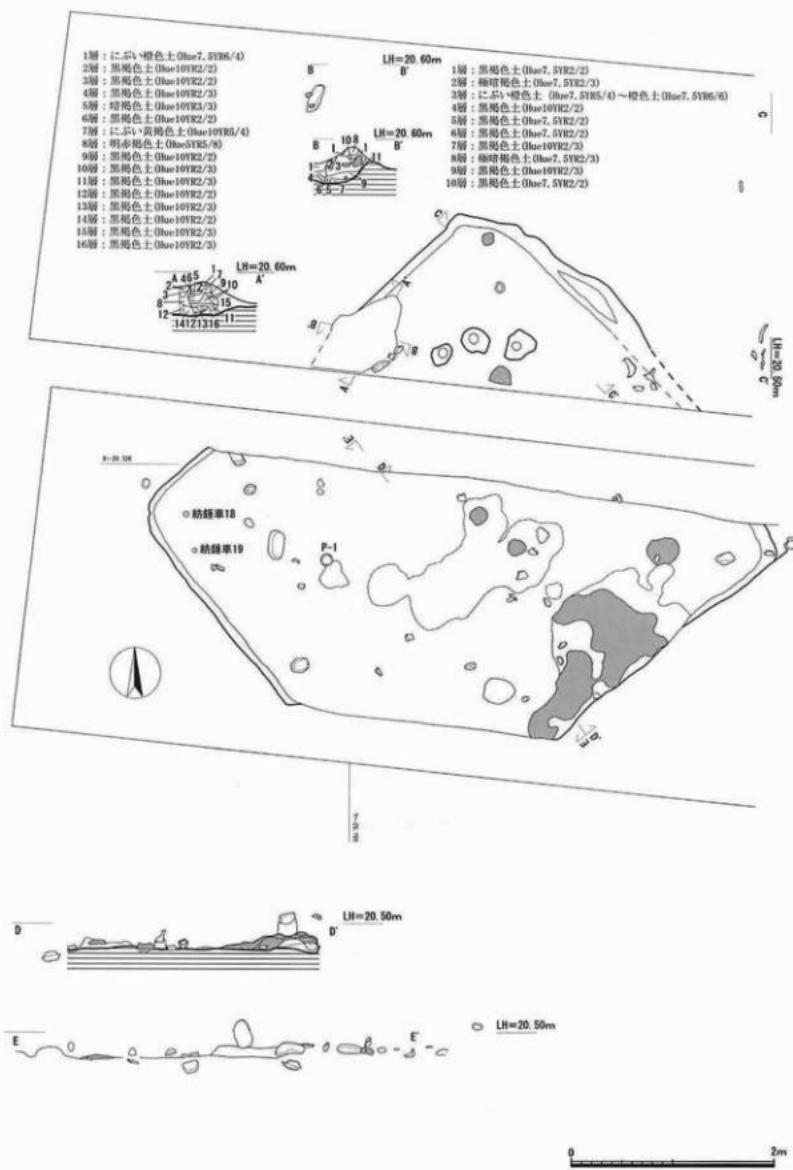


図6 15号竪穴住居址実測図 (1/50)

1. 北地区ボイラー室改修工事に伴う発掘調査（0854調査地点）

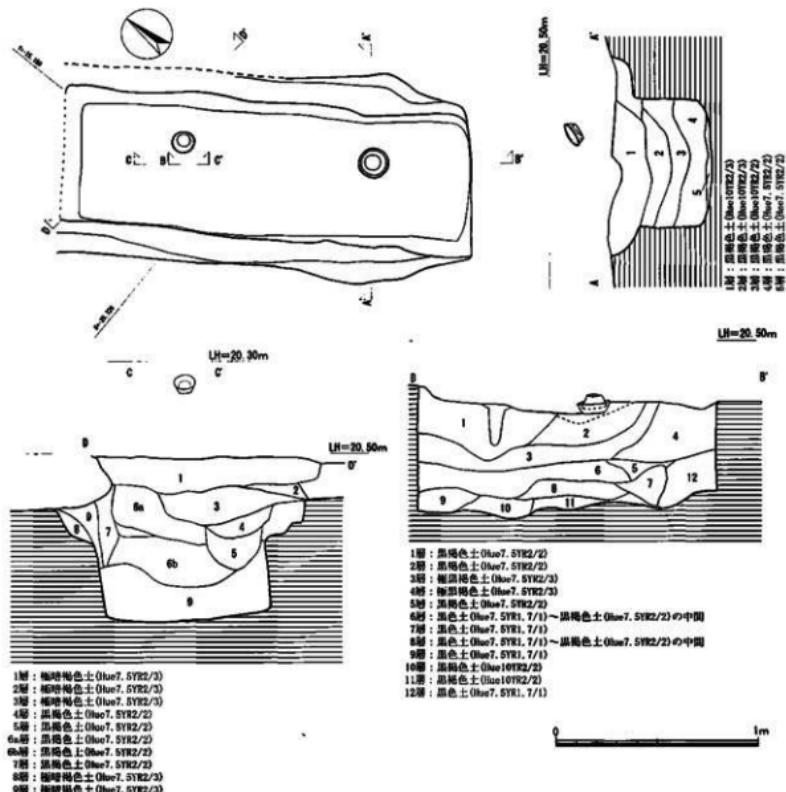


図7 20号土壤実測図 (1/25)

I区とII区それぞれに硬化面が認められた。壁の立ち上がりは深いところで15cmあまりである。柱穴は検出できなかった。

15号堅穴住居址 (図6)

II・III区にまたがって検出した5.0×4.5mあまりの大型の堅穴住居址である。1号堅穴住居址もほぼ同様の規模をもつものと思われる。住居址の方位は1号堅穴住居址と同じ、北東-南西であり、竪は北辺の中央部にある。竪対向粘土が南辺中央部に残っており、入り口がここに存在した可能性がある。中央部、南よりに0.5×2.0mの範囲の硬化面が認められる。柱穴は検出できなかった。

床面には砂岩ブロックや焼けた粘土とともに、15~30cmほどの礫が数個散乱していた。床面に張り付くようにして、図8:8の須恵器蓋が出土している。またその西側の住居址南西コーナーの床から互いに30cmほど離れて石製紡錘車 (図8:18・19) が出土した。

<土 壁>

20号土壙墓（図7）

15号竪穴住居址に重なるように當まれた南北に主軸をもつ長方形の墓と思われる遺構である。長さ2.1m、幅1.0m、深さ0.7mを測る。15号竪穴住居址の床面を検出中に発見した。15号竪穴住居址の遺物と考えていた土師皿1点は本土壙に伴うものであった。この土師皿は上を向いた状態であり、墓壙に供えられたものである。また、掘り下げていくうちに、墓壙の南側で土師皿2枚を合わせ口にして重ねたものが發見された。北側と南側の土師皿は20cmほどの高さの差がある。床面に近づくにつれて木炭の量が多くなり、おそらく床面に敷き詰めたものと考えられる。その厚さは0.2mほどであった。これら以外には何も発見することはできなかった。土師皿内からは何も検出していない。

<道路跡>

14号道路跡（図4）

15号住居址の東辺に沿うように幅0.3mほどの硬化した面が検出された。人が頻繁に歩いたため堅く締まった硬化面を形成したもので、道の跡と考えられる。15号竪穴住居址には平行するが、その北側延長部にある1号竪穴住居址とは並行せず、そのまま延長すれば、一部重なるため、同時期のものとは考えられない。包含層からは8世紀後半代の遺物も出土しているが、竪穴住居址の壁の深さからみると、より古いものの可能性が高い。

(4) 出土遺物

1号竪穴住居址（図8：1～5）

図8：1は須恵器の高台付坏である。高台部を欠損する。図8：2は須恵器の坏である。図8：3は土師器の壺形土器の口縁部の破片である。図8：4は口径が小さい土師器の壺形土器である。図8：5は土師器の高坏の脚部片である。図8：6は砂岩製の砥石の破片であり、裏面を欠いている。図8：7は鉄製の刀子と思われる破片である。

15号竪穴住居址（図8：8～20）

図8：8～9は須恵器のかえしのある蓋である。図8：10は須恵器の坏身である。図8：11・12は須恵器のかえしのない坏である。図8：13は肩の張る壺（長頸壺）の破片であり、図8：14は須恵器の壺の口縁部である。図8：15は土師器の鉢形土器、図8：16は壺形土器である。図8：17は瓶の把手の破片である。図8：18・19はいずれも滑石製の紡錘車であり、18は断面が偏平な台形で、上面に環状の窪みが認められる。19は18に比べ小型であるが、厚く、断面形は長方形である。図8：20は鉄製刀子である。

20号土壙出土遺物（図8：21～23）

図8：21～23はすべて完形の土師皿である。ヘラ切のうち底部をナデ整形しており、23には板目が残っている。

包含層出土遺物（図8：24～34、図9：35～38）

図8：24は須恵器の壺の肩～胴部の破片である。図8：25は須恵器の壺もしくは鉢の高台部分の破片である。図8：26～29は須恵器蓋、図8：30・31は須恵器坏、図8：32は高台付碗、図8：33は須恵器壺の口縁部である。図8：34は土師器坏の底部片である。図9：35は土師質の瓶の底部と思われる破片である。直径1cmほどの円形の貫通孔が3個確認できる。図9：36～38は土師器の壺の口縁部片である。

1. 北地区ボイラー室改修工事に伴う発掘調査 (0854調査地点)

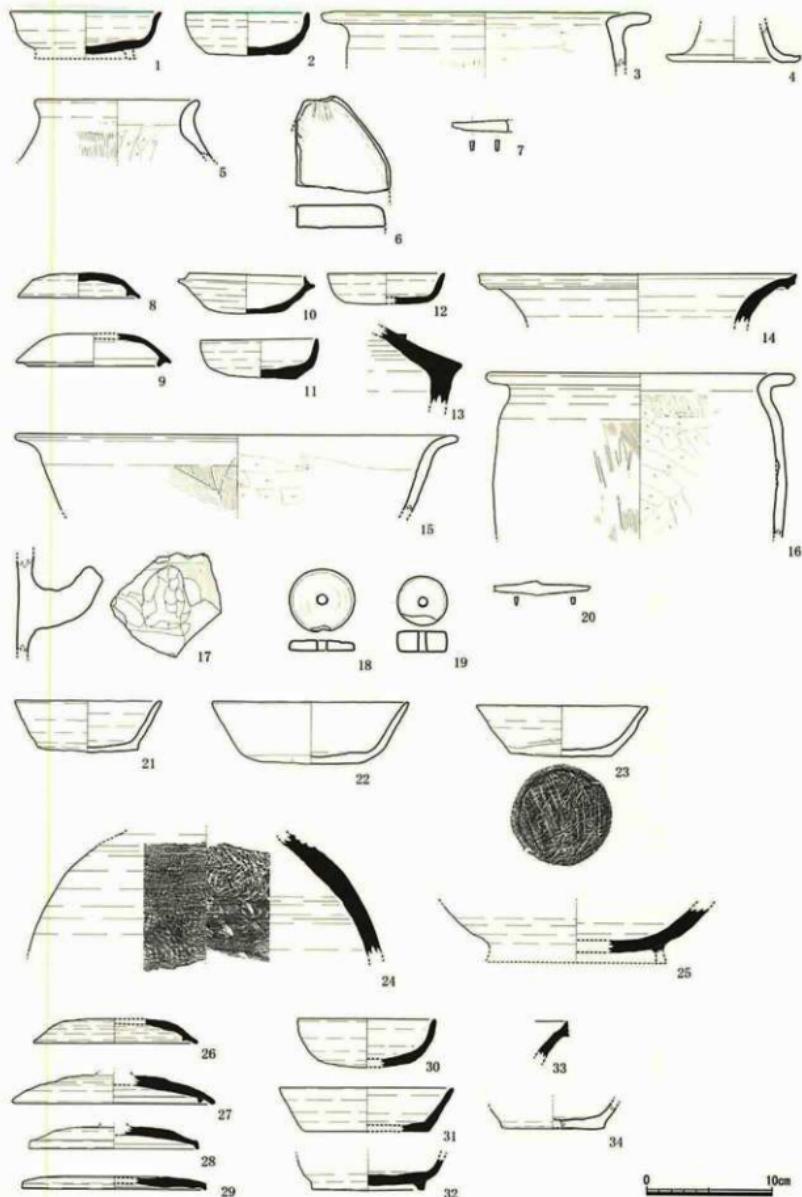


図8 0854調査地点出土遺物実測図1 (1/4)

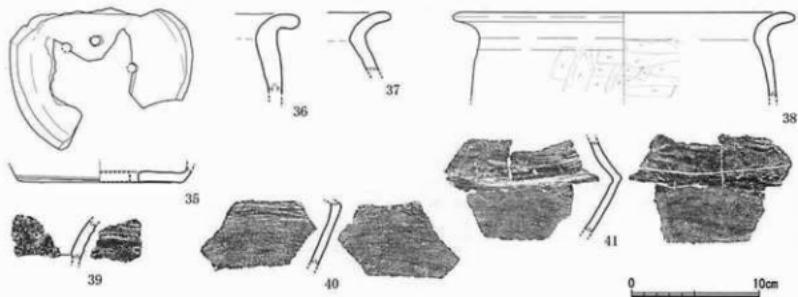


図9 0854調査地点出土遺物実測図2 (1/4)

表3 0854調査地点出土遺物一覧表

組番	器物	種類(器種)	法量(cm)	埋存量	特徴	色調	出土遺構	備考	
								内: 回転ナデ 外: 回転ナデ	内: Hue 7SY 5/1 外: Hue 7SY 5/1
8	環状器	瓶	口径 11.9 底径 8.5 高さ 3.5	約1/2				1号堅穴住居址上層、 礫化面より上	
2	環状器	环	口径 9.6 底径 6.1 高さ 2.5	約1/4	内: 回転ナデ 外: 回転ナデ	内: Hue 2SY 6/1 外: Hue 2SY 5/1			
3	土師器	甕	口径 26.3 底径 18.5 高さ 5.5	口縁部	内: 回転ナデ、ハケ 目	内: Hue 10YR 8/2 外: Hue 10YR 7/3	1号堅穴住居址上層、 礫化面より上		
4	土師器	高 环	口径 10.7 底径 7.2 高さ 2.5	底部約1/3	内: 回転ナデ 外: 回転ナデ	内: Hue 10YR 8/1 外: Hue 10YR 8/4	1号堅穴住居址上層、 礫化面より上、1区 域含む		
5	土師器	甕	口径 13 底径 7.6 高さ 5.5	口縁部1/4	内: ナデ、崩り 外: 回転ナデ	内: Hue 10YR 8/3 外: Hue 10YR 8/3	1号堅穴住居址上層、 礫化面より上		
6	石製品	砥 石	長さ 7.8 幅 2.6 厚さ 1.85	一部残存	内:	内: "	1号堅穴住居址上層、 礫化面より上		重量174g
7	鉄 器	刀子	長さ 1.2 幅 0.3	先端部			1号堅穴住居址内		重量3kg
8	環状器	蓋	口径 9.7 底径 7.2 高さ 2	ほぼ完形	内: 回転ナデ 外: 回転ナデ	内: Hue 2SY 4/2 外: Hue 3Y 4/1	15号堅穴住居址 P-1		
9	環状器	蓋	口径 12.2 底径 9.5 高さ 2.6	約1/3	内: 回転ナデ、崩り 外: 回転ナデ	内: Hue 10Y 5/1 外: Hue 10Y 6/1	15号堅穴住居址北側 礫堆ハ9下 - 1区 域含む		
10	環状器	环	口径 9.1 底径 6.2 高さ 2.2	2/3	内: ナデ、回転ナデ 外: 崩り、回転ナデ	内: Hue N 3/0 外: Hue N 3/0	15号堅穴住居址北側 礫堆ハ1下		
11	環状器	环	口径 8.4 底径 5.4 高さ 2.3	2/3	内: 回転ナデ 外: 回転ナデ	内: Hue 10Y 6/4 外: Hue 10Y 6/1	15号堅穴住居址床下 (東室)・P18・P11	底部ヘタ切り	
12	環状器	环	口径 9.4 底径 6.6 高さ 2.4	1/2	内: 回転ナデ 外: 回転ナデ	内: Hue 5Y 7/1 外: Hue 5Y 6/1	15号堅穴住居址 P-2		
13	環状器	甕	口径 25.4 底径 20.5 高さ 5.5	胴部	内: 回転ナデ、崩り 外: 回転ナデ	内: Hue 7SY 4/2 外: Hue 5YR 4/2	15号堅穴住居址・Ⅲ 区域含む		
14	環状器	蓋	口径 35.2 底径 30.5 高さ 2.1	口縁部のみ 1/4	内: 回転ナデ、崩り 外: 回転ナデ、崩り	内: Hue 2SY 5/1 外: Hue N 7/0	15号堅穴住居址		外表面自然釉あり
15	土師器	钵	口径 24.6 底径 17.4 高さ 1.1	口縁部1/8	内: 回転ナデ、崩り 外: ナデ、回転ナデ	内: Hue 10YR 7/2 外: Hue 7SYR 5/2	15号堅穴住居址 P-9		
16	土師器	甕	口径 5.2 底径 5.05 高さ 0.8	1/4	内: 回転ナデ、崩り 外: ナデ、回転ナデ	内: Hue 7SYR 8/3 外: Hue 7SYR 7/4	15号堅穴住居址 P-14	口縁部内面こげあり、外間に 黒斑?あり	
17	土師器	瓶	口径 1.9 底径 1.4 高さ 0.8	取手のみ	内: ナデ 外: ナデ、ハケ目	内: Hue 7SYR 6/6 外: Hue 5YR 6/6	15号堅穴住居址 P-8		
18	石製品	研跡車	長さ 5.2 幅 5.05 厚さ 0.8	ほぼ完形	内: 外:	内: Hue 5G 6/1	15号堅穴住居址 P-4	重量36g、滑石	
19	石製品	研跡車	長さ 1.9 幅 1.4 厚さ 0.8	ほぼ完形	内: 外:	内: Hue 2SYR 8/2	15号堅穴住居址 P-5	重量364g、滑石	
20	鉄 器	刀子	口径 11.6 底径 9.1 高さ 4.2	完形	内: 回転ナデ 外: 回転ナデ	内: Hue 7SYR 6/6 外: Hue 10YR 6/4	20号土塙 No.3	底部に工具痕?あり	
21	土師器	环	口径 15.7 底径 8 高さ 5	完形	内: 回転ナデ、ナデ 外: 回転ナデ、ナデ 崩り	内: Hue 2SYR 8/3 外: Hue 7SYR 8/3	20号土塙 No.2	外表面にススあり	

1. 北地区ポイラ室改修工事に伴う発掘調査 (0854調査地点)

図	番号	遺物	種類(器形)	基盤(cm)	残存量	特徴	色	出土遺物	備考
8	23	土師器	环	口径 底径 高さ	8 42	完形	内：陶軸ナダ 外：陶軸ナダ	内：Hue 10YR 8/2 外：Hue 10YR 4/1	20号土塙No1 特正直
	24	須恵器	壺	口径 底径 高さ	約1.6	刷毛約1.6 今 タモ、削り	内：陶軸ナダ、タモ 外：陶軸ナダ	内：Hue 10YR 4/1 外：Hue 10YR 3/2	24号ピット(1号窓 穴住居址上)
	25	須恵器	壺	口径 底径 高さ	13	刷毛・底部	内：陶軸ナダ	内：Hue 5Y 4/1 外：Hue 5Y 5/1	27号ピット
	26	須恵器	壺	口径 底径 高さ	約1/4	内：陶軸ナダ	内：Hue 75YR 7/6 外：陶軸ナダ	内：Hue 75YR 5/4	14号窓 路より底部
	27	須恵器	壺	口径 底径 高さ	16	約1/8 削り	内：陶軸ナダ、ナダ 外：陶軸ナダ、削り	内：Hue 10YR 5/1 外：Hue 10YR 5/2	14号窓西半
	28	須恵器	壺	口径 底径 高さ	13.4	約1/2	内：陶軸ナダ、ナダ 外：陶軸ナダ、削り	内：Hue 5Y 6/2 外：Hue 5Y 6/1	14号窓 路中段半分
	29	須恵器	壺	口径 底径 高さ	14.6	1/2	内：陶軸ナダ、削り	内：Hue 75Y 6/1 外：Hue 5GY 6/1	1区推定・Ⅲ・Ⅳ区 混乱
	30	須恵器	环	口径 底径 高さ	11.2	約1/6	内：陶軸ナダ	内：Hue 5Y 6/1 外：Hue 75Y 5/1	14号窓
	31	須恵器	环	口径 底径 高さ	14	約1/4	内：陶軸ナダ	内：Hue 5Y 6/2 外：Hue 5Y 6/2	14号窓
	32	須恵器	环	口径 底径 高さ	10	底部のみ	内：陶軸ナダ	内：Hue 75Y 5/2 外：陶軸ナダ	14号窓
	33	須恵器	壺	口径 底径 高さ	9	LII縁部片	内：陶軸ナダ 外：陶軸ナダ	内：Hue 25Y 5/3 外：Hue N 7/0	14号窓 路より底部
	34	土師器	环	口径 底径 高さ	82	底部・削部 1/3	内：陶軸ナダ 外：陶軸ナダ	内：Hue 75YR 5/3 外：Hue 10YR 6/3	14号窓
9	35	土師器	瓶	口径 底径 高さ	12.7	底部約2/3	内：ナダ、回転ナダ 外：ナダ、削り	内：Hue 10YR 7/4 外：Hue 75YR 6/4	14号窓
	36	土師器	壺	口径 底径 高さ	27	LII縁部片	内：陶軸ナダ、削り	内：Hue 5YR 6/6 外：Hue 10YR 4/4	14号窓 外側にスス?あり
	37	土師器	壺	口径 底径 高さ	27	LII縁部片	内：ナダ、削り	内：Hue 10YR 7/4 外：Hue 10YR 7/6	Ⅲ・Ⅳ区混亂
	38	土師器	壺	口径 底径 高さ	27	LII縁部・削部片	内：陶軸ナダ、削り	内：Hue 75YR 7/4 外：Hue 75YR 6/4	14号窓・Ⅰ・Ⅲ・Ⅳ 区混亂 外側にスス?あり
	39	縄文土器	深鉢形土器	口径 底径 高さ	27	削部片	内：ナダ	内：Hue 75YR 6/3 外：Hue 75YR 6/3	15号窓穴住居址P-16 細い凸筋部
	40	縄文土器	錐形土器	口径 底径 高さ	27	削部片	内：磨き 外：磨き	内：Hue 10YR 8/2 外：Hue 10YR 8/2	15号窓穴住居址P-15
	41	縄文土器	深鉢形土器	口径 底径 高さ	27	削部片	内：磨き 外：磨き	内：Hue 25Y 6/3 外：Hue 10YR 7/4	14号窓西半 弱部に沈線

縄文土器 (図8: 39~41)

図8: 39は外面に3条ほどの細い蚯蚓縫れ突帯を張り付けたもので、縄文時代前期の森B式の深鉢土器の破片と思われる。図8: 40・41は縄文時代後期後半の御領式もしくは天城式段階の深鉢形土器の胴部の屈曲部の破片である。41には屈曲部上段に細い沈線が巡る。

(5)まとめ

今回の発掘調査では、本地点の周辺で唯一本格的な発掘調査がなされた福利施設建設に伴う発掘調査（9407調査地点：熊本大学埋蔵文化財調査報告書第1集）で検出された遺構群（8～9世紀代）より一段階古い7世紀代前半の竪穴住居跡群を検出した。これは、それらに先行する時期より、当地が集落の一部として機能していたことを証明している。9407調査地点は本調査地点の北50mにあり、「馬」銘刻唐土器や土馬、多量の墨唐土器、布目瓦などの遺物とともにほぼ南北に軸をとる掘立柱建物が検出されている。これらは越州窯青磁などの貴重な陶磁器も伴っており、当該地点が官衙関連施設であった可能性を示している。今回の発掘調査は、この官衙関連の遺構が終了して久しい時期の墓が検出された。これは底部に木炭を敷いた一般墓とは異なる墓であり、領主層の墓である可能性もある。これは黒髪町遺跡群の変遷を知る上で新たな知見であった。

また、建物内部という状況にもかかわらず、比較的の残りが良い状況で遺構群が検出されたという事実は、今後、再開発による既存建物の改修に際しても、埋蔵文化財の有無に関しては留意せねばならないことを強く示唆している。

2. 体育館改修電気設備工事に伴う発掘調査（0935調査地点）

（1）調査の目的と経過

a. 調査地と調査経緯

法学部棟から引き込んで道路を超えて西側の武夫原内を経由して体育館へ繋がる経路である。法学部棟から武夫原の最初の人孔（人孔No1）およびその間の配線部、武夫原南東端の人孔（人孔No2）部分を立会調査した。人孔No1において土器の包含層を検出したので、市文化課に連絡し、そのまま発掘へ移行してよい旨の指導を受け、発掘調査に切り替えた。その後、立会調査を継続したが、遺構・遺物は検出していない。工事の掘削面積は423.21m²である。

b. 調査の経過

- 2010年1月7日 調査開始。道路横断部分・人孔No1・人孔No2を立会・発掘調査。
2010年1月13日 体育館前～武夫原南側道路・人孔No3を立会調査。雪が積もる。
2010年1月19日 便所横～学生会館西側道路を立会調査。
2010年1月22日 学生会館北側広場～西側道路・人孔No4を立会調査。
2010年1月28日 文化部室東側人孔～北地区ポンプ室・人孔No5を立会調査。
2010年2月2日 体育館南側～プール配線を立会調査。これをもって調査終了。

c. 調査の組織

調査員：小畠弘己

事務担当：村田知聖

整理作業員：江口 路・鬼塚美枝・小山正子・神川めぐみ・首藤優子・末吉美紀・谷川優子・高濱美来・田上 廉・長谷智子・早川 翔・増井弘子・山崎早苗

（2）調査区の基本層序

人孔No1の基本層序は、上から砂層（厚さ15cm）、バラス層（厚さ15cm）、埋め土層（厚さ35cm）、2層：黒褐色土層（Hue10YR1.7/1）-遺物包含層（厚さ5cm）、3層：黒褐色土層（Hue10YR 3/2）-遺物包含層（厚さ30cm）、4層：黒褐色土層（Hue7.5YR 3/2）：地山層、肉眼では、2層が濃い黒、3層が暗茶褐色、4層が茶褐色という色感である（写真14）。

人孔No2の基本層序は、砂層（厚さ20cm）、バラス層（20cm）、1層：淡茶褐色土層（Hue10YR 3/3）-近代烟もしくは溝の覆土層（厚さ80cm）、2層：黒褐色土層（Hue10YR1.7/1）-遺物包含層、3層：黒褐色土層（Hue10YR 3/2）-遺物包含層である。

（3）検出遺構

<人孔No1>

人孔No1部分では、遺物包含層と地山に掘り込まれた柱穴と思われる直径0.4m、深さ0.9m余りのピット1つを検出した（写真15）。それ以外にやわらかな黒色土を含む不整形な0.3~0.4mほどのピットがあるが、深さが0.2mと浅く、遺物も含まないことから、これらは根穴と思われる。人孔No1の柱穴1（M1）からは、土師器壺・壺を中心として、須恵器も含め20点ほどの破片が出土した。これらは検出面から深さ0.5mほどのところに集中していた。

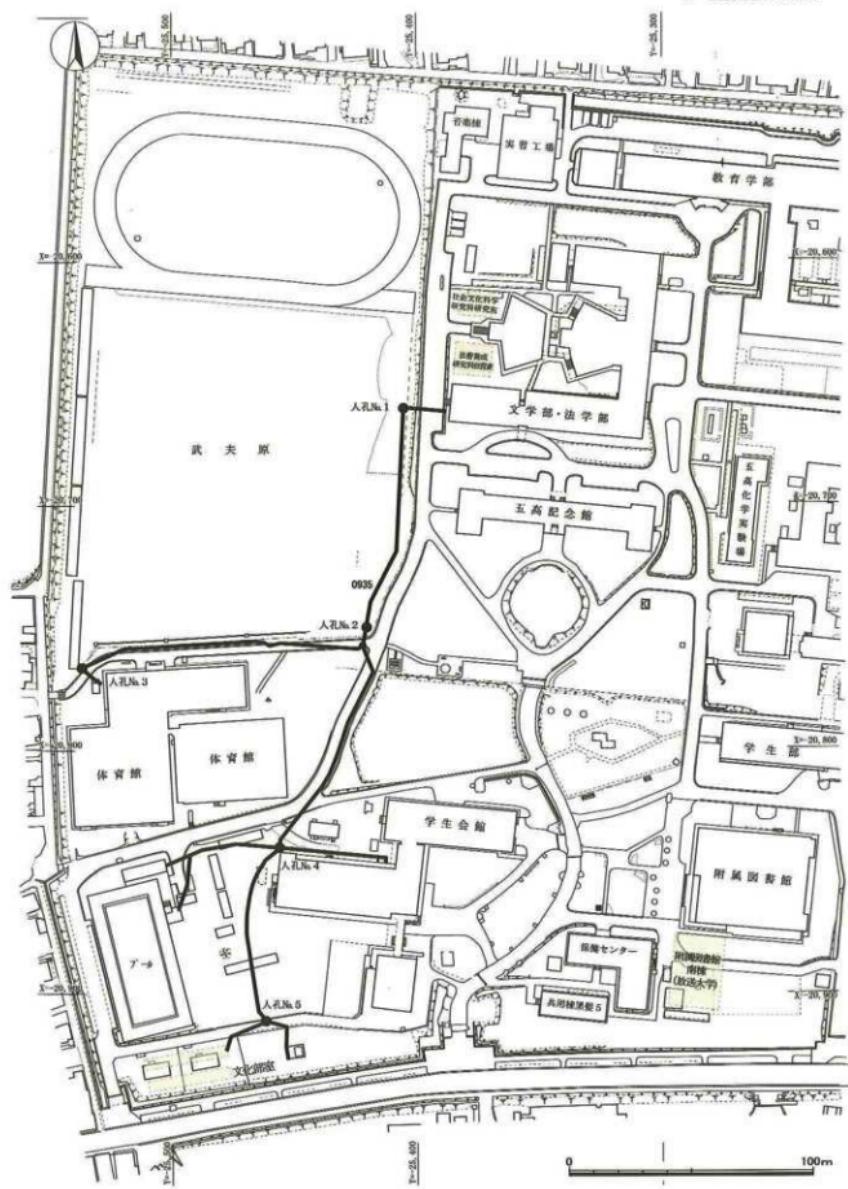


図10 黒髪北地区西半における調査地点配置図（1/2000）

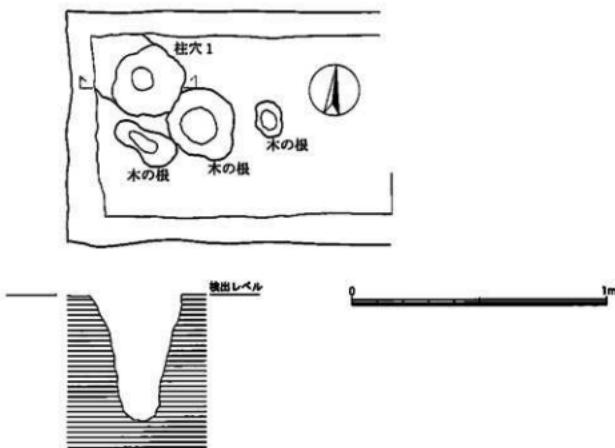


図11 人孔No.1 造構配置図 (1/20)

<人孔No.2>

人孔No.2は、埋土層の下が、淡茶褐色土層であり、摩耗した瓦片や磁器茶碗の破片などが出土した。近代以降のものと思われ、これを本調査区の1層とした。地表面からの深さ12mほどを下げた時点で、人孔No.1の2層と思われる遺物包含層が厚さ0.1mほど堆積しているのを確認した。この層からは須恵器高台碗の口縁部の破片1点が出土した。掘削部の西半分は、依然1層と同じであり、南側壁の土層を確認したところ、2層を切り込んでおり、南北方向の溝になるものと思われる。掘削深度がこれ以上深く及ばないため、この面で調査を終了している。

出土遺物としては、1層から出土した瓦?2点、磁器茶碗1点、2層から出土した須恵器高台付碗破片1点がある。

これ以外に立会調査を実施した地区の調査結果を以下に記しておく。

<道路横断部分>

法学部棟と人孔No.1を繋ぐ配管部分の掘削は、道路下0.65mであり、この部分は0.7mで人孔No.1の遺物包含層である2層が現れる。道路西端から人孔No.1の掘削部分の間は、高压ケーブルや給水管、暗渠などで部分的に搅乱を受けていた。遺物・遺構とともに検出していない(写真11・12)。

武夫原内の人孔No.1と人孔No.2間は、人孔部分の土層の観察により、グランドレベルから深さ0.6mまでは埋め土層もしくは近代畑土であり、遺物包含層である2層上面のレベルは南へ行くにつながい低くなるため、掘削深度が包含層に達することはないことから、慎重に工事を進めるよう指導した。

<体育館前～武夫原南側道路>

2010年1月13日に体育館前の人孔部分(人孔No.3)について立会調査を実施した。地表下0.65mほどで暗褐色土になり、地山の褐色土は1.0mほどで露出する。その間の0.8m付近に厚さ2cmあまりの硬い層がレンズ状に断片的に認められたが、人為的なものである可能性は少ない。遺構・遺物ともに認められなかった(写真18)。



図12 0935調査地点出土遺物実測図（1/4）

<便所横～学生会館前交差点>

2010年1月19日に立会調査を実施した。武夫原南東端の人孔部分の調査と土層の堆積状況は同じであり、配線部分の掘削深度である地表下0.65mではまだ近代もしくは近世の畠土であり、遺構・遺物とともに検出していない。

<学生会館北側広場～西側道路>

2010年1月22日に立会調査を実施した。人孔部分（人孔No.4）はほとんど埋設管（排水管）や不明の擾乱によって破壊されており、遺構・遺物ともに検出していない。わずかに残る未擾乱部分での土層観察によると、地表下0.8mまで畠土であり、深さ1.2～1.1m部分に黒色の強い色調の層がある。その上下は暗褐色土である。未擾乱部分においては土器などの包含される状況は確認できなかった。地表下1.35mまで掘削したが、固い地山には達していないようである。これから東側に延び、建物に引き込まれる部分については、人孔から3.0mほど掘削に立ち会ったが、掘削深度は地表下0.65mであり、畠土層内に収まるため、そのまま工事を進めるように指導した。

道路部分は人孔から横断部分と南側に延びる部分があるが、南側に延びる部分約20mの南北端2.0mずつを立会い、土層を確認したが、掘削深度0.7mの上部はすべて理土であり、既擾乱部分に相当することから、それ以後の工事は慎重に進めるよう指導した。

<文化部室東側人孔～北地区ポンプ室>

2001年1月28日に立会調査を実施した。文化部室建設時の発掘調査の成果（9802調査地点）などの成果により、遺物包含層は地表下1.0mで検出されることが予想されることから、それより掘削深度が深い人孔部分（人孔No.5）のみ立会調査を実施した。その結果、地表下1.05mで直径5mmほどの赤色土のバミスを含む黒色土層が現れた。遺物包含層相当層と思われ、徐々に掘削深度1.35mまで下げたが、遺物は出土しなかった。

<体育館南側～プール配線>

2010年2月2日に立会調査を実施した。地表下0.4mまでは現代埋め土であり、その下部は地表下0.65mまで黒褐色土であった。その下部は明茶褐色の土層となる。これにはニガ土が含まれ、地山であろうと思われるが、遺構は検出できなかった。上部の黒褐色土層を含め、遺物は出土していない。

(4) 出土遺物

図12：1は人孔No.1の柱穴1から出土した土師器の変形土器の破片である。これ以外に須恵器の坏などの小片が出土している。おおよそ8世紀代の柱穴と思われる。図12：2・3は人孔No.2の第1層から出土した磁器の碗と陶器皿の破片である。時期は不明であるが、近世末～近代のものと思われる。

2. 体育館改修電気設備工事に伴う発掘調査（0935調査地点）

表4 0935調査地点出土遺物一覧表

番号	地 物	種類(断面)	地盤(cm)	性 状	特 徴	色 調	出土遺構	圖 号
12	1 土師器	甕	口径 29.6 底径 25.6 厚さ 12	口縁部・側面片 口縁部片	内：瓦締ナメ 剥り 外：瓦締ナメ、ハナ 且	内：Hue 7.5YR 8/3 外：Hue 7.5YR 7/4	人孔No1、1号ピット	
	2 磁器	碗			内：ナメ 外：ナメ	内：Hue 5GY 8/1 外：Hue 5GY 8/1	人孔No2 1層	
	3 陶器	瓶	口縁部 底縁部 厚さ	剥離片	内：ナメ 外：ナメ	内：Hue 10YR 4/3 外：Hue 10YR 3/2	人孔No2 1層	

(5)まとめ

今回の調査のきっかけとなった配線工事は黒髪南の西側を南北200m、東西100mあまりにわたって地下掘削を伴うものであり、黒髪町遺跡群中でも調査事例の少ない本地域の遺構の残り具合を知る上できわめて好都合の調査と期待された。ただし、配線部分は掘削幅が0.8mほどと狭く、深さも0.8mを超えることはなく、遺構の状況はほとんど把握できなかった。とくに武夫原グランドから学生会館北側広場の間の工区は古代の官道推定ラインと交差するため、注目したが、掘削深度内では道路や溝などの遺構は確認できなかった。また、人孔部分では人孔No1で古代の包含層や柱穴1個を検出したが、人孔No2では近代の大きな溝と重なり、それ以外の地点でも既存配管による搅乱が著しく、遺構は検出できなかった。

III 黒髪南地区の調査

1. 黒髪団地南地区総合研究棟共同溝設備工事に伴う発掘調査（0302 調査地点）

（1）調査の目的と経過

a. 調査地と調査経緯

本調査地点は熊本大学黒髪南地区の西側中央に位置し、黒髪遺跡群に含まれる。白川右岸の標高17mの地点にある。本調査地点の周辺で実施された既往の調査で、古代官衙関連の遺構と考えられる建物群や、0204調査地点では、本学内に存在が推定されている古代官道の側溝と思われる溝を検出した。9909調査地点（熊本大学埋蔵文化財調査室年報6）や0203調査地点（同9）では遺構検出面が下がり、土層堆積の様相が異なることが分かっていた。今回の調査区のうち、II調査区は古代の遺構群と白川河川敷との間の様子を把握するに絶好の地点にあたり、古代道路の予想範囲に重なる可能性もあるなど、注目された。

本調査地点は、工学部百周年記念館・総合研究棟の南北に、新たに共同溝を敷設する工事である。北側のI区では0203・0210調査地点の調査結果により、遺構の残存状態はほぼ良好であることが予想された。調査区の一次掘削を8月4日から行い、6日より調査を開始した。古代の包含層は良好な状態で遺存していたが、該期の遺構や遺物はほとんど検出されなかった。包含層を除去し、地山を検出する段階で黒曜石の割片・チップが出土することが確認されたため、調査区に1辺1mのグリッドを設定し、状況に合わせ拡張しながら地山を掘り下げた。その結果、縄文早期を中心とした土器・石器が大量に出土した。このため、遺物の出土がなくなる範囲・深さになるまで掘削し、調査を終了した。調査面積は168.2m²である。

II区においては、9月25日に機械により掘削を行い、遺構検出面まで下げた。10月1日より、作業員を導入し、遺構掘り、壁面の清掃などを実施し、10月3日に作業を終了した。しかし、北半分において掘削幅が足りないことが判明し、およそ1m両側に拡張して再度、10月7日より10月10日まで、その部分の調査を実施した。調査面積はI区が168.2m²、IIが253.5m²である。

b. 調査の経過

I区	2003年8月4日	一次掘削開始。
	2003年8月6日	調査開始。包含層の上面精査、一部掘り下げ。
	2003年8月11日	遺構検出、順次掘下げ・測量・写真撮影。
	2003年8月19日	包含層と地山層間で黒曜石が出土し始める。
	2003年8月22日	地山までの調査区全体写真撮影。午後、グリッド設定。 石器・土器の検出、取り上げ。
	2003年9月9日	全体写真撮影。確認の掘り下げ、遺物取り上げ。
	2003年9月12日	調査終了。
II区	2003年9月25日	重機による一次掘削。
	2003年10月1日	調査開始。遺構掘り、壁面清掃。
	2003年10月3日	写真撮影、遺物取り上げ、平面図・土層図実測。
	2003年10月7日	拡張部調査開始。
	2003年10月10日	調査終了。

1. 黒髪団地南地区総合研究棟共同溝設備工事に伴う発掘調査（0302調査地点）

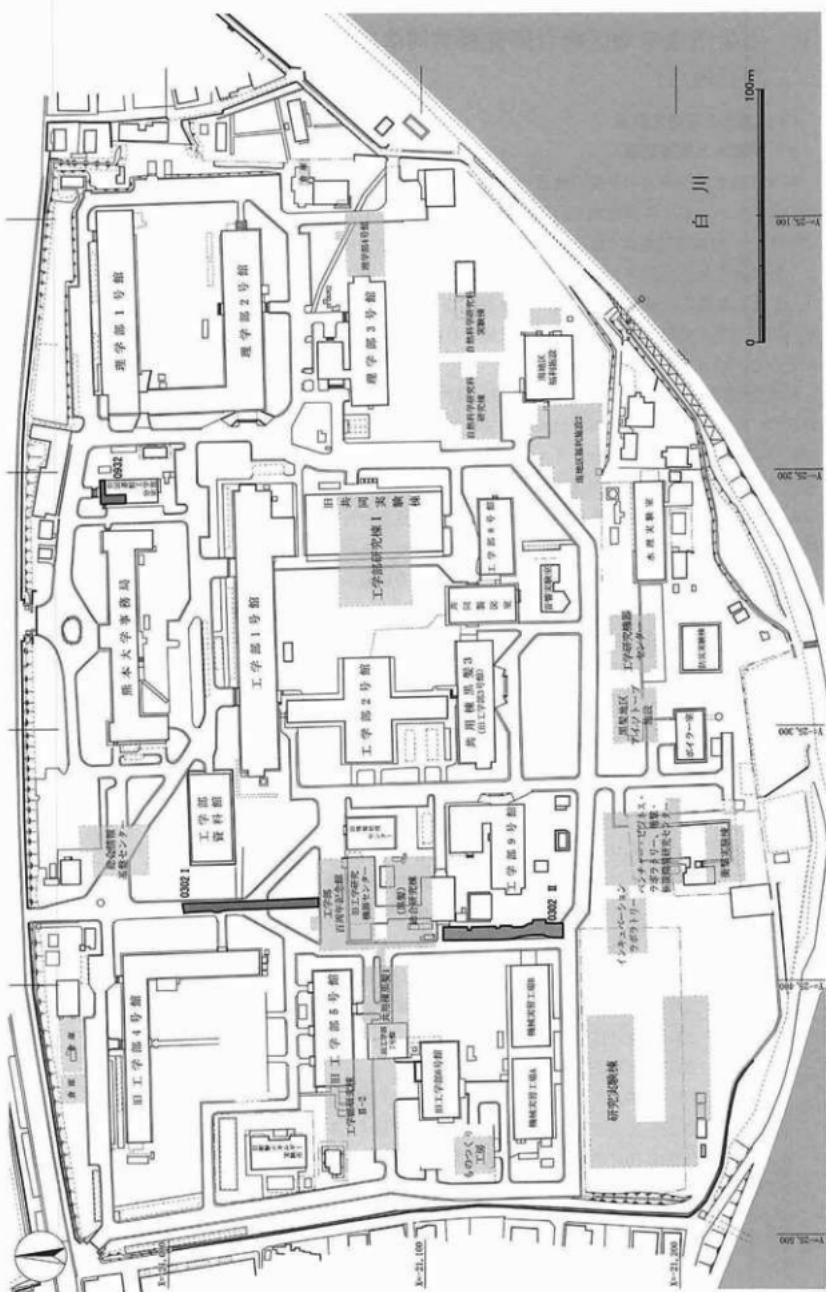


図13 黒髪南地区における調査地点配置図（1/2000）

c. 調査の組織

調査員：小畠弘己・大坪志子

事務担当：坂元紀乃

発掘作業員：稻本佳子・岡田イツ代・黒木重信・黒木タケ子・小畠工洋子・瀧潤俊子・西信二・林田恵子・早田咲百合・堀川貞子・前田宏一郎・松井昭子・松本和徳・桃井哲夫

整理作業員：江口路・鬼塚美枝・小山正子・首藤優子・末吉美紀・瀧潤俊子・林田恵子・早田咲百合・増井弘子・山崎早苗

(2) 調査区の基本層序

I 地区周辺の大略の層序は、次のとおりである（図13）。表土下1.0mまで現代埋土（1層）、その下に古代の遺物包含層（2層）があり、その下部が地山と呼ぶ造構面の層（3層）となる。調査区の中央付近で、地山層の下に縄文時代の遺物包含層が2層（4層・5層）存在することが確認された。3層上部には、地点により縄文時代後・晩期の遺物が入ることは既応の調査で知られていたが、3層は無遺物層と認識していた。今回は、その下に縄文時代早期まで遡る遺物包含層があることが新たに判明した。5層の下は基盤となる岩盤の固い層の上面に広がる、赤く粘性の高い土（6層）になるが、調査区の南半では5層が消滅し、6層の上に直接3層が堆積する。

II 区の北半分は褐色土の地山面上に遺物包含層である黒色土が10cmほど堆積していたが、その上部は旧運動場建設のためほとんど削平されていた。また、この遺物包含層は、南側半分は近世以降に削平を受けており、当初、古代の造構面がこの南側部分においても確認されると予想していたが、それに反してすべて削平を受けていることが判明した。

土層図（図16）の左半分の最下部の15層からは江戸期と思われる磁器の破片が出土し、44号溝より南側は削平されていることがわかる。北側調査区の黒色土の下部から黄褐色土上部にかけては、縄文時代後期以降の遺物を含む。調査区全体に広がる地山面上に堆積した黒色土は、この北側と南側とでは性格が異なる別の堆積物であることが調査終盤になって判明した。

よって、本来的な掘削面（自然の作用の可能性もある）は、調査区南側より下がる可能性があるが、今回はそれ以上掘削していない。

(3) 検出遺構

I 区

a. 古代以降の遺構

本調査区では、竪穴住居址や掘立柱建物址などの遺構は検出されず、小さな溝が4条と土坑1基を検出したのみである。調査区南部では、竪穴住居址かと思われるプランを確認したが、南北分のプランが把握できなかったことと、明確な床が検出されず遺物も細片ばかりで住居址と判断する決め手に欠けた。

<溝>

1号溝（図15）

調査区南側1/3あたりを東西に走る幅1m、深さ0.48mの溝である。遺物はない。古代の包含層に掘り込まれており、中世以降のものであろう。

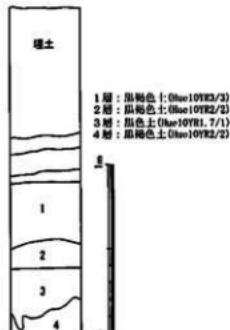


図14 基本土層柱状模式図
(1/3)

1. 黒髪団地南地区総合研究棟共同溝設備工事に伴う発掘調査（0302調査地点）

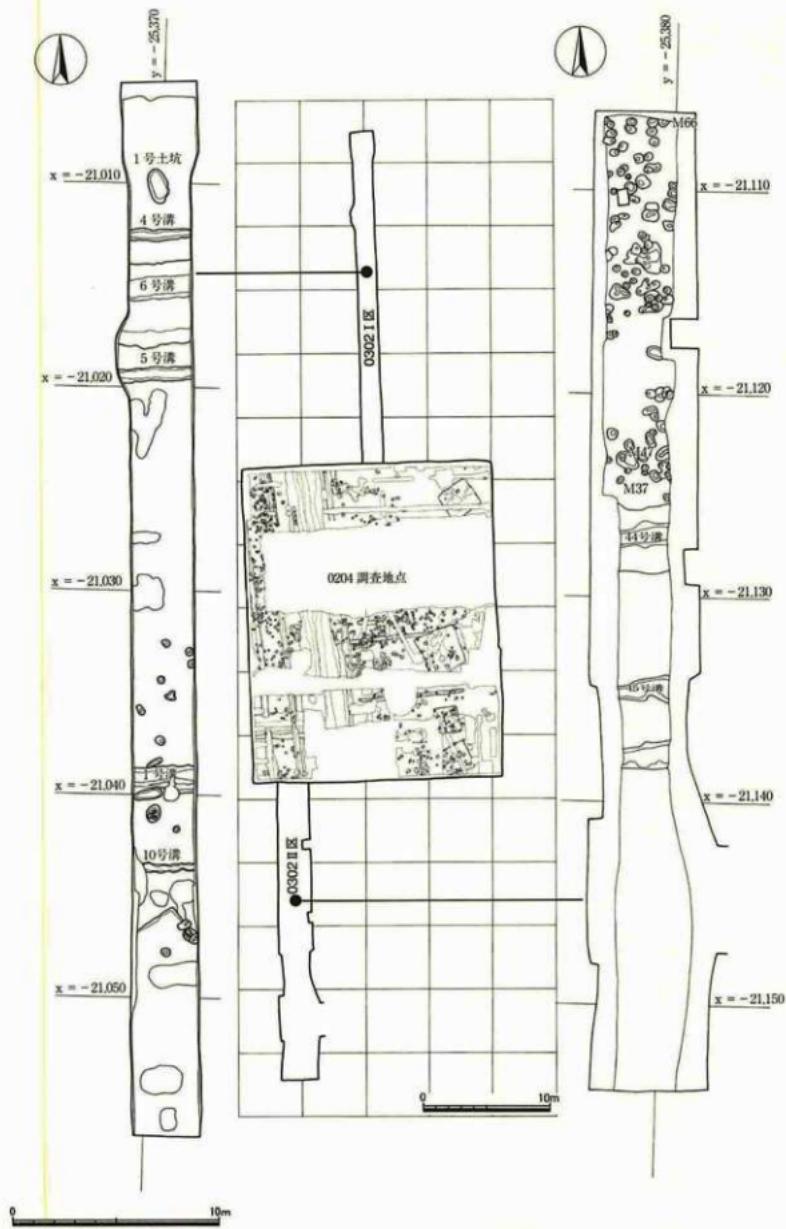


図15 0204・0302調査地点配置図・0302調査地点遺構配置図（1/400・1/250）

III 黒髪南地区の調査

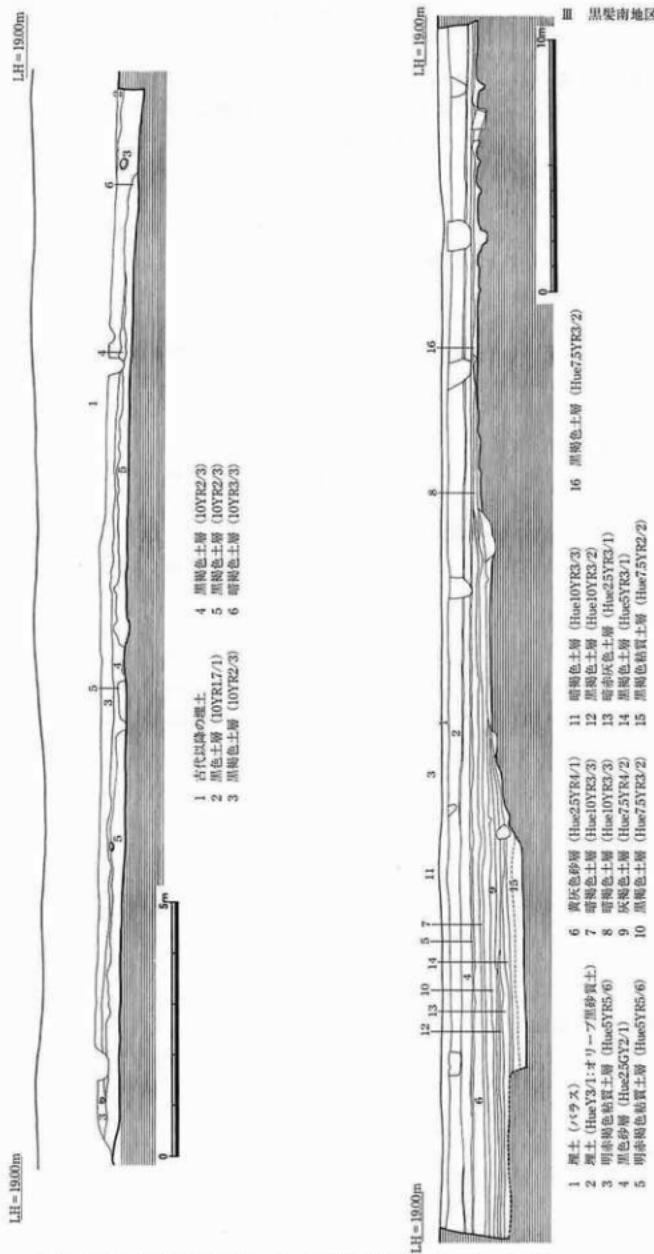


図16 0302調査地点Ⅰ区東壁・Ⅱ区西壁土層断面図 (1/100・1/200)

1. 黒髪田地南地区総合研究棟共同溝設備工事に伴う発掘調査（0302調査地点）

4号溝・5号溝・6号溝（図15）

調査区北部を平行に東西方向に走る。大きさはそれぞれ幅0.4m、深さ0.2m、幅0.66m、深さ0.3m、幅約4.0m、深さ約0.9mである。6号溝は南側の壁が緩やかに落ちて平坦面を作り、さらに一段落ちる。遺物はほとんど出土しなかった。いずれも埋土の土層の観察より、古代の溝と考えた。

10号溝（図15）

調査区南部を東西に走る幅0.4、深さ0.2mほどの溝である。焼土が帶状に分布するようなもので、形も不正形であることから、近現代の擾乱の可能性が高い。

<土壌>

2号土坑

調査区北に位置する、長軸約1.6m、幅1.0mの梢円形である。形状から墓塚とも考えたが、出土遺物がなくその性格は不明である。

b. 繩文時代包含層の調査

基本層序の項で述べたように、通常地山と呼称している土層上面から縄文時代後・晚期の遺物や黒曜石片が出土したため、無遺物層に達するまで掘下げることとした。

調査区下場の北端から、調査区の中心長軸を基準として1mごとのグリッドを設定した。中心軸より東側をA列、西側をB列とし、北から番号を付した。千鳥格子状に掘削をおこない、遺物の出土状況に応じてグリッドを掘下げていく方針をとった。

掘削を行った結果、5号溝の南側約1.5mの範囲であるA・B7～A12・B13グリッド、それから2m南のA・B16～A25・B24の間で遺物が集中的に出土した。早期の遺物は3層上面から20～30cm下位の4・5層から出土する傾向にあり、黒曜石のチップが多いのは3層である。A・B26より南側では4・5層が無くなり、それとともに遺物の出土もないことを確認した。

Ⅱ区

<溝>

44号溝（図15）

調査区中央をほぼ東西に走る幅3.5m、深さ0.5mほどの溝である。中からは褐色釉を掛けた陶器鉢（図21：80）が出土した。近世以降のものと思われる。

<ピット>

調査区北半部を中心に多数のピットが検出された。ただし、すべて建物の柱として認定できるものではなく、中には樹根の痕跡も含まれる。

<縄文時代遺物包含層>

調査区の北半を中心として16層の黒色土層から縄文土器がパンコンテナ1箱ほど出土した。

（4）出土遺物

I区

今回で新たに確認された縄文時代の遺物包含層からは、縄文土器と石器が総数760点出土した。遺物の出土は調査区中央付近に集中していた。山形押型文土器、条痕文尖底鉢形土器など早期の土器を中心に僅ながら前期・中期・後期・晚期までの土器がある。石器は黒曜石の剥片が最も多く、礫や石匙（縦型・横型）、石鎌などを含む。

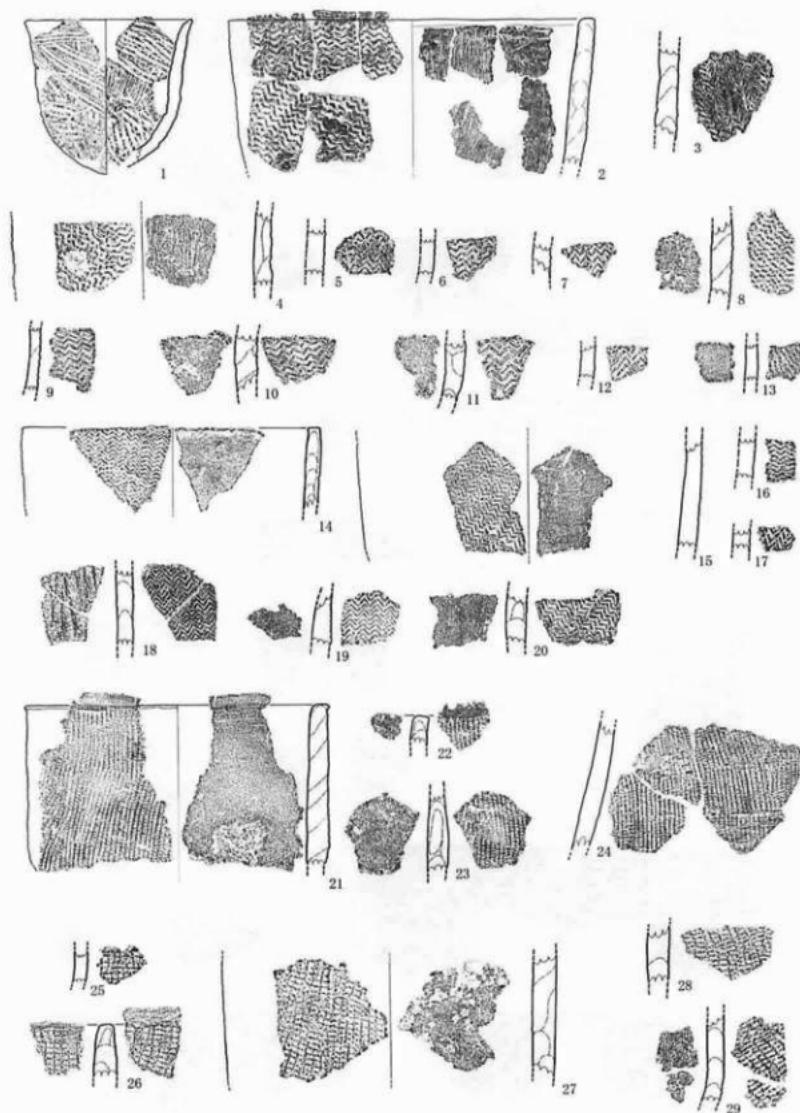


図17 0302調査地点I区出土遺物実測図1 (1/4)

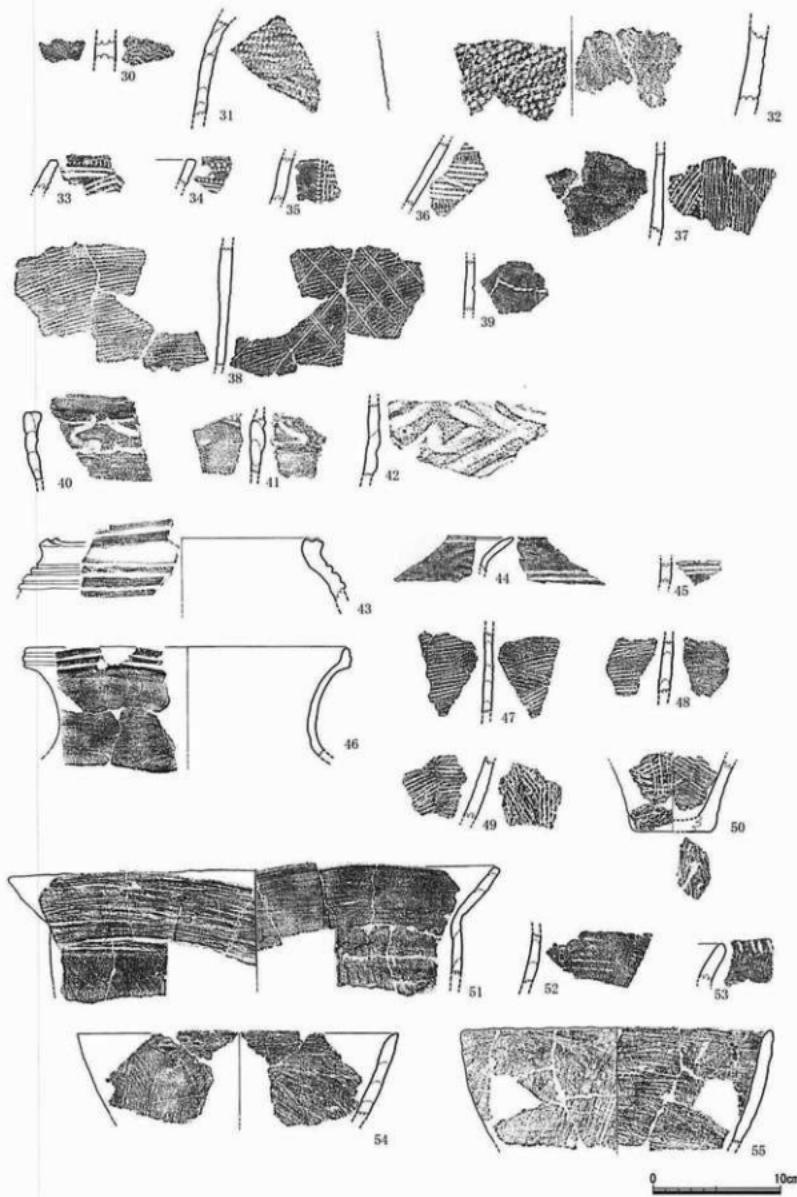


図18 0302調査地点I区出土遺物実測図2 (1/4)

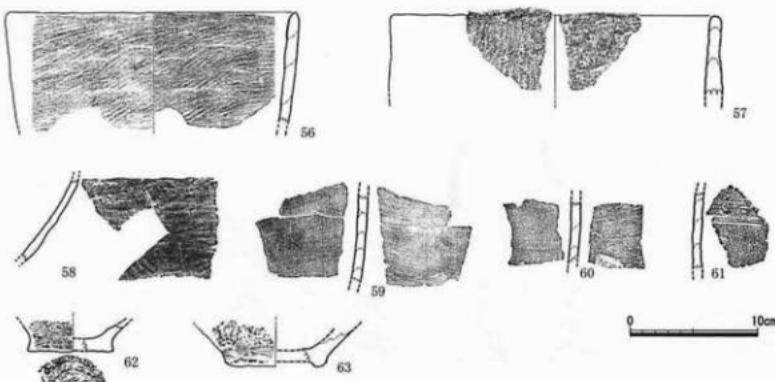


図19 0302調査地点I区出土遺物実測図3 (1/4)

縄文土器

図17：1は砲弾形をした尖底に近い丸底の条痕土器である。口径は約13cm、器高も12cm程度と小さい。内・外ともに粗い条痕を施す。押型文以前の早期前葉の土器である可能性がある。

図17：2～図18：1までは、縄文時代早期の押型文土器である。図17：2～20は、山形押型文土器である。このうち、図17：2～10は、緩やかな山形の文様が施されている。図17：6はこの中では文様がつぶれず明瞭で、やや鋭角の山形文様である。図17：2・4および3・5はそれぞれ同一個体と思われる。図17：11・12は文様の山が高く鋭角で、文様である山の単位が大きいのが特徴である。図17：13は梢円と山形の中間的な山形文である。図17：14～20までは、上記の山形文とは違い、文様単位が細かく緻密に施されている。図17：21～29は、格子目文の押型文土器である。このうち図17：21～24は細かな格子目文である。21・22の口縁部は、端部は平で滑らかに仕上げられている。2点は同一固体と思われる。図17：25～27は格子目の単位が図17：21～24の倍ほどの大きさである。26は口縁部であるが、唯一内面まで格子目文が施されている。図17：28・29は、同じく大きめ格子目文をもつが、格子が正方形ではなく横長の長方形で、歪みがある。図18：1は流麗な曲線を描く山形文がほどこされた、手向山式である。これらの押型文土器は、熊本県内では瀬田裏遺跡で確認されており、早水台式などの早期中葉の頃ではないかと思われる。図18：31・32はいずれも土器の外側に縄文を施す。早期の土器であろう。図18：33～37は早期中葉の平格式である。刺突文と沈線、撫糸文により施されている。図18：38は、内・外ともに丁寧な貝殻条痕を施し、外側はさらに半裁竹管状の施文具により格子文様を描く。前期中葉の西唐津式である。図18：39は細い棒状の施文具で連弧文を描く。中期中葉の春日式と思われる。図18：40～42は、後期初頭の南福寺式の口縁部、口縁部下の文様帶である。図18：43は後期中葉の鐘崎式の鉢の口縁部である。鐘崎式によくみられるが、本例にも赤色顔料が塗布された痕跡がある。図18：44は後期後葉の島井原式の浅鉢の口縁部で、微細な羽状文が施されている。図18：45は細片のため型式は不明である。沈線があり表面は研磨されているようである。図18：46は後期後葉の御領式の深鉢の口縁部である。図18：47～63は晩期以降の土器である。図18：47・48は内・外に丁寧な条痕を、図18：49・50は粗い

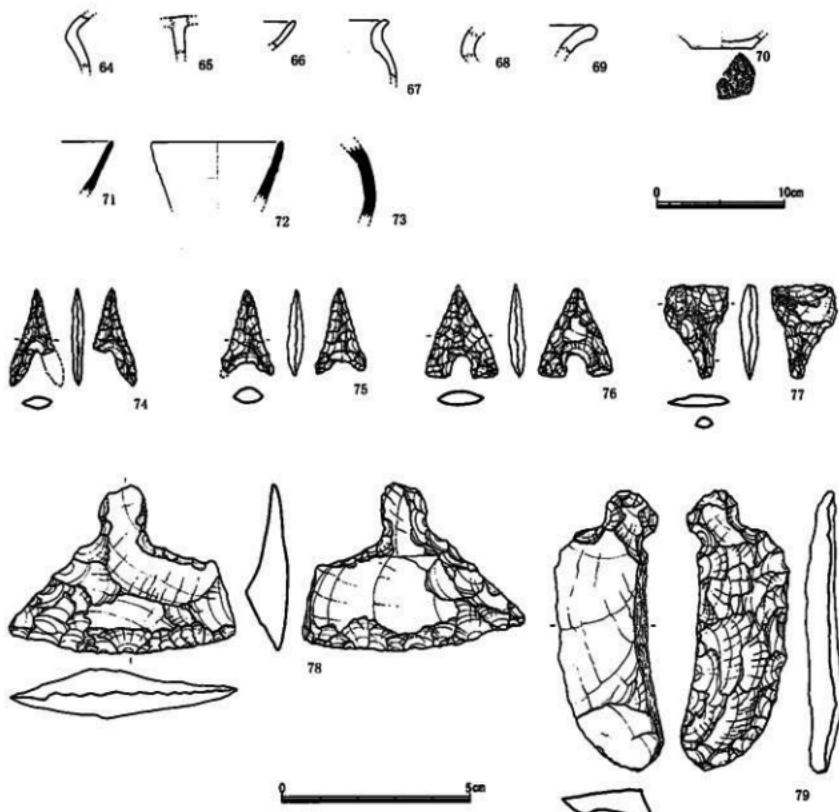


図20 0302調査地点I区出土遺物実測図4 (1/4・3/4)

条痕を施す。図18: 51・52は晩期初頭、古闇式の深鉢の口縁部である。沈線は磨きのために潰れ、粗雑な印象である。図18: 53は口縁部にヘラによる刻目が施されている。図: 54・55はわずかに細かなハケ目が観察される。これらは同一固体の可能性もある。図19: 56は条痕?がうすく残る。図19: 57・58無文である。図19: 59・60は、外面は粗い条痕があり、内面は平滑に仕上げ、磨かれている。図19: 62・63は縄文晩期深鉢の底部である。

縄文時代の石器

図20: 74~76は打製石錐である。図20: 74と同76は早期に特有の長脚錐である。どちらも青灰色の黒曜石を素材としている。図20: 75はサスカイト製の石錐である。細身の体部からやや開き気味の短い脚をもつ。図20: 77は漆黒色の黒曜石剥片を素材とした打製の錐である。加工が粗く晩期以降の所産である可能性が高い。図20: 78はサスカイト製の横長剥片を用いた両面加工の石匙である。左側部

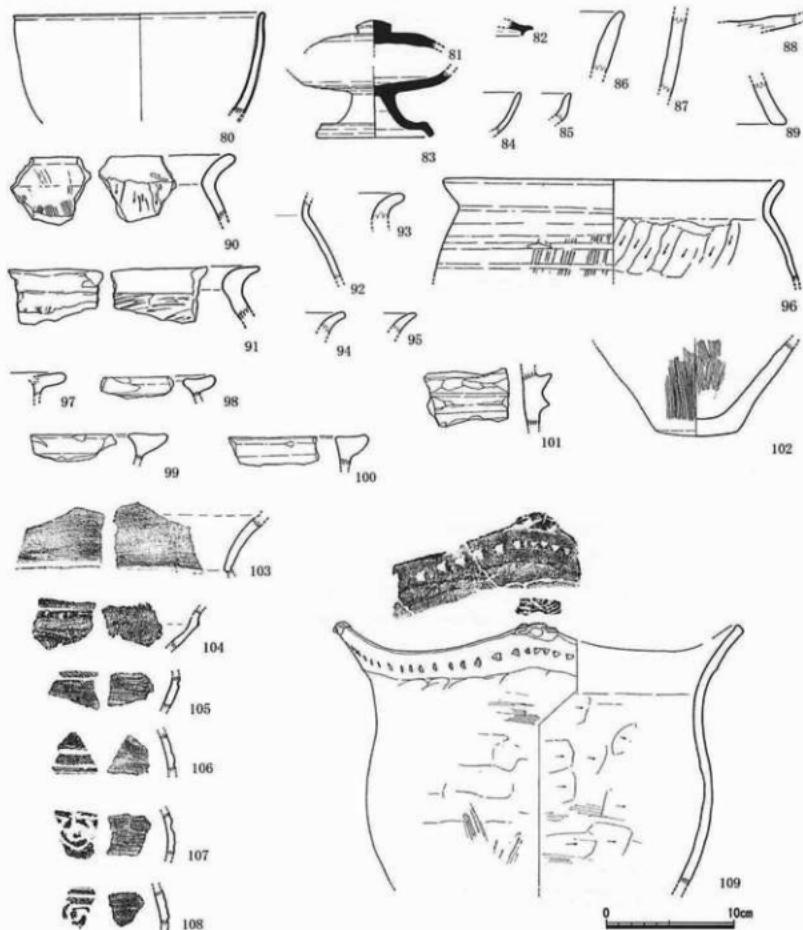


図21 0302調査地点Ⅱ区出土遺物実測図（1/4）

は尖るが、他端は直線的に片側から加工している。図20:79はサスカイトの縦長剥片を用いた縦型の石匙である。整形加工は主に素材の主要剥離面側に背面から施されており、礫面上から行われた剥離はヒンジフラクチャーを起こしている。図20:78に比べ風化が浅く、縄文時代晩期以降のものと思われる。図20:78は早期のものである可能性が高い。

古代以降の遺物

図20:64は土師器の小型壺の口縁である。65は古代の高环の脚部である。外面には赤色顔料が塗布されている。図20:66は古代の土師器环、図20:67は小型壺の口縁部、図20:68は壺の頭部、図20:

1. 黒髪田地南地区総合研究棟共同沸設備工事に伴う発掘調査（0302調査地点）

69は甕の口縁部である。図20：70の土師器小皿は底部に糸切りの跡が残る。小型であり大宰府編年Xに相当か。図20：71は須恵器坏、図20：72は長頸甕または平瓶の口頭部だろう。図20：73は甕の胴部と思われる。

Ⅱ 区

古代以降の遺物

図21：80は褐釉を施す陶器の鉢の破片である。44号溝から出土した。図21：81は須恵器の蓋である。図21：82はかえしのある須恵器の蓋の破片である。図21：83は須恵器の高坏の脚部の破片である。47号ピットから出土した。図21：84・85は土師器の坏の小破片である。図21：86・87は土師器の瓶もしくは鉢の破片である。図21：88は土師器高坏の坏部の小片、図21：89は土師器の高坏もしくは器台の脚部の小片である。図21：89は22号ピットから、他は包含層より出土した。図21：90～96は土師器の変形土器の口縁部片の破片である。図21：90は38号ピットから、他は包含層より出土した。

弥生時代の遺物

図21：97～102は弥生中期～後期前半の変形土器の破片である。図21：97～100が口縁部、同101が胴部、同102が底部片である。同98は38号ピット、同99は66号ピット、他は包含層からの出土である。

縄文時代の遺物

図21：103～109は縄文土器である。図21：103は天城・古閑式段階の深鉢の頭部の破片である。図21：105・106は太郎迫式段階の深鉢形土器の胴部の破片である。図21：107・108は鎌崎式土器のような沈線による渦巻文があるが、同型式かは疑問である。縄文時代後期前半の土器であることは間違いない。同一個体の可能性もある。図21：109は縄帶文土器であり、復元すると粘土を貼りつけた4つの波状の高まりをもつもので、口縁部は幅5cmの帯状の部分のみわずかに肥厚し、その外面中央に連続刺突文を施している。内面は削り技法により削られており、器壁が薄くなっている。口縁部のつくりなども非常にシャープである。貼付文は浅い円形刺突の周囲を放射状に沈線で取り巻いている。縄文時代後期前半～中葉にかけての土器群である。

表5 0302調査地点出土遺物一覧表

調査番号	遺物名	標識(種別)	直徑(cm)	残存量	特徴	色調	出土場所	備考
17 1	縄文土器 小型丸底上肩 鉢	111E 12.9	1/2	内:ナデ 外:ナデ	内:Hue 10YR 5/2 外:Hue 10YR 6/4	11411607, 11663, 11671, 11672, 11655	内・外側:条斑文	
2	縄文土器 深鉢形土器 底付 器底	111E 25.9	1	縁部片	内:ナデ 外:ナデ	内:Hue 7SYR 7/6 外:Hue 7SYR 6/6	114 11979	外側:山形押彫文
3	縄文土器 深鉢形土器 肩 付	111E	1	肩部片	内:ナデ 外:ナデ	内:Hue 10YR 6/4 外:Hue 7SYR 6/6	114 12613	外側:山形押彫文
4	縄文土器 円錐形土器 肩 付	111E	1	肩部片	内:ナデ 外:ナデ	内:Hue 7SYR 7/6 外:Hue 7SYR 6/6	114 12122	外側:山形押彫文
5	縄文土器 深鉢形土器 肩 付	111E	1	肩部片	内: 外:ナデ	内:Hue 外:Hue 7SYR 6/6	1区 12641	外側:山形押彫文
6	縄文土器 深鉢形土器 肩 付	111E	1	肩部片	内: 外:ナデ	内:Hue 外:Hue 7SYR 6/6	114 ベルト北	外側:山形押彫文
7	縄文土器 深鉢形土器 肩 付	111E	1	肩部片	内:ナデ 外:ナデ	内:Hue 7SYR 4/2 外:Hue 7SYR 6/6	1区 遺物集中区西	外側:山形押彫文
8	縄文土器 深鉢形土器 肩 付	111E	1	肩部片	内:ナデ 外:ナデ	内:Hue 10YR 8/2 外:Hue 10YR 8/4	1区 12128	外側:山形押彫文

回	番号	地 物	標識(断面)	深度(cm)	規 格	特 徴	色 国	出 土 地 場	備 考	
									内:ナデ 外:ナデ	内:ナデ 外:ナデ
17	9	縄文土器	深鉢形土器 底付 器高	口径 底付 器高	銅部片	内:ナデ 外:ナデ	内:Hue 10YR 7/2 外:Hue 10YR 7/4	複数	外面:山形押型文	
	10	縄文土器	深鉢形土器 底付 器高	口径 底付 器高	銅部片	内:ナデ 外:ナデ	内:Hue 10YR 8/4 外:Hue 10YR 7/2	I区 11664	外面:山形押型文	
	11	縄文土器	深鉢形土器 底付 器高	口径 底付 器高	銅部片	内:ナデ 外:ナデ	内:Hue 10YR 7/4 外:Hue 10YR 6/4	複数	外面:山形押型文	
	12	縄文土器	深鉢形土器 底付 器高	口径 底付 器高	銅部片	内:ナデ 外:ナデ	内:Hue 10YR 7/4 外:Hue 75YR 6/6	I区 12543	外面:山形押型文	
	13	縄文土器	深鉢形土器 底付 器高	口径 底付 器高	銅部片	内:ナデ 外:ナデ	内:Hue 10YR 6/3 外:Hue 10YR 6/3	I区 ベルト北端 外側地内に近い山形押型文		
	14	縄文土器	深鉢形土器 底付 器高	22.8 口径 底付 器高	口縁部片	内:ナデ 外:ナデ	内:Hue 10YR 8/4 外:Hue 10YR 6/3	I区 11965	外面:山形押型文	
	15	縄文土器	深鉢形土器 底付 器高	口径 底付 器高	銅部片	内:ナデ 外:ナデ	内:Hue 25Y 7/4 外:Hue 25Y 5/3	I区 12002	外面:山形押型文	
	16	縄文土器	深鉢形土器 底付 器高	口径 底付 器高	銅部片	内:ナデ 外:ナデ	内:Hue 75YR 7/6 外:Hue 75YR 7/6	I区 ベルト北端 外側	外面:山形押型文	
	17	縄文土器	深鉢形土器 底付 器高	口径 底付 器高	銅部片	内:ナデ 外:ナデ	内:Hue 10YR 7/4 外:Hue 10YR 7/4	I区 集中区ベルト南	外面:山形押型文	
	18	縄文土器	深鉢形土器 底付 器高	口径 底付 器高	銅部片	内:ナデ 外:ナデ	内:Hue 75YR 6/5 外:Hue 5YR 6/6	I区 6号横中	外面:山形押型文	
	19	縄文土器	深鉢形土器 底付 器高	口径 底付 器高	銅部片	内:ナデ 外:ナデ	内:Hue 75YR 7/6 外:Hue 75YR 5/6	I区 12422	外面:山形押型文	
	20	縄文土器	深鉢形土器 底付 器高	口径 底付 器高	銅部片	内:ナデ 外:ナデ	内:Hue 10YR 8/2 外:Hue 10YR 8/4	I区 6号横中	外面:山形押型文	
	21	縄文土器	円筒形土器 底付 器高	口径 底付 器高	口縁部・銅部片	内:ナデ 外:ナデ	内:Hue 10YR 7/4 外:Hue 75YR 6/6	I区	外面:椅子日押型文	
	22	縄文土器	円筒形土器 底付 器高	口径 底付 器高	口縁部片	内:ナデ 外:ナデ	内:Hue 75YR 7/6 外:Hue 75YR 7/6	I区 4層	外面:椅子日押型文	
	23	縄文土器	円筒形土器 底付 器高	口径 底付 器高	銅部片	内:ナデ 外:ナデ	内:Hue 10YR 7/4 外:Hue 10YR 5/4	I区 11941	外面:椅子日押型文	
	24	縄文土器	深鉢形土器 底付 ?	口径 底付 ?	銅部片	内:ナデ 外:タキ	内:Hue 10YR 7/3 外:Hue 75YR 5/4 12008, 11661, 12537	I区	外面:椅子日押型文	
	25	縄文土器	深鉢形土器 底付 器高	口径 底付 器高	銅部片	内: 外:ナデ	内: Hue 外: Hue 75YR 6/8	I区 集中区ベルト 南	外面:椅子日押型文	
	26	縄文土器	円筒形土器 底付 器高	口径 底付 器高	口縁部片	内:ナデ 外:ナデ	内: Hue 75YR 6/5 外: Hue 75YR 5/4	I区 11974	内外添:椅子日押型文	
	27	縄文土器	円筒形土器 底付 器高	口径 底付 器高	銅部片	内:ナデ 外:ナデ	内: Hue 75YR 5/6 外: Hue 75YR 6/6	I区 11998	外面:椅子日押型文	
	28	縄文土器	深鉢形土器 底付 器高	口径 底付 器高	銅部片	内:ナデ 外:ナデ	内: Hue 75YR 6/6 外: Hue 75YR 6/6	I区 12550	外面:椅子日押型文	
18	29	縄文土器	深鉢形土器 底付 器高	口径 底付 器高	銅部片	内:ナデ 外:ナデ	内: Hue 25Y 7/3 外: Hue 10YR 8/4	I区 11660 B-17		
	30	縄文土器	深鉢形土器 底付 器高	口径 底付 器高	銅部片	内:ナデ 外:ナデ	内: Hue 10YR 5/2 外: Hue 10YR 5/2	I区 12642	外面:山形押型文	
	31	縄文土器	深鉢形土器 底付 器高	口径 底付 器高	銅部片	内:ナデ 外:ナデ	内: Hue 10YR 5/4 外: Hue 10YR 6/4	I区 11949, 11959?	縄文	
	32	縄文土器	深鉢形土器 底付 器高	口径 底付 器高	銅部片	内:ナデ 外:ナデ	内: Hue 10YR 7/4 外: Hue 75YR 6/6	I区 11964, 12538	縄文	
	33	縄文土器	深鉢形土器 底付 器高	口径 底付 器高	口縁部片	内:ナデ 外:ナデ	内: Hue 10YR 7/4 外: Hue 10YR 7/4	I区 12003	口縁部:朝日押型文	
	34	縄文土器	深鉢形土器 底付 器高	口径 底付 器高	口縁部片	内:ナデ 外:ナデ	内: Hue 25Y 6/3 外: Hue 10YR 8/4	I区 B-20	縄文文、四輪文	
	35	縄文土器	深鉢形土器 底付 器高	口径 底付 器高	銅部片	内:ナデ 外:ナデ	内: Hue 10YR 8/3 外: Hue 10YR 7/4	I区 12149	縄文文、巴輪文	
	36	縄文土器	深鉢形土器 底付 器高	口径 底付 器高	銅部片	内:ナデ 外:ナデ	内: Hue 25Y 6/3 外: Hue 10YR 7/4	I区 12149 坑道1号土 坑上り側, 17-A	縄文文、巴輪文	
	37	縄文土器	深鉢形土器 底付 器高	口径 底付 器高	銅部片	内:ナデ 外:ナデ	内: Hue 10YR 8/4 外: Hue 10YR 8/2	I区 20A	竹筒文、熱奈文、網目文	
	38	縄文土器	深鉢形土器 底付 器高	口径 底付 器高	銅部片	内:ナデ 外:ナデ	内: Hue 5YR 4/6 外: Hue 75YR 4/6 12444, 12431, 5号 塗子文	I区 12423, 12424, 12444, 12431, 5号 塗子文	内・外面:貝紋条文、外番: 椅子文	
	39	縄文土器	深鉢形土器 底付 ?	口径 底付 ?	銅部片	内:ナデ 外:ナデ	内: Hue 25Y 6/3 外: Hue 25Y 5/2	I区 12149	縄文文	
	40	縄文土器	深鉢形土器 底付 器高	口径 底付 器高	口縁部片	内:ナデ 外:ナデ	内: Hue 5YR 4/6 外: Hue 5YR 4/4	I区 11920	太い北継	
	41	縄文土器	深鉢形土器 底付 器高	口径 底付 器高	銅部片	内:ナデ 外:ナデ	内: Hue 75YR 5/6 外: Hue 75YR 5/4	I区 11920	太い北継(横目?)	
	42	縄文土器	深鉢形土器 底付 器高	口径 底付 器高	銅部片	内:ナデ 外:ナデ	内: Hue 75YR 7/4 外: Hue 75YR 5/4	I区 12200	太い北継	

1. 黒髪田南地区総合研究棟共同排設施工に伴う発掘調査（0302調査地点）

図	番号	遺物	種類(形態)	通面(cm)	埋 容 量	特 徴	色 調	出土場所	備考
18	43	陶文土器	鉢形土器	口径 22 底径 18	(内)縁部 内:擦き 外:擦き	内:Hu: 10YR 6/4 外:Hu: 10YR 5/4	I 区 12635	青褐色陶文	片が残る
	44	陶文土器	浅鉢形土器	口径 22 底径 18	口縁部 内:擦き 外:擦き	内:Hu: 25Y 5/3 外:Hu: 25Y 3/1	I 区 12635	沈鏡、細引模文	
	45	陶文土器	深鉢形土器	口径 25.5 底径 18	縁部 内:ナデ 外:ナデ	内:Hu: 10YR 6/3 外:Hu: 5YR 6/4	I 区 12635		
	46	陶文土器	深鉢形土器	口径 25 底径 18	口縁部・側縁部 内:擦き 外:擦き	内:Hu: 25YR 4/3 外:Hu: 25YR 4/1	I 区 12635		
	47	陶文土器	深鉢形土器 か?	口径 25 底径 18	縁部 内:ナデ 外:ナデ	内:Hu: 25YR 5/4 外:Hu: 5YR 5/4	I 区 12426	内・外面:貝殻条板文	
	48	陶文土器	深鉢形土器 部分	口径 25 底径 18	縁部 内:ナデ 外:ナデ	内:Hu: 5YR 5/4 外:Hu: 5YR 5/4	I 区 12123	内・外面:貝殻条板文	
	49	陶文土器	深鉢形土器 か?	口径 25 底径 18	縁部 内:ナデ 外:ナデ	内:Hu: 25YR 5/4 外:Hu: 5YR 5/4	I 区 11943	内面は貝殻条板、外面は穂型 条板	
	50	陶文土器	深鉢形土器	口径 59 底径 35.5	底部・側縁部 内:ナデ 外:ナデ	内:Hu: 25YR 4/4 外:Hu: 25YR 4/4	I 区 11958	外面:粗い条文、内面は貝殻 条板	
	51	陶文土器	深鉢形土器	口径 59 底径 35.5	口縁部・側縁部 内:ナデ 外:ナデ 1/8	内:Hu: 10YR 5/2 外:Hu: 10YR 7/8	I 区 12553	付属 外面:口縁一部端、口縫:粗 い波線	
	52	陶文土器	深鉢形土器	口径 59 底径 35.5	縁部 内:ナデ 外:ナデ、擦き	内:Hu: 25Y 7/3 外:Hu: 10YR 7/4	I 区 12548	51と同一個体の可能性	
	53	陶文土器	深鉢形土器	口径 59 底径 35.5	口縁部 内:ナデ 外:ナデ	内:Hu: 10YR 6/2 外:Hu: 10YR 5/3	I 区 12635		
	54	陶文土器	鉢形土器	口径 24 底径 18	口縁部・側縁部 内:ナデ 外:ナデ	内:Hu: 5YR 5/6 外:Hu: 5YR 5/6	I 区 12354, 12364	外面:ハケ状具ナデ	
	55	陶文土器	鉢形土器	口径 24 底径 18	口縁部・側縁部 内:ナデ 外:ナデ	内:Hu: 5YR 5/6 外:Hu: 5YR 5/6	I 区 12354, 12364 11906, 12099	外面:ハケ状具ナデ	
19	56	陶文土器	深鉢形土器	口径 22 底径 18	口縁部・側縁部 内:ナデ 外:ナデ	内:Hu: 10YR 5/2 外:Hu: 10YR 5/2	I 区 11644	太いハケ? (貝殻条板?)	
	57	陶文土器	深鉢形土器	口径 26 底径 18	口縁部 内:ナデ 外:ナデ	内:Hu: 10YR 8/4 外:Hu: 10YR 8/2	I 区 12224	無文	
	58	陶文土器	鉢形土器	口径 26 底径 18	縁部 内:ナデ 外:ナデ	内:Hu: 10YR 6/4 外:Hu: 10YR 3/2	I 区 12635		
	59	陶文土器	深鉢形土器	口径 26 底径 18	縁部 内:ナデ 外:ナデ	内:Hu: 25YR 5/6 外:Hu: 25YR 5/4	I 区 11932 付属: 11932	無文	
	60	陶文土器	深鉢形土器	口径 26 底径 18	縁部 内:ナデ 外:ナデ	内:Hu: 25YR 5/6 外:Hu: 10YR 4/1	I 区 12635		
	61	陶文土器	深鉢形土器	口径 26 底径 18	縁部 内:ナデ 外:ナデ	内:Hu: 10YR 8/4 外:Hu: 10YR 7/6	I 区 6号 sondage	無文	
	62	陶文土器	深鉢形土器	口径 26 底径 18	底部 1/3 内:ナデ 外:ナデ	内:Hu: 25Y 7/4 外:Hu: 10YR 6/4	I 区 3号 sondage	付属	
	63	陶文土器	深鉢形土器	口径 26 底径 18	底部約 1/4 内:ナデ 外:ナデ	内:Hu: 25Y 7/3 外:Hu: 10YR 7/6	I 区 12635	黄土上 黄土	
20	64	土器器	甕	口径 46 底径 35	縁部 内:ナデ ハケ目 外:ナデ ハケ目	内:Hu: 5YR 5/6 外:Hu: 5YR 5/3	I 区 12635		
	65	土器器	高 壺	口径 46 底径 35	縁部 内:ナデ 外:ナデ、擦き	内:Hu: 75YR 7/6 外:Hu: 5YR 5/8	I 区 12635	付属	
	66	土器器	壺	口径 46 底径 35	口縁部 内:田垣ナデ 外:田垣ナデ	内:Hu: 5YR 6/6 外:Hu: 5YR 6/6	I 区 12635		
	67	土器器	甕	口径 46 底径 35	口縁部 内:ナデ 外:ナデ	内:Hu: 75YR 7/6 外:Hu: 10YR 7/4	I 区 12635	全体削減している	
	68	土器器	甕	口径 46 底径 35	縁部 内:ナデ 外:ナデ	内:Hu: 5YR 6/6 外:Hu: 5YR 6/6	I 区 12635		
	69	土器器	甕	口径 46 底径 35	口縁部 内:ナデ 外:ナデ	内:Hu: 10YR 6/4 外:Hu: 10YR 6/3	I 区 12635 付属: 1号土 坑上り層		
	70	土器器	甕	口径 46 底径 35	1/4 内:田垣ナデ 外:田垣ナデ	内:Hu: 10YR 8/4 外:Hu: 75YR 7/4	I 区 12635	底部亦切り	
	71	埴輪器	壺	口径 46 底径 35	口縁部 内:田垣ナデ 外:田垣ナデ	内:Hu: 25Y 7/2 外:Hu: 5Y 7/2	I 区 12635	青木②付属 下部	
	72	埴輪器	壺?	口径 46 底径 35	口縁部 内:田垣ナデ 外:田垣ナデ	内:Hu: 5Y 5/1 外:Hu: 5Y 4/1	I 区 12635	トレンチ	
	73	埴輪器	甕	口径 46 底径 35	縁部 内:田垣ナデ 外:田垣ナデ	内:Hu: 5Y 6/2 外:Hu: 75Y 6/2	I 区 12635	付属	
	74	石 器	石 磨	口径 25 底径 20.5 高さ 0.25					青灰色黒曜石、重量0.5kg
	75	石 器	石 磨	口径 22.5 底径 13.5 高さ 0.25					サヌカイト、重量0.7kg
	76	石 器	石 磨	口径 25 底径 19.5 高さ 0.5					青灰色黒曜石、重量1.2kg

図	番号	造物	種類(断面)	法長(cm)	形 布 置	特 徴	色 国	出土遺物	備考	
									内	外
20	77	石 節	柱	2.65 柱径 1.75 柱高 0.55					I区	12494
	78	石 節	石 杖	5.6 柱径 4.45 柱高 1.1					I区	12131
	79	石 節	石 杖	1.7 柱径 4.2 柱高 0.7					I区	11642
21	80	陶 瓶	瓶	19.5	口縁部・胴部片	内:ナデ 外:ナデ	内:Hu 5YR 3/3 25YR 3/3	II区	44号地	陶瓶
	81	瓦	瓦		副部片	内:筒軸ナデ 外:筒軸ナデ	内:Hu 25Y 6/1 25Y 6/1	II区	47号	
	82	瓦	瓦		口縁部片	内:筒軸ナデ 外:筒軸ナデ	内:Hu 25Y 6/2 25Y 6/2	II区	被覆瓦	
	83	瓦	瓦	9.8	約1/2	内:筒軸ナデ、削り 外:筒軸ナデ、削り	内:Hu 5Y 6/2 5Y 6/1	II区	被覆瓦	
	84	土器器	环		口縁部片	内:筒軸ナデ 外:筒軸ナデ	内:Hu 10YR 7/4 10YR 6/6	II区	南最下	
	85	土器器	环		口縁部片	内:ナデ 外:ナデ	内:Hu 75YR 7/6 25YR 5/6	II区	丹悟	
	86	土器器	板		口縁部片	内:ナデ、削り 外:ナデ	内:Hu 10YR 6/4 75YR 6/6	II区	被覆瓦	
	87	土器器	板		副部片	内:ナデ 外:ナデ	内:Hu 75YR 7/6 75YR 6/6	II区	被覆瓦	
	88	土器器	高 环		副部片	内:ナデ 外:ナデ	内:Hu 75YR 7/6 75YR 8/6	II区	被覆瓦	
	89	土器器	口		脚部片	内:ナデ 外:ナデ、ハケ日	内:Hu 75YR 7/6 75YR 7/4	II区	22号造地	
90	90	土器器	束		口縁部片	内:筒軸ナデ、削り 外:筒軸ナデ、削り	内:Hu 25YR 6/8 25YR 6/8	II区	38号造地	
	91	土器器	束		口縁部片	内:筒軸ナデ、削り 外:筒軸ナデ、ハケ日	内:Hu 25YR 6/6 5YR 5/6	II区	南最下	
	92	土器器	束		副部片	内:ナデ、工具痕 外:ナデ、ハケ日	内:Hu 75YR 6/6 10YR 6/4	II区		
	93	土器器	束		口縁部片	内:ナデ 外:ナデ	内:Hu 75YR 7/4	II区		
	94	土器器	束		口縁部片	内:ナデ 外:ナデ	内:Hu 5YR 6/6 5YR 6/6	II区		
	95	土器器	見		口縁部片	内:ナデ 外:ナデ	内:Hu 10YR 8/4 10YR 7/4	II区		
	96	土器器	見	26.9	口縁部・胴部片	内:筒軸ナデ、削り 外:筒軸ナデ、ハケ日	内:Hu 75YR 6/4 75YR 6/4	II区	P-13	
	97	弥生土器	束		口縁部片	内:ナデ 外:ナデ	内:Hu 25Y 7/3 25Y 6/2	II区		
	98	弥生土器	束		口縁部片	内:筒軸ナデ 外:筒軸ナデ	内:Hu 10YR 8/3 10YR 7/3	II区	38号造地	
	99	弥生土器	束		口縁部片	内:筒軸ナデ 外:筒軸ナデ	内:Hu 75YR 7/6 10YR 8/4	II区	66号造地	
100	100	弥生土器	束		口縁部片	内:筒軸ナデ 外:筒軸ナデ	内:Hu 25Y 8/2 25Y 7/4	II区	被覆瓦	
	101	弥生土器	束		副部片	内:筒軸ナデ 外:筒軸ナデ	内:Hu 10YR 8/2 10YR 8/4	II区	被覆瓦	帶(外側)
	102	弥生土器	束	6.4	底部・副部片	内:ナデ、ハケ日 外:ナデ、ハケ日	内:Hu 10YR 5/1 25YR 6/4	II区	被覆瓦	外側に吹きこぼれ痕あり。 外側刷毛目文あり
	103	绳文土器	深鉢形土器		副部片	内:酒さ 外:酒さ	内:Hu 10YR 7/3 10YR 5/2	II区	被覆瓦	
	104	绳文土器	深鉢形土器		副部片	内:ナデ 外:ナデ	内:Hu 10YR 8/2 10YR 8/4	II区		
	105	绳文土器	深鉢形土器		副部片	内:ナデ 外:酒さ	内:Hu 25Y 5/4 10YR 6/6	II区	P-17	
	106	绳文土器	深鉢形土器		副部片	内:酒さ 外:ナデ	内:Hu 25Y 5/2 10YR 7/4	II区	P-12	
	107	绳文土器	深鉢形土器		副部片	内:酒さ 外:ナデ	内:Hu 25Y 5/2 25Y 4/1	II区	P-10	
	108	绳文土器	深鉢形土器		副部片	内:酒さ 外:ナデ	内:Hu 25Y 5/2 25Y 4/1	II区	P-11	
	109	绳文土器	深鉢形土器	32.5	口縁部・胴部片	内:ナデ、削り 外:ナデ、削り	内:Hu 75YR 5/6 75YR 6/6	II区	P-5	口縁部下斜文・山形筋に附 付文

（5）まとめ

I 区では、これまで地山と呼び、基本的に無遺物層と認識していた土層下に、縄文時代の早期の遺物包含層が確認できたのは新たに得た知見である。これまで、地山土層上部には縄文時代後晩期の遺物が含まれることは確認されていたが、この地山土層が岩盤層までの間で少なくとも 3 層に分層できることが確認できた。本学の構内調査において縄文時代の遺物がまとまって出土したのは今回が最初である。I 区では検出が想定された古代の遺構はほとんど検出されなかったが、3 層に形成されるはずの古代の遺構がなかったことは、縄文時代の遺物包含層の確認にとっては、幸いしたと言える。

縄文時代早期の遺物は前葉と考えられる時期から中葉までの土器がある。これらはおおむね 4 層から 5 層上部にかけて出土している。遺物検出時は、必ずしも層位の鑑別が出来たわけではないが、3 層はアカホヤ火山灰の二次堆積といわれ早期と前期を分ける土層であるため、早期に属する遺物は 4 層以下の出土と考えて差し支えないであろう。この早期の遺物包含層は 0302 調査地点 I 区のちょうど中央部付近で消えてしまい、遺物も出土しない。道路を隔てた黒髪北地区の南西端に位置する 9802 調査地点ではこの 4・5・6 層は確認できていないが、やはり手向山式を前後する時期の押型文土器が出土している。9802 調査地点では 3 層の下は固い岩盤層であり、押型文はこの 3 層中や岩盤層の窪みに入り込んでいた。9802 調査地点の調査時には、4・5 層を認識できなった可能性もあるが、9802 調査地点では縄文時代（3 層相当）・弥生時代の遺物包含層自体が薄く、4・5 層は明確に形成していなかった可能性が高い。0302 調査地点から 20m 東側に位置する 0210 調査地点では、やはり黒曜石が出土しているが、早期の遺物は含まれていない。もう少し掘下げていたなら、あるいは検出したかもしれないが、4・5 層の南限とその範囲外に位置するため存在しない可能性のほうが高いかもしれない。このようなことから考えると、縄文時代早期の遺物包含層の分布範囲は、黒髪南地区の北側という限られた範囲であると想定される。もちろん、確認できた箇所は本調査地点のみであるため、南地区においてどのように分布するかはまだ不明であり、今後の調査時には注意が必要である。

また、II 区においては南館段丘の境目とそれを巡る溝（堀）が検出され、思いのほか削平が著しいことが明らかになった。ただし、調査区北部を中心に縄文時代後期前半～中葉の土器群が検出されており、縄文時代の遺物包含層がこの一帯に良好な状態で残っていることが明らかになった。また、II 区検出の土器群は I 区と一部時期が重なるものもあるが、中心となる時期を異にしている。両地点は 20mほどしか離れておらず、この一帯が縄文時代の早期～晩期にかけて遺跡が営まれるような立地であったことを物語っている。

縄文土器については、水ノ江和同氏（文化庁文化財部記念物課）に多大なる御教示を賜った。文末ながら、記して感謝申し上げます。

2. 旧図書館工学部分室改修工事に伴う発掘調査（0932調査地点）

（1）調査の目的と経過

a. 調査地と調査経緯

埋蔵文化財調査室が使用していた旧図書館工学部分室を学生用サロンおよび事務局会議室へ改築するための工事である。周辺のライフラインの工事については立会調査で対応していたが、北地区ボイラー室の改修工事の際、基礎部分以外のところには造構や遺物包含層が良好に残存していたという経験から、建物内部の地下ピット建設予定箇所において、試掘を行った。この結果、建物内の地表から約0.8mの深さで、古代の遺物包含層と思われる黒色土を確認した。検出レベルは、建物周囲のアスファルトから8cm程度下である。熊本市文化財課に連絡し、引き続き発掘調査へ移行することとなった。施設部と協議の上、条件整備が整う11月30日より発掘調査を開始することとした。その結果、古代遺物包含層および古代の溝1条を検出した。

この他、関連工事のため2009年11月10日と12月14日に2件の立会調査を実施した。

建物内の地中梁の構造観察のため、2箇所において0.6×0.3mで梁の脇を掘削した。掘り方内であり、造構・遺物の出土はない。地中梁については、当初予定していた掘削の必要がなくなったため、これ以上の掘削はない。

また、周辺の階段・ゴミ置き場の撤去につき立会調査を実施した。階段部分は、基礎石は地表下0.3mの深さであり、撤去には支障はなかった。ゴミ置き場は基礎鉄筋入りコンクリートが厚さ0.6mほどあり、地表下0.5mほどまで削平されていた。造構・遺物は検出できなかった。

調査面積は、地中梁試掘・地下ピット試掘0.98m²、外溝工事立会230.7m²である。

b. 調査の経過

2009年11月30日 一次掘削開始。

2009年12月1日 I区 掘り下げ、西側に溝を確認、掘り始める。

II-1区 埋め土、搅乱掘り。

II-2区 南西隅の1/4の表土を掘り上げ、搅乱も掘って、包含層を掘り下げる。

2009年12月2日 I区 溝(M1) 完掘。

II区 搅乱部分がほぼ終わり、包含層掘削をほぼ終了。北東端にて溝(M1)の西側の立ち上がりを確認している。

III区 包含層をすべて掘り下げる。

2009年12月3日 II区 1号溝(M1) を掘り下げ、完掘。全体清掃後、写真撮影。全体測量。調査終了

c. 調査の組織

調査員：小畠弘己・大坪志子

事務担当：村田知聖

発掘作業員：永田大祐・乍 誠二・森山宏美・白都節子・菊池フミヨ・北村一成・福田鈴子

整理作業員：江口 路・鬼塚美枝・小山正子・神川めぐみ・首藤優子・末吉美紀・谷川優子・高瀬美来・田上 麟・長谷智子・早川 翔・増井弘子・山崎早苗

2. 旧図書館工学部分室他改修工事に伴う発掘調査 (0932調査地点)

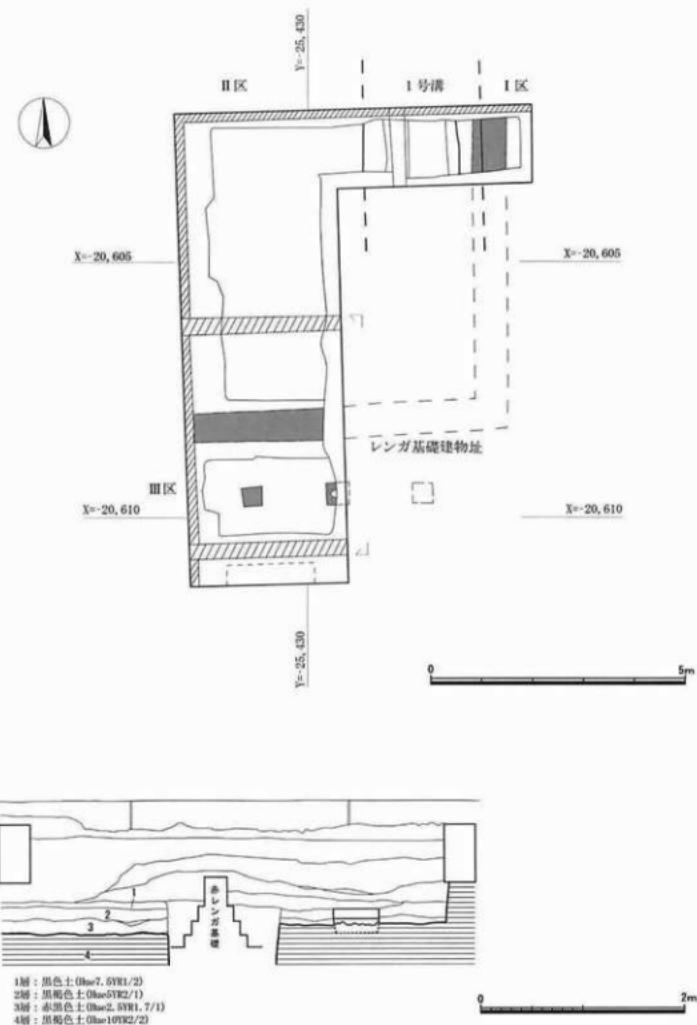


図22 0932調査地点遺構配置図・土層断面図 (1/100・1/50)

(2) 調査区の基本層序 (図22)

建物内部であるため、そのほとんどが建物建設時の埋土であった。レンガ積み建物は1層面(旧表土)を掘り込んで作られており、それを破壊して、同じ面から旧図書館建物の基礎を作っている。梁は旧地表面に接するように作られていた。土層断面包含層は以下のとおりである。

- 1層：黒褐色土 (Hue7.5YR 1/2)、厚さ8cm
 - 2層：黒褐色土 (Hue 5 YR 2/1)、遺物包含層、厚さ12cm
 - 3層：赤褐色土 (Hue2.5YR1.7/1)、遺物包含層、厚さ15~20cm
 - 4層：黒褐色土 (Hue10YR 2/2)、基盤土
- ただし、遺物は分けていない。

(3) 検出遺構

掘削工事は、建物の西側と北側をL字形に掘削するものである。掘削単位ごとに便宜的にI区～III区と呼び分けている。本建物の基礎以外に、それ以前に建てられた建物の基礎(煉瓦つくり)が存在し、旧地表土および遺物包含層を破壊している。この煉瓦基礎は、III区で東西方向、I区で南北方向に延びており、これらはL字形に復元できる。東西方向の煉瓦基礎の南側には方形に煉瓦が組まれた柱礎石が2個ほど確認できた。これら近代以降の建物によって大部分を破壊されていたが、北西部には遺物包含層が残っており、北東部では削平を免れた溝を1条検出した。ただし、溝(1号溝)は包含層を切り込んだような状況は確認できなかった。また、包含層(暗褐色土)下部からは大きな須恵器片なども出土しているが、ニガラしき固い面の上にのっており、当初はこれを窓穴住居址の硬化面とも考えたが、住居状のプランを確認できず、さらにニガがIII区まで広く広がることから、下部層に含まれるニガと判断した。よって、II区とIII区には遺構は存在しないものと思われる。

<1号溝> (図22)

唯一検出した1号溝は、推定幅2mほどで、中間部に一段下がる二段掘りの断面形を示す。土師器や須恵器の小片が出土しており、古代の遺構と思われる。

(4) 出土遺物

遺物はII・III区の遺物包含層(2・3層)からおもに出土した。須恵器・土師器の小さな破片のみであるが、中に黄釉陶器の水注の把手部分の破片(図23:1)があった。把手の下に貼花文をあしらい、この部分に褐釉を掛けるこのタイプの水注は、唐の長沙窯のもので、越州窯青磁・唐三彩とともに8世紀代の初期貿易陶磁器のボビュラーな製品の一つである。釉の剥離が著しい。2はヘラで記号

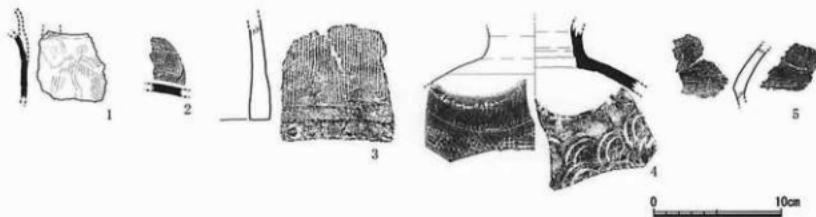


図23 0932調査地点出土遺物実測図 (1/4)

2. 旧国吉工学部分室改修工事に伴う発掘調査（0932調査地点）

表6 0932調査地点出土遺物一覧表

地番	名号	遺物	種類(基盤)	位置(cm)	埋存量	特徴	色 国	出土遺物	備考
23	1	縦轍(共沙)	木注	上層 底付 高井 跡	腹部片	内:ナゲ 外:ナゲ	内:Hue 10YR 7/1 外:Hue 5Y 8/1	II区 1号窓	須恵の神化文上に褐色輪
	2	須恵器	蓋	上層 底付 高井 跡	腹部片	内:同軸ナゲ 外:同軸ナゲ	内:Hue 7SY 6/2 外:Hue 10Y 6/1	II区 1号窓	報告・ヘラ起立?
	3	土師器	移動式壺	上層 底付 高井 跡	底部片	内:削り 外:削り、ハケ目	内:Hue 10YK 7/4 外:Hue 5YK 6/8	II区 1号窓	
	4	須恵器	壺	上層 底付 高井 跡	腹部片	内:ナゲ、タタキ、 同軸ナゲ 外:同軸ナゲ、タタ キ	内:Hue 7SY 6/1 外:Hue 7SY 6/1	I区 梶丸	
	5	縄文土器	深鉢形土器	上層 底付 高井 跡	腹部片	内:滑さ 外:滑さ	内:Hue 10YR 7/4 外:Hue 10YR 7/4	I区 1号窓	外側に斜突支あり

もしくは文字を刻んだ須恵器の蓋片である。3は移動式の壺の底部の破片である。3は須恵器の壺形土器の破片である。5は縄文時代後期後半の深鉢形土器の破片である。

(5)まとめ

今回の調査は、遺構や遺物こそ豊富ではなかったが、建物の地下にも十分に遺構や遺物が残存していることを証明した事例である。これまで、同様の事例は、黒髪北地区ボイラー室改修工事に伴う発掘調査（0854調査地点）や渡鹿地区の体育館耐震改修工事に伴う発掘調査（0819調査地点）などがある。最近の構内における建設工事は改修工事が多く、今後もこのような観点から、工事に際しては細心の注意を払う必要があろう。

黒髪町遺跡は古代官衙聚落の駅推定地である。この本学黒髪南地区における既往の調査でも古代道路と思われる溝や南北方向に配置された掘立柱建物址や屋敷地を囲う長方形の区割り溝も検出されている。ただし、本地点周辺ではこれまで縫穴住居址や小さな溝が検出されているだけで、官衙関連施設や有力層の存在を示す遺物はこれまで発見されていなかった。今回発見された長沙窯の褐釉水注は、破片ではあるが、8世紀代においてこのような貴重品をもつて有力層が存在したことを裏付ける重要な資料となった。

3. エコロジーシステム実験室接地工事に伴う発掘調査(0938調査地点)

(1) 調査の目的と経過

a. 調査地と調査経緯

理学部において計画されたエコロジーシステム実験室(9907調査地点)のアース設置工事に伴う発掘調査である。すでに本体プレハブの建設時の発掘調査により、縄文時代の遺物包含層があることが判明していた。工事予定区のうち、プレハブの南側に南北に平行する配線部分は地表下1.0mほど掘削予定であり、そこからプレハブに繋がる部分は地表下0.35mであるので、とくに深い南北部分について掘削に立ち会った。立会調査は2010年1月14日に実施した。

その結果、地表下0.5~0.6mで暗褐色の遺物包含層が現れ、その中から縄文土器数片が出土した。また、北側配線部の東端では幅1.0mほどで断面形がV字形の黒褐色土を含む溝状構造が検出されたため、掘削工事を中止し、発掘調査が必要であると判断し、関連部局と発掘調査にむけて協議を開始した。なお、縄文時代の包含層直前までで掘削をとめ、北側のトレンチをトレンチI、南側のトレンチをトレンチIIと呼称することとした。

理学部との協議の結果、発掘調査は2010年2月17日より開始した。発掘調査面積は、二つのトレンチを合わせて $10m^2$ であった。

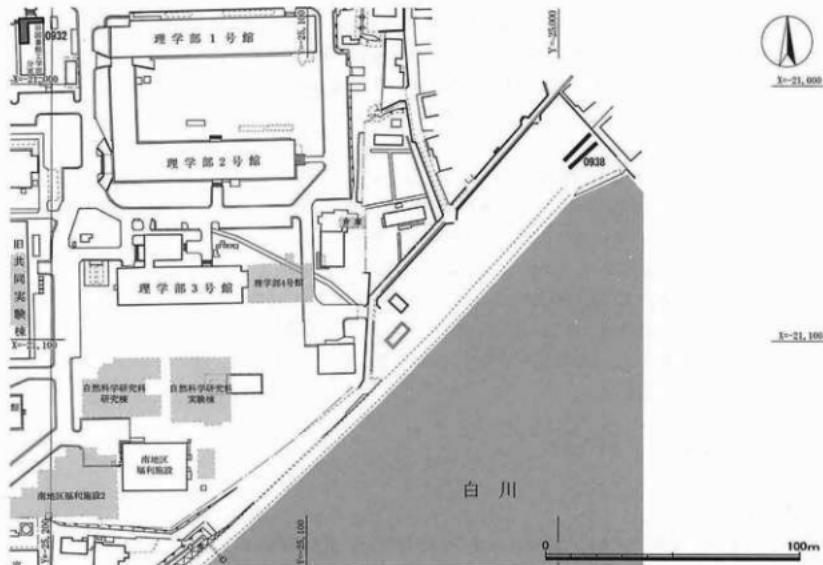


図24 黒髪南地区(東部)における調査地点配置図(1/2000)

3. エコロジーシステム実験室接地工事に伴う発掘調査（0938調査地点）

b. 調査の経過

- 2010年2月17日 作業員を投入して、包含層および遺構を掘り始める。
- 2010年2月18日 トレンチⅠの南側の2回目の掘り下げを行う。鎌崎式土器の鉢の口縁部が発見される。1号溝の圓面を取り、石を取り除き、下まで掘り下げる。トレンチⅡ2号溝を掘り上げ、実測の後、1号溝を掘り上げる。
- 2010年2月19日 トレンチⅠの包含層の3回目の掘り下げを行い、トレンチⅠとトレンチⅡの全体写真を撮影する。トレンチⅠの遺物を取り上げ、トレンチⅡも1号溝・3号遺構の実測と西側6点ほどどの遺物を実測し、取り上げる。その後、1トレンチ北側壁面の土層の写真撮影と実測を行う。トレンチ位置の測量点を行う。発掘を終了する。

c. 調査の組織

調査員：小畠弘己・大坪志子

事務担当：村田知聖

発掘作業員：菊池フミヨ・北村一成・乍 誠二・白都節子

整理作業員：江口 路・鬼塚美枝・小山正子・神川めぐみ・首藤優子・末吉美紀・谷川優子・高濱美来・田上 慶・長谷智子・早川 翔・増井弘子・山崎早苗

(2) 調査区の基本層序（図26）

I トレンチを基本にして述べる。土層は基本的に8枚に分離できる。1～4層までが現代の埋土である。5層が近世・近代、6層が古代、7層・8層が縄文時代包含層と考えられる。古代の遺物は、搅乱土の中に磨耗したものが若干数認められるので、本来は包含層があったものと思われるが、5層によって削平されたものと思われる。古代と思われる6層は部分的にしか確認できていない。以下、5層以下の土層の特徴を述べる。

5層（黒褐色土層：Hue7.5YR 2/2、固くしまる）近世・近代耕作土？

6層（黒褐色土層：Hue10YR 3/2、やわらかい）古代相当層

7層（黒褐色土層：Hue7.5YR 3/2、やわからい）遺物包含層

8層（褐色土層：Hue7.5YR 4/4、やわらか） 遺物包含層

7層と8層からは縄文時代の遺物が出土しているが、層位ごとに遺物の型式が区分できる出土状況ではない。9層は無遺物層であり、地山層である。トレンチⅠの西側ではまだ露出していないが、トレンチ中ほどで露出しており、西側へいくに従い低くなるものと思われる。遺物はこの傾斜の低い部分に集中する傾向がある。

(3) 検出遺構

<溝>

1号溝（図26）

トレンチⅠの東端で検出した幅1.5m、深さ0.8mの断面V字形の溝である。トレンチⅡまで延びている。トレンチⅡでは2号溝に切られているが、幅80cm、深さ35cmほどが残っていた。底面近くは幅80cmほど2段掘りされているが、この状況はトレンチⅡでは確認できなかった。トレンチⅠでは、この2段掘り上面に人頭大の躰4個ほどが投げこまれていた。覆土はやわらかい暗赤褐色～黒褐色の

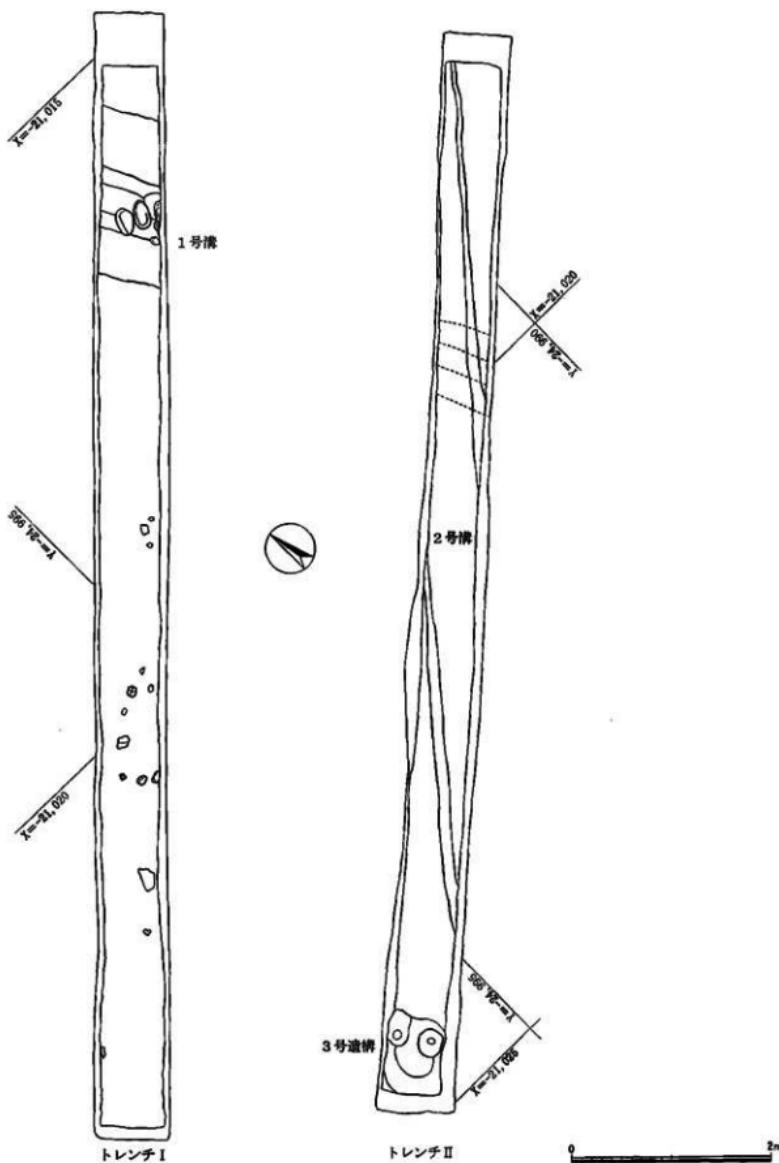


図25 0938調査地点遺構配置図（1/50）

3. エコロジーシステム実験空地工事に伴う発掘調査 (0938調査地点)

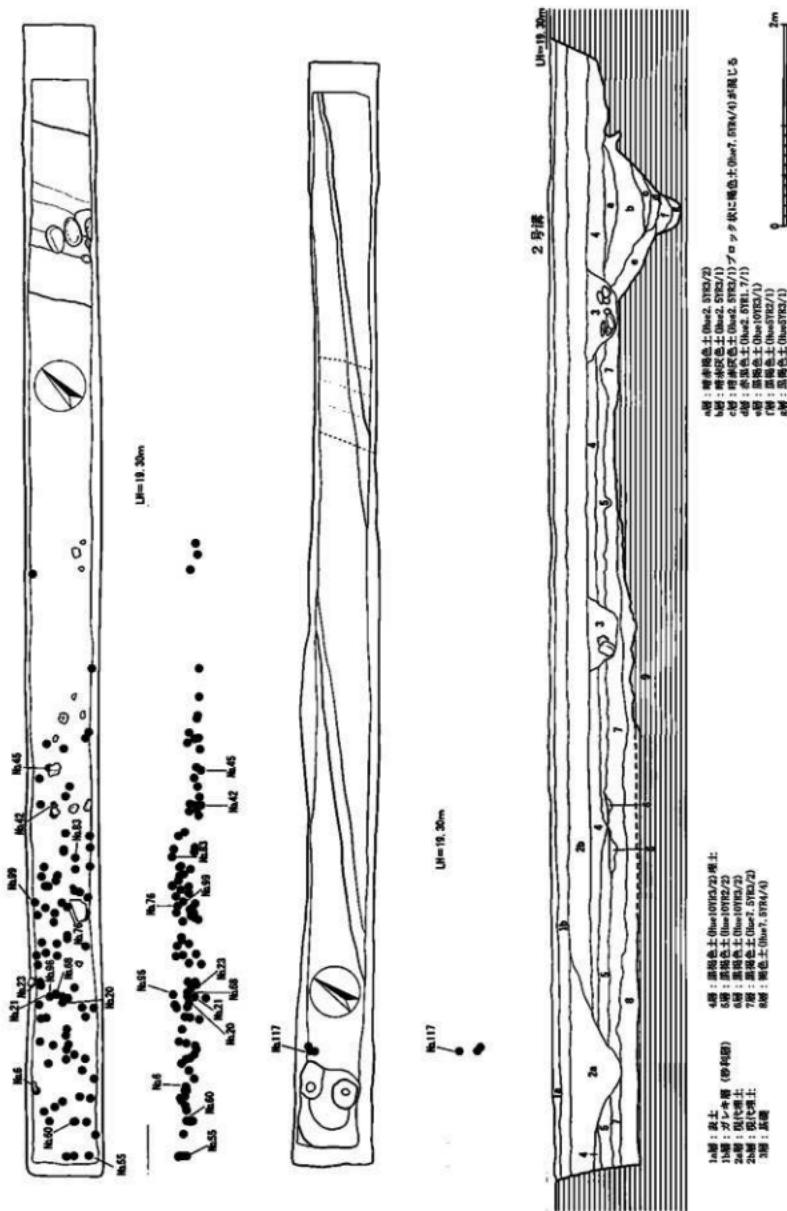


図26 純文土器出土状況および土層断面図 (1/50)

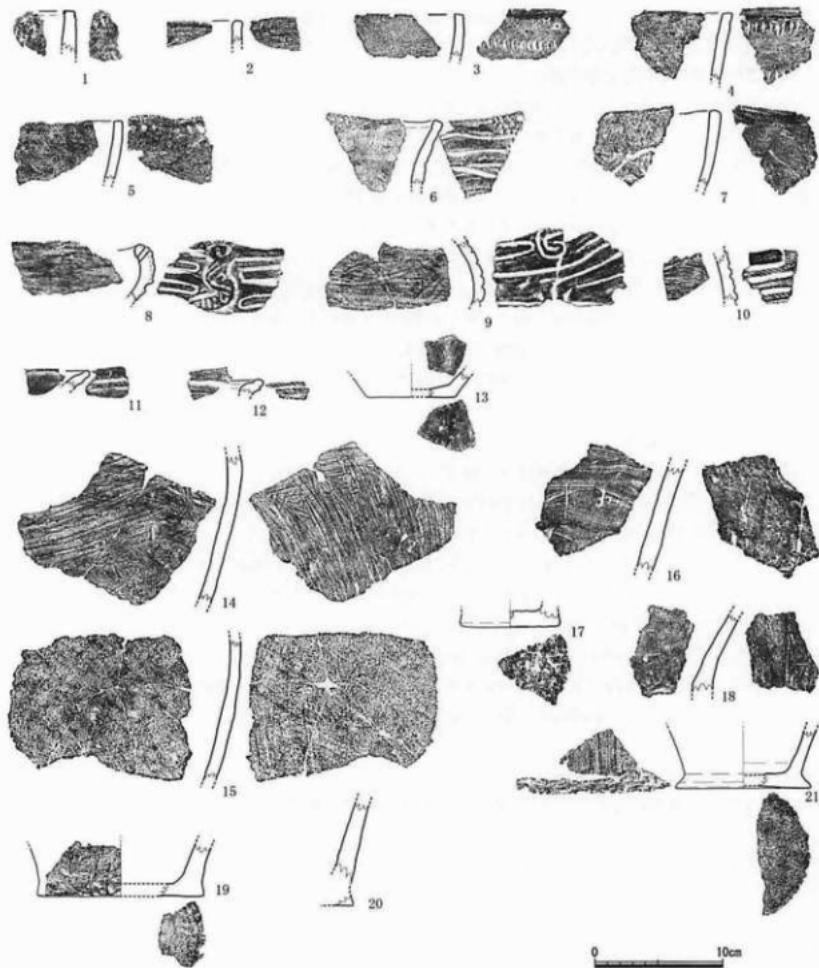


図27 0938調査地点縄文土器実測図（1/4）

土である。溝の方向は北から西に40度ほど振れている。水の流れは、底面の高さからみて、北から南方向と推定される。時期はトレンチIIの部分で、弥生土器の壺形土器の小片を検出しているが、覆土の状態からみて、古代以降のものと思われる。

2号溝（図26）

トレンチII全城にはほぼ重なるように東西方向の方位をもつ幅0.8m、深さ0.2mの溝である。断面形はU字形を呈する。掘り込みの面はこれより数十センチは高かったものと思われる。1号溝を切る

ため、それより新しく、やや灰色を帯びた暗褐色土であり、近世・近代のものと思われる。出土遺物は縄文土器のみで、時期を示すものは出土していない。

＜縄文時代遺物包含層と集中区＞

溝を検出後、これらが切り込む暗褐色土を掘り下げ、縄文土器およそ120点を検出した。遺物の分布状況をみると、トレンチⅠは西側に一部搅乱層があり込んでいるが、ほぼ縄文の包含層が良好に残っており、厚さ20cmほどの遺物が含まれる。土器の破片は20cmほどの大きさのものもあり、疊が周辺から出土する。この集中区は住居址である可能性も想定されたが、先にも述べたように、自然の地形の傾斜に起因するものと思われる。それを証明するように、トレンチの東側へ行くと、8層が地形の上昇とともに消失しており、遺物がまれとなる。さらに、トレンチⅡは調査区西側の一部から数点出土したのみであり、これを裏付けている。これは隣接する9907地点の調査（埋蔵文化財調査室年報6）でも縄文時代の遺物が集中する部分が地形が傾斜して低くなる調査区の南部隅に偏っており、これと一連のものと思われる。今回、遺物は117点を位置を記録して取り上げた。図26中の黒ドットの番号は取り上げ番号であり、図示した遺物の出土位置を示す。表7を参照されたい。

（4）出土遺物（図27）

縄文土器のはほとんどは胴部～底部までの破片で、文様をもつ口縁部付近の破片は10点にも満たないものである。図示した口縁部破片は、御手洗A式、小池原上層式、鐘崎式の特徴をもつことから、これらの土器群は後期前葉に属するものと思われる。

図27：1～4は口縁部もしくは口縁部外面に爪形の刺突文をもつ深鉢形土器の破片である。図：27：2は口唇外面に刺突文がある。器壁は薄く、口縁部は直口でやや外傾もしくは内渦気味を呈する。これらが御手洗A式土器の深鉢形土器であろう。図27：5～7は山形の口縁部をもつ深鉢形土器である。図21：7は無文、同5は浅い刺突文、同6は山形口縁の頂部に刺突文、外面に波状弦文を施す。小池原上層段階の土器である可能性がある。図27：8～12は鐘崎式土器の鉢形土器である。同9のみ磨消縄文をもたない。口縁破片（図27：8）は丹塗りが施されている。

表7 0938調査地点出土遺物一覧表

番号	遺物	種類(経緯)	測定(cm)	発 究 層	特 徴	色 調	出土遺物	備考
27 1	縄文土器 深鉢形七脚 直口	口縁部片	内:ナダ 外:弱さ	内:Hu 7SY 3/2 外:Hu 7SY 5/2	口トレンチ3号遺構 上層	口トレンチ3号 上層		
2	縄文土器 深鉢形七脚 直口	口縁部片	内:ナダ 外:ナダ	内:Hu 10YR 4/1 外:Hu 10YR 4/2			No21	上面系形文
3	縄文土器 深鉢形七脚 直口	口縁部片	内:ナダ 外:ナダ	内:Hu 2SY 5/3 外:Hu 5Y 4/2			No60	外側瓜形文
4	縄文土器 深鉢形七脚 直口	口縁部片	内:ナダ 外:ナダ	内:Hu 10YR 5/3 外:Hu 10YR 5/4			No76	外側瓜形文
5	縄文土器 深鉢形七脚 直口	口縁部片	内:ナダ 外:ナダ 弱さ 前さ	内:Hu 10YR 4/3 外:Hu 10YR 5/4			1号機	外側口縁部刺突文
6	縄文土器 深鉢形七脚 直口	口縁部片	内:弱さ 前さ	内:Hu 2SY 4/1 外:Hu 2SY 5/2			口トレンチ3号遺構 上層	上面削り立 内面削り立 内面刺突文
7	縄文土器 深鉢形七脚 直口	口縁部片	内:ナダ 外:ナダ	内:Hu 2SY 5/3 外:Hu 10YR 6/3			2号機	内外面ヌスあり
8	縄文土器 鉢形七脚 直口	口縁部片	内:弱さ 弱さ	内:Hu 10YR 3/1 外:Hu 10YR 3/2			No83	磨消縄文
9	縄文土器 鉢形土器 直口	腹部片	内:ナダ 外:ナダ 弱さ	内:Hu 2SY 5/4 外:Hu 7SYR 3/1			No42・No96	
10	縄文土器 鉢形土器 直口	腹部片	内:弱さ 弱さ	内:Hu 10YR 2/1 外:Hu 10YR 3/2			No23	磨消縄文
11	縄文土器 鉢形土器 直口	口縁部片	内:ナダ 外:ナダ 弱さ	内:Hu 2SY 5/6 外:Hu 2SY 5/6			No117	円筒文

番	番号	遺物	種類(器種)	法長(cm)	埋存層	特徴	色 因	出土場所	圖号
27	12	縄文土器	鉢形土器 底付 器底	口径部	内:ナデ 外:ナデ	内:Hue 5YR 5/6 外:Hue 5YR 5/6	2号床	内斜面付側面	
	13	縄文土器	鉢形土器 底付 器底	7	底部片	内:削き 外:削き	内:Hue 10YR 5/4 外:Hue 75YR 5/4	No69	
	14	縄文土器	深鉢形土器 底付 器底		底部片	内:ナデ 外:ナデ	内:Hue 10YR 4/3 外:Hue 75YR 4/3	No65・IIトレンチ裏 底	
	15	縄文土器	深鉢形土器 底付 器底		底部片	内:ナデ 外:ナデ、削き	内:Hue 25Y 6/1 外:Hue 10YR 6/3	No6	
	16	縄文土器	深鉢形土器 底付 器底		底部片	内:ナデ 外:ナデ	内:Hue 25YR 4/2 外:Hue 10YR 5/4	舎内場	
	17	縄文土器	深鉢形土器 底付 器底	底部1/5	内:ナデ 外:ナデ	内:Hue 25Y 6/1 外:Hue 25Y 7/1	2号床		
	18	縄文土器	深鉢形土器 底付 器底		底部片	内:ナデ 外:ナデ、削り	内:Hue 25Y 5/3 外:Hue 75YR 6/6	IIトレンチ1号床	
	19	縄文土器	深鉢形土器 底付 器底		底部片	内:ナデ 剥り 外:ナデ、削り	内:Hue 10YR 6/4 外:Hue 5YR 6/6	2号床	
	20	縄文土器	深鉢形土器 底付 器底	106	底部片	内:ナデ 外:ナデ	内:Hue 10YR 4/1 外:Hue 75YR 6/6	2号床	
	21	縄文土器	深鉢形土器 底付 器底		底部片	内:ナデ 外:ナデ	内:Hue 25Y 3/1 外:Hue 25Y 6/4	No60・No68	

(5)まとめ

今回、白川沿いの地点において以前確認されていた縄文時代の包含層を調査し、その広がりを確認した。幅0.8mほどのトレンチではあったが、縄文土器の分布状況を追認でき、これらの集中区がより南側へ広がることが判明した。今回検出した土器の時期は縄文時代後期前葉を中心としており、隣接する9907調査地点でも御手洗A式土器が検出されていることから、本地点はほぼ同期の比較的短い期間に形成された遺跡といえよう。また、白川を挟んで、対岸には北久根山貝塚があり、当地一帯が後期の前葉から中葉にかけての遺跡が広がることが予想される。今後は、今回発掘した遺物の分布がどのような広がりをもつのか、また、住居址などの遺構を伴うのかなど、周辺の調査に期待したい。

IV 本荘北地区の調査

1. 本荘団地北地区防火水槽取設工事に伴う発掘調査（0426調査地点）

（1）調査の目的と経過

a. 調査地と調査経緯

大学病院管理棟の玄関前に防火水槽を建設する工事であり、2005年2月4日に試掘を行い、地表下1.5mで溝状の遺構を確認した。このため、市文化課に連絡し、発掘調査の許可をもらい、発掘調査に切り替え、2月8・9日に調査を実施した。この結果、北東～南西方向に延びる溝2条を検出した。溝内からは磁器や陶器片のほか、馬の下顎骨や銅鏡（北宋鏡）なども出土した。調査面積は84m²である。

b. 調査の経過

2005年2月8日 調査開始。1・2号溝を検出。掘り下げる。

2005年2月9日 遺構完掘削。清掃の後写真撮影。遺構実測。調査完了。

c. 調査の組織

調査員：小畠弘己

事務担当：前田知聖

発掘作業員：押方富江・小細工洋子・林田恵子・番山明子・福田久美子・松本和徳・宮村邦子

整理作業員：江口路・鬼塚美枝・小山正子・古賀敬子・古閑満代・首藤優子・末吉美紀・瀧澤俊

子・早田咲百合・増井弘子・山崎早苗

（2）調査区の基本層序（図29）

調査区北壁で確認した。1・2層は埋土である。それ以下は3層：黒褐色土（Hue7.5YR 2/2）が1.0mほど厚く堆積しており、その下にレンズ状に4層：黒褐色土（Hue 5 YR 2/1）と5層（Hue7.5YR 3/1）が30cmほどの厚さで堆積している。これらの層は周辺の調査地点でみられる堆積土とは異なっており、2号溝自体の覆土の可能性もある。

（3）検出遺構

<溝>

1号溝（図29）

調査区西側を北東～南西方向に流れる断面逆台形の溝である。幅1.0m、深さ0.6mを測る。2号溝とは並走しており、一連の溝である可能性がある。

2号溝（図29）

調査区中央を北東～南西方向に流れる幅3.5m、深さ2.0mあまりの溝である。断面形は緩やかな逆台形を呈する。

（4）出土遺物

1号溝出土遺物（図30：1～5）

図30：1・2は陶器碗、図30：3は染付皿、図30：4は染付碗、図30：5は陶器碗である。1は海鼠釉をかける黒い胎土であり、2は京焼風の胎土と釉である。5は黒褐～緑色の釉を掛ける。

1. 本荘団地北地区防火水槽取設工事に伴う発掘調査（0426調査地点）

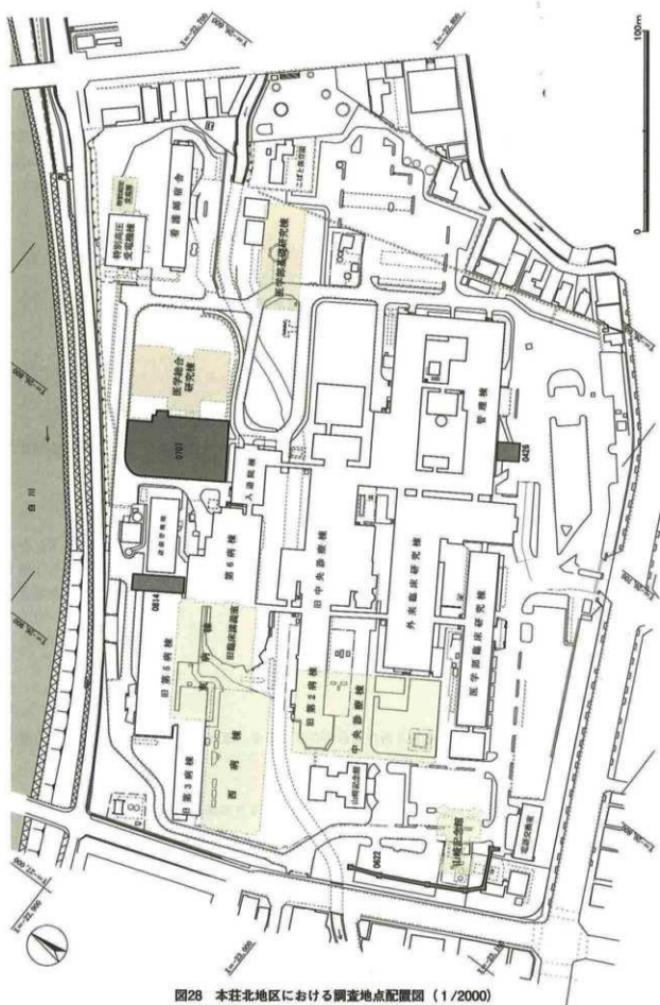


図28 本荘北地区における調査地点配置図（1/2000）

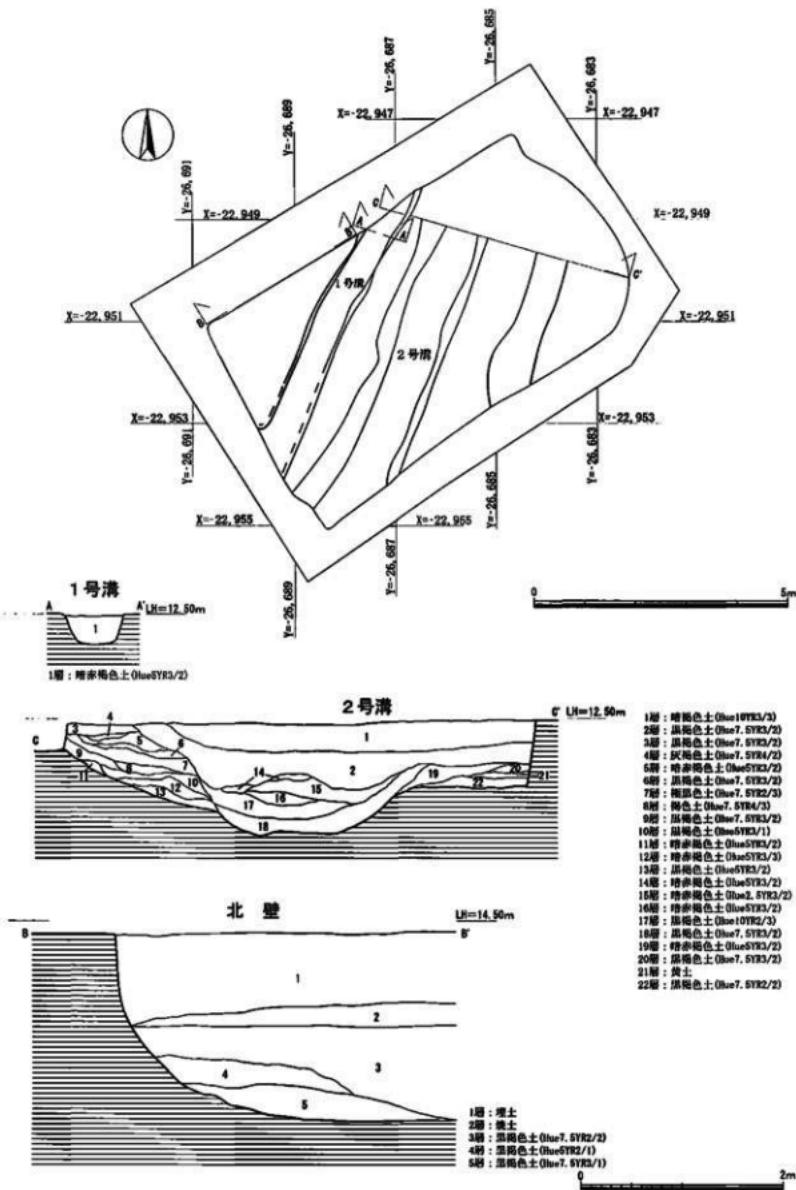


図29 0426調査地点造構配置図・溝・北壁土層断面図 (1/100・1/50)

1. 本庄団地北地区(防火水槽取設工事に伴う発掘調査 (0426調査地点)

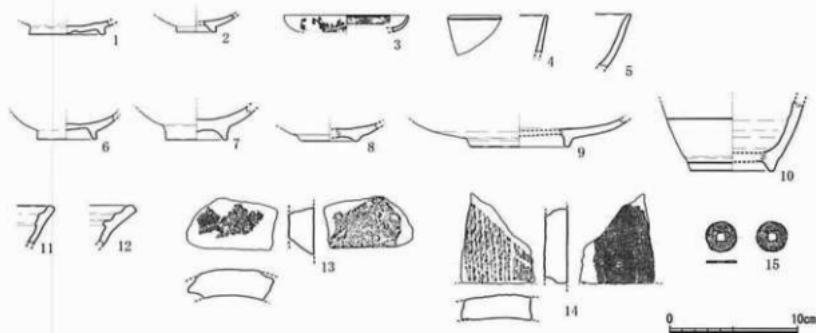


図30 0426調査地点1・2号溝出土遺物実測図 (1/4)

2号溝出土遺物 (図30: 6~15)

図30: 6は刷毛目文様、図30: 7は海馬軸、図30: 8は白灰色釉の陶器の碗である。図30: 8の底部は露胎である。図30: 9は陶器の大皿であるが、やや赤みがかった白色の釉薬が厚く掛かっている。図30: 10はやや青みがかった色調の染付の徳利もしくは壺である。図30: 11・12は陶器擂鉢の口縁部破片である。口縁部のみ褐釉を掛ける。図30: 13・14は砂粒が多く入る胎土を用いた平瓦の破片である。外面は粗い布目による叩きが施され、内面にはより細やかな布目の圧痕をとどめる。図30: 15は北宋銭である。1号溝・2号溝ともいずれも19世紀以降の所産と考えられる。

(5)まとめ

今回の調査は周辺に既往の調査例がなく、新たな知見といえよう。白川南岸に位置する本地区を含めた本庄遺跡群内にはいく筋もの自然流路や人工的な濠や溝が巡っている。とくに医学部校舎の所在する本庄中地区は古代～近代にかけての数多くの溝や濠が検出されている。今回検出した近世末もしくは近代の溝もその一つと思われるが、このおおよそ北方向から流下する溝がどのような方向へ向かうのか、現在のところ詳らかな情報を持たない。今後の周辺での調査に期待したい。

表8 0426調査地点出土遺物一覧表

図 番号	遺 物	種類(断面)	法 量(cm)	残 存 量	特 徴	色 調	出土遺物	備 考
30 1	陶 器	碗?	L18W 底径 59	底部のみ約 1/2	内:ナデ 外:ナデ、削り	内:Hu 73Y 5/2 外:Hu 10YR 3/3	1号溝	
2	陶 器	碗	L18W 底径 3	底部・側面部	内:ナデ 外:ナデ、削り	内:Hu 10YR 7/4 外:Hu 10YR 7/2	1号溝	京焼風灰土
3	染 付	小 盆	L18W 底径 98	口縁部	内:ナデ 外:ナデ	内:Hu 青白色 外:Hu 青白色	1号溝	
4	染 付	碗	L18W 底径 46	口縁部	内:ナデ 外:ナデ	内:Hu 青白色 外:Hu 青白色	1号溝	
5	陶 器	碗	L18W 底径 46	口縁部	内:ナデ 外:ナデ	内:Hu 25GY 3/1 外:Hu 25GY 3/1	1号溝	
6	陶 器	碗	L18W 底径 46	約1/3	内:ナデ 外:ナデ	内:Hu 25Y 6/3 外:Hu 10YR 5/3	2号溝 (中部) 蔽下 層	
7	陶 器	碗	L18W 底径 48	1/3	内:ナデ 外:ナデ、削り	内:Hu 10RG 4/1 外:Hu 10RG 4/1	2号溝上層	
8	陶 器	碗	L18W 底径 46	底部1/2	内:ナデ 外:削り	内:Hu 10Y 7/1 外:Hu 75YR 5/4	2号溝上層	

図	番号	遺物	種類(断面)	地盤 (cm)	性質	特徴	色 因	出土場所	雷 帯
30	9	陶 瓶	大瓶 底径 7.8	温都・断部片	内:ナデ 外:ナデ	内:Huue SY 6/1 外:Huue SY 6/2	2号傍(中部)底下 層		
	10	角 片	口付 底径 6.6	底部約1/6	内:断面ナデ 外:ナデ	内:Huue IOYR 7/3 外:Huue IOYR 7/2	1分層・2分層北側 底下層)・2号傍中 部底上層		
	11	陶 瓶	厚 瓶 底径 高さ	口縁断片	内:ナデ 斜り 外:ナデ	内:Huue 7SYR 3/2 外:Huue 7SYR 2/2	2号傍北側底下層		
	12	陶 瓶	横 瓶 底径 高さ	口縁断片	内:ナデ 斜り 外:ナデ	内:Huue IOYR 2/2 外:Huue IOYR 2/2	2号傍中部底下層	斜毛目文様	
	13	瓦	寿目瓦 底径 高さ	破 片	内:布目 外:ナデ	内:Huue 2SY 7/1 外:Huue 2SY 7/2	2号傍南側底下層	布目	
	14	X	寿目瓦 底径 高さ	破 片	内:布目 外:タヌキ	内:Huue 2SY 7/2 外:Huue 2SY 6/2	2号傍最下層	布目	
	15	鋼 鋼	烏牛通寶 長さ 幅 厚さ	2.45 2.3 0.15	ねじ形	内: 外:	内:Huue 外:Huue	2号傍	成長21g. 風化銀済

2. 基幹環境整備（西側駐車場等）に伴う発掘調査（0622調査地点）

（1）調査の目的と経過

a. 調査地と調査経緯

中央診療棟の建設後その西側に駐車場を整備する工事である。9箇所ほどを掘削し、建設予定地内の全体的な遺構の残り具合を把握することとした。

人孔No6では地表下2.1mで包含層が検出された。遺構面は地表下2.3mの部分にある。土師器細片1片が出土した。

枡No56の地点では地表下1.5mで粘性の強い近代の溝もしくは埋め土と思われる層を確認。地表下2.2mまで下げるとき近代の陶磁器や瓦片が出土した。

人孔No9では地表下2mまで下げるとき、途中1.5mの深さで上記枡地点と同じく近代陶磁器が出土した。

枡No20の地点では地表下1.3mまで掘り下げるが砂層と褐色の砂質土の互層であり、遺物・遺構ともに検出できなかった。

枡No9の地点は地表下1.4mまで下げるが、途中この一帯の台地部で検出される古代遺物包含層である黒褐色土層が確認できたため、精査を行ったが、遺物や遺構は検出できなかった。

枡No31の地点は地表下1.3mまで下げるが、大部分がゴミ穴で搅乱されており、わずかに破壊されていない部分で砂質土が検出されたものの、遺物・遺構ともに発見できなかった。

予定地内の中央部に位置しているクスノキの大木の根を抜く工事では、1.9mほど掘削したが、砂質土のみで、遺構・遺物ともに検出していない。

おそらく山崎記念館の北側から中央診療棟にかけて深い谷が入っており、地表下2mほど下げるとき近代の遺物が出るのみで、古代の遺構面には達していない。これに対して南東部では地表下1.8mほどで遺構や遺物包含層が検出されるという状況である。

このうち、山崎記念館の南側から西側へ抜ける部分の排水管付設のため、2mほど掘り下げる工事の際、南側の調査区と西側のL字形状の角部分で古代の遺構・遺物を検出した。このため、発掘調査に切り替え、2日間で発掘調査を終了した。遺構は竪穴住居址1基および溝1条であり、この両者の間はすべて搅乱されていた。

全体の調査対象面積は8077.5m²であり、発掘調査を実施した面積は50.68m²であった。

b. 調査の経過

2006年10月27日 立会途中で古代包含層らしき土壤を発見したので、重機で搅乱層および埋土を除去した後、壁に矢板を設置して、人力によって搅乱を掘り下げ、1号竪穴住居址を検出した。立会調査から発掘調査に切り替え、その日のうちに1号竪穴住居址の床面をほぼ掘り終えた。

2006年10月30日 2号溝掘り上げ、全体を清掃し、遺構の写真撮影を行う。測量基準点を測量システムで測量し、全体図は手書きによって実測した。その後、1号竪穴住居址の掘方を検出し、写真撮影後、実測し、調査を完了した。

c. 調査の組織

調査員：小畠弘己

事務担当：中川木綿子

発掘作業員：今村明美・早田咲百合・前田
日出男・森川 譲・森川征
子・森田 登

整理作業員：江口 路・鬼塚美枝・小山正
子・古賀敬子・古閑満代・泗
水直子・首藤優子・末吉美
紀・瀬潤俊子・長谷智子・増
井弘子・山崎早苗

(2) 調査区の基本層序

調査区の基本土層は、地表部分から13mまで埋土層（1層）、その下部が近世と思われる2層：黒褐色土層（Hue10YR 3/1）、その下部に水田もしくは畠の土壤と思われる3層：黒褐色土層（Hue5 YR 3/1：厚さ20cm）、マンガンの沈殿層である4層：赤黒色土層（Hue25YRL7/1：厚さ10cm）、周辺の調査地点で古代～縄文時代の遺物を含む層に相当する5層：黒褐色土層（Hue7.5YR 3/1：厚さ25cm）がある。遺構はこの5層中から掘り込まれている。基盤土は暗褐色（Hue7.5YR 3/3）のシルト質土層である。

(3) 検出遺構

<竪穴住居跡>

1号竪穴住居址（図31）

調査区の東端で検出した竪穴住居と思われる遺構である。調査区隅に住居址のコーナー部分を検出した。住居址の覆土は黒褐色土（Hue5 YR 3/1）である。住居址の深さは検出面から5～10cmである。床面と思われる部分硬化面が確認でき、その上には、少量の土器片とともに多量の焼土、砂岩ブロックが散乱した状態であった。時期を示す明確な遺物は出土していないが、周辺地点の調査成果からみて、本構造の竪穴住居址は8世紀後半代のものと推定される。

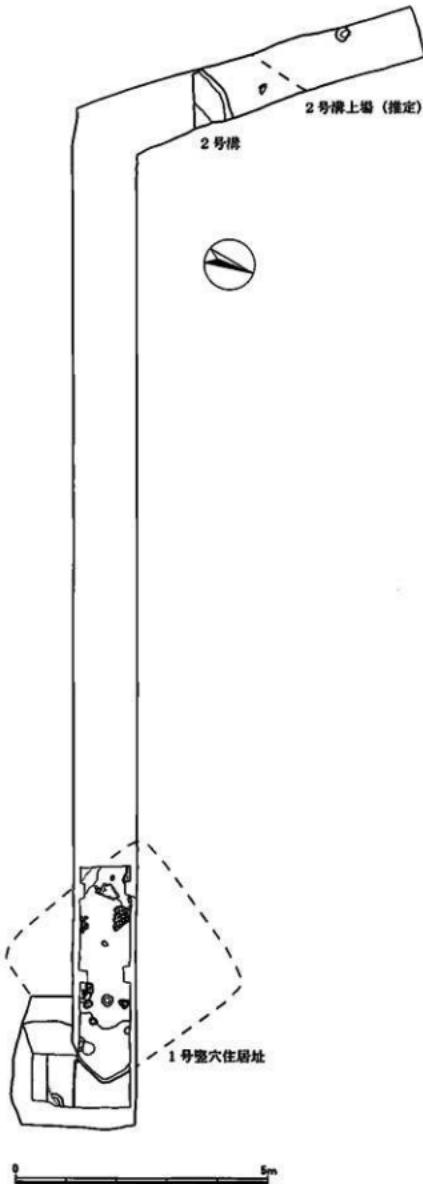


図31 0622調査地点遺構配置図 (1/100)

2. 基幹環境整備（西側駐車場等）に伴う発掘調査（0622調査地点）

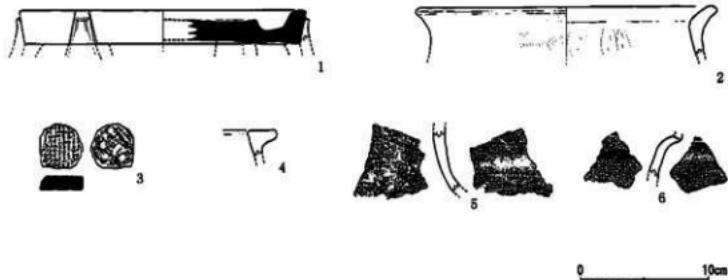


図32 0622調査地点出土遺物実測図（1/4）

表9 0622調査地点出土遺物一覧表

図	番号	遺物	推定(器種)	法面(cm)	性 界	特 徴	色 国	出土遺構	備考
32	1	須恵器	円盤状	口: 22.3 底: 18.5 厚: 2.5	約1/4	内: 斜板ナギ、ナギ 外: 圆板ナギ、圓板	内: Hu 5Y 5/1 外: Hu 5Y 5/2	2号溝上層	外側に自然縫あり
	2	土師器	壺	口: 23.6 底: 18.5 厚: 2.5	口縁部	内: ナギ、削り 外: ナギ、ハケ目	内: Hu 10YR 7/4 外: Hu 10YR 7/4	2号溝上層	
	3	須恵器	円 盘	口: 35 底: 33 厚: 1.1		内: タキ 外: タキ	内: Hu 25Y 4/1 外: Hu 25Y 4/3	西側住居跡 梁瓦	再加工
	4	弥生土器	壺	口: 18.5 底: 15.5 厚: 2.5	口縁部	内: ナギ 外: ナギ	内: Hu 10YR 6/3 外: Hu 25Y 7/4	1号窓穴住居址上部 西半	
	5	縄文土器	深鉢形土器	口: 25 底: 18 厚: 2.5	頭部片	内: 滑き 外: 滑き	内: Hu 7.5YR 5/6 外: Hu 7.5YR 5/6	1号窓穴住居址櫛化面下	
	6	縄文土器	深鉢形土器	口: 25 底: 18 厚: 2.5	頭部片	内: 滑き 外: 滑き	内: Hu 25Y 5/3 外: Hu 25Y 3/1	1号窓穴住居址上部 西半	

<溝>

2号溝（図31）

調査区の西端で検出した溝である。溝の底面近くを検出しており、図31の点線は溝の掘り込み面の推定ラインである。底面にはマンガンの沈殿層が認められた。立ち上がり面と溝のもっとも深いところの差は0.43cmである。溝内部の落ち込みラインと掘り込み推定ラインの間から須恵器の円面鏡の破片（図32：1）が出土した。この溝は本調査区を間に置いて調査された山崎記念館移設地（0509調査地点）およびポンプ室建設地（0411調査地点）の発掘調査でその延長部がそれぞれ検出されているものである。他の地点では8世紀後半を中心とした時期の遺物が出土している。

（4）出土遺物（図32）

2号溝出土遺物

図32：1は2号溝から出土した須恵器の円面鏡である。復元直径は22.3cm、陸部が18cmほどである。おそらく4つの獸脚がつくものと思われる。図32：2は土師器の変形土器の口縁部破片である。

その他の出土遺物

図32：3は須恵器壺の胴部片の側面を面取りして整形した円盤である。図32：4は弥生時代中期初頭の変形土器の口縁部片である。図32：5・6は縄文時代後期後半の御領式段階の深鉢形土器の頭部の破片である。

(5)まとめ

今回の調査は狭い面積ながら、山崎記念館移設地（0509調査地点）およびポンプ室建設地（0411調査地点）に挟まれており、両地点の調査成果を補足した結果となった。両地点で検出された本地点の2号溝に相当する古代溝は、2mほどの深さをもち、溝の下段部がきわめて狭くて深いという特徴的な構造をもつ。同様の構造をもつ溝は本地区的北東部に位置する医学部基礎研究棟（9601調査地点）でも検出されている。ここでは溝の中から多量の「寺」や「佛」などの刻書をもつ燈明皿が検出され、文献には現れていない豪族の氏寺関連の遺構ではないかと推定したことがある（熊本大学埋蔵文化財調査報告第4集）。この地点は本地区的北東部にあり、溝の方向も異なるため本地点の溝と連結することはないが、同時代の同じ構造をもつ溝である点、今回円面鏡を検出した点を考慮すると、同様の性格の溝である可能性がある。溝の深さや構造からみても掘削には大変な労力が必要で、少なくとも識字層が存在しうるような施設をめぐる溝であったことは確かであろう。今後は溝がどのように巡るのか、それに囲まれた内部に存在したと思われる建物群の検出が今後の課題である。

3. 医学部図書講義棟新営工事に伴う発掘調査（0707調査地点）

（1）調査の目的と経過

a. 調査地と調査経緯

医学部図書講義棟の建物建設に先立ち発掘調査を実施した。敷地内は既存建物の基礎や樹木が残っており、小さな建物基礎と樹木の撤去部の周辺を地表下0.75mほど下げ、撤去に支障のないことを確認し、撤去できる構造物はすべて事前に撤去した。しかし、撤去が不可能な建物基礎に関しては、発掘調査終了後に撤去することとし、一次掘削の際に立会しながら、掘削範囲を決定した。その結果、調査区の東半分は既存建物の基礎すべて破壊されており、南側も基礎杭とそれを巻く基礎部が残存していることが判明した。このため、西側を主な調査区に設定し、南側は旧排水路によって削平が著しく、発掘調査が不可能な最南端を除いて杭基礎の間をできるだけ調査することとした。

発掘調査は7月30日より開始し、台地側をI区、南側斜面部をII区と称し、II区は8月9日ごろより調査を開始し、8月31日に全体の空中撮影を行って、9月3日終了した。発掘調査の面積は1,590m²である。

b. 調査の経過

- 2007年7月30日 機材の搬入およびプレハブの設営を行う。搅乱層の除去作業を行う。南西部から搅乱部分の除去および、畑上面に堆積した茶褐色土壌を掘り下げる。土器・須恵器などの土器片が出土する。
- 2007年7月31日 搅乱層の除去作業と並行して、畑上面に堆積した茶褐色土壌を掘り下げを続ける。II区の東側端の一角で水田らしき畦を確認する。
- 2007年8月2日 北部の搅乱層掘り。台風5号接近中のための養生を行う。
- 2007年8月3日 台風・雨のため、現場休み。
- 2007年8月6日 西側北部～中部にかけて搅乱をほぼ掘りあげる。遺構面を精査し、住居址4基ほどを確認する。
- 2007年8月7日 調査区北部掘り下げ。2号～8号住居址を掘り下げ。南側調査区掘り下げ・II a区砂層掘り下げ。
- 2007年8月9日 2号住居址・8号住居址出土状況・土層写真撮影・同実測。M10・II a区10号溝掘り下げ。
- 2007年8月20日 北部遺構出し。2号住居址・8号住居址床面出し。II b区掘り下げ(水田上面土)。II c区清掃。
- 2007年8月21日 北部遺構出し。II b区掘り下げ(水田上面土)。ほぼ水田面まで達する。
- 2007年8月22日 II b・II c区水田面を出し、写真撮影。
- 2007年8月24日 水田址を実測し、サンプル収集後、水田基盤土(暗赤褐色土)を掘り上げる。
- 2007年8月31日 遺構面を清掃し、模型ヘリコプターによる空中写真を行う。90・91号掘立柱建物を写真し、実測を行う。ピットにすべて番号を付け、遺物を取り上げる。
- 2007年9月3日 調査終了。

c. 調査の組織

調査員：小畠弘己

事務担当：中川木緒子

発掘作業員：井手春代・江藤恵子・大越貞子・大越忠一・緒方京子・押方富江・倉元慎平・古賀敬子・田中香苗・溜瀬久美子・溜瀬俊子・成瀬好子・林田恵子・弘中正芳・福田久美子・堀川貞子・前田日出男・前田美恵子・増井弘子・松井昭子・三好栄太郎

整理作業員：伊藤千代子・江口路・鬼塚美枝・小山正子・古賀敬子・古閑満代・首藤優子・末吉美紀・溜瀬俊子・長谷智子・増井弘子・山崎早苗

(2) 調査区の基本層序

I区(台地部)はすでに削平を受けていたので、検出面のすぐ上部は近世以降の耕作土(2層:にぶい黄褐色土:図36参照)である。この層は谷部で水田を被覆する洪水砂層を覆っている。台地上において遺構ののる基盤土は、暗褐色シルト質土(Hue7.5YR 3/3)である。

(3) 検出遺構

調査区は長方形であるが、北東側の辺の2/3と南東側のすべてにわたって旧建物によって擾乱を受けていた。とくに南側は谷部に相当するため、掘り下げに従って、建物基礎が露出するという状況であった。遺構は破壊を免れた部分にはぼし字形に分布していた。L字形の長軸の部分(台地部)をI区、底辺の部分をII区と呼称し、II区(谷部)は3分割し、西側からIIa区、IIb区、IIc区とした。I区も削平や配管、ごみ穴などによる擾乱でかなり破壊を受けていたが、予想を越えて、残存状況はよい方であった。

検出遺構としては、I区台地上から、6世紀代の竪穴住居址1基、7世紀末~8世紀後半と思われる竪穴住居址10基、柱穴多数を検出した。II区東寄りを中心に9世紀後半~10世紀代以降の所産と思われる2×2m小区画の水田遺構19枚とそれに付設する幅0.6mあまりの水路を検出した。さらにその下からは谷の落ち際に設置された排水用の水路2条を検出した。

<竪穴住居址>

1号竪穴住居址(図34)

I区の南端にあり、擾乱によってその大部分を破壊されている。削平もひどく、壁の立ち上がりは5cmほどである。床面の直径30cmほどの硬化面の上から土師器の高壙(図37:1)が割れた状態で出土した。古墳時代のものであろう。

2号竪穴住居址(図34)

I区の北東隅で検出した20×20m、深さ0.3mの小型の竪穴住居址である。東隅に窓が設けられている。砂岩ブロックの支脚とその周辺にバミス状の焼土を含む土壤が堆積しており、窓と認定したが、北東隅に壁を掘り込むように、土師器の瓶が埋め込まれており、窓の可能性もある。この瓶の横には15~20cmの角礫が出土し、瓶の内部からは完形の土師器の高台付碗(図37:4)が出土した。瓶と土壁の接する部分は焼けており、周辺からは木炭も出土する。よって、瓶を再利用した窓であり、内部から出土した土師器の高台付碗は窓や住居を壊す際に入れられた可能性もある。この瓶の周辺からは破碎した土師器や須恵器の変形土器や壺類(図37:2・5・7・11)が多数出土した。両者が窓であるとすると、2つの窓をもつ住居となる。ただし、両者の間が配管の擾乱によって破壊されているため、明確な関係は不明である。これ以外に、住居南壁の床面からは完形の須恵器の蓋(図37:3)が出土した。また床面からは砂岩ブロックの破片や礫が多数出土している。柱穴は確認できなかった。

3. 医学部図書館新館工事に伴う発掘調査（0707調査地点）

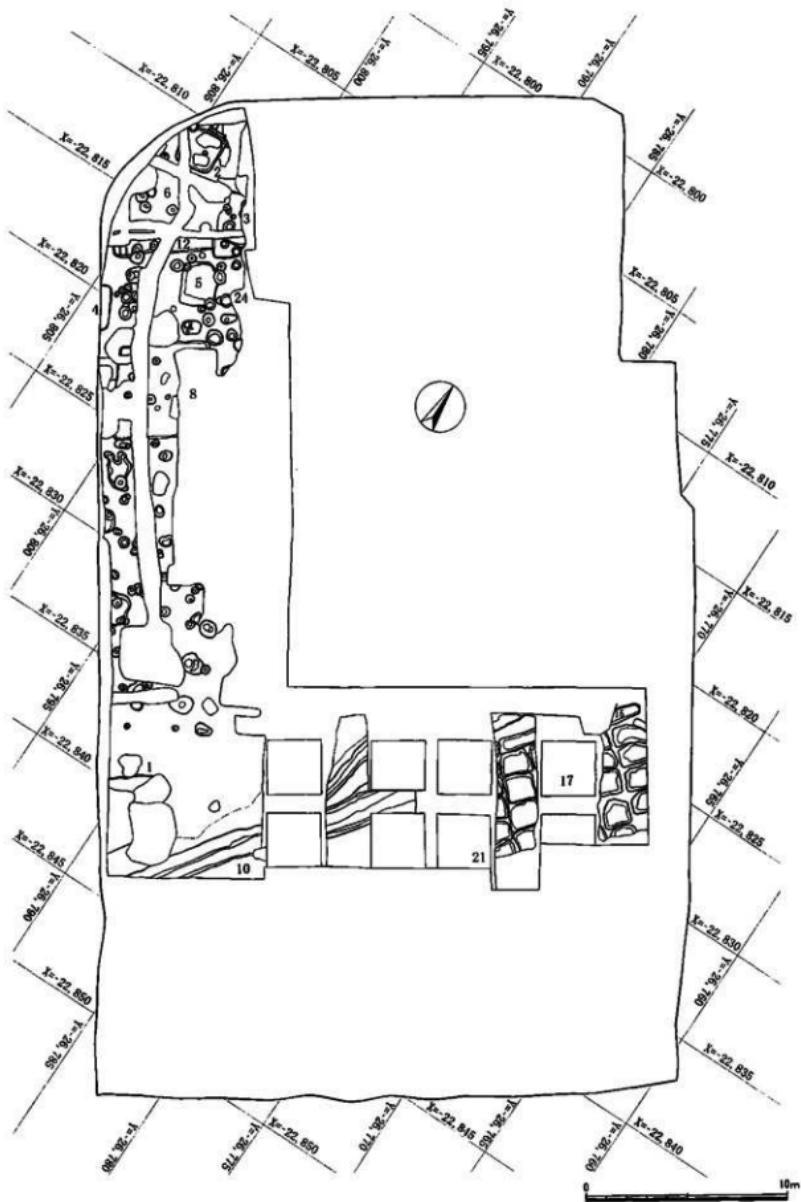


図33 0707調査地点遺構配置図 (1/250)

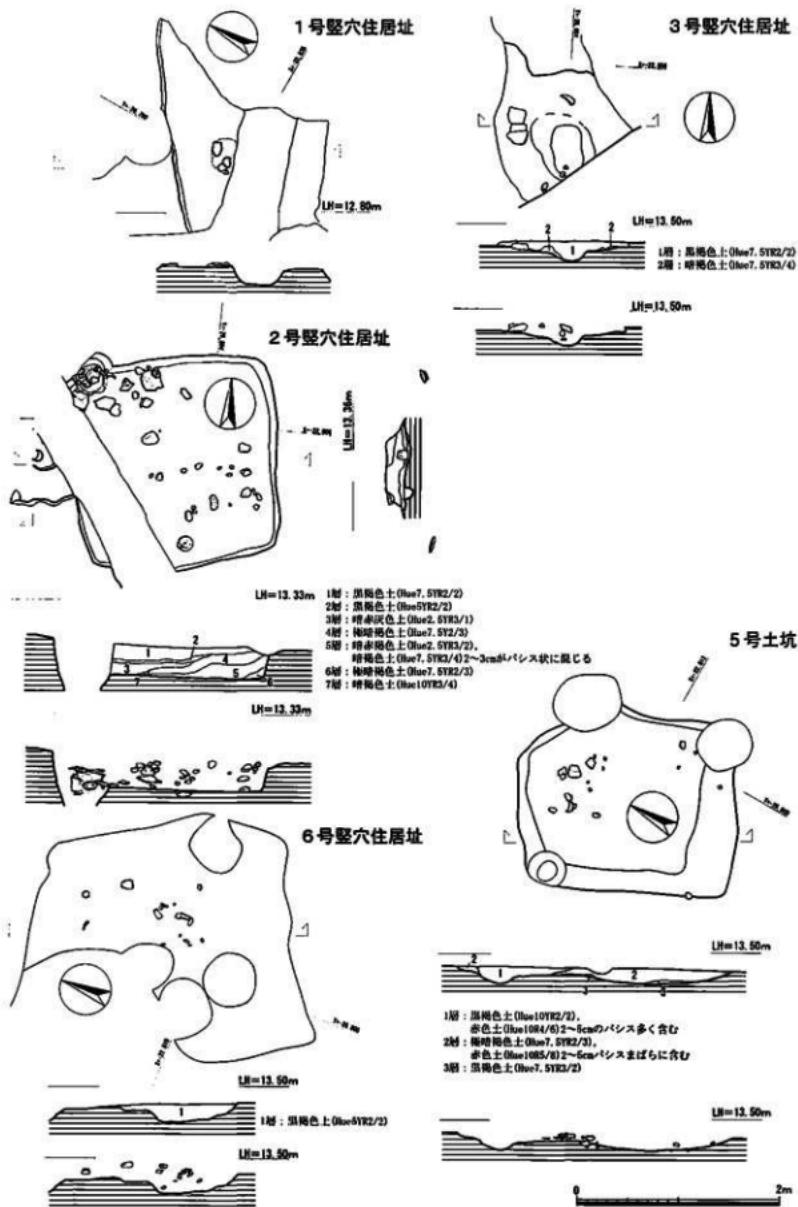


図34 1・2・3・6号竪穴住居址・5号土坑実測図 (1/50)

3号竪穴住居址 (図34)

I区2号竪穴住居址の東側に隣接して検出した竪穴住居と思われる遺構である。大半を建物による搅乱で破壊されたため規模や平面プランが定かではない。砂岩ブロック3点が遺構西側に並んで出土している。中からは須恵器蓋 (図37:12) や土師器の壺形土器の破片が出土した。

6号竪穴住居址 (図34)

I区2号竪穴住居址の南部で確認した竪穴住居址と思われる遺物の集中区である。周辺に壁の立ち上がりを求めたが、12号竪穴住居址や11号竪穴住居址と平面プランが合わないため、そのまま一つの住居内部と判断した。覆土は木炭の小片や砂岩ブロックの小片を含む黒褐色土 (5YR 2/2) であり、その中から河原縞2点と小片になった土師器壺 (図38:17) が出土した。

12号竪穴住居址 (図35)

6号竪穴住居址の南東側に竪穴住居址と思われる壁の立ち上がりを確認した。覆土より土師器高台付碗 (図37:14) と土師器壺底部 (図37:15) が出土した。

8号竪穴住居址 (図35)

I区中央部で検出した4.7×5.0mの竪穴住居址である。中心部を除いてほとんど搅乱を受けており、甕や柱穴などは検出できなかった。壁の立ち上がりは10cmあまり残存している。床面には10~20cm大の河原縞が11個ほど出土しており、数個集中する部分もある。その間から須恵器蓋 (図38:19) や土師器の高壺 (図38:21~23) などが出土した。これらは時期をたがえており、おそらく、須恵器蓋は後世の混入の可能性がある。古墳時代の住居址と思われる。

<土 壤>

5号土坑 (図34)

I区3号竪穴住居址の南隣に位置する2×1.5m、深さ20cmあまりのやや不整形な長方形を呈する土壙である。土坑の深さは深い部分で20cmほどである。遺物としては、壺の把手部分の破片 (図37:13) 以外に特徴的なものはなく、ほとんど土師器壺もしくは壺の副部片である。土器が集中する部分を中心として直径20cmほどの範囲にパミス状の焼土を含む黒褐色土が分布していた。

<掘立柱建物>

90・91号掘立柱建物 (図35)

I区南よりの調査区壁際で検出した2間×2間の純柱と推定される掘立柱建物址である。90号と91号柱穴は、直径70~80cmあまり、深さは60~80cmほどで、直径20cm弱の柱痕跡と思われる土壙を確認した。西側は削平のためか柱穴が小さいものもあり、搅乱および調査区外に出るためすべての柱穴が検出されているわけではない。柱穴の覆土からは8世紀代と思われる須恵器類 (図38:26~28) が出土している。

<水 田> (図33)

II b・II c区で検出した2×1.5mほどの小区画の水田である (水田17)。この部分は地形が南東側の谷へ傾斜する変換点 (斜面の頂点) にあたる。水田基盤土は黒褐色土層 (図36: 東壁4層 Hue7.5YR 1/3) であり、すべて粗砂層 (同3層: オリーブ粗砂 Hue5Y 1/3) に覆われており、検出が容易であった。建物基礎のため破壊されており、残存する部分だけで19枚を確認している。畔の幅は頂部が細く尖っており (図36東壁土層参照)、基部で20~30cm程度である。水口や排水口ではなく、斜面の傾斜を利用して畔越しに水を取排水する方式と考えられる。遺物としては土師器の高台付碗 (図38:31) がある。

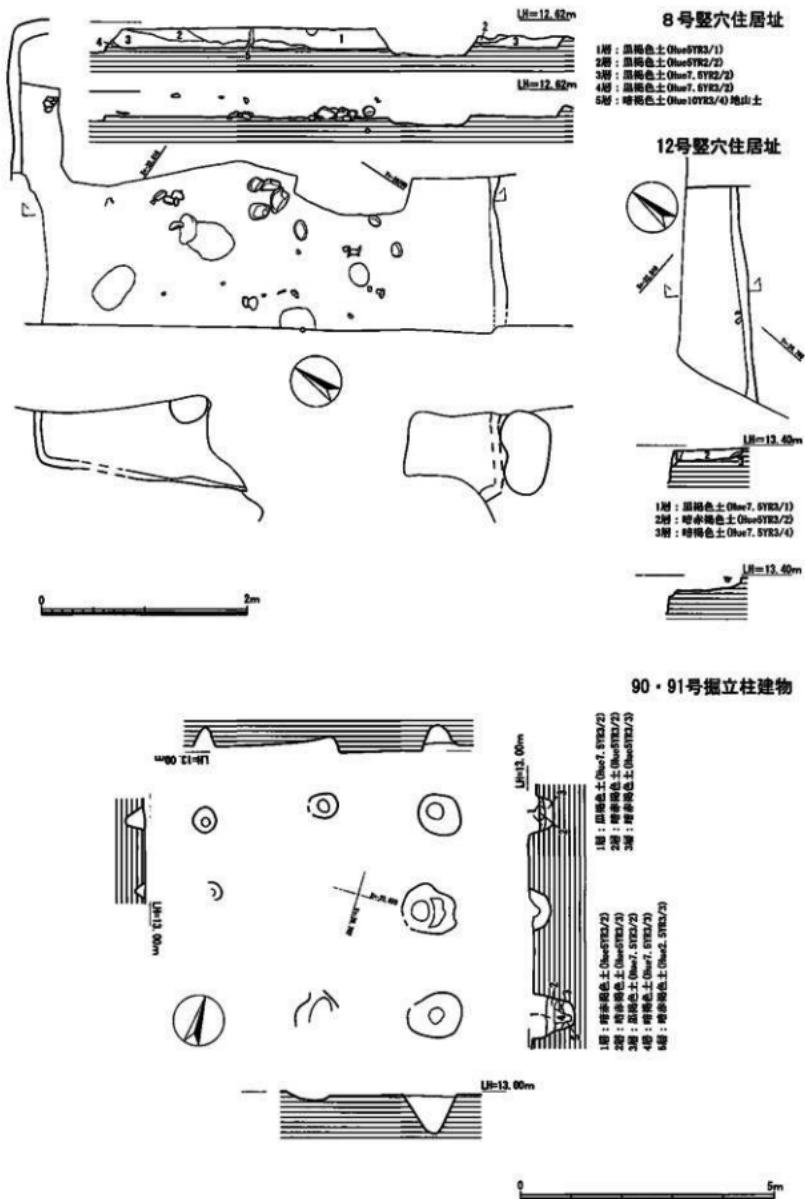


図35 8・12号竪穴住居址・90・91号掘立柱建物実測図 (1/50・1/100)

3. 医学部図書講義棟新設工事に伴う発掘調査（0707調査地点）

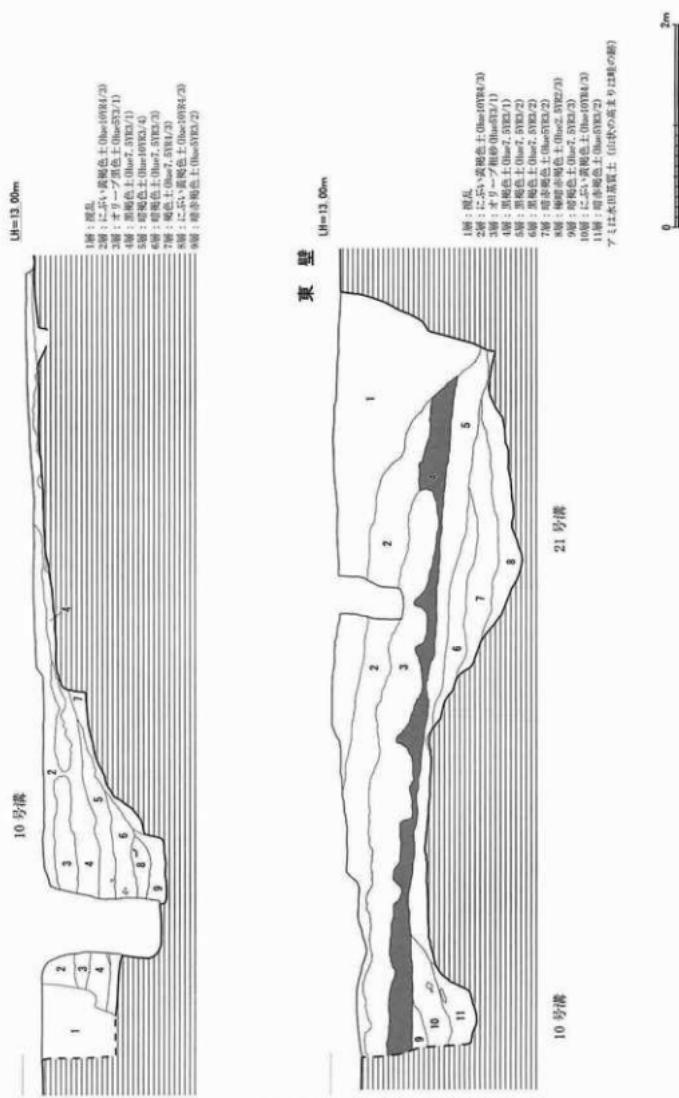


図36 10・21号溝・調査区東壁土層断面図 (1/50)

<溝>

15号溝（図33）

II c 区の水田で検出した幅0.8m、深さ0.5mの溝であり、水田17へ水を供給する集水路である。堰の痕跡などは検出していないため、どのようにして水田へ水を供給していたかは不明である。ただし、水の流れは北東方向から南西方向である。西側のII a・II b 区では確認できなかった。10号溝との関連は不明である。須恵器壺片（図38：30）が出土している。

10号溝（図36）

II a 区およびII b 区の西半分で検出した幅2.5m、深さ1.0mの断面逆台形の溝である。底の部分は二段掘り状になっている。東に隣接する医学部図書館棟の発掘調査（0101調査地点）で確認した15号溝につながる可能性が高い。溝内部からは8世紀後半～9世紀後半を中心とする時期の土師器や須恵器の類が多量に出土した。

21号溝（図36）

II b 区およびII c 区の水田造構の下で検出した幅3.5m、0.6mの緩い逆V字形の溝である。谷部を流れる自然流路の一つと考えられる。図36のII c 区東壁土層図に示したように、21号溝が5層で覆われているのに対して、10号溝はこの5層を切っていることから、10号溝の方が新しいことがわかる。出土遺物も8世紀後半を中心とした土師器・須恵器の類（図38：32～36）であり、この層位的な検出状況と一致する。

（4）出土遺物

1号竪穴住居址出土遺物（図37：1）

図37：1は土師器の高坏の坏部の破片である。屈曲部がやや肥厚する。

2号竪穴住居址出土遺物（図37：2～11）

図37：2・3は須恵器の蓋である。2は口縁部にかえしをもち、頂部には鉢がつくタイプである。3は無鉢でかえしもない。図37：4・5は土師器の高台付の碗である。図37：6は土師器の高坏片である。図37：7・8・11は土師器の甕である。図37：10は甕であり、両側の把手部が残っている。図37：9と図37：10は同一個体である可能性もある。

3号竪穴住居址出土遺物（図37：12）

図37：12は頂部にヘラ記号をもつ須恵器のかえしのある蓋の破片である。

6号竪穴住居址出土遺物（図38：16～18）

図38：16は流紋岩製（天草砥石）の砥石である。断面が三角形状になるほどまで使用されている。図38：17は土師器の甕型土器の口縁部片である。図38：18は土師器坏の底部の小片であるが、外面に「水？」銘のヘラによる刻書がある。

12号竪穴住居址出土遺物（図37：14～15）

図37：14は土師器の高台付碗の底部片である。図37：15は土師器の甕の底部の破片である。0.6cmほどの円形の孔が9個ほど確認できる。

8号竪穴住居址出土遺物（図38：19～24）

図38：19は須恵器の鉢をもつ蓋である。図38：20は土師器の甕型土器の口縁部の破片である。図38：21～23は同タイプの土師器の高坏である。図38：24は鉄製品である。刃物ではないことは断面が台形である点からわかるが、具体的な種類・機能については不明である。

3. 医学部園地新築工事に伴う発掘調査（0707調査地点）

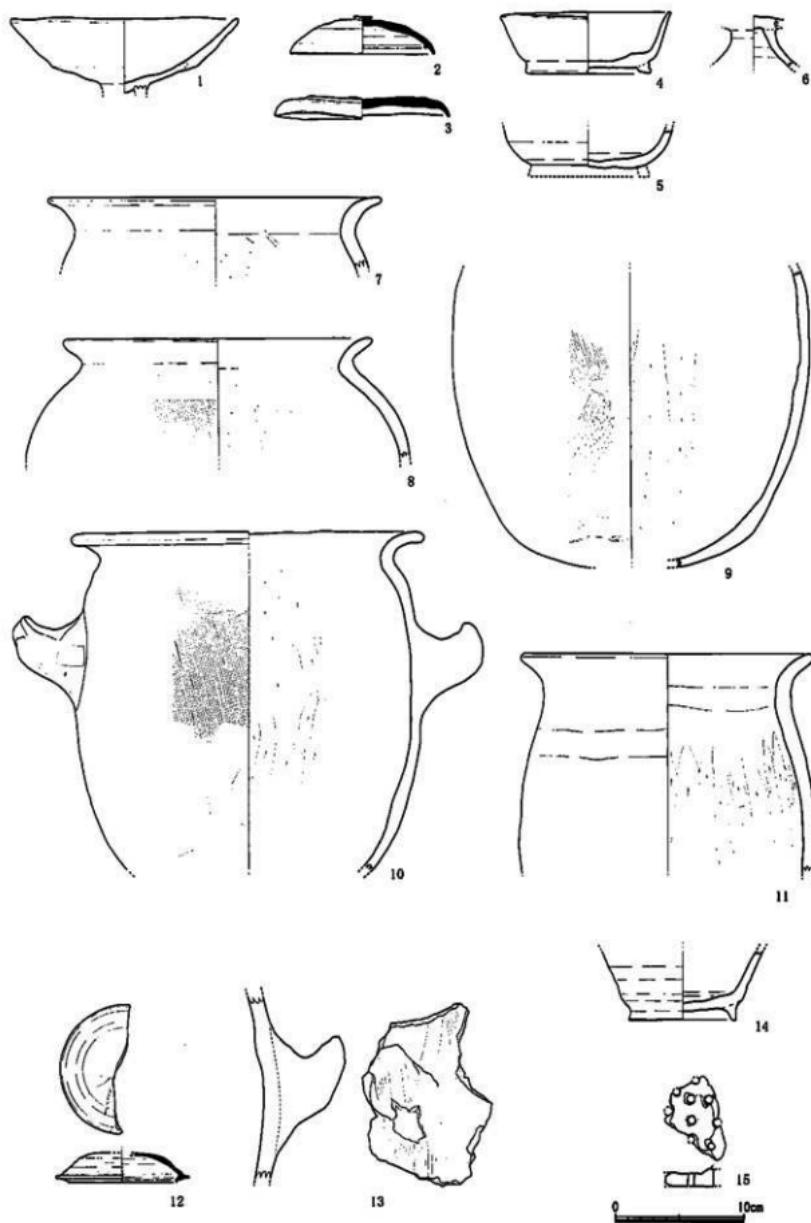


図37 0707調査地点出土遺物実測図1 (1/4)

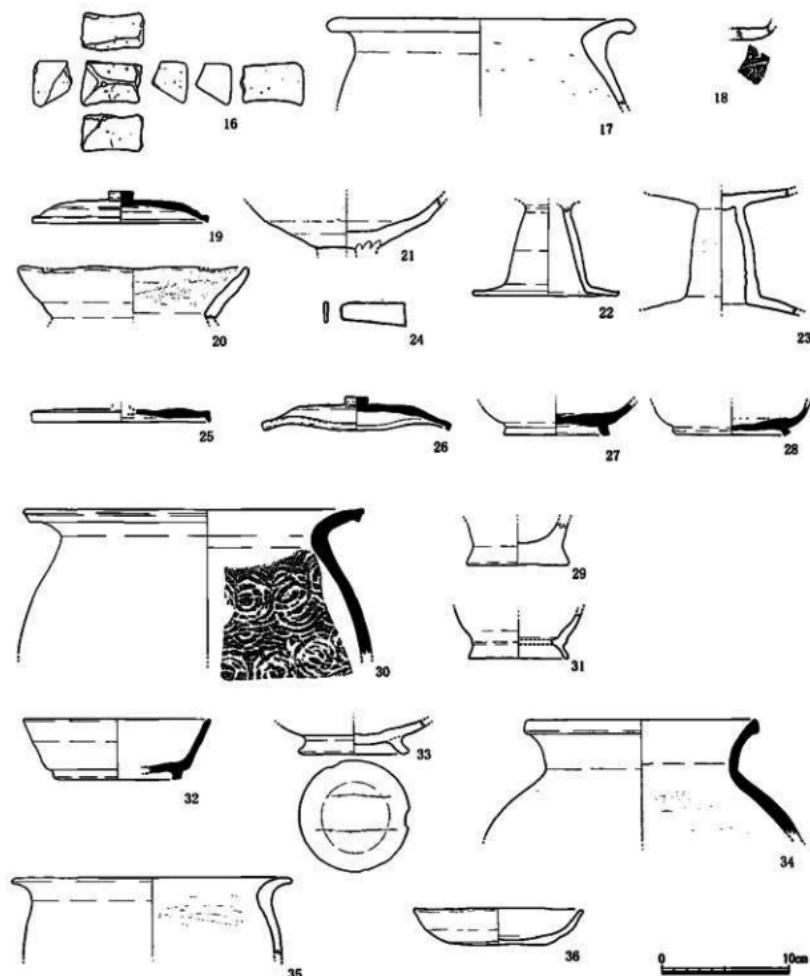


図38 0707調査地点出土遺物実測図2 (1/4)

5号土坑出土遺物(図37:13)

図37:13は土筒器の瓶の把手の破片である。

90・91号掘立柱建物出土遺物(図38:26~28)

図38:26は須恵器の鉢付の蓋であるが、焼き歪みが激しい。図38:27・28は須恵器の高台付碗の底部片である。26は90号ピットから、27・28は91号ピットから出土した。

3. 医学部図書講義棟新設工事に伴う発掘調査 (0707調査地点)

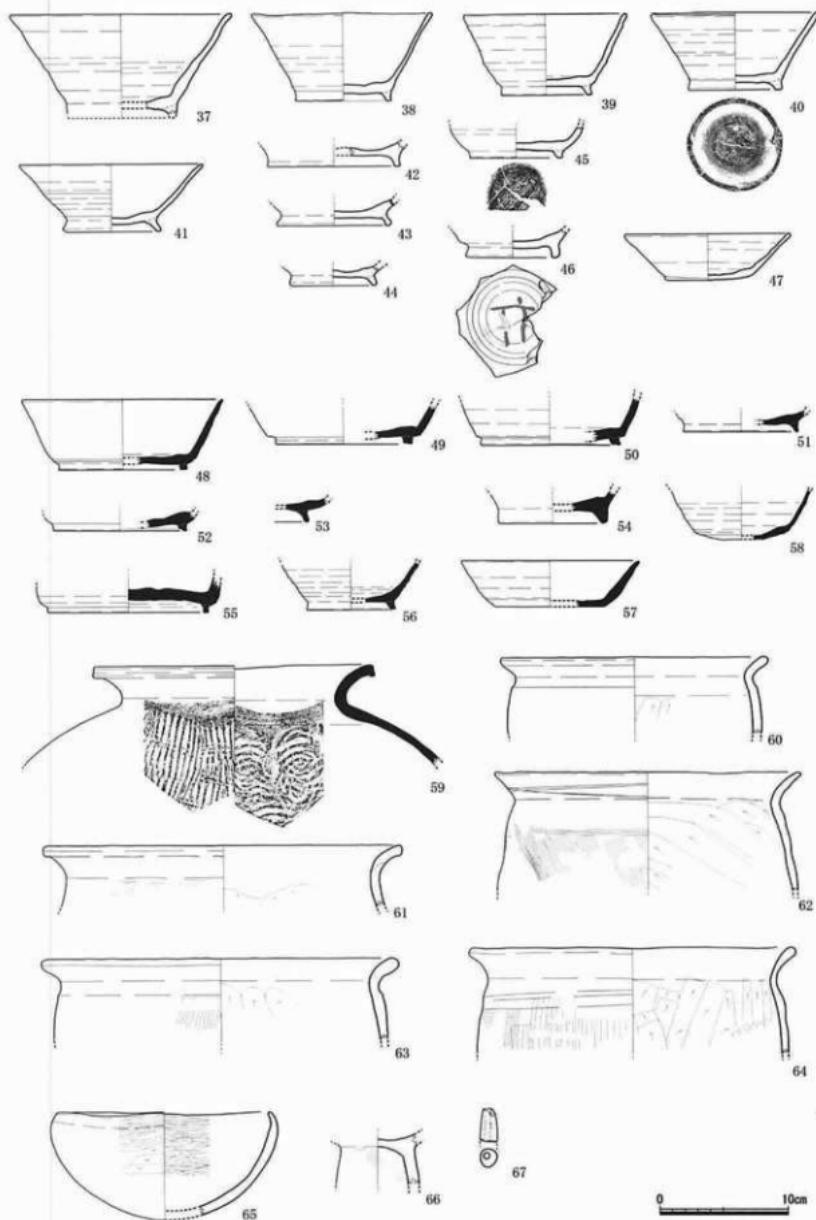


図39 0707調査地点出土遺物実測図3 (1/4)

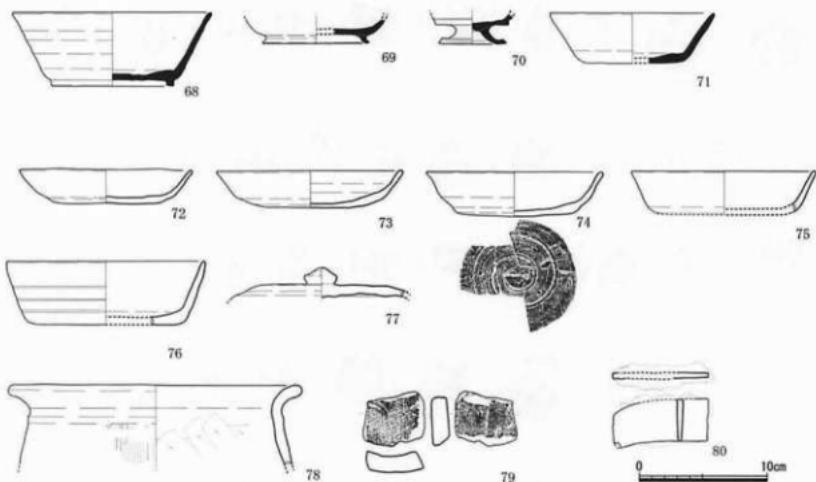


図40 0707調査地点出土遺物実測図4 (1/4)

水田址出土遺物 (図38:31)

図37:31は高台付の土師器の碗の底部片である。

15号溝 (図38:30)

図38:30は須恵器壺の口縁部片である。胴部から口縁部へかけてかなり湾曲している。遺構の時期を直接示すものではないと思われる。

10号溝 (図39:37~67)

図39:37~46は土師器の高台付碗である。37~44は器高や口径は異なるが、口縁部がラッパ状に開く同じタイプのものである。45の外面には板目痕、46には判読できないが、墨書きがある。図39:47は土師器の壺である。図39:48~56は須恵器の高台壺碗である。図39:57・58は底部形状は異なるが、いずれも須恵器の壺である。図39:59は須恵器壺の口縁部片、図39:60~64は土師器の壺形土器の口縁部片である。図39:65は外表面を細かく磨いた碗であり内面は黒い。図39:66は土師器の高壺の破片である。図39:67は土製の管状錘の破片である。

21号溝 (図38:32~36)

図38:32は須恵器の高台壺碗である。図38:33は土師器の高台壺碗の底部片であるが、外底に併行する2本の細い沈線が「二」状に描かれている。図38:34は須恵器壺の口縁部片、図35は土師器壺の口縁部片、図38:36は土師器壺である。

それ以外の古代遺物 (図38:25・29, 図40:68~80)

図38:25は須恵器の鉢をもつ壺蓋の破片である。24号ピットから出土した。図38:29は弥生土器の壺もしくは壺形土器の底部と思われる。やや丸底になっており、後期前半の所産であろうか。37号ピットから出土した。図40:68~80は包含層および擾乱から出土した遺物である。図40:68・69は須恵器の高台壺碗であり、図40:70は高壺、図40:71は壺である。図40:72~76は土師器の壺、図40:

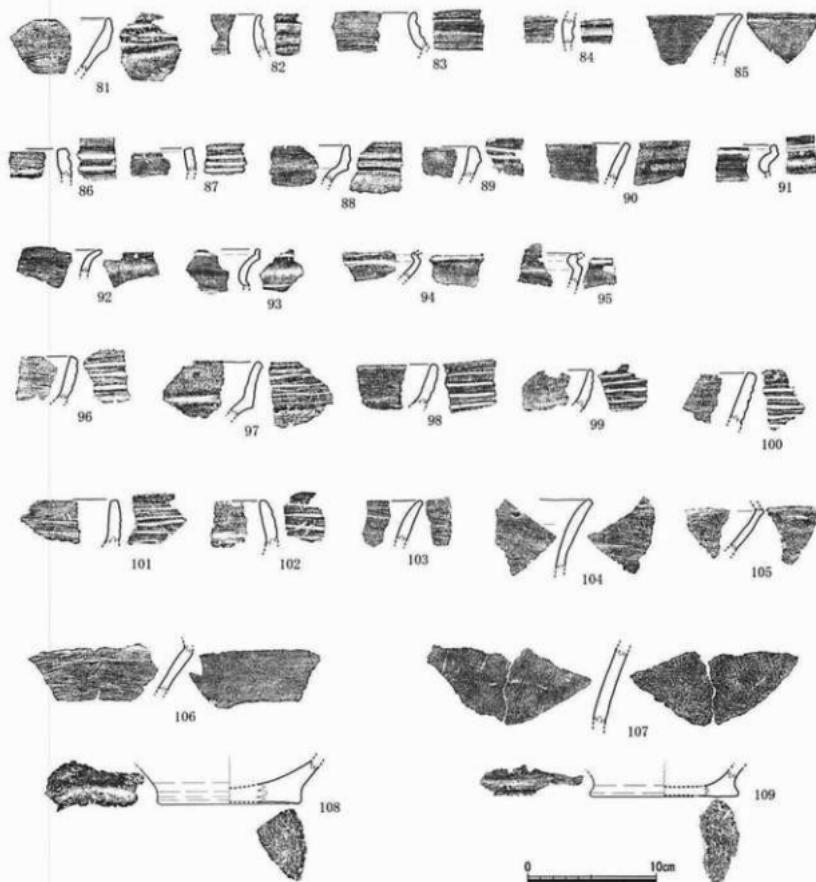


図41 0707調査地点出土遺物実測図5 (1/4)

77は鉢をもつ壺蓋、図40:78は壺形土器の破片である。図40:79は布目をもつ平瓦の破片である。図40:80の鉄製品は一見鎌状を呈するが、刃部に相当する部分が鋭利でなく、種類は不明である。

縄文土器 (図41: 81~109)

各種遺構や包含層、搅乱から縄文土器片がパンコンテナ1箱ほど出土した。その中から抜粋して紹介する。図41:81は肥厚する口縁部外面に沈線と縄文をもつ深鉢形土器で、太郎追式の範疇に入るものと思われる。図41:82~84は口縁部外面に太い沈線を横走させており、鳥井原式の深鉢形土器と思われる。図41:85も同型式の屈曲しないタイプの口縁部である可能性が高い。図41:86~95は御領式～天城式段階の土器片と思われる。86~90が深鉢形土器、91~95が浅鉢形土器もしくは鉢形土器である。図41:96~105は古闕式段階でも天城式段階の影響を残すものを含んでいる。96~102は口縁部が

表10 0707調査地点出土遺物一覧表

番号	遺物	種類(部材)	法長(cm)	埋存量	特徴	色 国	出土場所	備考
37	土器器	高 环	口径17.5 底径11.5 高さ3	1/4	内: 回転ナデ、削り 外: 回転ナデ、削り	内: Hoe 7SYR 6/6 外: Hoe 10YR 6/4	1号堅穴住居址 P-1・活土層	
2	須恵器	盃	口径11.5 底径9.8 高さ1.8	4/5	内: 回転ナデ、削り 外: 回転ナデ、削り	内: Hoe 5Y 6/1 外: Hoe 5Y 6/1	2号堅穴住居址 P-1・同様土	
3	須恵器	盃	口径13.9 底径9.8 高さ4.9	ほぼ定形	内: 回転ナデ、ナデ 外: 回転ナデ	内: Hoe 5Y 6/2 外: Hoe 2SYR 5/1	2号堅穴住居址P-1	上面にヘラ削り痕あり、外面 自然釉あり
4	土器器	碗	口径12.4 底径9.8 高さ4.9	ほぼ定形	内: ナデ、削り 外: 回転ナデ	内: Hoe 5YR 6/8 外: Hoe 5YR 7/8	2号堅穴住居址P-12	
5	土器器	碗	口径10.2 底径9.8 高さ10.2	約1/4	内: 回転ナデ、削り 外: 回転ナデ、削り	内: Hoe 7SYR 7/8 外: Hoe 7SYR 7/4	2号堅穴住居址P-6	
6	土器器	高 环	口径底径 底径高	脚部2/3	内: 回転ナデ 外: 回転ナデ	内: Hoe 2SYR 7/6 (环部) Hoe 7SYR 7/4 (脚部) 外: Hoe 7SYR 7/4	2号堅穴住居址 同上	
7	土器器	甕	口径26 底径24 高さ11	口径部1/4	内: ナデ、削り 外: 回転ナデ、ハケ目	内: Hoe 5YR 7/4 外: Hoe 7SYR 7/4	2号堅穴住居址底部 P-1・同P-2・P-3	
8	土器器	甕	口径24 底径22 高さ11	口径部・脚部1/2	内: 回転ナデ、削り 外: 回転ナデ、ハケ目	内: Hoe 7SYR 6/6 外: Hoe 7SYR 7/6	2号堅穴住居址底部 P-1・既存西面北壁	
9	土器器	甕・瓶	最大28 底径22 高さ11	剥離1/3	内: 剥離 外: ナデ、ハケ目	内: Hoe 5YR 7/4 外: Hoe 5YR 7/4	2号堅穴住居址P-6 P-9・P-10・同様上	外面にススあり
10	土器器	瓶	口径22.5 底径20 高さ10	1/2	内: ナデ、削り 外: ナデ、ハケ目	内: Hoe 5YR 8/4 外: Hoe 7SYR 7/4	2号堅穴住居址底部 P-8・P-9・P-10	外面ススあり
11	土器器	甕	口径23 底径20 高さ10	1/6	内: 回転ナデ、削り 外: 回転ナデ	内: Hoe 7SYR 7/3 外: Hoe 7SYR 7/4	2号堅穴住居址P-4	外面にスス・吹きこぼれあり
12	須恵器	盃	口径10.4 底径8.8 高さ8.8	約1/2	内: 回転ナデ、削り 外: 回転ナデ、削り	内: Hoe 10BG 3/1 外: Hoe 5BG 4/1	3号堅穴住居址P-1	ヘラ記号?あり
13	土器器	瓶	口径8.4 底径7.5 高さ7.5	取手のみ	内: 剥離 外: ナデ、ハケ目、 ナデ、削り	内: Hoe 2SYR 6/8 外: Hoe 2SYR 6/6	5号土坑下	外面にススあり
14	土器器	碗	口径8.4 底径7.5 高さ7.5	2/3	内: 回転ナデ、削り 外: 回転ナデ	内: Hoe 7SYR 7/6 外: Hoe 5YR 6/6	12号堅穴住居址	
15	土器器	瓶	口径8.4 底径7.5 高さ7.5	底部片	内: ナデ 外: ナデ	内: Hoe 7SYR 6/4 外: Hoe 7SYR 6/4	12号堅穴住居址・水 田跡	
38	石 器	砾 石	長さ3.47 幅3.36 厚さ2.7				6号堅穴住居址覆土	重量70.5g
16	土器器	甕	口径24.5 底径22.5 高さ22.5	1/8	内: 回転ナデ、削り 外: 回転ナデ、ナデ	内: Hoe 7SYR 8/3 外: Hoe 7SYR 8/4	6号堅穴住居址P-3	P-1・P-3・P-4・ P-6・P-7・P-9・同 様土
17	土器器	甕	口径24.5 底径22.5 高さ22.5	底部片	内: 回転ナデ 外: 回転ナデ	内: Hoe 7SYR 7/6 外: Hoe 5YR 7/6	6号堅穴住居址覆土	剥離「水」
18	土器器	甕	口径23.8 底径22.5 高さ22.5	1/4	内: 回転ナデ、削り 外: 回転ナデ	内: Hoe 7SYR 6/2 外: Hoe 7SYR 6/1	8号堅穴住居址P-3	
19	須恵器	盃	口径13.8 底径12.5 高さ12.5	1/4	内: 回転ナデ、削り 外: 回転ナデ	内: Hoe 7SYR 6/2 外: Hoe 7SYR 6/1	8号堅穴住居址P-3	
20	土器器	甕	口径16 底径14 高さ14	白堀部約1/4	内: ハケ目 外: ナデ	内: Hoe 7SYR 6/1 外: Hoe 5YR 6/6	8号堅穴住居址底部 P-1・同様土・6号堅 穴	外面に吹きこぼれあり
21	土器器	高 环	口径11.6 底径10.5 高さ10.5	剥離約1/2	内: ナデ、ハケ目 外: ナデ、ハケ目	内: Hoe 10YR 7/4 外: Hoe 10YR 7/3	8号堅穴住居址P-4	
22	土器器	高 环	口径11.6 底径10.5 高さ10.5	剥離4/5	内: 回転ナデ、削り 外: ナデ、ハケ目	内: Hoe 7SYR 8/6 外: Hoe 7SYR 7/6	8号堅穴住居址P-10	燒きむらあり
23	土器器	高 环	口径11.6 底径10.5 高さ10.5	3/5	内: 回転ナデ、削り 外: ナデ、ハケ目	内: Hoe 10YR 7/6 外: Hoe 10YR 7/6	8号堅穴住居址P-11	外面に擦痕あり。坏面に スス?あり
24	鉄 器	不明	長さ5.3 幅3.1 厚さ0.7				8号堅穴住居址	重量16.6g
25	須恵器	盃	口径14 底径12.5 高さ12.5	約1/4	内: 回転ナデ、削り 外: 回転ナデ、削り	内: Hoe 5Y 6/1 外: Hoe N 6/1	24号ビット	
26	須恵器	盃	口径15 底径12.5 高さ12.5	約1/4	内: 回転ナデ、削り 外: 回転ナデ、削り	内: Hoe 5Y 6/1 外: Hoe 5Y 6/1	90号ビット P1	
27	須恵器	碗	口径14 底径12.5 高さ12.5	底部1/4	内: 回転ナデ、削り 外: 回転ナデ、削り	内: Hoe 5Y 5/1 外: Hoe 5Y 5/1	91号ビット	
28	須恵器	碗	口径13.5 底径12.5 高さ12.5	底部2/3	内: 回転ナデ、ナデ 外: 回転ナデ、ナデ 削り	内: Hoe 10Y 5/1 外: Hoe 10Y 6/1	91号ビット	外面に自然釉あり
29	骨生土器?	甕	口径9.1 底径8.5 高さ8.5	底部約1/4	内: ナデ 外: ナデ	内: Hoe 7SYR 6/4 外: Hoe 7SYR 6/4	91号ビット	
30	須恵器	盃	口径26.5 底径24.5 高さ24.5	白堀部・脚部 脚部	内: 回転ナデ、タタ キ 外: 回転ナデ、タタ キ、削り	内: Hoe 2SYR 3/2 外: Hoe 2SYR 7/2	15号南北斜坡地形	自然釉あり
31	土器器	碗	口径8 底径7 高さ7	1/8	内: 回転ナデ 外: 回転ナデ、削り	内: Hoe 10YR 7/4 外: Hoe 10YR 7/3	17号南北斜坡地形 水田基盤土(昭和 土)	

3. 岩学部透古謹義株新幹工事に伴う発掘調査 (0707調査地点)

番	番号	地 物	標識(鉱種)	法面 (cm)	規 容 量	特 徴	色 因	出土遺物	備 考
38	32	須恵器	口付 底付 蓋付	146 88 48	約1/4	内: 同軸ナマ、削り 外: 同軸ナマ、削り	内: Hue 10YR 8/3 外: Hue 10YR 8/3	21号標 P-1	後成層
	33	土器器	口付 底付 蓋付	88	1/3	内: 同軸ナマ、タグ 外: 同軸ナマ、削り	内: Hue 5YR 7/6 外: Hue 25YR 6/6	21号標 P-2	ヘラ記号?あり
	34	須恵器	口付 底付 蓋付	166	1/8	内: 同軸ナマ、ナマ 外: 同軸ナマ、ナマ 削り	内: Hue 25YR 8/2 外: Hue 10YR 8/3	21号標	
	35	土器器	口付 底付 蓋付	22	1/8	内: 同軸ナマ、削り 外: 同軸ナマ、ナマ	内: Hue 75YR 8/4 外: Hue 75YR 8/3	21号標	
	36	土器器	口付 底付 蓋付	136 71 29	4/5	内: 同軸ナマ 外: 同軸ナマ	内: Hue 10YR 8/3 外: Hue 10YR 8/1	21号標南側土	焼きむらあり
39	37	土器器	口付 底付 蓋付	172	1/2	内: 同軸ナマ 外: 同軸ナマ	内: Hue 25YR 5/6 外: Hue 25YR 5/6	10号標下層	内外赤色化粧土。外側にスミ?あり
	38	土器器	口付 底付 蓋付	142 76 69	2/3	内: 同軸ナマ 外: 同軸ナマ、削り	内: Hue 5YR 6/6 外: Hue 25YR 6/6	10号標 P-8・下層	内外赤色化粧土
	39	土器器	口付 底付 蓋付	128	約1/2	内: 同軸ナマ 外: 同軸ナマ	内: Hue 25YR 5/6 外: Hue 5YR 5/6	10号標下層・水田系 褐色土	
	40	土器器	口付 底付 蓋付	142 74 61	2/3	内: 同軸ナマ 外: 同軸ナマ	内: Hue 5YR 6/6 外: Hue 5YR 6/6	10号標下層	底部底付あり
	41	土器器	口付 底付 蓋付	142 76 63	1/2	内: 同軸ナマ 外: 同軸ナマ、削り	内: Hue 75YR 6/4 外: Hue 75YR 6/4	10号標 P-9	
	42	土器器	口付 底付 蓋付	104	底部1/3	内: 同軸ナマ 外: 同軸ナマ、削り	内: Hue 5YR 6/6 外: Hue 5YR 6/6	10号標	
	43	土器器	口付 底付 蓋付	9	底部約1/2	内: ナマ 外: ナマ	内: Hue 25YR 7/6 外: Hue 25YR 5/6	10号標	内面にスミあり
	44	土器器	口付 底付 蓋付	58	底部1/2	内: 同軸ナマ 外: 同軸ナマ	内: Hue 5YR 6/6 外: Hue 5YR 6/6	10号標上層	赤色化粧土
	45	土器器	口付 底付 蓋付	7	底部2/3	内: 同軸ナマ、ナマ 外: 同軸ナマ	内: Hue 5YR 7/6 外: Hue 5YR 6/6	10号標上層	復元底
	46	土器器	口付 底付 蓋付	74	底部3/4	内: 同軸ナマ、ナマ 外: 同軸ナマ、削り	内: Hue 5YR 6/6 外: Hue 75YR 7/4	10号標上層	削れあり
47	47	土器器	口付 底付 蓋付	13	1/3	内: 同軸ナマ 外: 同軸ナマ	内: Hue 5YR 6/6 外: Hue 5YR 6/6	10号標上層	内外赤色化粧土
	48	須恵器	口付 底付 蓋付	68 36	1/3	内: 同軸ナマ 外: 同軸ナマ	内: Hue 75Y 5/1 外: Hue 75Y 6/1	10号標上層	
	49	須恵器	口付 底付 蓋付	156 49 55	約1/8	内: 同軸ナマ 外: 同軸ナマ、削り	内: Hue 5Y 7/1 外: Hue 5Y 7/1	10号標上層	
	50	須恵器	口付 底付 蓋付	106	1/6	内: 同軸ナマ 外: 同軸ナマ	内: Hue 75Y 7/1 外: Hue 75Y 7/1	10号標下層	
	51	須恵器	口付 底付 蓋付	108	底部1/8	内: 同軸ナマ 外: 同軸ナマ、削り	内: Hue 5Y 7/1 外: Hue 5Y 7/1	10号標上層	
	52	須恵器	口付 底付 蓋付	8	底部1/4	内: 同軸ナマ 外: 同軸ナマ	内: Hue 5Y 7/1 外: Hue 5Y 7/1	10号標上層	
	53	須恵器	口付 底付 蓋付	104	底部約1/4	内: 同軸ナマ 外: 同軸ナマ	内: Hue 25Y 7/2 外: Hue 25Y 7/2	10号標上層	
	54	須恵器	口付 底付 蓋付	86	底部	内: 同軸ナマ 外: 同軸ナマ	内: Hue 75Y 6/1 外: Hue 75Y 6/1	10号標上層	
	55	須恵器	口付 底付 蓋付	126	底部1/2	内: 同軸ナマ 外: 同軸ナマ、ナマ 削り	内: Hue 5Y 6/1 外: Hue 10Y 5/1	10号標上層	
	56	須恵器	口付 底付 蓋付	7	底部1/4	内: ナマ、同軸ナマ 外: 同軸ナマ、削り	内: Hue 75Y 7/3 外: Hue 75Y 7/3	10号標上層	
57	57	須恵器	口付 底付 蓋付	13 86 36	1/4	内: 同軸ナマ 外: 同軸ナマ	内: Hue 75Y 6/1 外: Hue 75Y 6/1	10号標上層	
	58	須恵器	口付 底付 蓋付	74	底部3/4	内: 同軸ナマ 外: 同軸ナマ	内: Hue 5Y 7/1 外: Hue 5Y 7/1	10号標上層	
	59	須恵器	口付 底付 蓋付	22	1/8	内: 同軸ナマ、タグ 外: 同軸ナマ、タグ 削り	内: Hue 25YR 4/3 外: Hue 5PB 6/1	10号標 P-2	外側口縁部に自然転あり
	60	土器器	口付 底付 蓋付	21	1/8	内: 同軸ナマ、削り 外: 同軸ナマ	内: Hue 75YR 8/4 外: Hue 10YR 7/3	10号標下層	外側にスミあり
	61	土器器	口付 底付 蓋付	26	1/8	内: 同軸ナマ 外: 同軸ナマ、ハケ 削り	内: Hue 10YR 8/4 外: Hue 10YR 8/4	10号標上層	外側に吹きこぼれ痕あり
	62	土器器	口付 底付 蓋付	24	1/8	内: 同軸ナマ、削り 外: 同軸ナマ、ハケ 削り	内: Hue 5YR 7/8 外: Hue 10YR 8/4	10号標上層	
	63	土器器	口付 底付 蓋付	27.8	1/8	内: 同軸ナマ、削り 外: 同軸ナマ、ハケ 削り	内: Hue 10YR 7/4 外: Hue 10YR 7/4	10号標下層	
	64	土器器	口付 底付 蓋付	25.6	1/8	内: 同軸ナマ、削り 外: 同軸ナマ、ハケ 削り	内: Hue 10YR 7/6 外: Hue 10YR 7/4	10号標 P-1・下層	内面にコゲ・吹きこぼれあり

区	番号	遺物	種類(特徴)	法長(cm)	埋存層	特徴	色 国	出土場所	図 号
39	65	土師器	环	口径 16.4 底径 8.5	2/3	内: 消き 外: 消き	内: Hue N 2/0 外: Hue IOYR 7/2	10号棟 I・II・III層	内混
	66	土師器	高 环	口径 11.0 底径 7.0 高さ 5.0	脚部片	内: ナデ 外: ナデ	内: Hue 7SYR 5/6 外: Hue 10YR 6/4	10号棟上層	脚部内面にハケ目あり
	67	土製品	埴	口径 13.0 底径 14.0	約 1/2	内: 外: ナデ	内: Hue 外: Hue 7SYR 6/4	10号棟上層	
40	68	埴生器	環	口径 15.5 底径 9.6 高さ 5.9	約 1/2	内: 制動ナデ 外: 向軸ナデ、削り	内: Hue 5GY 6/1 外: Hue 2GY 6/1	17号水田上部	
	69	埴生器	環	口径 8.2 底径 6.8 高さ 4.8	約 1/4	内: 制動ナデ 外: 向軸ナデ、削り	内: Hue 10Y 6/1 外: Hue 10G 4/1	包含層・複数	外面に自然施あり
	70	埴生器	高 环	口径 5.4 底径 4.8 高さ 4.1	1/2	内: 制動ナデ 外: 向軸ナデ、削り	内: Hue 2GY 5/1 外: Hue 5GY 5/1	複数	
71	71	埴生器	环	口径 13.0 底径 8.0 高さ 4.0	約 1/4	内: 向軸ナデ 外: 向軸ナデ	内: Hue 2SY 6/2 外: Hue 2SY 6/2	包含層(明赤褐色) II	
	72	上加器	环	口径 13.4 底径 8.4 高さ 2.7	1/2	内: 向軸ナデ 外: 向軸ナデ	内: Hue 10YR 7/4 外: Hue 10YR 7/4	包含層 II c 区明赤褐色 土	
	73	土師器	环	口径 14.6 底径 9.9 高さ 2.9	1/3	内: 向軸ナデ 外: 向軸ナデ、削り	内: Hue 7SYR 7/6 外: Hue 7SYR 7/6	包含層(水田基盤 上)	暗赤褐色
74	74	土師器	环	口径 14.4 底径 9.2 高さ 3.5	1/2	内: 向軸ナデ 外: 向軸ナデ	内: Hue 5YR 7/8 外: Hue 5YR 7/8	包含層 II c 区明赤褐色 土	
	75	土師器	环	口径 14.6 底径 9.5 高さ 2.5	口縁部 1/3	内: 向軸ナデ 外: 向軸ナデ	内: Hue 5YR 7/8 外: Hue 5YR 7/8	複数	
	76	土師器	环	口径 15.4 底径 10.5 高さ 5.5	約 1/4	内: 向軸ナデ 外: 向軸ナデ、ナデ	内: Hue 7SYR 6/6 外: Hue 7SYR 6/6	包含層・複数	
77	77	土師器	壺	口径 14.6 底径 10.0 高さ 5.0	約 2/3	内: 向軸ナデ 外: 向軸ナデ、削り	内: Hue 10YR 7/6 外: Hue 10YR 7/4	複数	
	78	土師器	壺	口径 22.8 底径 18.0 高さ 6.0	口縁部・脚部片	内: 向軸ナデ、削り 外: 向軸ナデ、ハケ II	内: Hue 7SYR 6/6 外: Hue 7SYR 7/4	包含層 II b 区暗赤褐色 土	外壁、内側口縁部ススあり
	79	土師器	平 瓦	口径 49.0 底径 42.0 高さ 6.0	破 片	内: 水目 外: ナデ	内: Hue 10YR 7/3 外: Hue 7SYR 6/4	包含層 II b 区暗赤褐色 土	右目
80	80	瓦	不 明	口径 43.0 底径 38.0 高さ 8.0				17号水田上部	重量58.0kg
	81	純文土器	深鉢形土器 底径高	口径 17.0 底径 12.0 高さ 5.0	口縁部片	内: ナデ、消き 外: ナデ、消き	内: Hue 10YR 6/4 外: Hue 10YR 5/3	10号棟上層	
	82	純文土器	深鉢形土器 底径高	口径 17.0 底径 12.0 高さ 5.0	口縁部片	内: ナデ、消き 外: ナデ、消き	内: Hue 10YR 7/4 外: Hue 10YR 8/4	複数	
83	83	純文土器	深鉢形土器 底径高	口径 17.0 底径 12.0 高さ 5.0	口縁部片	内: 消き 外: 消き	内: Hue 10YR 7/6 外: Hue 10YR 7/6	包含層・複数	
	84	純文土器	深鉢形土器 底径高	口径 17.0 底径 12.0 高さ 5.0	脚部片	内: 消き 外: 消き	内: Hue 10YR 6/6 外: Hue 10YR 6/4	8号棟六柱倒壁土	
	85	純文土器	深鉢形土器 底径高	口径 17.0 底径 12.0 高さ 5.0	口縁部片	内: ナデ、消き 外: ナデ、消き	内: Hue 10YR 8/2 外: Hue 10YR 8/2	複数	
86	86	純文土器	深鉢形土器 底径高	口径 17.0 底径 12.0 高さ 5.0	口縁部片	内: 消き 外: 消き	内: Hue 10YR 7/4 外: Hue 10YR 6/6	包含層 II c 区明赤褐色 土	
	87	純文土器	深鉢形土器 底径高	口径 17.0 底径 12.0 高さ 5.0	口縁部片	内: ナデ 外: ナデ	内: Hue 7SYR 6/4 外: Hue 7SYR 6/4	10号棟(上層) II b IK	
	88	純文土器	深鉢形土器 底径高	口径 17.0 底径 12.0 高さ 5.0	口縁部片	内: 消き 外: 消き	内: Hue 2SY 6/2 外: Hue 2SY 5/2	90号ピット	
89	89	純文土器	深鉢形土器 底径高	口径 17.0 底径 12.0 高さ 5.0	口縁部片	内: 消き 外: 消き	内: Hue 10YR 5/2 外: Hue 10YR 5/2	17号水田被覆砂層	
	90	純文土器	深鉢形土器 底径高	口径 17.0 底径 12.0 高さ 5.0	口縁部片	内: 消き 外: 消き	内: Hue 2SY 3/1 外: Hue 2SY 3/1	包含層	
	91	純文土器	深鉢形土器 底径高	口径 17.0 底径 12.0 高さ 5.0	口縁部片	内: 消き 外: 消き	内: Hue 5Y 2/2 外: Hue 5Y 4/2	包含層 II c(暗赤褐色 B(水田基盤上))	
92	92	純文土器	深鉢形土器 底径高	口径 17.0 底径 12.0 高さ 5.0	口縁部片	内: 消き 外: 消き	内: Hue 2SY 6/2 外: Hue 2SY 6/3	91号ピット	
	93	純文土器	深鉢形土器 底径高	口径 17.0 底径 12.0 高さ 5.0	口縁部片	内: 消き 外: 消き	内: Hue 2SY 2/1 外: Hue 2SY 4/3	包含層	
	94	純文土器	深鉢形土器 底径高	口径 17.0 底径 12.0 高さ 5.0	脚部片	内: 消き 外: 消き	内: Hue 2SY 4/1 外: Hue 2SY 2/1	91号ピット	
95	95	純文土器	深鉢形土器 底径高	口径 17.0 底径 12.0 高さ 5.0	口縁部片	内: 消き 外: 消き	内: Hue 2SY 2/1 外: Hue 2SY 4/1	10号棟上層	
	96	純文土器	深鉢形土器 底径高	口径 17.0 底径 12.0 高さ 5.0	口縁部片	内: ナデ、消き 外: ナデ、消き	内: Hue 2SY 6/3 外: Hue 10YR 5/2	包含層・複数	
	97	純文土器	深鉢形土器 底径高	口径 17.0 底径 12.0 高さ 5.0	口縁部片	内: 消き 外: 消き	内: Hue 10YR 6/4 外: Hue 10YR 5/3	複数	
98	98	純文土器	深鉢形土器 底径高	口径 17.0 底径 12.0 高さ 5.0	口縁部片	内: ナデ、消き 外: ナデ、消き	内: Hue 10YR 6/4 外: Hue 10YR 7/3	複数	

3. 医学部図書館義理新幹事に伴う発掘調査 (0707調査地点)

図	番号	遺物	種類(基準)	法面(cm)	埋存層	特徴	色	出土遺構	備考
41	99	縄文土器	深鉢形土器 底径 口径 高さ	13.8 13.8 13.8	LII段部下	内：ナデ、削き 外：ナデ、削き	内：Hue 10YR 8/3 外：Hue 10YR 8/3	続乱	
	100	縄文土器	深鉢形土器 底径 口径 高さ	13.8 13.8 13.8	LII段部下	内：削き 外：ナデ、削き	内：Hue 10YR 5/3 外：Hue 10YR 4/2	10号溝上層	
	101	縄文土器	深鉢形土器 底径 口径 高さ	13.8 13.8 13.8	LII段部下	内：削き 外：削き	内：Hue 25Y 6/4 外：Hue 25Y 5/4	続乱層	
	102	縄文土器	深鉢形土器 底径 口径 高さ	13.8 13.8 13.8	LII段部下	内：ナデ、削き 外：ナデ、削き	内：Hue 10YR 7/3 外：Hue 10YR 6/2	10号溝上層	
	103	縄文土器	深鉢形土器 底径 口径 高さ	13.8 13.8 13.8	LII段部下	内：削き 外：削き	内：Hue 25Y 4/4 外：Hue 25Y 4/2	3号壁穴住居址土	
	104	縄文土器	深鉢形土器 底径 口径 高さ	13.8 13.8 13.8	LII段部下	内：削き 外：削き	内：Hue 25Y 6/3 外：Hue 25Y 3/2	5号壁穴住居址土	
	105	縄文土器	深鉢形土器 底径 口径 高さ	13.8 13.8 13.8	剥離部	内：ナデ、削き 外：ナデ、削き	内：Hue 10YR 5/2 外：Hue 10YR 5/3	8号壁穴住居址塗瓦上	
	106	縄文土器	深鉢形土器 底径 口径 高さ	13.8 13.8 13.8	剥離部	内：削き 外：削き	内：Hue 25Y 6/2 外：Hue 25Y 4/1	57号ビット	
	107	縄文土器	深鉢形土器 底径 口径 高さ	13.8 13.8 13.8	剥離部	内：削き 外：削き	内：Hue 10YR 7/6 外：Hue 10YR 6/4	93号ビット	
	108	縄文土器	深鉢形土器 底径 口径 高さ	11.5 11.6	底部約1/4 底部	内：ナデ 外：ナデ	内：Hue 10YR 4/1 外：Hue 10YR 6/3	81号ビット	
	109	縄文土器	深鉢形土器 底径 口径 高さ	11.6	底部	内：ナデ 外：ナデ	内：Hue 25Y 6/3 外：Hue 10YR 6/3	10号溝下層	

屈曲するタイプ、103・104は直口外反タイプである。105は鉢形土器の屈曲部であろう。図41：106・107は御領式～古閑式段階の深鉢形土器の胴部、図41：108・109は同時期の深鉢形土器の底部の破片である。

以上のように縄文時代の後期後半の土器を中心とした土器が出土している。

(5) まとめ

本地点は本庄遺跡の中でも白川に近い北端部に位置する地点である。この地域は削平が著しいため遺構は地表下50cmほどで現れる。隣接する医学部図書館の発掘調査でも北側の遺構はかろうじて残存する状況であった。しかし、本庄北地区では、既往の調査によって明らかにされているように、弥生時代前期の環濠や古墳時代前期の溝（濠）群など、白川（北川）へ近づくにつれ検出される遺構の時期が古くなり、他の時代も含めた遺構自体の密度が濃くなる。今回は当該期の遺構は検出できなかつたが、台地上には古代の住居をはじめとする遺構群が、谷部には古代末と推定される水田や溝などが良好に残っていることを明らかにすることができた。

本地点で確認できる最古の時期は古墳時代であるが、7世紀～9世紀にかけての遺構群が目立って検出された。洪水砂の時期は不明であるが、隣接する図書館義理（0101調査地点）では同じく谷への落ち際で、砂でおおわれた畠跡が検出されている。0101調査地点の成果によると、おそらくこれらは台地上まで連続していたものと思われる。この一帯は飽田郡への国衙の移転に伴い、耕作地へと転化したことが知られており、9世紀代後半以降のものと推定される。今回発見された水田跡は、1枚が3～4m²の区画で、しかも畔越えの水調整という構造であり、古代末としては一見原始的に見えるが、川へ落ちていく斜面をうまく利用して、最小限の労力で最大の水田面積を作り出すという工夫が合理的なものである。残念ながら台地上も含め、その広がりや台地上での水田の構造が不明であるのでこれが当時の水田を代表するものとは言えないが、可耕地を限りなく有効利用した優れた作田方式であったと評価できよう。

残念なのはこれらが旧建物によって一部破壊されていた点である。ただし、これらの被害を免れた遺構はそのものも本遺跡の性格や地域の歴史を語るうえで貴重であるし、その中にはそれらを雄弁に物語る多量の遺物群が遺されている。今後も攪乱の激しい構内遺跡ではあるが、わずかに残された遺構であっても、これらを丹念に紡いでいくことで遺跡全体の復元が可能と思われる。

4. 東病棟新営工事に伴う発掘調査（0104調査地点）

（1）調査の目的と経過

a. 調査地と調査経緯

調査区は建設予定地の北東隅にあたり、周辺地域の調査（0104調査地点）において、弥生時代～古墳時代の溝や住居址などが検出されている。この0104調査地点の125号溝は弥生前期の環濠と思われる溝であり、溝の方向が南北方向をとることから、今回の調査区内においてもその延長部が発見されることが予想された。

2008年8月18日に実施した立会調査の結果、予想どおり溝の延長部が幅1.0mほど発見された。このため、熊本市文化財課に連絡し、急速発掘調査に切り替え調査を行った。発掘調査は8月20日～22日の3日間実施した。これより南側は、旧病棟の基礎のため2.5～3mほど掘削されているとの情報であったが、溝の深さが1.5mほどあるため、残存している可能性があり、重機で搅乱層を除去して、遺構の検出に努めた。その結果、幅1.0mほどではあったが、溝の基底部が20cmほど残存していることが判明した。溝の方向性がおおまかであるが、確認できたのはおおきな廻り塀であった。遺物としては弥生時代前期の土器片数点が出土した。発掘調査面積は212m²である。

b. 調査の経過

- 2008年8月20日 人力による作業開始。2号溝を掘り進めながら、南方向への延長部を確認するために、旧建築部の基礎掘り部分の下を確認し、深さ20～30cmほどが削平を免れて残存していることを確認。
- 2008年8月21日 共同溝建設部全体に溝が残存している可能性があるため、南側部分から掘削を始めたが、地表下3mほどまで削平を受けており、遺構はなにも検出できなかった。同日作業終了間に一段削平が50cmほど浅い部分があり、この部分において溝の続きを確認した。
- 2008年8月22日 溝底より弥生土器片を1点回収した。写真撮影・実測を行い、調査を終了。

c. 調査の組織

調査員：小畠弘己

事務担当：中川木綿子

発掘作業員：江藤恵子・田中香苗・渝潤俊子・早田咲百合・福島 実・森川征子・森川 譲

整理作業員：江口 路・鬼塚美枝・小山正子・古賀満代・首藤優子・末吉美紀・高松あゆみ・長谷智子・増井弘子・山崎早苗

（2）調査区の基本層序

基本層序は周辺が矢板によって囲まれており、確認できなかった。

（3）検出遺構

共同溝建設のための旧調査（0104調査地点）部と旧建物の基礎掘りとの間2.0m余りが調査対象と予想された。埋土および搅乱層を除去したところ、北端の共同溝連接部において地表下1mほどで遺構面が残存していることを確認。遺構として西端に近世～近代の溝（深さ30cm）ほどや古代と思わ

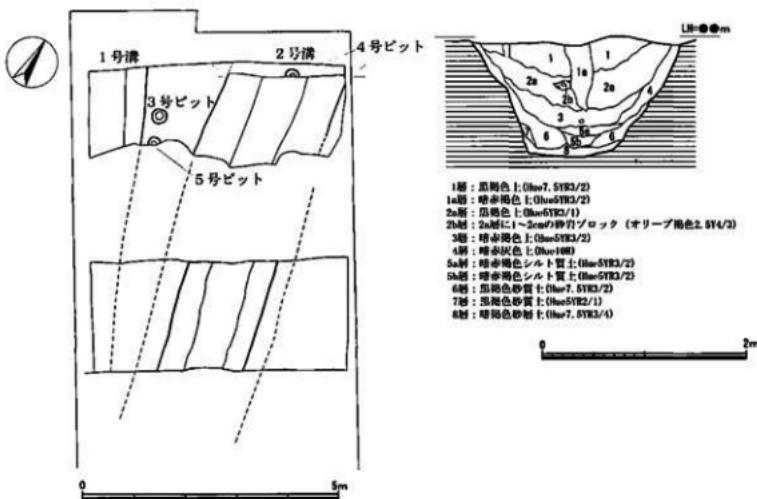


図42 0814調査地点遺構配置図・2号溝土層断面図（1/100・1/50）

れるピットなどを確認した。西側で弥生時代前期の環濠である2号溝を検出、より南側へ延びることを確認した。

<溝>

1号溝

調査区北側の西端で検出した、断面台形の近世～近代の溝で、幅1.0mほど確認している。ほとんどが調査区外へ延びるため、全形は不明である。検出したもっとも深い部分で深さは30cmほどで、溝底10cm部分に硬く土塊が固化した部分が認められ、この部分から碎片となった陶磁器類を回収した。年代的に19世紀後半以降のものと思われる。

2号溝

調査区北側の東端からほぼ南北方向へ延びる、幅2.3m、深さ2.2mほどの溝である。わずかにカーブを描きながら南北方向へ延びる。長さは6.3mほどを確認できたが、その南側は旧建物の削平によってまったく残存していない。覆土は大きく8枚に分離できる。下部の3層（第6～8層）は掘削後まもなく埋まった土塊と推定され、第5層は溝が機能していたころの溝底の堆積物と思われる。土層の記載は以下のとおりである。

第1層 黒褐色土層 (Hue7.5YR 3/2)

第2a層 黒褐色土層 (Hue5 YR 3/1)

第2b層 2a層中に直径1～2cmの砂岩ブロック (Hue2.5Y 4/3 : オリーブ褐色) が入る

第3層 暗赤褐色土層 (Hue5 YR 3/2)

第4層 暗赤灰色土層 (Hue10R 3/2)

第5a層 暗赤褐色シルト質土 (Hue5 YR 3/2)

第5b層 直径5mm前後の砂岩（砂）ブロックの層で分けられる

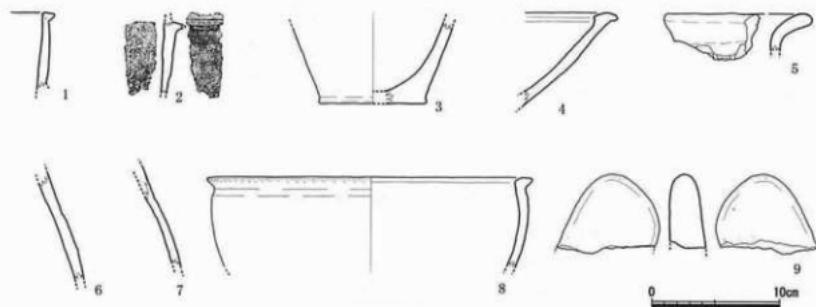


図43 0814調査地点出土遺物実測図（1/4）

第6層 黒褐色砂質土層 (Hue7.5YR 3/2)

第7層 黒褐色砂質土層 (Hue 5 YR 2/1)

第8層 暗褐色砂質土層 (Hue 5 YR 3/4) (下部層の直径2cmの砂のブロックが混じる)

出土遺物は弥生前期の土器が少量出土した。

<ピット>

3・4・5号ピット

黒褐色土 (Hue 5 YR 2/2) の覆土をもつ直径20cmあまり、深さ50cmほどの柱穴と思われる構造である。出土遺物は古代の土師器・須恵器の小片である。

(4) 出土遺物

2号溝出土および関連遺物（図43）

2号溝から出土した土器と周辺の擾乱から出土した弥生時代前期の土器および石器について述べる。

図43：1・2は壺形土器の口縁部および胴部の破片である。図3は同時期の壺形土器もしくは壺形土器の底部である。図43：4は高杯の口縁の破片である。図43：5～7は壺形土器の口縁部と胴部の破片である。図43：8は鉢形土器の口縁部片である。口唇部外面に刻目を施す。図43：9は安山岩の偏平な河原礫を利用した叩き石である。側面頂部に叩いた痕跡が認められる。

表11 0814調査地点出土遺物一覧表

図 番号	遺 物	種類(器種)	法 量(cm)	規 存 量	特 徴	色 調	出 土 場 所	備 考
1	弥生土器	壺形土器 底径 身高		口縁部片	内:ナデ 外:ナデ	内: Hue 10YR 6/4 外: Hue 75YR 6/6	2号溝	
2	弥生土器	壺形土器 底径 身高		口縁部・胴部片	内:ナデ 外:ナデ	内: Hue 10YR 7/4 外: Hue 10YR 6/3	擾 乱	口縁上面ススあり。圧痕あり
3	弥生土器	壺形土器 底径 8.5 身高		胴部・底部片	内:ナデ 外:ナデ	内: Hue 5YR 7/6 外: Hue 10YR 8/4	2号溝	
4	弥生土器	高杯 底径 身高		口縁部・胴部片	内: 磨き 外: 磨き	内: Hue 75YR 7/6 外: Hue 6/6	2号溝最下層松根部	
5	弥生土器	壺形土器 底径 身高		口縁部片	内:ナデ。磨き 外:ナデ。磨き	内: Hue 10YR 6/6 外: Hue 10YR 6/4	2号溝	
6	弥生土器	壺形土器 底径 身高		胴部片	内:ナデ 外:磨き	内: Hue 25Y 5/1 外: Hue 25Y 5/2	2号溝	
7	弥生土器	壺形土器 底径 身高		胴部片	内:ナデ 外:磨き	内: Hue 25Y 5/1 外: Hue 25Y 5/2	2号溝	

4. 東病棟新営工事に伴う発掘調査（0814調査地点）

番号	遺物	種類(器種)	縦長(cm)	横 寸 長	特 徴	色 調	出土遺物	備考
43	8	弥生土器	円筒形土器 底面 底面 底面	25.6 8.1 6.2 2.8	内：ナデ 外：ナデ	内：Hue 10YR 8/2 外：Hue 10YR 8/2	陶 瓦	
	9	石 器	敲 石				陶 瓦	重量184g、スヌ厚く付着

(5)まとめ

今回の調査においては、弥生時代前期板付1式平行期の環濠の続きを確認した。この環濠はその一部（総延長10m未満）しか確認できていないが、北側15mほどでは直線的に現白川河岸に達するものと思われる。よって、この部分は近世の白川改修によって破壊されたものと推定される。また、南側はやや西にカーブしながら南へ延びており、その延長部は旧建物に破壊を受け、その軌跡は不明である。しかし、より南側にあたる東病棟本体部の発掘調査（0712調査地点）においてはその延長部は確認していないため、おそらくより西側へ振れて弧状に延びていたものと思われる。

また、今回の調査では、旧建物によって破壊されていたと思われた部分においても深い溝などの一部遺構が残存していることが判明した。今後は既存建物部分においても、これら遺構の残存の可能性についても考慮しながら慎重に工事を進めなければならない。

V 本荘中地区の調査

本荘団地中地区医学部B棟・E棟・R I・旧動物舎取壊工事に伴う発掘調査(0314調査地点)

(1) 調査の目的と経過

a. 調査地と調査経緯

本調査地点は、2003年度に開始されたPFI事業による発生医学研究センター建設の整備事業の一環として実施された基礎研究棟B棟と基礎研究棟E棟の解体工事に伴う発掘調査である。隣接地で実施した1998年度の医学部エイズ学研究センター建設に伴う図書館の解体工事の際は、基礎撤去後に現場において埋蔵文化財の有無を確認したが、基礎撤去に伴い、すでに削平されていた。このため今回は建物上物の撤去後、基礎部分において試掘を行い、埋蔵文化財の有無を確認することとした。12月23日、B棟解体時に試掘を実施した。この部分は地下室となっていたが、基礎掘削部の間に旧地表面が比較的良好に残存していることを確認することができた。このため基礎上部の撤去後に機械を入れて確認したところ、一部に遺構が残存していることが判明したため、すぐに発掘調査に切り替え、調査を開始した。

E 棟においても、B 棟での経験から、遺構が残存する可能性が高いため、施工業者と協議の上、基礎上部撤去後、3月5日に試掘を実施した。この結果、一部において遺構が検出できたため、発掘調査に切り替えた。B 棟部分を I 区、E 棟部分を II 区と呼称し、遺構番号は連続して付した。なお、I 区の調査面積は700m²、II 区の調査面積は300m²である。

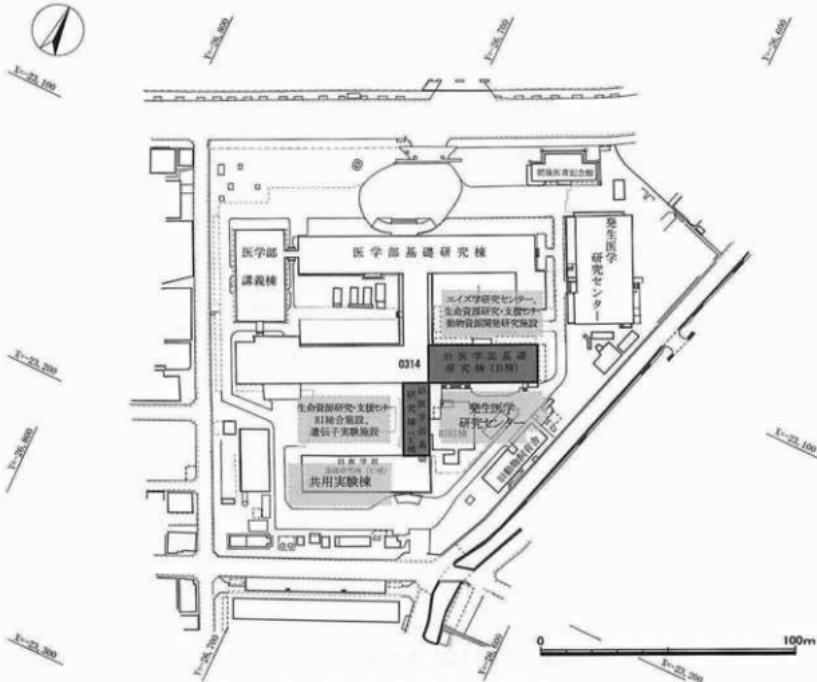


図44 本荘中地区における調査地点配置図（1/2000）

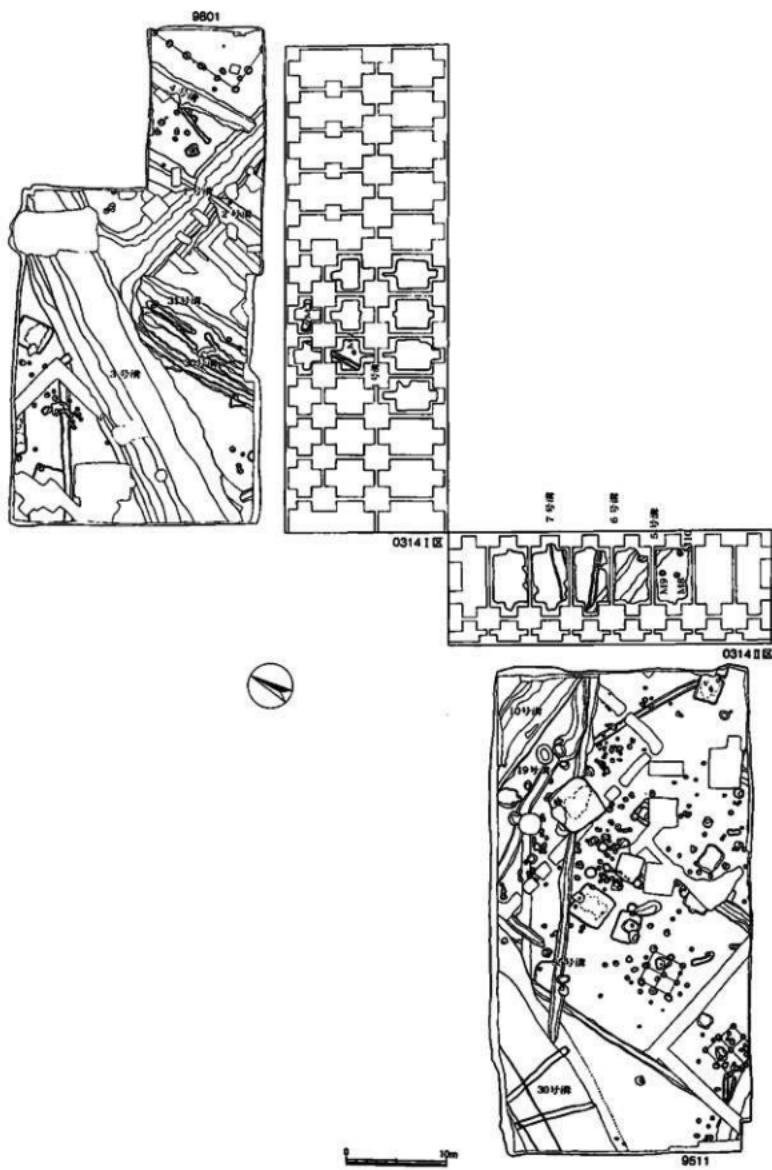


図45 0314調査地点造構配置図 (1/500)

b. 調査の経過

- 2004年1月23日 I区調査開始。重機による搅乱土除去。
 2004年1月24日 I区遺構検出。掘り下げ。
 2004年1月27日 I区全景写真撮影。遺構実測。調査終了。
 2004年3月5日 II区試掘後、調査開始。
 2004年3月6日 II区遺構検出。5号溝など遺構掘り下げ。
 2004年3月9日 II区全景写真撮影。遺構実測。調査終了。

c. 調査の組織

- 調査員：小畠弘己
 事務担当：坂元紀乃
 発掘作業員：河野義勝・白石美智子・溜瀬俊子・林田恵子・早田咲百合・番山明子・松井昭子・森川征子・森川 譲
 整理作業員：江口路・鬼塚美枝・小山正子・古賀満代・首藤優子・末吉美紀・溜瀬俊子・早田咲百合・林田恵子・増井弘子・山崎早苗

(2) 調査区の基本層序

I区、II区ともいすれの調査区も地表下2mほど削平されていたが、黄褐色の地山（遺構面）と称する土壤は残存していた。しかし、10cmほど掘り下げるとシルト質が強くなり、灰黄褐色～淡緑灰色のシルト・砂層へと移行する。このため堆積層の上部がかなり削平されていることが判明した。もっとも深い溝（5号溝）は、硬いシルト層を貫いており、その底は灰褐色粗砂層まで達していた。

(3) 検出遺構**<溝>****5号溝**

II区中央部を東西に走る幅2.0m、深さ0.6mの溝である。断面形は台形状を呈する。16世紀後半の明染付碗や陶器擂鉢の破片が古代の土器片などとともに出土した。その方向と位置関係から9511調査地点の北西隅で検出された10号溝に繋がるものと思われる。溝の形状および出土遺物の種類・時期も一致している。

6号溝

II区中央部を東北東から西南西方向に走る幅0.5m、深さ0.07mの小溝である。遺物は土師器・須恵器の小片があるのみであるが、その位置関係から、9511調査地点の55溝に連続することがわかる。断面形は浅いレンズ状を呈している。8世紀後半代の住居址に切られていることから、時期はそれより遡る可能性がある。

7号溝

II区北側を北東から南西方向に走る断面形逆台形の幅1.0m、深さ0.15mの溝である。土師器小片が出土した。その位置関係から9511調査地点の19号溝に連続するものと思われる。9511地区での切り合ひ関係から、6号溝より新しいものと思われる。

1号溝

I区中央部西よりの部分で検出した幅0.4m、深さ0.05mの断面形が浅いレンズ状をなす溝である。

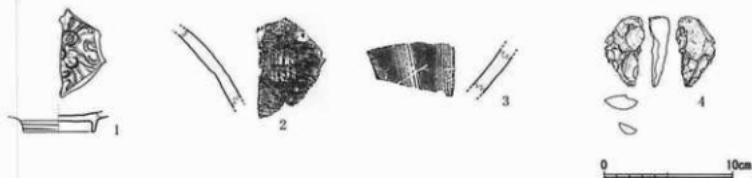


図46 0314調査地点出土遺物実測図（1/4）

表12 0314調査地点出土遺物一覧表

図 番号	遺 物	種類(層相)	法 量(cm)	残 存 量	特 徴	色 調	出土遺物	備 考
46	1 瓶 器	瓶	口径 底径 厚さ 57	底部のみ 1/2	内:ナデ 外:ナデ	内:How 青白色 外:How 青白色	II区5号溝下層	鳥頭染付け
	2 陶 器	壺	口径 底径 厚さ 31	肩部片	内:ナデ 外:ナデ	内:How 10YR 5/3 外:How 7.5Y 5/3	II区5号溝上層	外面赤絞、タキアリ
	3 陶 器	盆 拝	口径 底径 厚さ 56	腹部片	内:ナデ 外:ナデ	内:How 23Y 6/2 外:How 23Y 6/3	II区5号溝下層	
	4 石 器	黒曜石	直径 厚さ 31 1.1	刮 器			II区5号溝下層	重量20g

方向は南北方向に走る。9801地点の状況からみて同地点の30号～32号溝と一連の性格をもつものと思われるが、北側に延長した部分にあたる9801点の調査区内にはその延長部と思われる部分は検出されていない。時期の詳細は不明であるが、覆土の状況から古代のものと思われる。

このほか、I区において2個、II区において3個のピットを検出した。II区において検出した3個のピット（M8～M9）は一連の構造物である可能性もある。遺物は1点も検出できていないが、覆土は黒褐色であり、その色合から本地点でも古い遺構の部類に属しており、古代以前の遺構と思われる。

（4）出土遺物

5号溝出土遺物（図46：1～4）

図46：1は明代の染付碗である。見込みに草花文を描く。図46：2は陶器壺の肩部の破片である。図46：3は陶製擂鉢の胴部片である。図46：4は縄文時代の黒曜石製のスクレイバーである。溝の時期はおそらく16世紀後半～末と考えられる。

（5）まとめ

今回の調査によって、医学部敷地内の東南側部分に遺構が広がることと、さらには既存建物部分であっても、地表下2m前後であれば、遺構が削平を一部免れて残存していることが明らかになった点は重要である。これは、今後建物新設のみならず、既存建物の解体に際して、基礎を撤去する際にも埋蔵文化財の有無を確認する必要があることを実証したもので、今後の学内整備の計画の際に留意すべき点である。

VI 本荘南地区の調査

こばと保育園新営機械設備工事（変更2）に伴う発掘調査（0830調査地点）

（1）調査の目的と経過

a. 調査地と調査経緯

工事は建物周辺を機械設備のため配管を行うものである。また、その一部は南側で市道部分の掘削を伴っている。熊本市文化財課により試掘調査によって発掘調査の指導が降りた物件である。建物南側部分の掘削規模は幅2.0m、長さ14.0mであり、この部分において11月19日より発掘調査を開始した。その他の建物周囲の部分は幅0.7mほどであり、重機によって包含層の検出に努めたが、攪乱が多く、遺構・遺物ともに確認していない。また、市道部分は地表下1.0mで黒褐色土、地表下1.15mで黄褐色土を確認したが、明確な遺構・遺物は検出していない。

市文化財課による試掘の結果、水田基盤土とマンガン沈殿層、その上部に遺物包含層を確認とのことであったが、発掘調査部分においては、地表下1.6mほどまで掘り下げたが、攪乱が多く、また、東側半分は大きな溝らしき造構が存在し、包含層および溝部分からは、磨耗した土師器・須恵器などが数片出土したに過ぎない。市文化財課に連絡し、これ以上の掘削はないため、土層を確認・記録して調査を終了した。調査面積は20m²である。

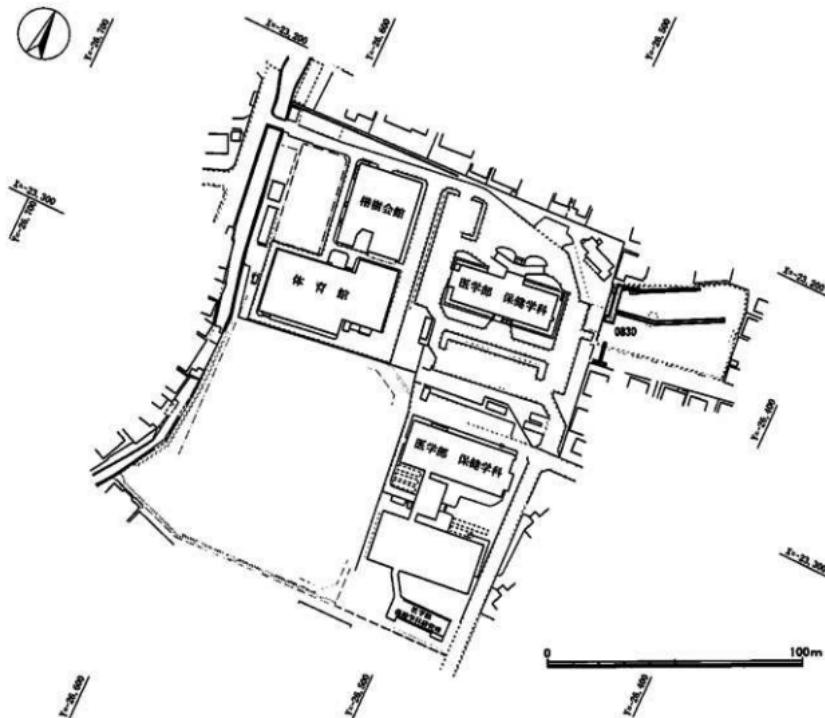


図47 本荘南地区における調査地点配置図（1/2000）

こばと保育園新設機械設備工事（審査2）に伴う発掘調査（0830調査地点）

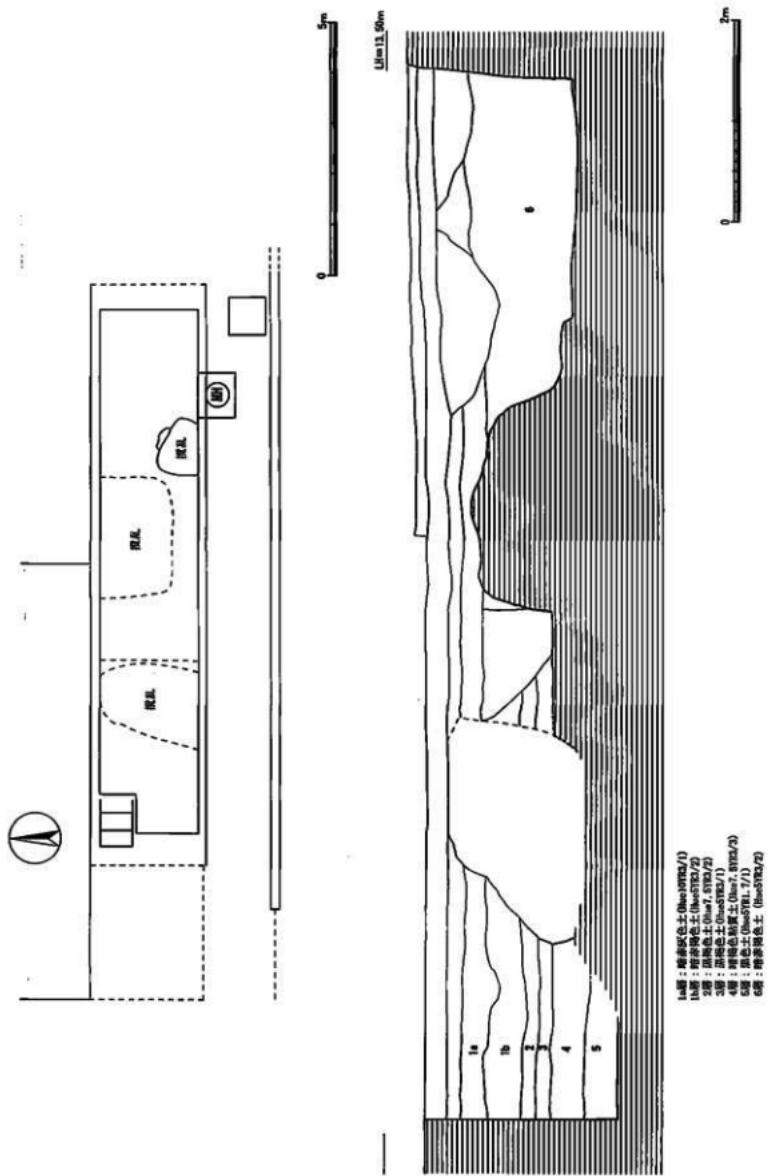


図48 0830調査地点遺構配置図・北壁土層断面図（1/100・1/50）

b. 調査の経過

2008年11月19日 調査開始。擾乱層を掘った後、遺物包含層を下げる。

2008年11月20日 調査区東側において溝らしき造構を確認。

2008年11月21日 調査終了。

c. 調査の組織

調査員：小畠弘己

事務担当：中川木緒子

発掘作業員：澤ひとみ・増田理子・増田由美・森永聰子

整理作業員：江口路・鬼塚美枝・小山正子・古閑満代・首藤優子・末吉美紀・高松あゆみ・長谷智子・増井弘子・山崎早苗

(2) 調査区の基本層序（図48）

表土・埋土の下は、1a層：暗赤灰色土（Hue10YR3/1）、1b層：暗赤褐色土（Hue5YR3/2）、2層：黒褐色土（Hue7.5YR3/2）、3層：黒褐色土（Hue5YR3/1）、4層：暗褐色粘質土（Hue7.5YR3/3）、5層：黒色土（Hue5YR1.7/1）である。

(3) 検出遺構

調査区の大部分が搅乱されており、遺構の検出が困難であった。しかし、調査区東側の2/3が1b層から切り込まれた大きな溝（濠）であることが判明した。この中からは摩耗した遺物が数点であるのみで、おそらく近現代の遺構と思われたため、地表から1.7mほど下げた時点では調査を終了している。

(4) 出土遺物

図49：1は瓦質の擂鉢の口縁部片である。断面三角形であり、中世のものと思われる。図49：2は白磁の合子の蓋の破片である。近世以降のものと思われる。3は須恵器の壊蓋の破片である。古代のものと思われる。



図49 0830調査地点出土遺物実測図（1/4）

表13 0830調査地点出土遺物一覧表

番号	遺物	種類(器種)	法量(cm)	埋存量	特徴	色調	出土遺構	備考
1	瓦質土器 (東側高) 擂鉢	口縁部 器底 器高	口縁部片	内：回転ナダ 外：回転ナダ	内：Hue 7.5Y 6/2 外：Hue 7.5Y 6/1	調査区東側包含層	外側口縁部のみに釉あり	
2	白 磁 合 子	口縁部 器底 器高	口縁部片	内：ナダ 外：ナダ	内：Hue 2SY 8/1 外：Hue 2SY 8/1	調査区東側包含層	口縁部釉ナゲ	
3	須恵器 壊 盖	口縁部 器底 器高	崩部片	内：回転ナダ 外：回転ナダ	内：Hue 7SYR 6/6 外：Hue 7SYR 6/4	調査区西側包含層		

（5）まとめ

医学部保健学科の所在する本地区は旧水田地区であり、それを裏付けるように、地下を掘ると近現代の水田土壤がでてくる。ただし、敷地南側の一部には古代遺物を含む包含層が残っており、その広がりが不明であった。今回、敷地の北東部にあたる部分を調査したことになるが、ここからも古代遺物は出土するものの、摩耗しており、原位置を保っているものではないことが明らかになった。

写 真 図 版

図版1 0854調査地点



写真1 I a 区全景（西より）



写真2 I b 区全景（南より）



写真3 1号竪穴住居址掘り方土層（南より）



写真4 II区全景（西より）



写真5 15号竪穴住居址完掘状況（西より）

図版2 0854調査地点



写真6 20号土壤検出状況（南西より）



写真7 20号土壤検出状況（南東より）



写真8 20号土壤土層断面（南西より）

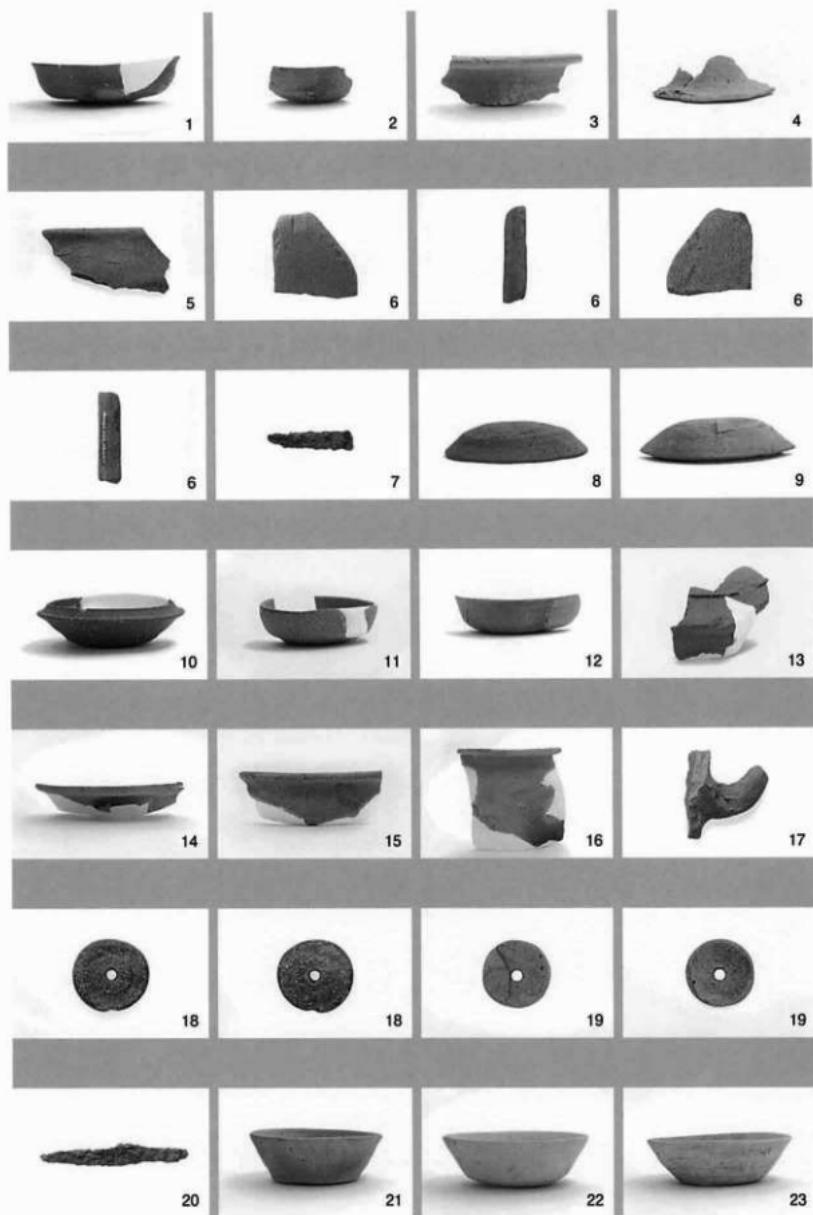


写真9 20号土壤土層断面（南より）

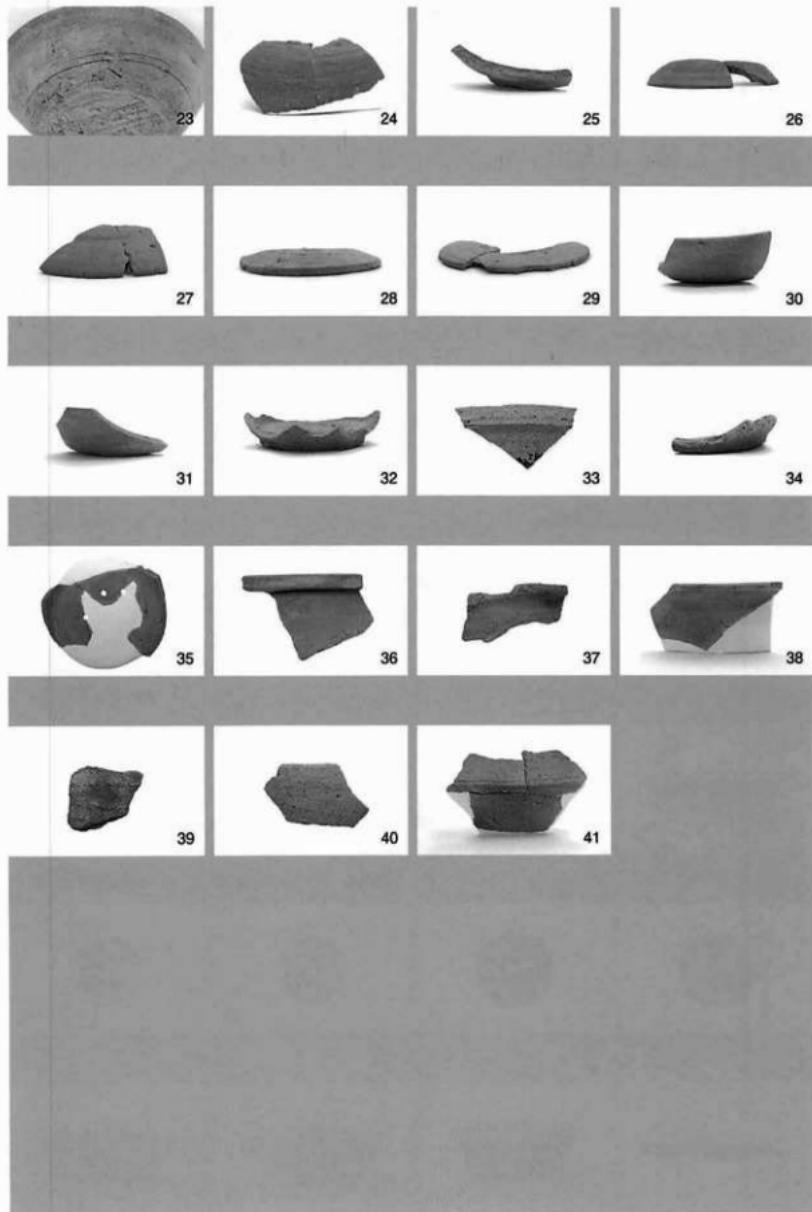


写真10 20号土壤（北西より）

図版3 0854調査地点出土遺物1



図版4 0854調査地点出土遺物2



図版5 0935調査地点



写真11 道路横断部分掘削風景 (北より)



写真12 道路横断部分掘削後 (北東より)



写真13 人孔No.1掘削風景 (北より)

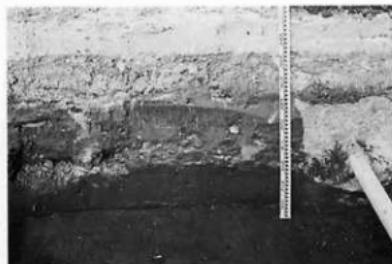


写真14 人孔No.1北壁土層拡大 (南より)



写真15 人孔No.1完掘状況 (北より)

図版6 0935調査地点・同出土遺物



写真16 冠雪の武夫原 (2009.1.13) (南より)



写真17 体育館前工区掘削風景 (北より)



写真18 人孔No.3掘削後状況 (西より)



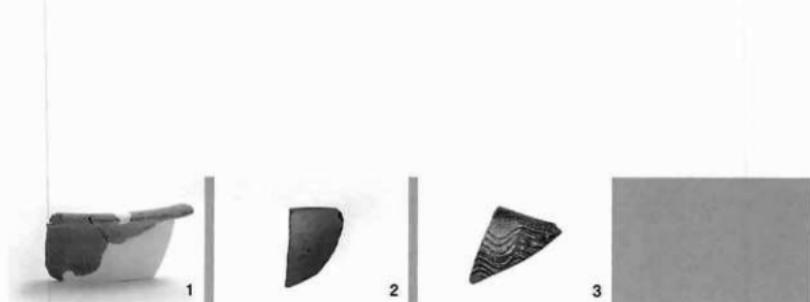
写真19 学生会館西侧道路掘削状況 (北より)



写真20 人孔No.4掘削後状況 (西より)



写真21 人孔No.5掘削後状況 (南より)



図版7 0302調査地点I区



写真22 I区全景(南より)



写真23 黒曜石出土状況(北より)



写真24 6号溝完掘状況1(東より)



写真25 6号溝完掘状況2(西より)



写真26 遺物出土状況(北より)



写真27 遺物集中区(南より)



写真28 土器出土状況(北より)

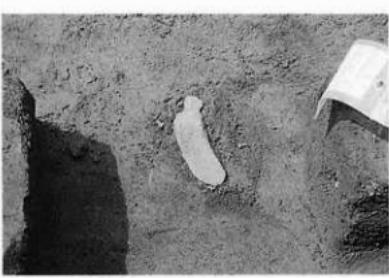


写真29 石器出土状況(東より)

図版8 0302調査地点Ⅱ区



写真30 完掘状況1 (北より)



写真31 完掘状況2 (南より)



写真32 調査区西壁土層 (東より)



写真33 調査風景 (南より)



写真34 包含層完掘状況 (遺物出土状況) (南より)



写真35 土器出土状況1 (南より)

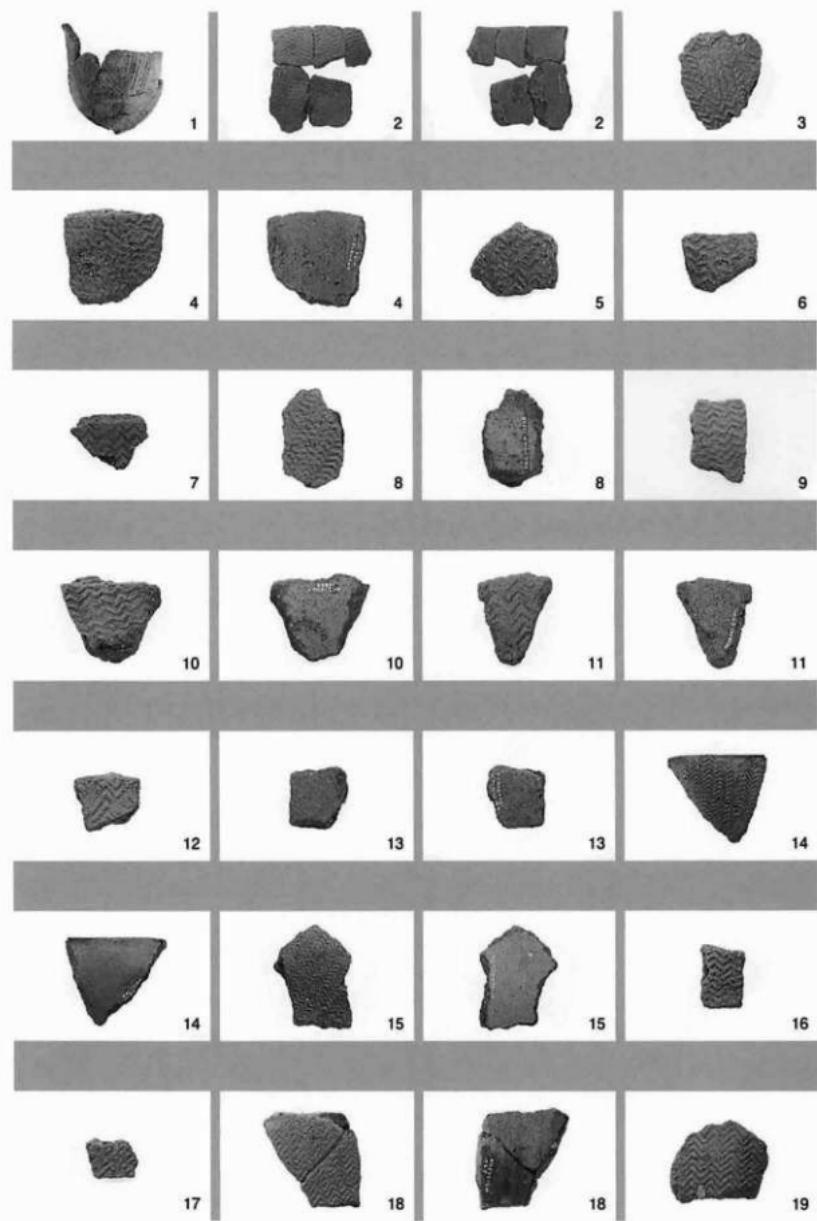


写真36 土器出土状況2 (南西より)

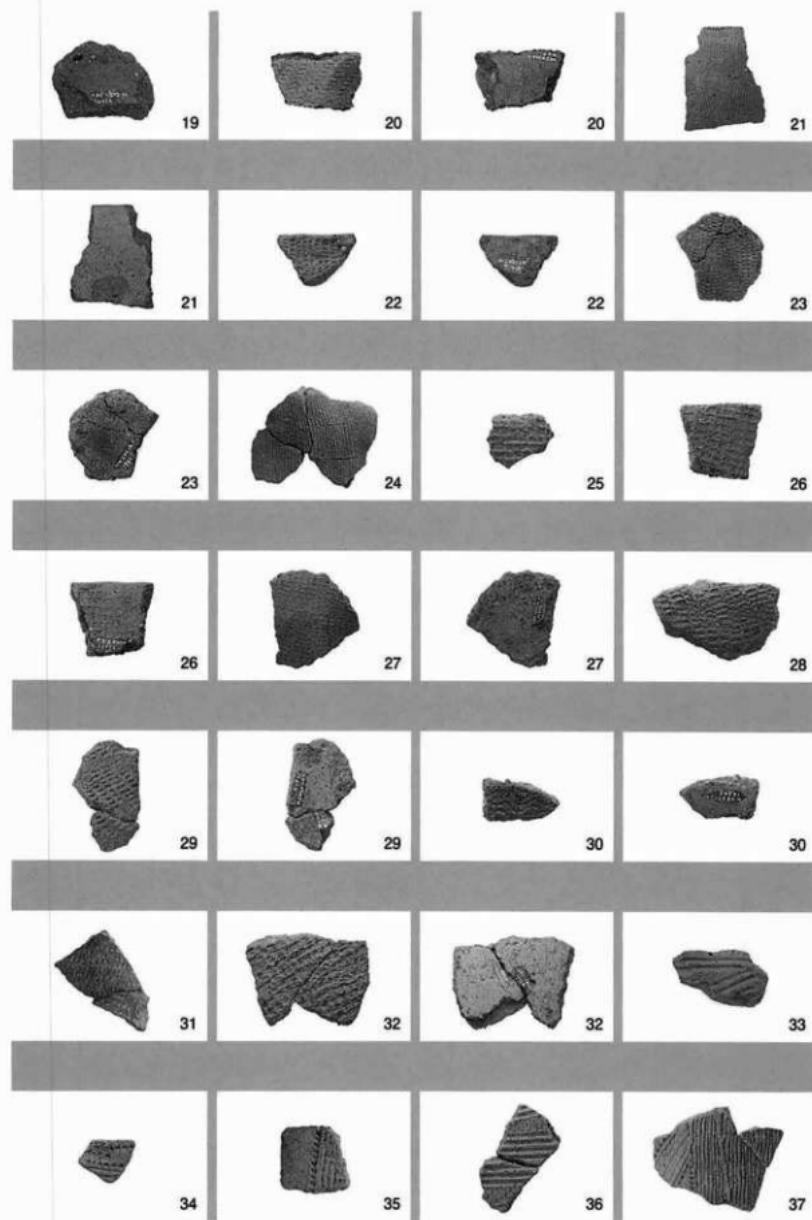


写真37 土器出土状況3 (南西より)

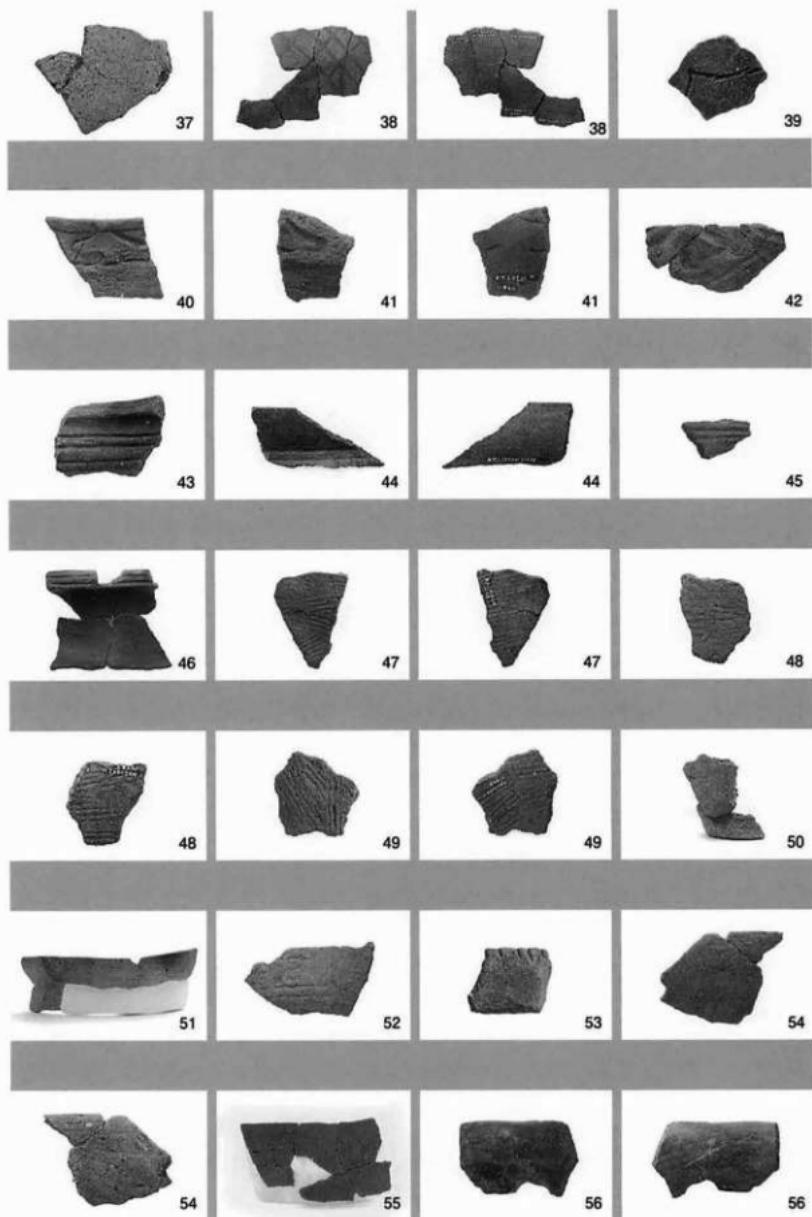
図版9 0302調査地点出土遺物1



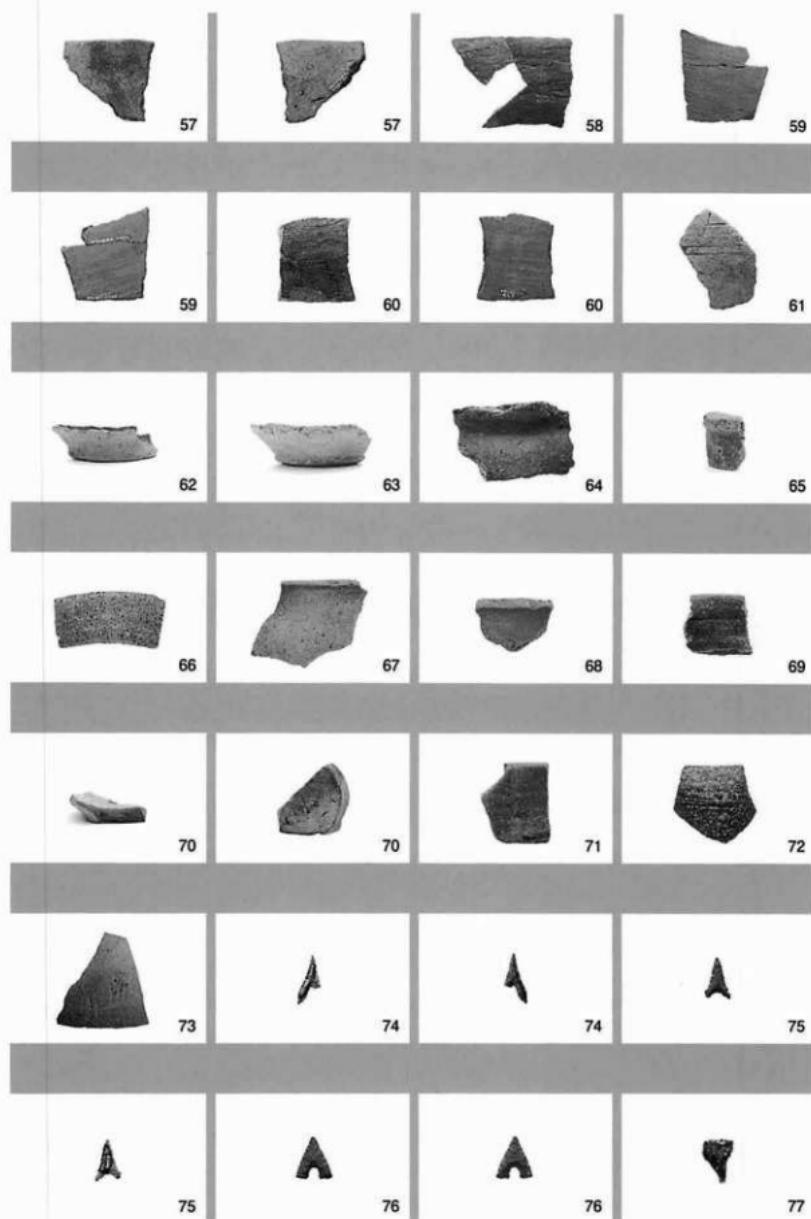
図版10 0302調査地点出土遺物2



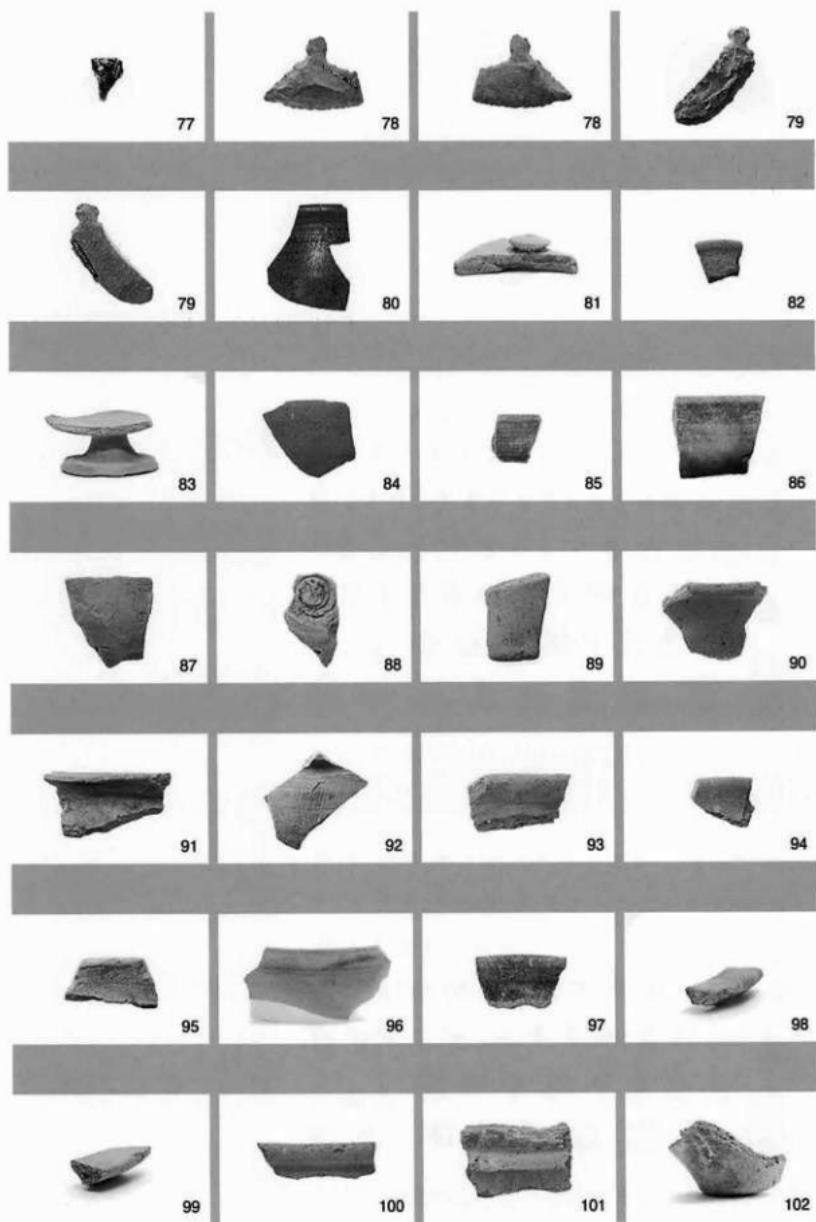
図版11 0302調査地点出土遺物3



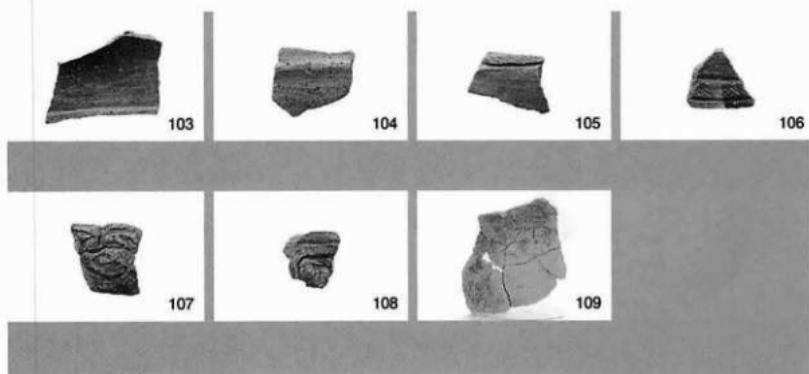
図版12 0302調査地点出土遺物4



図版13 0302調査地点出土遺物5



図版14 0302調査地点出土遺物6



黒曜石製剥片・チップ(表)



黒曜石製剥片・チップ(裏)

図版15 0932調査地点・同出土遺物



写真38 II・III区完掘後状況（南より）



写真39 II区遺物出土状況（東より）



写真40 1号溝1（西より）



写真41 1号溝2（東より）



写真42 赤レンガ基礎（南西より）



1



2



3



4



5

図版16 0938調査地点



写真43 I トレンチ調査風景 (東より)



写真44 II トレンチ全景 (東より)



写真45 I トレンチ1号溝 (西より)



写真46 I トレンチ1号溝掘り上げ後 (南より)



写真47 II トレンチ1号溝 (南より)



写真48 I トレンチ縄文土器出土状況 (東より)



写真49 I トレンチ西側遺物集中区 (東より)

図版17 0938調査地点



写真50 I トレンチ西侧遺物集中区（西より）



写真51 遺物集中区遺物出土状況（西より）



写真52 繩文土器出土状況（西より）

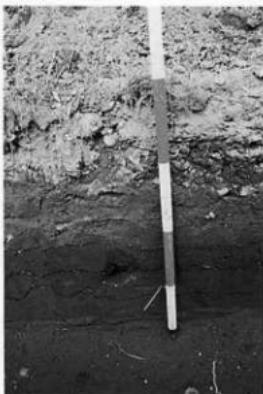


写真53 I トレンチ西側遺物集中区土層（南より）

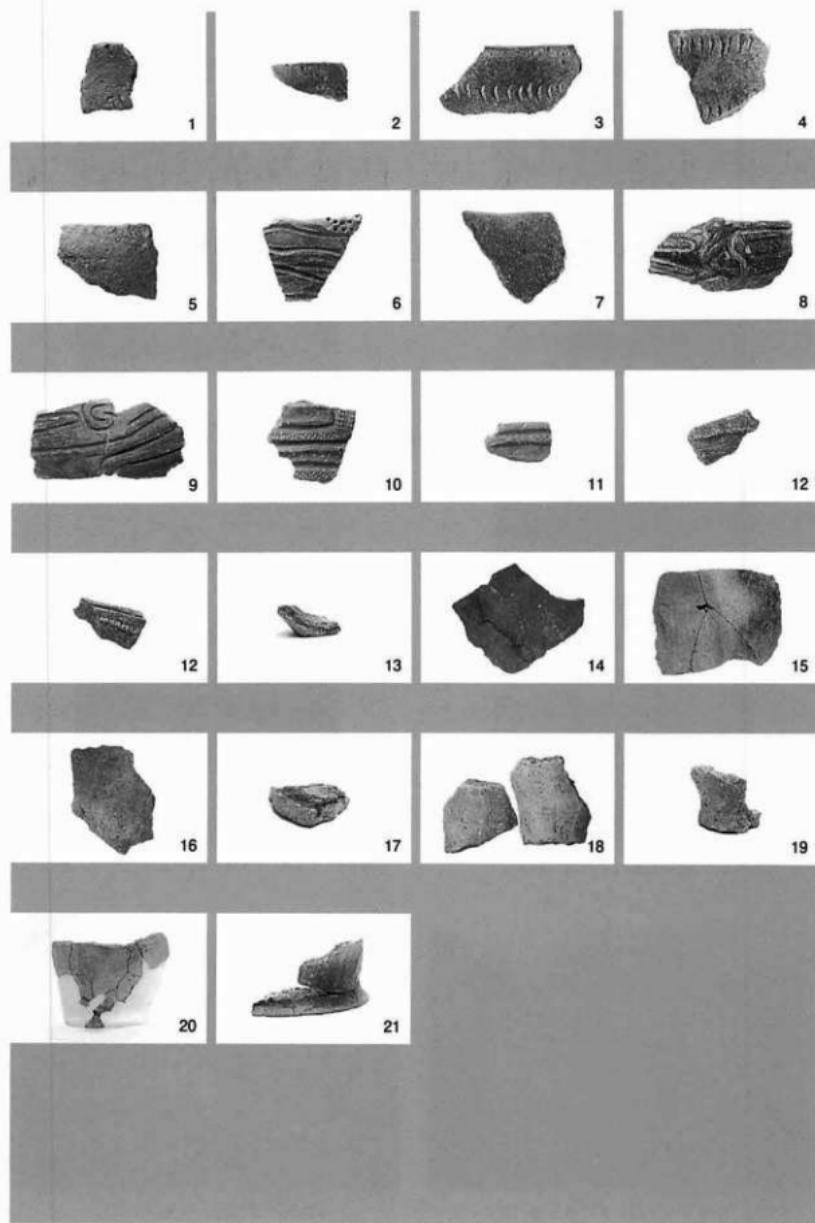


写真54 I トレンチ掘り上げ後土層（東より）



写真55 遺物出土状況（東より）

図版18 0938調査地点出土遺物



図版19 0426調査地点



写真56 調査区全景（西より）



写真57 2号溝完掘土層状況（南西より）



写真58 2号溝出土馬骨（南より）

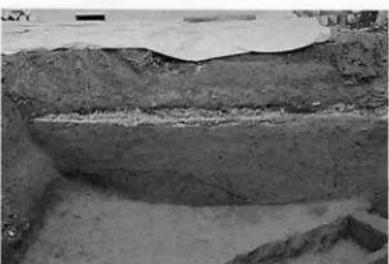


写真59 調査区北壁土層（南より）

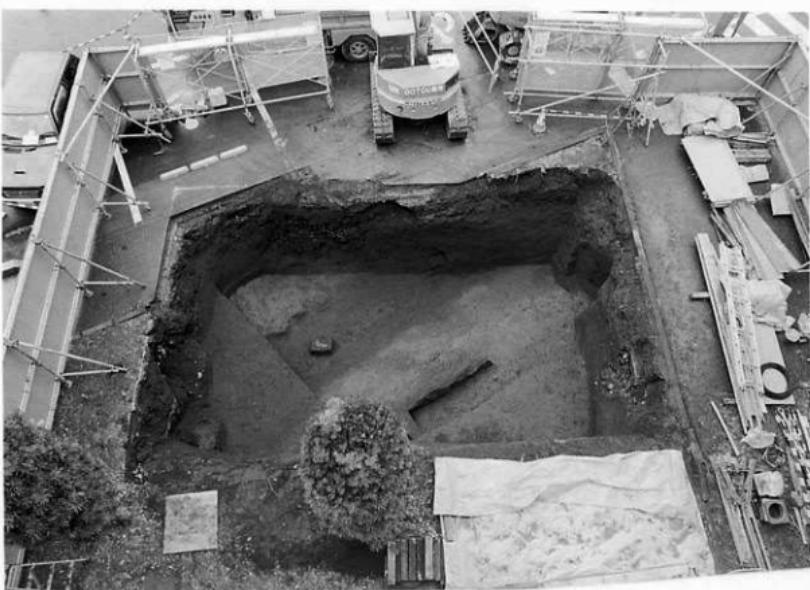
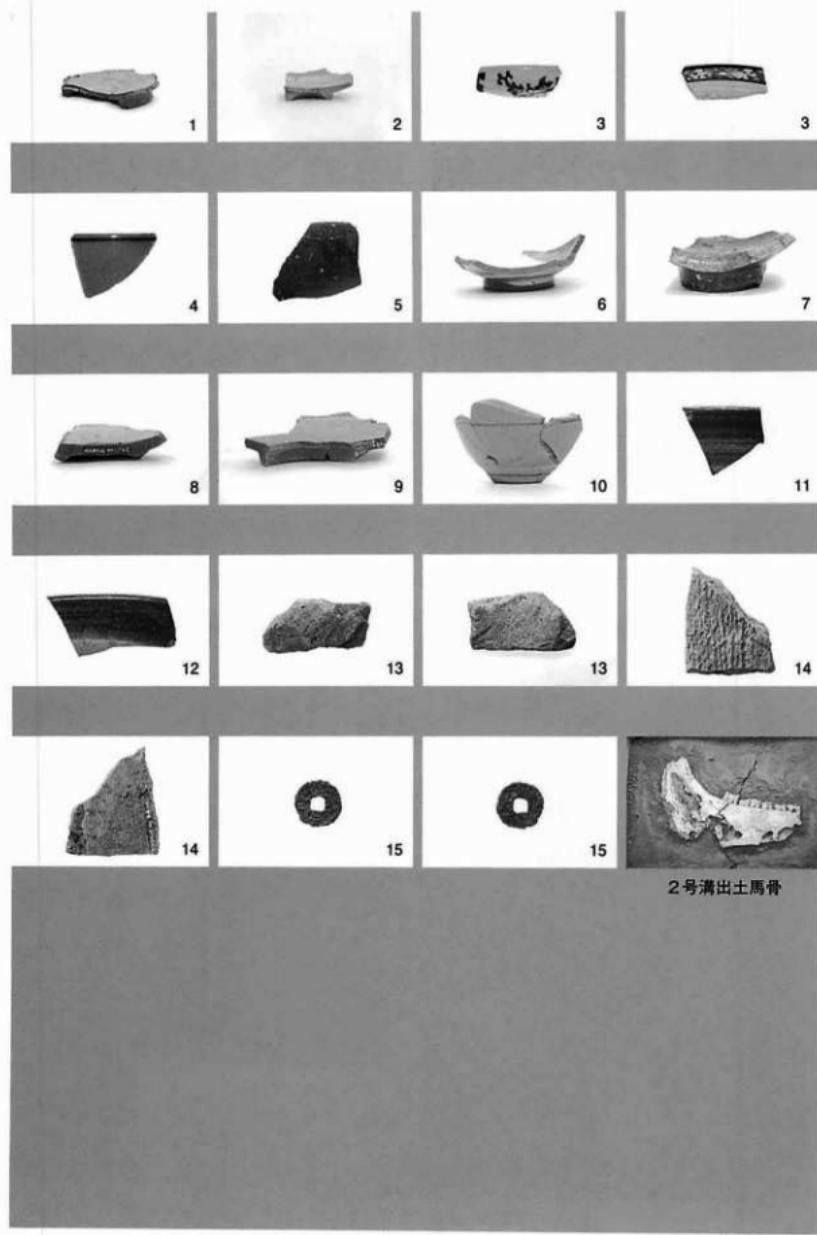


写真60 調査区全景（北より）

図版20 0426調査地点出土遺物



図版21 0622調査地点・同出土遺物



写真61 調査区掘削開始状況（東より）



写真62 調査区掘削後状況（西より）



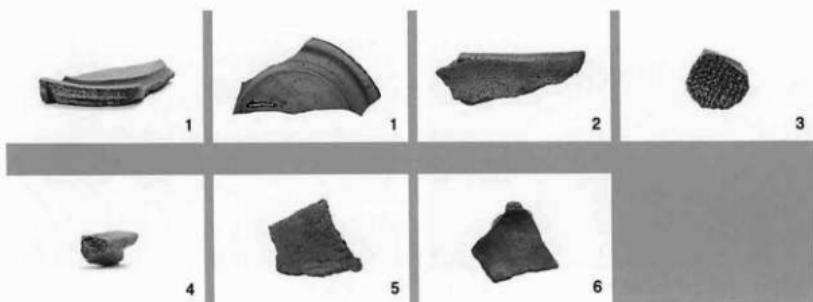
写真63 1号竪穴住居址遺物出土状況（南より）



写真64 2号溝遺物出土状況（北より）



写真65 2号溝掘り上げ状況（南より）



図版22 0707調査地点



写真66 I区全景（北より）



写真67 I区全景（南より）



写真68 1号竪穴住居址（南より）



写真69 2号竪穴住居址遺物出土状況（東より）



写真70 2号竪穴住居址北限遺物出土状況（北西より）



写真71 2号竪穴住居址北西限縫（南より）



写真72 2号竪穴住居址掘り上げ状況（南東より）



写真73 2号竪穴住居址竪縫（南より）

図版23 0707調査地点



写真74 2号竪穴住居址西側（焼土）竈（東より）



写真75 2号竪穴住居址床面出土須恵器蓋（南より）



写真76 3号竪穴住居址遺物出土状況（東より）



写真77 5号土坑遺物出土状況（南より）



写真78 6号竪穴住居址遺物出土状況（西より）



写真79 6号竪穴住居址遺物出土状況（南より）



写真80 8号竪穴住居址（西より）



写真81 8号竪穴住居址遺物状況（南西より）

図版24 0707調査地点



写真82 8号竪穴住居址遺物出土状況（西より）

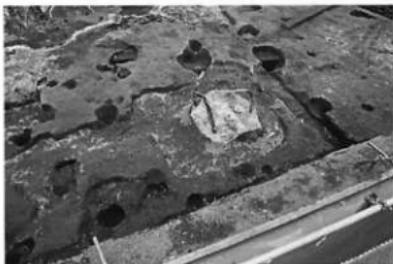


写真83 90・91号掘立柱建物址（西より）



写真84 II b・II c区水田（砂埋没状況）（南より）



写真85 10号満土層断面（東より）

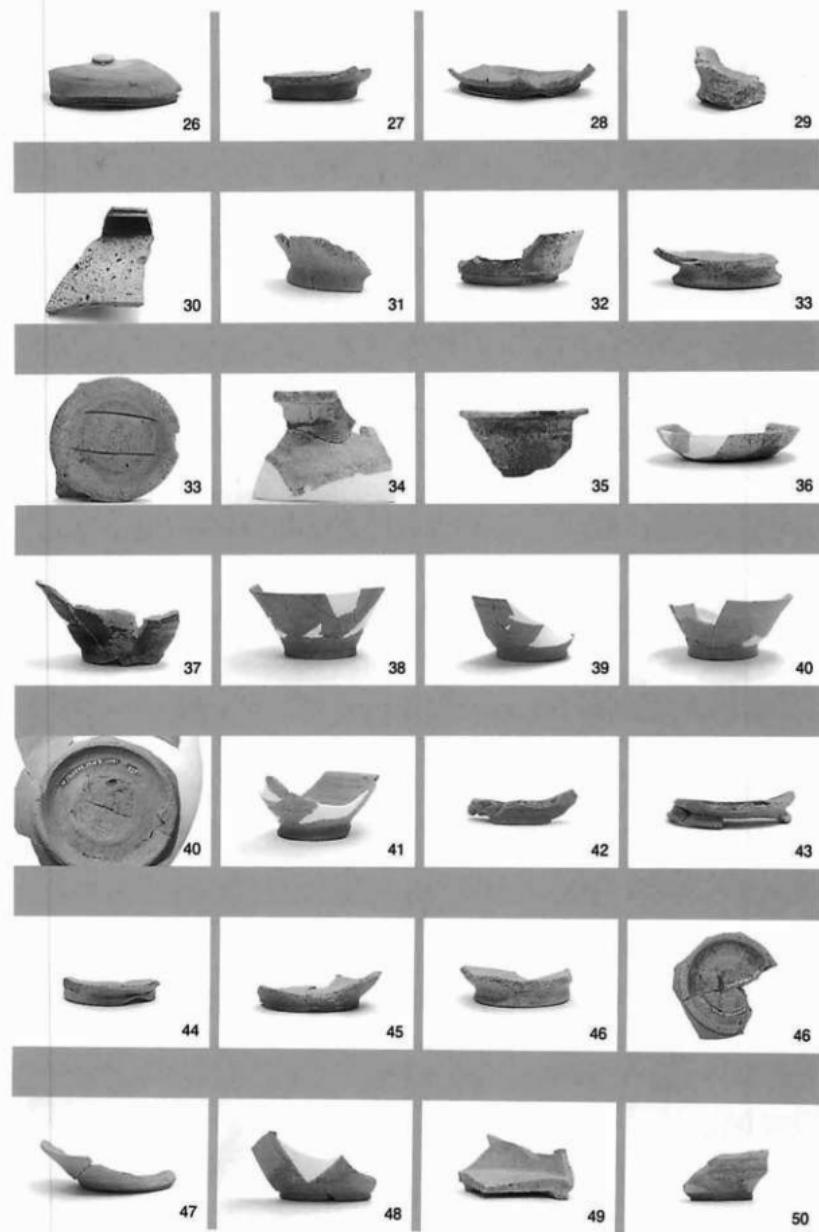


写真86 II b・II c区水田（掘り上げ後）（北より）

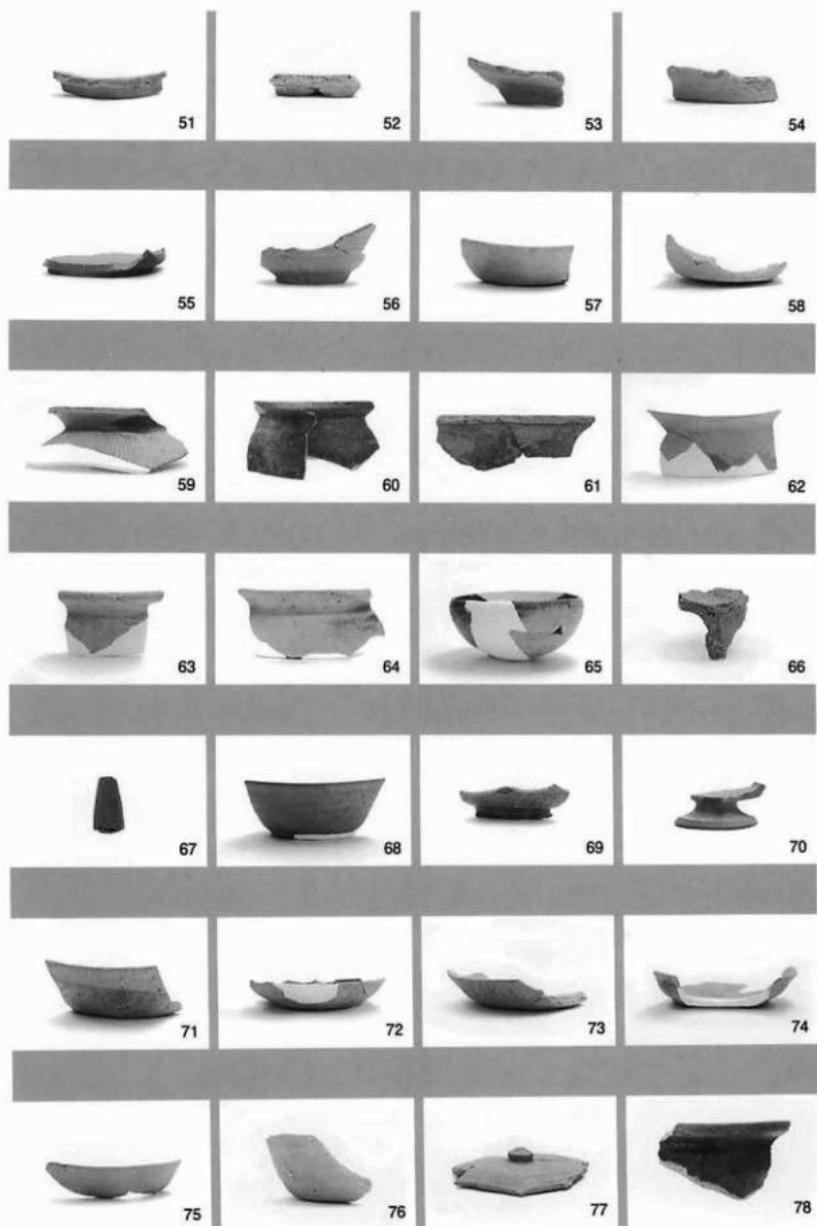
図版25 0707調査地点出土遺物 1



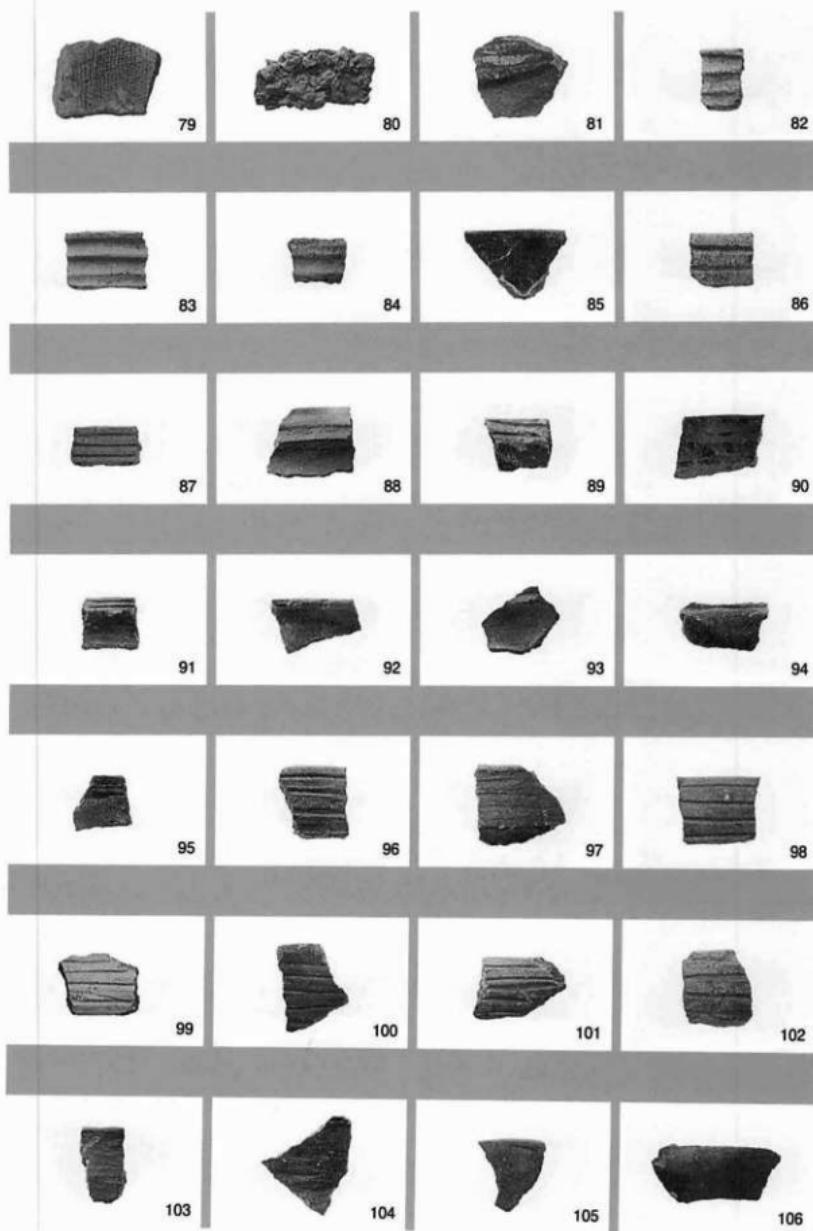
図版26 0707調査地点出土遺物2



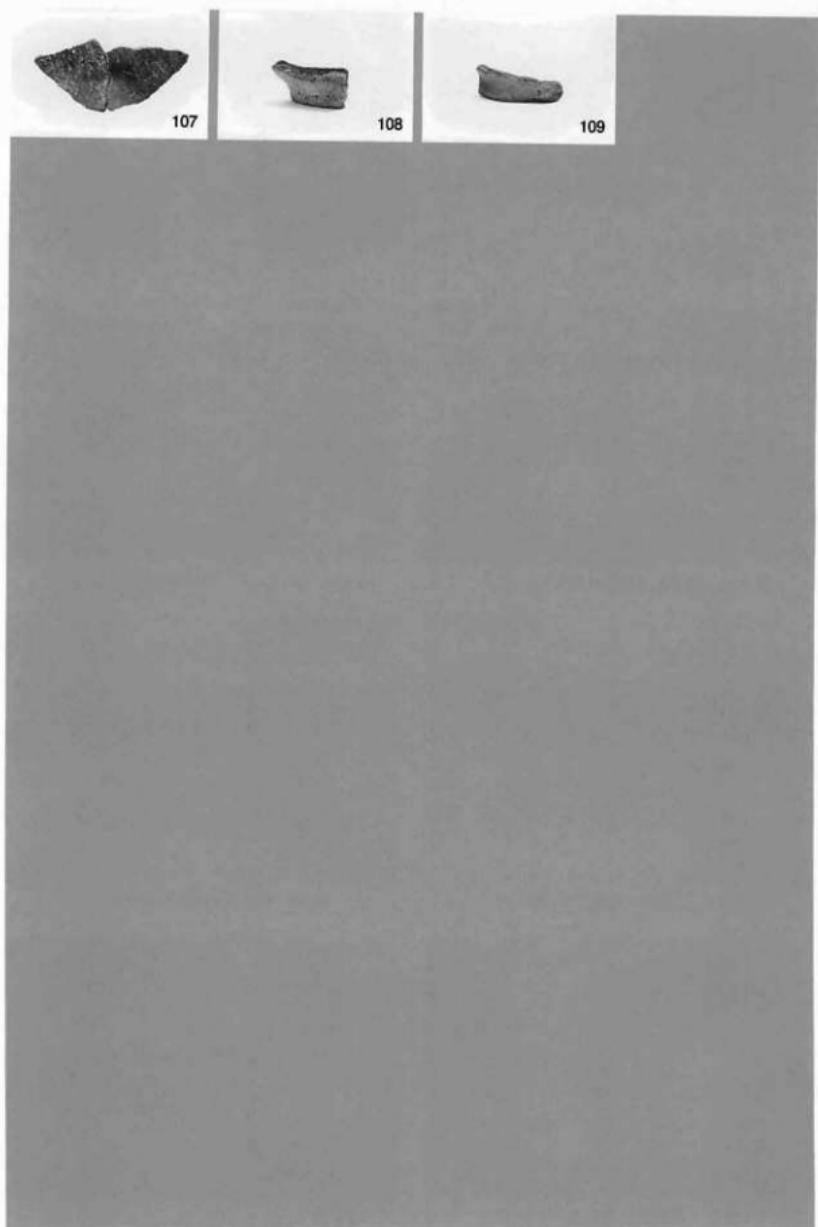
圖版27 0707調查地點出土遺物3



図版28 0707調査地点出土遺物 4



図版29 0707調査地点出土遺物5



図版30 0814調査地点



写真87 調査区掘削風景（北より）



写真88 2号溝掘削風景（東より）



写真89 調査区北部調査風景（南より）



写真90 調査区北部遺構検出状況（南より）



写真91 2号溝土層断面1（南より）



写真92 2号溝土層断面2（南より）



写真93 調査区北部全景（北より）



写真94 調査区南部調査風景1（東より）

図版31 0814調査地点・同出土遺物

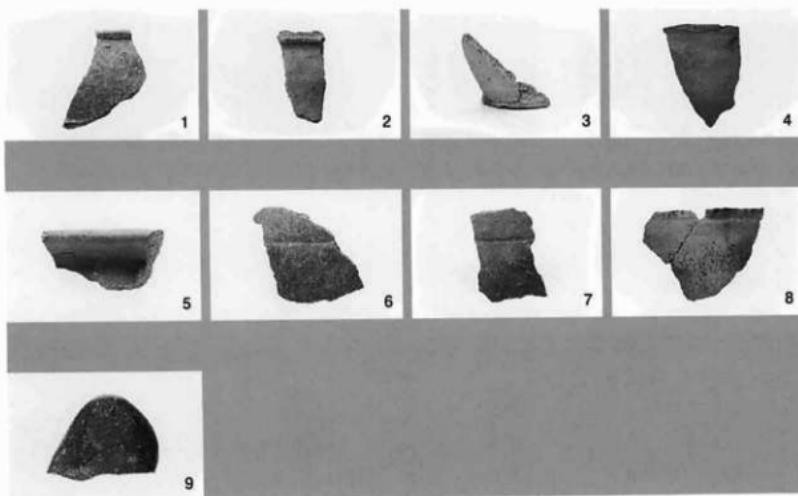


写真95 調査区南部調査風景2（北より）



写真96 調査区南部2号溝検出状況（東より）

写真97 2号溝と延長方向（北より）



図版32 0314調査地点・同出土遺物



写真98 I区掘削前全景（南西より）



写真99 II区調査風景（南より）



写真100 II区調査区完掘状況（南より）



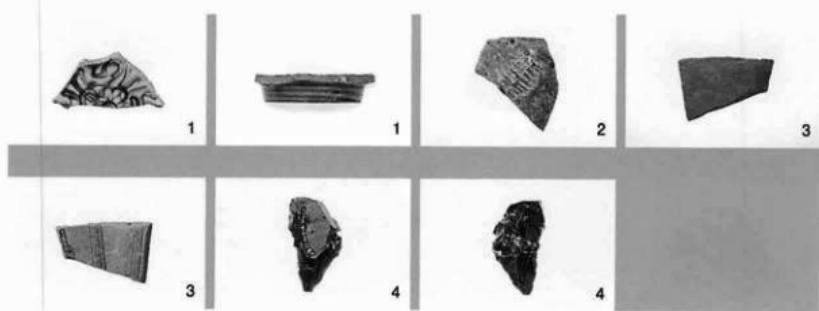
写真101 II区5号溝土層断面（南東より）



写真102 II区7号溝完掘状況（西より）



写真103 II区8~11号ピット（西より）



図版33 0830調査地点・同出土遺物



写真104 建物南側調査区調査風景（東より）



写真105 建物南側調査区全景（東より）



写真106 建物南側調査区東側全景（南より）



写真107 建物南側調査区西側全景（南より）



写真108 建物東側調査区掘削風景（南より）



写真109 建物東側調査区掘削状況（東より）



報告書抄録

ふりがな	くまもとだいがくこうないいせきはくつちょうさほうこく館							
書名	熊本大学構内遺跡発掘調査報告書							
監査名								
監査次								
シリーズ名	熊本大学構内遺跡調査報告書							
シリーズ号	8							
著者名	小畠弘己・大坪志子・村田知聖							
編集機関	熊本大学構内遺跡調査センター							
所在地	〒860-8555 熊本県熊本市黒髪2-39-1 TEL. 096-342-3832 FAX.096-342-3832							
発行年月日	2012年3月31日							
所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東經	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	道路番号					
黒髪町遺跡 (0302地点)	熊本県 熊本市 黒髪	43201	278	32° 45° 34°	130° 43° 43°	20030806 20030912 20031001 ~ 20031010 20040123	421.7m ²	学校敷地内の開発事業に伴う
本庄遺跡 (0314地点)	熊本県 熊本市 本荘	43201	285	32° 47° 25°	130° 42° 51°	20040127 20040305 ~ 20040309	1,000m ²	学校敷地内の開発事業に伴う
本庄遺跡 (0426地点)	熊本県 熊本市 本荘	43201	285	32° 47° 46°	130° 42° 46°	20050204 20050208 ~ 20050209	84m ²	学校敷地内の開発事業に伴う
本庄遺跡 (0622地点)	熊本県 熊本市 本荘	43201	285	32° 47° 41°	130° 42° 39°	20061002 20061016 20061027 20061030 20061113	50.68m ²	学校敷地内の開発事業に伴う
本庄遺跡 (0707地点)	熊本県 熊本市 本荘	43201	285	32° 47° 50°	130° 42° 42°	20070730 ~ 20070903	1,590m ²	学校敷地内の開発事業に伴う
本庄遺跡 (0814地点)	熊本県 熊本市 本荘	43201	285	32° 47° 47°	130° 42° 38°	20080820 ~ 20080822	212m ²	学校敷地内の開発事業に伴う
本庄遺跡 (0830地点)	熊本県 熊本市 本荘	43201	285	32° 47° 37°	130° 42° 56°	20081118 20081119 20081121 20081125	20m ²	学校敷地内の開発事業に伴う
黒髪町遺跡 (0854地点)	熊本県 熊本市 黒髪	43201	278	32° 48° 58°	130° 43° 45°	20090226 ~ 20090312	106m ²	学校敷地内の開発事業に伴う
黒髪町遺跡 (0932地点)	熊本県 熊本市 黒髪	43201	278	32° 48° 50°	130° 43° 42°	20091110 ~ 20091130 20091203 20091214	231.08m ²	学校敷地内の開発事業に伴う
黒髪町遺跡 (0935地点)	熊本県 熊本市 黒髪	43201	278	32° 48° 57°	130° 43° 34°	20100107 20100112 20100119 20100128 20100202	423.21m ²	学校敷地内の開発事業に伴う
黒髪町遺跡 (0938地点)	熊本県 熊本市 黒髪	43201	278	32° 48° 48°	130° 43° 51°	20100114 20100217 20100219	10m ²	学校敷地内の開発事業に伴う
所収遺跡	種別	主な時代	主な遺構	生な遺物			特記事項	
黒髪町遺跡 (0302地点)	散布地	縄文・古代	溝・土坑・ピット・ 遺物含層	陶文土器・陶文石器・古代土器・ 熟磁	陶文時代早期～晚期の遺 物含層を確認			
本庄遺跡 (0314地点)	集落址	中世・古代	溝・ピット	土師器・陶器	古代～中世の漆器出			
本庄遺跡 (0426地点)	集落址	近世	溝	土師器・須恵器・馬骨・銅鏡	近世の溝と馬下骸骨検出			
本庄遺跡 (0622地点)	集落址	古代	堅穴住居層・溝	土師器・須恵器	古代溝から獸脚円頭鏡発 見			
本庄遺跡 (0707地点)	集落址	縄文・古代	堅穴住居層・水田遺 構・ピット	縄文時代石器・縄文土器 土師器・須恵器・古代鉢器	河川への斜面で古代末の 小規模住居跡水田遺出・縄 文後期須恵器等出土			
本庄遺跡 (0814地点)	集落址	弥生・近世	弥生土器・石器・近世陶器	弥生土器・石器・近世陶器	弥生時代前期須恵器出			
本庄遺跡 (0830地点)	集落址	近世	溝	古代土師器・須恵器・石器	古代土師器・須恵器・石器			
黒髪町遺跡 (0854地点)	集落址	古代	ピット・堅穴住居層・ 遺物含層・土壤層	土師器・須恵器・石製紡錘車	木炭を載いた古代末の土 器等			
黒髪町遺跡 (0932地点)	集落址	古代	溝	古代土師器・須恵器	安沙留黄釉陶器水注片出 土			
黒髪町遺跡 (0935地点)	集落址	古代・近代	ピット	土師器・須恵器・磁器				
黒髪町遺跡 (0938地点)	散布地	縄文	溝・包含層	縄文土器・弥生土器	縄文後期前半の遺物包含 層を確認			

熊本大学埋蔵文化財調査報告書 第8集
熊本大学構内遺跡発掘調査報告書VII
(2003~2009年度)

平成24年3月25日 印刷

平成24年3月31日 発行

編集・発行 熊本大学埋蔵文化財調査センター
〒860-8555 熊本市黒髪2丁目39-1
TEL 096(342)3832 FAX 096(342)3832
印 刷 シモダ印刷株式会社

